特別支援学級及び
通級指導教室
教育課程編成の手引き

沖縄県教育委員会

ま　え　が　き

平成１９年４月１日に改正学校教育法が施行され、特別支援教育が本格にスタートしました。

特別支援教育は、これまでの特別支援学級等の対象の障害だけでなく、知的の遅れのない通常学級に在籍する発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において、適切な指導及び必要な支援を行うものであります。

それを受けて、各学校・園においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成等、特別支援教育の体制整備が進められてきました。

さらに、新学習指導要領の中に、個々の児童・生徒の障害の状況等に応じた工夫をおこなう責務が明確に位置づけられました。このことは特別支援教育の体制整備のみならず、一人一人の特性に応じたより質の高い教育が求められていることの現われでもあります。

県教育委員会においては、新学習指導要領の趣旨の周知を図るため、教育課程説明会を実施するとともに、「特別支援学級小学校・中学校及び通級指導教室」での指導の指針となる「教育課程編成の手引き」の作成を進めて参りました。

この「教育課程編成の手引き」は、特別支援学級小学校並び中学校及び通級指導教室等の教育課程の編成並びに指導計画を作成する上で基本的な考え方や方法について示したものです。

各学校においては、この「教育課程編成の手引き」を十分に活用し、児童生徒一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じ、創意工夫ある教育課程を編成していただくようお願いします。

終わりに、本書の作成に当たり御協力いただきました特別支援学級及び通級指導教室担当教員の方々に感謝を申し上げます。

平成２４年　１月

沖縄県教育庁県立学校教育課

課長　平良　勉

手引きの効果的な使い方

月	学校・学級行事	学級担任の取り組み	作成、準備	関連項目
四月	入学式・始業式 学級開き	前担任とに引き継ぎ 教室環境の整備（構造化） 指導要録の記入・点検 １学期のめあて設定	出席簿、児童生徒名簿作成 教科書等の学習教材の準備 時間割、日課表の作成 指導要録の整理 学級経営案の作成 交流及び共同学習について 各教科の年間単元計画について 各教科の年間指導計画について	Ｐ２５～Ｐ２９ Ｐ１６・３９ Ｐ１２～・Ｐ１４８ Ｐ１７・１４８～ Ｐ２９～Ｐ３４ Ｐ１・１６・１２１ Ｐ５４～ Ｐ６２～
五月	授業参観 家庭訪問 遠足	児童生徒の実態把握 教育相談	個別の教育支援計画 個別の指導計画 通級指導教室連絡カード 通級指導教室学習カード 教材・教具の開発活用 保護者との連携について	Ｐ２１１～２１５ Ｐ２０５～２１０ Ｐ２００～２０１ Ｐ２０２～２０３ Ｐ３９～ Ｐ４０～
七月	職場体験・宿泊学習 校内陸上・個人面談 終業式	面談の計画実施 出席簿の整理統計 学習の評価	通知票の作成準備 次年度の教科用図書の採択 通級指導教室指導経過報告書	Ｐ１７・４６～ Ｐ１６ Ｐ１１６・１１７

Ｑ：実際に書かれた教育課程のモデルが見たい。（Ｐ１２～・Ｐ１８・Ｐ４１～）
Ｑ：時間割の作成どうしたらいい？（Ｐ１４～Ｐ１５）
Ｑ：各教科の年間単元計画を立てたい。（Ｐ５４～Ｐ６１）
Ｑ：各教科の年間指導計画を立てたい。（Ｐ６２～Ｐ１０４
Ｑ：国語をどのように教えたらいいの？（Ｐ６２～Ｐ７１・Ｐ８８～Ｐ９０）
Ｑ：算数、数学をどのように教えたらいいの？（Ｐ７２～Ｐ８２・Ｐ９１～Ｐ９４）
Ｑ：「自立活動」について知りたい。（Ｐ１９～Ｐ２５・Ｐ１２２～Ｐ１２４）
Ｑ：「各教科等を合わせた指導」について知りたい。（Ｐ１２・Ｐ１１８・Ｐ１２４～Ｐ１４４）
Ｑ：「交流及び共同学習」について知りたい。（Ｐ１・Ｐ１６）
Ｑ：通級指導教室について知りたい。（Ｐ６～Ｐ９）
Ｑ：通級指導教室の教育課程が知りたい。（Ｐ１７～Ｐ１９）
Ｑ：通級指導教室の年間指導計画を立てたい。（Ｐ１０５～Ｐ１１０）
Ｑ：通級指導教室の連絡カードをどう書けばいいか知りたい。（Ｐ１１１～Ｐ１１３）
Ｑ：特別支援教育コーディネーターの年間活動を立てたい。（Ｐ１９７～Ｐ１９９）
Ｑ：特別支援学級及び通級指導教室の設置に係る書類について知りたい。（Ｐ１７０～Ｐ１９６）
Ｑ：特別支援教育就学奨励費や療育手帳について知りたい。（Ｐ５２～Ｐ５３）

上記のように学級・学校行事・月行事等と関連づけて活用を行う場合と気になることや疑問に感じた事の内容が記載されていないか目次で確認を行い内容を調べて行くと効果的な活用に繋がる。

目　次

Ⅰ　特別支援教育の理念　Ｐ１
　１　特別支援教育の充実のための体制の整備及び必要な組織　Ｐ１
　２　特別支援学級の教育課程の充実を図る　Ｐ１
　３　交流及び共同学習の充実を図る　Ｐ１
　４　通級による指導の充実を図る　Ｐ２

Ⅱ　障害のある幼児児童生徒の専門的な教育　Ｐ２
　１　教育の場　Ｐ２
　　（１）特別支援学校　Ｐ２
　　（２）特別支援学級　Ｐ２
　　（３）通級による指導（通級指導教室）　Ｐ２
　２　個々の教育的ニーズの把握と全体体制による教育的支援の推進　Ｐ３

Ⅲ　特別支援学級　Ｐ３
　１　特別支援学級の教育　Ｐ３
　２　特別支援学級の対象　Ｐ４
　３　学校経営における特別支援学級の位置づけ　Ｐ５
　４　特別支援学級の役割　Ｐ５

Ⅳ　通級指導教室　Ｐ６
　１　通級による指導　Ｐ６
　２　通級による指導の対象　Ｐ７
　３　通級指導教室の設置と学校経営における位置づけ　Ｐ８
　４　通級指導教室の役割　Ｐ９

Ⅴ　特別支援学級・通級指導教室の教育課程　Ｐ９
　１　特別支援学級の教育課程　Ｐ９
　　（１）教育課程編成の基本的な考え　Ｐ９
　　（２）教育課程編成の手順　Ｐ１０
　　①実態把握　Ｐ１０
　　②教育目標の設定　Ｐ１１
　　③教育内容の組織化、指導の形態の工夫　Ｐ１１
　　（３）教育課程の構造図　Ｐ１２
　　小学校の教育課程　Ｐ１２
　　中学校の教育課程　Ｐ１３
　　週日課表の例　Ｐ１４
　　（４）特別支援学級における教科書の取り扱い　Ｐ１６
　２　特別支援学級における交流及び共同学習　Ｐ１６
　３　特別支援学級における評価　Ｐ１７
　　（１）教育評価　Ｐ１７
　　（２）指導要録　Ｐ１７
　　（３）通知表　Ｐ１７
　４　通級指導教室の教育課程　Ｐ１７
　　（１）通級による指導を受ける児童生徒の教育課程　Ｐ１７
　　（２）教育課程の編成の基本的な考え方　Ｐ１８
　　（３）通級指導における留意点　Ｐ１８
　　①連携の目的　Ｐ１８
　　②連携の内容　Ｐ１９
　　③配慮事項　Ｐ１９
　　④学校職員への理解、啓発の在り方　Ｐ１９
　　（４）通級による指導（指導要録等）の取り扱い　Ｐ１９
　　（５）自立活動の目標　Ｐ１９

（６）自立活動の内容　Ｐ１９
・健康の保持　Ｐ１９
・心理的な安定　Ｐ２０
・人間関係の形成　Ｐ２０
・環境の把握　Ｐ２０
・身体の動き　Ｐ２１
・コミュニケーション　Ｐ２１
（７）自立活動の具体的指導内容　Ｐ２２

Ⅵ　学級経営についての　Ｐ２５
１　基本的な考え方　Ｐ２５
（１）学級経営とは　Ｐ２５
（２）学級経営のねらい　Ｐ２５
（３）学級経営の内容領域　Ｐ２６
①学級経営の計画　Ｐ２６
②学習指導　Ｐ２６
③生徒指導　Ｐ２６
④教室環境　Ｐ２６
⑤家庭との連携　Ｐ２６
⑥学級事務　Ｐ２６
（４）学級経営の進め方　Ｐ２６
①学級目標の設定　Ｐ２６
②学級経営案の作成　Ｐ２６
③学級組織づくり　Ｐ２６
④学級環境の構造化　Ｐ２６
⑤学級経営の評価　Ｐ２７
（５）学級事務の内容　Ｐ２７
①年度当初の事務内容　Ｐ２７
②定期的に行う内容　Ｐ２７
③随時行う内容　Ｐ２８
④年度末に行う内容　Ｐ２８
学級事務の年間の流れ一覧表　Ｐ２８
・特別支援学級経営案（参考例）　Ｐ２９
・知的障害特別支援学級経営案（参考例）　Ｐ３２
・自閉・情緒特別支援学級経営案（参考例）　Ｐ３３
・通級指導教室経営案（参考例）　Ｐ３４

Ⅶ　授業の工夫・改善についての　Ｐ３５
１　学習指導案の意義　Ｐ３５
２　学習指導案の作成と活用による授業改善　Ｐ３６
３　学習指導案の例　Ｐ３７
４　教材・教具の開発と活用　Ｐ３９
５　ティーム・ティーチングについて　Ｐ４０

Ⅷ　保護者との連携について　Ｐ４０
１　保護者と教員の連携の場と方法　Ｐ４０
（１）連絡帳　Ｐ４０
（２）学級通信　Ｐ４０
（３）授業参観　Ｐ４１
（４）学級・学年・学校行事　Ｐ４１
（５）学級懇談会・保護者会　Ｐ４１
（６）家庭訪問　Ｐ４１
（７）勉強会　Ｐ４１

Ⅸ　自閉・情緒障害学級教育課程＜小学校参考例＞　Ｐ４１

1　自閉症・情緒障害学級教育方針　Ｐ４１
2　児童の実態　Ｐ４２
3　教育課程　Ｐ４２
Ｘ　通知票参考例　Ｐ４６
ＸＩ　各種制度・福祉サービス　Ｐ５２

ＸⅡ　年間指導単元計画一覧表参考例　Ｐ５４
○小学校年間指導単元計画　Ｐ５４
○中学校年間指導単元計画　Ｐ５９

ＸⅢ　年間指導計画一覧表参考例（小学校）　Ｐ６２
1　小学校
○国語参考例（単元計画参考例）　Ｐ６２
○算数参考例（学習指導略案例）　Ｐ７２
○音楽参考例　Ｐ８３
○図画工作参考例　Ｐ８４
○体育参考例　Ｐ８５
○道徳参考例　Ｐ８６
2　中学校
○国語参考例　Ｐ８８
○数学参考例　Ｐ９１
○理科参考例　Ｐ９４
○社会参考例　Ｐ９５
○音楽参考例　Ｐ９６
○美術参考例　Ｐ９７
○保健体育参考例　Ｐ９９
○技術・家庭科参考例　Ｐ１００
○外国語参考例　Ｐ１０１
○道徳参考例　Ｐ１０２
○学級活動参考例　Ｐ１０４

ＸⅣ　通級指導教室　Ｐ１０５
1　通級指導教室年間指導計画　Ｐ１０５
○発達障害通級指導教室年間指導計画参考例　Ｐ１０５
○言語障害通級指導教室年間指導計画参考例　Ｐ１０６

2　通級指導教室個別の年間指導計画参考例　Ｐ１０８
3　通級指導教室連絡カード参考例　Ｐ１１１
4　通級指導教室学習記録カード　Ｐ１１３
5　通級指導教室指導経過報告書参考例　Ｐ１１６

ＸＶ　知的障害の児童生徒を教育する場合（教育課程）　Ｐ１１８

ＸＶⅠ　知的障害の児童生徒を教育する場合の各教科について　Ｐ１１９
1　教育課程の基準　Ｐ１１９
2　特別支援学校の小学部・中学部・高等部の各教科　Ｐ１１９
3　知的障害の児童生徒の小学部・中学部の各教科　Ｐ１１９
4　特別支援学校の小学部・中学部・高等部の道徳　Ｐ１２０
（1）小学部・中学部の道徳について　Ｐ１２０
（2）小学部・中学部の道徳の目標　Ｐ１２０
（3）高等部の道徳について　Ｐ１２０
（4）高等部の道徳の目標　Ｐ１２０
（5）道徳教育推進のポイント　Ｐ１２１
5　特別支援学校の特別活動　Ｐ１２１
6　特別支援学校の特別活動の独自の項目　Ｐ１２１

（１）集団構成の配慮　Ｐ１２１
（２）交流及び共同学習　Ｐ１２１
（３）配慮事項　Ｐ１２１
７　特別支援学校の自立活動（領域）の目標と内容　Ｐ１２２
（１）小学部・中学部自立活動の目標　Ｐ１２２
（２）幼稚部・小学部・中学部・高等部の内容　Ｐ１２２
①健康の保持　Ｐ１２２
②心理的な安定　Ｐ１２２
③人間関係の形成　Ｐ１２２
④環境の把握　Ｐ１２２
⑤身体の動き　Ｐ１２２
⑥コミュニケーション　Ｐ１２２
（３）自立活動の内容の具体的な項目　Ｐ１２３
①健康の保持の具体的な項目（例）　Ｐ１２３
②心理的な安定の具体的な項目（例）　Ｐ１２３
③人間関係の形成の具体的な項目（例）　Ｐ１２３
④環境の把握の具体的な項目（例）　Ｐ１２３
⑤身体の動きの具体的な項目（例）　Ｐ１２３
⑥コミュニケーションの具体的な項目（例）　Ｐ１２３
８　特別支援学校の各教科等を合わせた指導の目標と内容　Ｐ１２４
（１）日常生活の指導の概要・留意点・指導内容例　Ｐ１２４
（２）遊びの指導の概要・留意点・指導内容例　Ｐ１２５
（３）生活単元学習の概要・留意点・指導内容例　Ｐ１２５
○生活単元学習の単元構想図（例１～例１１）　Ｐ１２７
（４）作業学習の概要・留意点・指導内容例　Ｐ１３８
○作業学習の年間計画の立案及び展開例　Ｐ１３９
○作業学習指導種目内容例（事例１～事例１０）　Ｐ１４０
９　特別支援学校の総合的な学習の時間　Ｐ１４５
（１）総合的な学習の時間のねらい　Ｐ１４５
（２）総合的な学習の時間の留意点　Ｐ１４５
（３）「総合的な学習の時間」と「各教科等を合わせた指導」の比較　Ｐ１４５
（４）「総合的な学習の時間」についての補足　Ｐ１４５

ＸⅦ　特別支援教育の教育課程の弾力的運用の法的な根拠　Ｐ１４６
１　小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室　Ｐ１４６
（１）根拠となる法　Ｐ１４６
①学校教育法施行規則１３８条（特別支援学級に係る教育課程の特例）　Ｐ１４６
②学校教育法施行規則１３９条（特別支援学級の教科用図書）　Ｐ１４６
③学校教育法施行規則１４０条（障害に応じた特別の教育課程）　Ｐ１４６
④学校教育法施行規則１４１条（他の学校への通級）　Ｐ１４７
⑤平成５年文部省告示第７号　Ｐ１４７
⑥平成１８年文部科学省告示５４号　Ｐ１４７
⑦平成１９年文部科学省告示１４６号　Ｐ１４７

ＸⅧ　指導要録様式２（見本）　Ｐ１４８

ＸⅨ　設置に係る諸手続き関係資料（見本）　Ｐ１７０
１　特別支援学級用参考例　Ｐ１７０
２　通級指導教室用参考例　Ｐ１８４
ⅡＸ　特別支援教育コーディネーター年間活動計画（参考例）　Ｐ１９７

ⅡＸⅠ　事例様式関係　Ｐ２００

ⅡＸⅡ　特別支援教育等で使用される各種標準検査　Ｐ２１６
ⅡＸⅢ　言語障害の基礎用語の解説　Ｐ２１８

Ⅰ　特別支援教育の理念

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。

このため、特別支援学校、小・中学校の特別支援学級等の教員だけでなく、全ての教員が特別支援教育の理念と幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援についての理解を深め、特別支援教育を推進していくことが重要である。

さらに、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

1　特別支援教育の充実のための体制の整備及び必要な取組

（1）学校経営計画に特別支援教育についての基本的な考えや基本方針を示し、学校長のリーダーシップのもと全教職員が協力し、組織的・計画的に推進する。

（2）特別支援学級担当教員の適切な配置やその資質の向上に努める。

（3）校務運営組織に校内委員会を設置する（就学指導を含む）。

（4）特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会等の機能化を図り、障害のある児童生徒の支援体制の構築に努める。

（5）校内研修等を通して特別な支援を必要とする児童生徒の理解と具体的な支援方法等について学び、専門性の向上に努める。

（6）特別支援学級の弾力的運用として通常の学級に在籍する児童生徒が、特別支援学級においての支援が必要な場合は、校内委員会を経て、その条件整備に努める。その場合、次の２点に留意する。
①当該児童生徒は支援学級の対象（学校教育法第８１条第２項）であること。
②当該児童生徒は支援学級の教育課程に合わせて指導されること。

（7）特別支援教育支援員等の活用において、特別支援教育コーディネーターを中心に担任や学年職員などと連携し、児童生徒への支援が円滑に行われるようにする。

（8）児童生徒への一貫した教育的支援を行うために関係者（教育、医療、福祉等）連携のもと「個別の教育支援計画」を作成する。また、児童生徒個々の発達の段階（障害の状態や特性など）を的確に把握し、授業や学校生活での目標、具体的な学習内容・方法など、きめ細かな指導が行えるよう「個別の指導計画」を作成する。

2　特別支援学級の教育課程の充実を図る

（1）個々の児童生徒の障害の状態や特性及び学級の実態に即した教育課程を編成する。

（2）教育課程編成に当たっては、小・中学校学習指導要領を踏まえ、必要に応じて、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考にする。

3　交流及び共同学習の充実を図る

（１）特別支援学級の児童生徒と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習は、児童生徒の実態等を十分に考慮して、学校全体の教育活動全般を通して推進する。

（２）地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習を推進する。

４　通級による指導の充実を図る

（１）個々の児童生徒の障害の状態や特性に応じた特別な指導を行う。教育課程編成に当たっては、特別な教育課程を編成することができる。

（２）障害の状態の改善または克服を目的とする「自立活動」（ｐ１９参照）が中心となる。特に必要があるときは各教科の内容を補充するための指導も行うことができる（教科の遅れを補充するための指導ではない）。

Ⅱ　障害のある幼児児童生徒の専門的な教育

１　教育の場

（１）特別支援学校

・幼児児童生徒一人一人の障害の状態に応じ、より専門性の高い教育を行う学校である。
・盲学校、ろう学校を含めた、全てを特別支援学校に一本化された。
・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の５障害を対象としている。
・障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して、教員を家庭、施設、病院などに派遣して指導を行う。（訪問学級）
・対象となる障害の程度は、「学校教育法施行令第２２条の３」に示されている。
（対象：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）
・寄宿舎が設置されている学校もある。

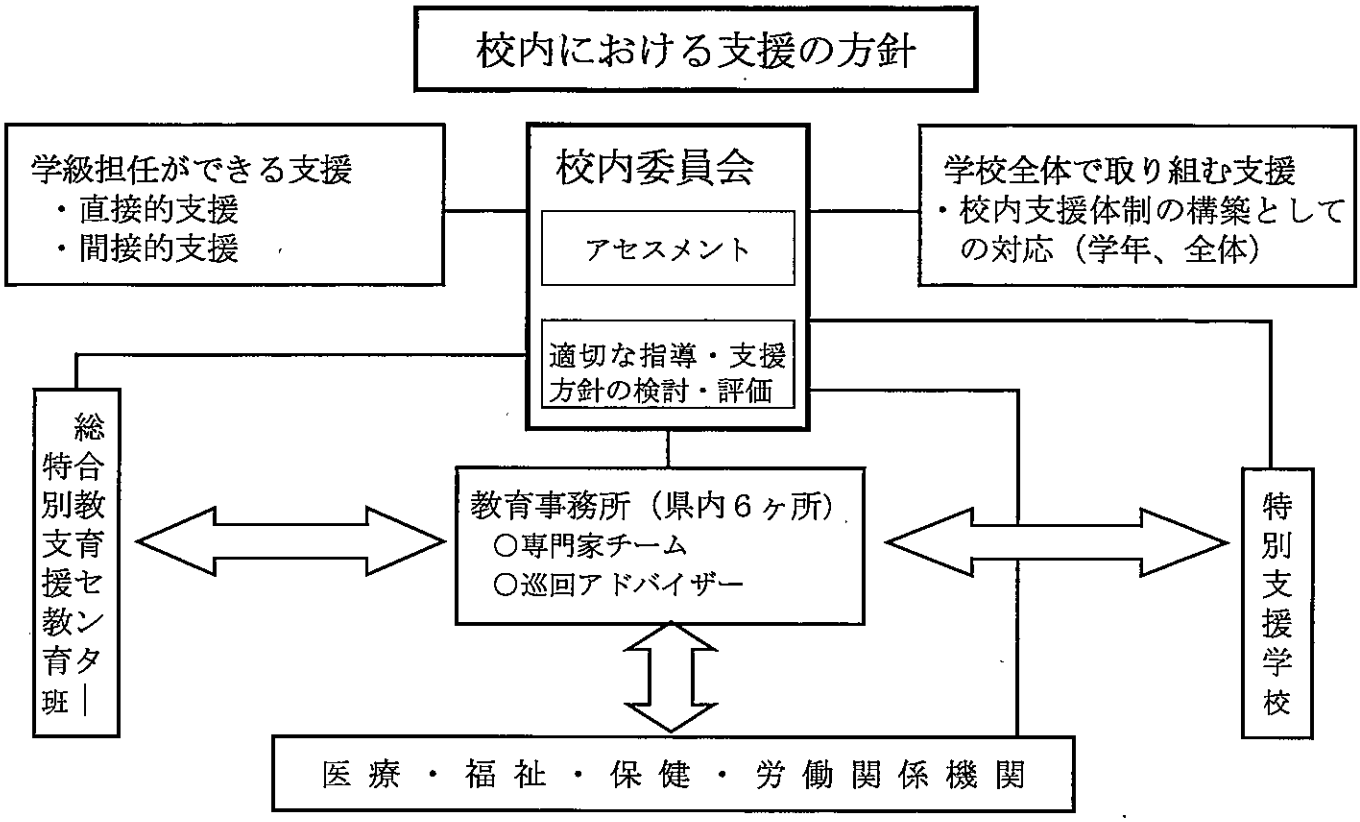
（２）特別支援学級

・通常の学級における指導では十分な成果をあげることが困難な児童生徒一人一人の障害の状態に応じ、小・中学校に必要に応じて設置される。
・少人数で、一人一人の障害の特性及びニーズに応じた教育を行う。（１学級の児童及び生徒数は８人以内が基準）［公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数に関する法律］
・対象となる障害は、知的障害者、肢体不自由者、病弱者及び身体虚弱者、弱視者、言語障害者、自閉症・情緒障害者（自閉症又はそれに類するもの、主として心理的な要因による選択性かん黙等）。

（３）通級による指導（通級指導教室）

・小・中学校の通常の学級に在籍している障害のある児童生徒に対して、大部分の指導を通常の学級で行いつつ、通級指導教室で障害の特性及びニーズに応じた指導を行う。
・対象となる障害は、言語障害、自閉症、情緒障害、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者等。
・指導は「自立活動」が基本となる。
・本県には、小学校へ言語障害対象の教室と発達障害対象の教室が設置されている。

2　個々の教育的ニーズの把握と全校体制による教育的支援の推進



Ⅲ　特別支援学級

1　特別支援学級の教育

特別支援学級は、学校教育法第８１条第２項に基づき、障害があるため、通常の学級では適切な教育を受けることが困難な児童生徒のために、特別に編制された学級である。

小学校及び中学校に設置され、比較的軽度な障害のある児童生徒を対象としており、少人数学級で編成され、特別な配慮のもとに、児童生徒のニーズに応じた適切な教育が行われる。

すなわち、障害のある子どもたちがその能力に応じて等しく教育を受けるために、特別に設置された教育形態の一つであり、存在が特別なのではなく、教育を受けるうえで特別な配慮を必要としている子どもたちのために用意された教育の場である。

〈特別支援学級に関する法令上の規定〉

【学校教育法第８１条】

第２項

小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校には、次の各号のいずれかに該当する児童及び生徒のために、特別支援学級を置くことができる。

1　知的障害者
2　肢体不自由者
3　身体虚弱者
4　弱視者
5　難聴者
6　その他障害のある者で、特別支援学級において教育をおこなうことが適当な者

第３項

前項に掲げる学校は、疾病により療養中の児童生徒に対して、特別支援学級を設け、又は、教育を行うことができる。

【学校教育法施行規則第１３７条】
特別支援学級は、特別な事情がある場合を除いては、学校教育法第８１条第２項各号に掲げる区分に従って置くものとする。

〈特別支援学級に関する学習指導要領上の規定〉
小学校及び中学校学習指導要領の総則において、「障害のある児童生徒の指導について」次のように示されている。

障害のある児童生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。特に、特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと。
【小学校：第１章第４の２（７)、中学校：第１章第４の（８)】

特別支援学級は小学校及び中学校の学級の一つであり、特別支援学級も通常の学級と同様、これを適切に運営していくためには、すべての教員の理解と協力が必要である。学校経営上の位置付けがあいまいになり、学校組織の中で孤立することのないよう特に留意する必要がある。
また、学校全体の協力体制づくりを進めたり、すべての教員が障害についての正しい理解と　認識を深めたりして教師間の連携に努める必要がある。

２　特別支援学級の対象
特別支援学級入級の対象となる児童生徒については、平成１４年５月２７日付け１４文科初第２９１号「障害のある児童生徒の就学について（通知)」において以下のように示されている。

（１）障害の種類及び程度
ア　知的障害者
知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のもの
イ　肢体不自由者
補装具によっても歩行や筆記等日常生活における基本的な動作の軽度の困難がある程度のもの
ウ　病弱者及び身体虚弱者
一　慢性の呼吸器疾患その他疾患等の状態が持続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のもの
二　身体虚弱の状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のもの
エ　弱視者
拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの
オ　難聴者
補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが困難な程度のもの
カ　言語障害者
口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。）で、その程度が著しいもの。
キ　情緒障害者
一　自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの
二　主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもの
※特別支援学級及び通級指導に関する規定から【「情緒障害」を対象とする特別支援学級の名称について】（平成２１年２月初中局長通知）より、障害の種類及び程度の「キ　情緒障害」を「キ　自閉症

・情緒障害者」の名称に変更になっております。

特別支援学校の対象とすることが適当な児童生徒の判断に当たっては、障害のある児童生徒に最もふさわしい教育を行うという視点に立って、その保護者、教育学、医学、心理学等の観点から専門家（就学指導委員会等）の意見を聴いた上で総合的かつ慎重に行うことが大切である。また、入級後も校内委員会等で児童生徒の適応状況等を継続的に把握し、児童生徒の障害の状態に応じて教育内容や方法を見直して、より適切な教育の場や卒業後の進路等についても検討する機会をもつことが必要である。

3　学校経営における特別支援学級の位置づけ

特別支援学級の位置づけについて、小学校学習指導要領解説総則編において次のように解説している（中学校学習指導要領解説総則編においても同様の解説をしている）。

― 教育課程実施上の配慮事項 7　障害のある児童の指導（第１章第４の（２））―

特に．本章第２節３にあるように特別支援学級は、障害があるために通常の学級における指導では十分に指導の効果を上げることが困難な児童のために編制された少人数の学級であり、児童の障害の状態等に応じて．適切な配慮の下に指導が行われている。特別支援学級は．小学校の学級の一つであり、特別支援学級も通常の学級と同様、これを適切に運営していくためには、すべての教師の理解と努力が必要である。学校運営上の位置づけがあいまいになり、学校組織の中で孤立することのないよう留意する必要がある。このため、学校全体の協力体制づくりを進めたり、全ての教師が障害について正しい理解と認識を深めたりして、教師間の連携に努める必要がある。

（１）特別支援学級は、障害があるために通常の学級における指導では十分に指導の効果を上げることが困難な児童のために編制された少人数の学級である。

（２）特別支援学級は、小学校または中学校の学級の一つである。

（３）特別支援学級も通常の学級と同様、これを適切に運営していくためにはすべての教師の理解と協力が必要である。

（４）特別支援学級が、学校組織の中で孤立することのないよう留意する必要がある。

（５）学校全体の協力体制づくりを進める。

（６）すべての教師が障害について正しい理解と認識を深めたりして、教師間の連携に努める必要がある。

4　特別支援学級の役割

（１）障害のある児童生徒に対し、適切な指導及び必要な支援を行う。

（２）交流及び共同学習を推進する。
①意図的計画的な交流及び共同学習
②日常的な交流及び共同学習

（３）特別支援教育のキーステーションとしての役割を果たす。
①特別支援学級設置校内の特別支援教育のキーステーション
②特別支援学級未設置校に対する特別支援教育のキーステーション
③地域に対する特別支援教育のキーステーション

Ⅳ　通級指導教室

1　通級による指導

通級による指導は、学校教育法施行規則第１４０条及び同施行規則第１４１条に基づき、小・中学校の通常の学級に在籍している軽度の障害のある児童生徒に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、当該児童生徒の障害に応じた特別の指導を特別の指導の場（通級指導教室）で行う教育形態である。

通級による指導では、教科等の大半の授業が通常の学級で行われるので、子どものニーズに応じて障害の状態の改善・克服といった特別の指導が受けられる上に、通常の学級における授業においてもその指導の効果が発揮されることにつながり、その効果が期待できる。

〈通級による指導に関する法令上の規定〉

【学校教育法施行規則第１４０条】

小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程において、次の各号のいずれかに該当する児童又は生徒（特別支援学級の児童及び生徒を除く。）のうち当該障害に応じた別の指導を行う必要があるものを教育する場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、第５０条第１項、第５１条及び第５２条の規定並びに第７２条から第７４条までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。

一　言語障害者
二　自閉症者
三　情緒障害者
四　弱視者
五　難聴者
六　学習障害者
七　注意欠陥多動性障害者
八　その他障害のある者で、この条の規定により特別の教育課程による教育を行うことが適当なもの

【学校教育法施行規則第７３条の２１第１項の規定による特別の教育課程について定める件】
（平成５年１月２８日文部省告示第７号）

小学校又は中学校において、学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第７３条の２１各号に該当する児童又は生徒（特別支援学級の児童及び生徒を除く。以下同じ。）に　対し、同項の規定による特別の教育課程を編成するに当たっては、次に定めるところにより、当該児童又は生徒の障害に応じた特別の指導を、小学校又は、中学校の教育課程に加え、又はその一部に替えることができるものとする。

①　障害に応じた特別の指導は、障害の状態の改善又は克服を目的とする指導とする。
ただし、特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導を含むものとする。

②　障害に応じた特別の指導に係る授業時数は、規則第７３条の２１第一号から第五号まで及び第八号に該当する児童又は生徒については、年間３５単位時間から２８０単位時間までを標準とし、同条第六号及び第七号に該当する児童又は生徒については年間１０単位時間から２８０単位時間までを標準とする。

【学校教育法施行規則第７３条の２１第１項の規定による特別の教育課程について定める件の一部を改正する件】（平成１８年３月３１日文部科学省告示第５４号）

①　改正の趣旨

学校教育法施行規則第７３条の２１に基づくいわゆる「通級による指導」について、児童生徒の障害の状態に応じた指導の充実を図るため、指導時間数の弾力化を図るとともに、平成１８年度による新たに対象となるＬＤ（学習障害）・ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）の児童生徒に対する指導時間数を定める。

②　改正の概要

平成５年文部省告示７号は「通級による指導」の指導内容及び指導時間の標準について「自立活動」(注）に係る指導を年間３５～１０５単位時間（週１～３単位時間程度)、さらに「教科指導の補充」に係る指導を実施する場合には「自立活動」に係る指導時間と併せて年間２８０単位時間（週８単位時間程度）まで行うことを定めている。本告示につき、以下の２点について改正を行う。

・「自立活動」及び「教科指導の補充」に係る指導時間枠の弾力化
　児童生徒の障害に応じたより適切な教育を実施する観点から、「自立活動」及び「教科指導」を併せた指導時間数の標準のみを規定する。

・ＬＤ及びＡＤＨＤの児童生徒に対する指導時間数の標準の設定
　ＬＤ及びＡＤＨＤの児童生徒については、月１単位時間程度でも指導上の効果が期待できる場合があることから、指導時間数の標準を年間１０単位時間（月１単位時間程度）の指導を下限とし、上限は既に通級による指導の対象となっている障害種と同様の年間２８０単位時間（週８単位時間程度）とする。

（改正案）

指導内容	標準年間指導時間
自立活動及び教科指導の補充	年間３５～２８０単位時間 （週１～８単位時間程度） （ＬＤ等：年間１０～２８０単位時間） （月１～週８単位時間程度）

注「自立活動」とは、障害に基づく困難を主体的に改善・克服するために必要な知識技能を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う指導を指す。具体的には言語障害者に対する発音・発語指導などを指す。

２　通級による指導の対象

通級による指導の対象となる児童生徒については、平成１４年５月２７日付け１４文部科初第２９１号「障害のある児童生徒の就学について（通知)」及び「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」(平成１８年４月１日施行）により、以下のように示されている。

①障害の種類及び程度

〈言語障害者〉

口蓋裂、構音器官のまひ等器質的又は機能的な構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、その他これに準じる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。）で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。

〈自閉症者〉

自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき一部特別な指導を必要とする程度のもの。

〈情緒障害者〉

主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。

〈弱視者〉

拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度の者で、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの。

〈難聴者〉

補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが困難な程度の者で通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの。

〈学習障害者〉

全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもので、一部特別な指導を必要とする程度のもの。

〈注意欠陥多動性障害者〉

年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性が認められ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもので、一部特別な指導を必要とするもの。

〈その他：肢体不自由者、病弱者及び身体虚弱者〉

肢体不自由、病弱又は身体虚弱の程度が、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。

②留意事項
・通級の対象とするが否かの判断に当たっては、保護者の意見を聞いた上で、障害のある児童生徒に対する教育の経験のある教員等による観察・検査・専門医による診断等に基づき教育学、医学、心理学等の観点から総合的かつ慎重に行うこと。
・通級による指導の特質に鑑み、個々の児童生徒について、通常の学級での適応性、通級による指導に要する適正な時間等を十分考慮すること。

※　なお、知的障害については、その障害の特性上「通級による指導」の対象となっていないことに留意する必要がある。

3　通級指導教室の設置と学校経営における位置づけ

通級による指導（通級指導教室）について、小学校学習指導要領解説総則編において、次のように解説している。

通級による指導は、小学校の通常の学級に在籍している比較的軽度の障害のある児童に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、当該児童の障害に応じた特別の指導を特別の指導の場（通級指導教室）で行う教育形態である。ここでいう特別の指導とは、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導のことである。したがって、指導に当たっては、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、例えば、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導領域である「自立活動」の内容を取り入れるなどして、個々の児童の障害の状態等に応じた具体的な目標や内容を定め、学習活動を行うことになる。また、これに加えて、特に必要があるときは、特別の指導として、児童の障害の状態等に応じて各教科の内容を補充するための指導を一定時間内において行うこともできることになっている。そして、小学校学習指導要領第１章総則第４の２（７）においては、「特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと」と示されており通級による指導の担当教師だけでなく、他の教師との連携協力の下、効果的な指導を行う必要がある。

（1）通級による指導は、小学校・中学校の通常の学級に在籍する比較的軽度の障害のある児童（生徒）を対象としている。

（2）通級による指導における特別の指導は、自立活動及び教科の内容を補充するための指導が行われる。

（3）特に必要があるときは、各教科の内容を補充することもできるが、ここで言う各教科の補充指導は、障害の状態に応じた特別な指導であり、単に教科の遅れを補充するためのものではないことに留意する。

（4）通級による指導の対象となる者は、言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者．学習障害者、注意欠陥多動性障害者などである。

（5）通級による指導は、特別の教育課程によることができる。

（6）通級による指導に係る授業時間数は、次のように標準として示されている。
・言語障害者、自閉症者、情緒障害者弱視者、難聴者
［年間 35 単位時間から 280 単位時間まで、これは、週１単位時間から８単位時間までとなる。　］
・学習障害者、注意欠陥多動性障害者
（年間１０単位時間から２８０単位時間までこれは、月１単位時間から週８単位時間までとなる。これまでは、週１単位時間以上でなければ通級による指導として認められなかったが、月１単位時間でも通級として認められたことに大きな意義がある。
また、従前は、自立活動の指導が３単位時間、教科の補充のための指導５単位時間が、標準として示されていたが、平成１８年の改正により、自立活動の指導と教科の補充のための指導とに分けずにトータルで授業時数が示されている。）

（7）児童生徒が在籍校以外の小学校・中学校または特別支援学校の小学部・中学部で受けた特別の指導を、児童生徒が在籍する小学校・中学校の校長は、他校で受けた指導を特別の教育課程に係る授業とみなすことができる。

4　通級指導教室の役割

（1）障害のある児童生徒に対し、適切な指導及び必要な支援を行う。

（2）児童生徒の在籍校との連携協力を密にし、通常の学級を支援する。

（3）特別支援教育のキーステーションとしての役割を果たす。
①通級指導教室設置校内の特別支援教育のキーステーション
②特別支援学級とともに市町村内の特別支援教育のキーステーション

V　特別支援学級・通級指導教室の教育課程

1　特別支援学級の教育課程

（1）　教育課程編成の基本的な考え方

特別支援学級は、学校教育法第８１条第２項の規定に基づき特別に編制された学級であるが、あくまでも小学校又は中学校の中に設置された学級である。したがって、特別支援学級の教育課程に関する法令上の規定は小学校又は中学校の教育課程に関するものが適用され、学校教育法に定める小学校又は中学校の目的・目標を達成するものでなければならない。

しかしながら、特別支援学級は、本来、通常の学級における学習では、十分その効果を上げることが困難な児童生徒のために編制された学級であり、通常の学級と同じ教育課程を適用することは適切でない場合がある。特別支援学級の場合には、遅れがあるという児童生徒の実態にふさわしい教育課程が必要である。特別支援学級の教育課程の編制については、学校教育法施行規則に次のように規定されている。

【学校教育法　第１３８条】
小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合は、第５０条第１項、第５１条及び第５２条の規定並びに第７２条から第７４条までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。
（特別支援学級に係る教育課程の特例）

この規定で引用されている第５０条第１項以下の各条項は、いずれも小学校又は中学校の教育課程に関する規定であり、小学校又は中学校の各領域や各教科それぞれの授業時数及び各学年の総授業時数、教育課程編成の基準等を定めている。特別支援学級においては、これらの規定に関わらず、各学年の総授業時数をおさえた上で学級の実態に応じて特別の教育課程を編制することが法令上認められている。

また、特別支援学級においては特別の教育課程を編制する場合については、特別支援学校の小学部・中学部学習指導要領を参考とするようになっており、例えば知的障害特別支援学級の場合、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、知的障害特別支援学校）の学習指導要領を参考にするなど、それぞれの障害に応じた障害種別の特別支援学校学習指導要領を参考にすることが望ましい。

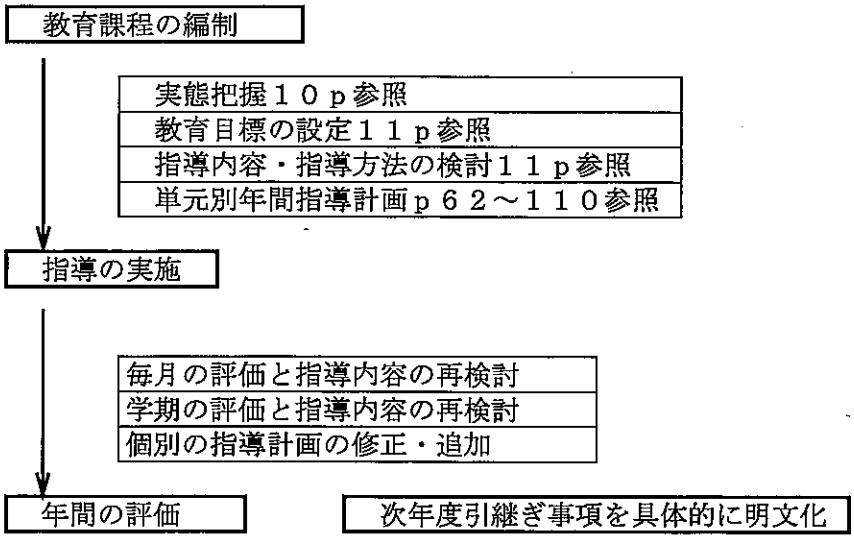
しかしながら、特別支援学級の児童生徒の実態は、特別支援学校の児童生徒のそれと同じではないので、小学部・中学部学習指導要領の内容をそのまま特別支援学級に適用することは適切でない場合もあることに留意する必要がある。

なお、小学部・中学部学習指導要領に記載されている配慮事項は、児童生徒の実態に応じて積極的に取り入れることが大切である。

（２）教育課程編成の手順

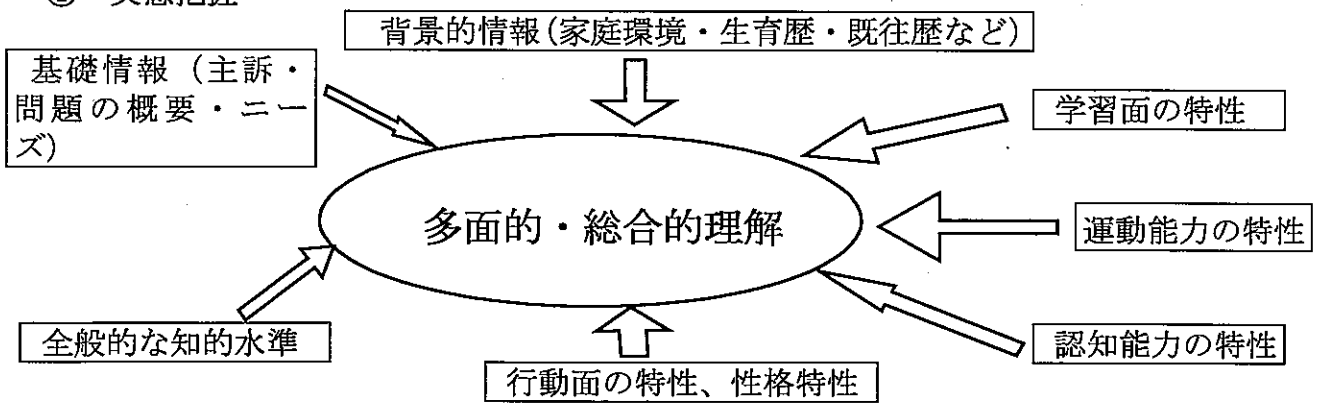
特別支援学級の教育を行う上で、最も大切になるのが児童生徒のアセスメントである。

児童生徒一人一人の実態が十分に把握されていなければ、適切な教育課程の編制や指導を行うことはできない。特別支援学級の指導計画の作成に当たっては、児童生徒の実態を的確に把握した上で、教育目標を達成するために最も適切な教育課程を編制し、効果的指導の形態を考えることが大切である。



※年間の評価と次年度引き継ぎ事項については、児童生徒の変容にとどまることなく、指導内容及び指導方法が当該児童のニーズに応えたものとなっていたかどうかという視点が大切である。

① 実態把握



表：心理・教育的アセスメントの主な領域と方法

※下記のアセスメントを実施する前に「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を参照し、既に実施されている方法を参考にする。

※専門指導担当者：特別支援教育を担当する教師・特別支援教育コーディネーター・専門的な相談機関や指導機関の担当など

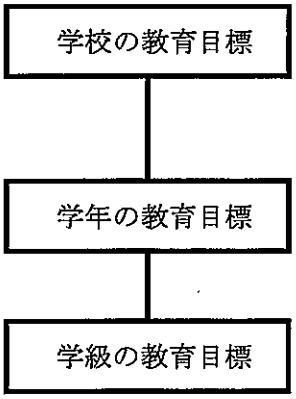
※心理担当者：臨床発達心理士・学校心理士・臨床心理士・特別支援教育士など心理を専門とする担当者

領域	主な方法	主な担当者
①基礎情報 （主訴・問題の概要・ニーズ）	保護者や担任教師及び本人からの聴取・行動観察	通常の学級担任・専門指導担当者・心理担当者

②背景的情報 （家庭環境・生育歴・既往歴等）	保護者や指導担当者からの聴取・幼児健診や母子手帳などの記録・医療機関からの報告・行動観察・学校独自の家庭調査票	通常の学級担任・専門指導担当者・心理担当者
③全般的な知的発達水準	知能検査等の心理検査 （WISC-Ⅲ・田中ビネー検査等）	心理担当者・専門指導担当者
④認知能力の特性	心理検査Ⅰ（WISC-Ⅲ・K-ABC・ITPA・DN-CAS 等）、 心理検査Ⅱ（DAM・DTVP・BGT・PVTR 等）	心理担当者・専門指導担当者・言語聴覚士
⑤学習面の特性	学力チェックリスト（LDI）・標準学力検査 各教科のノート・作文・日記・観察	通常の学級担任・専門指導担当者・心理担当者
⑥運動面の特性	随意運動発達検査・運動能力検査・観察	通常の学級担任・専門指導担当者・心理担当者
⑦行動面の特性・性格特性	行動観察・面接・保護者や担任教師からの聴取・行動チェックリスト・SM 社会生活能力検査・その他	通常の学級担任・専門指導担当者・心理担当者

（引用文献：軽度発達障害の心理アセスメント　日本文化科学社　2005）

②　教育目標の設定



・学校の教育目標に沿って設定する。
・子どものニーズを第一に考え、実態に即し強調する点や留意する点を明らかにする。
・教師の指導観や保護者の願いを反映し、児童生徒が意識できるような具体的な目標を設定する。
・子どもの将来の姿を見通して長期的な目標を立て、それにつながる短期的な目標を設定する。
・児童生徒一人一人の個別の目標は、個別の指導計画に明示する。

③　教育内容の組織化、指導の形態の工夫

各教科の指導

・教科の指導は、時間割の中に、各教科の時間を設けて指導する。
・指導で扱う内容は、下学年、或いは直接的に当該学年の内容を取り入れるのではなく、児童生徒の障害の特性に合わせたものでなければならない。
・内容の選択に当たっては、児童生徒の興味、関心を十分に考慮することが大切である。
・教科指導においても、児童生徒同士の相互学習を保障し、個別にプリント学習に終始するような授業ではなく、児童生徒が互いに「学び合う」授業を展開しなければならない。
・障害が重度になればなるほど、教科学習は困難なように思われがちだが、文化の伝達という意味で、教科を分けた指導はどの発達レベルにおいても重要であり、指導方法の工夫により可能である。

領域別の指導

領域別の指導とは、時間割の中に、道徳、特別活動、自立活動の時間を設けて指導することである。

【道徳】

児童生徒の興味・関心や生活にヒントを得た具体的な題材を設定し、障害の特性を考慮し実際的な活動を取り入れたり、具体物や反具体物を使ったり視聴覚機器を活用したりして、共通のイメージをもたせ、相互に考えを述べ合うことが指導目標到達につながる。

【特別活動】

公立小中学校に設置された特別支援学級においては、支援学級内の「学級活動」を基盤に、「児童会（生徒会）活動」「クラブ活動」「学校行事」を当該学年の通常学級との共同学習において履修される場合が多い。そのためには、支援学級内で行われる「学級活動」の内容を充実させる必要があり、教育課程編成の際に小・中学校学習指導要領の内容を大いに参考にしなければならない。

【自立活動】

一人一人の児童生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

各教科等を合わせた指導

知的障害の児童生徒を対象とする教育では、知的発達の状態が未分化な場合、総合的な活動の必要性が高くなるため、効果的な指導形態として、各教科等の全部又は一部を合わせた指導（各教科等を合わせた指導）を行うことができる。

各教科等を合わせた指導として、「遊びの指導」「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」等が実践されます。

（3） 教育課程の構造図

指導内容の分類と指導の形態との関係を構造化し、まとめると次のようになる。

【小学校】

通常学級の教育課程（参考）

区　分	1・2年	3・4年	5・6年
各教科	国　語	国　語	国　語
	算　数	算　数	算　数
	音　楽	音　楽	音　楽
	図画工作	図画工作	図画工作
	体　育	体　育	体　育
	生　活	社　会	社　会
		理　科	理　科
			家　庭
道　徳	道　徳	道　徳	道　徳
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
総合的な学習		総合的な学習	総合的な学習
外国語活動			外国語活動

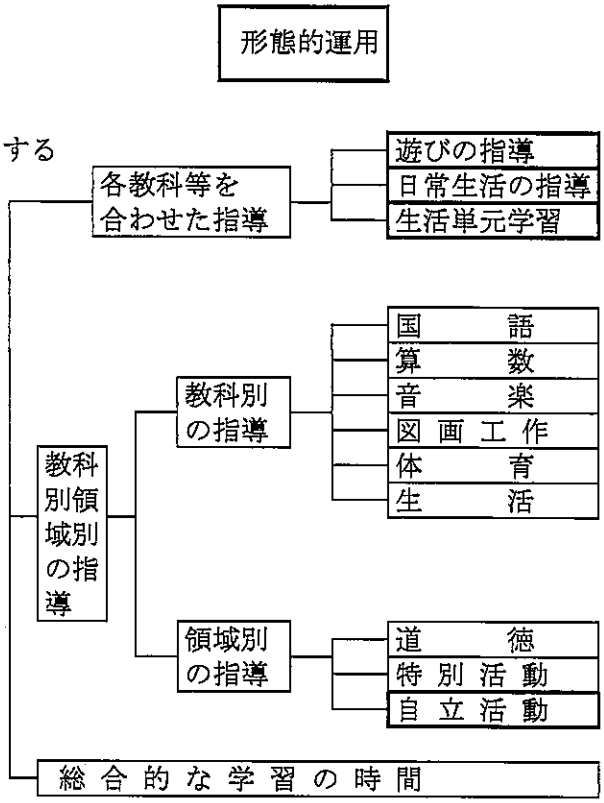
知的障害を除く特別支援学級（自閉・情緒、肢体不自由、言語、病弱、視覚、聴覚障害学級）の教育課程

区　分	1・2年	3・4年	5・6年
各教科	国　語	国　語	国　語
	算　数	算　数	算　数
	音　楽	音　楽	音　楽
	図画工作	図画工作	図画工作
	体　育	体　育	体　育
	生　活	社　会	社　会
		理　科	理　科
			家　庭
道　徳	道　徳	道　徳	道　徳
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
総合的な学習		総合的な学習	総合的な学習
外国語活動			外国語活動

知的障害特別支援学級の教育課程

※知的障害特別支援学校小学部の教育課程を参考にする

区　分	1・2年	3・4年	5・6年
各教科	国　語	国　語	国　語
	算　数	算　数	算　数
	音　楽	音　楽	音　楽
	図画工作	図画工作	図画工作
	体　育	体　育	体　育
	生　活	生　活	生　活
道　徳	道　徳	道　徳	道　徳
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
総合的な学習		総合的な学習	総合的な学習



（注１）小学校の特別支援学級において知的障害特別支援学校小学部の教育課程を参考にして教育課程を編成するとしても特別支援学級は、小学校の一つの学級であるので特別支援学級（３～６年）においても「総合的な学習の時間」は児童の実態に応じて適切な時間を設定しなければならない。

（注２）生活科（知的障害代替）において、社会、理科の内容も含まれており、知的障害学級においても、当事者である児童の実態を踏まえた教育的ニーズを中心に内容を設定することが大切である。

【中学校】

中学校特別支援学級等における教育課程の構造と適用（学習指導要領に基づく）

通常学級の教育課程（参考）

区　分		1　～　3　年
各教科	必修教科	国　語
		社　会
		数　学
		理　科
		音　楽
		美　術
		保健体育
		技術・家庭
		外国語
道　徳		道　徳
特別活動		特別活動
総合的な学習の時間		総合的な学習の時間

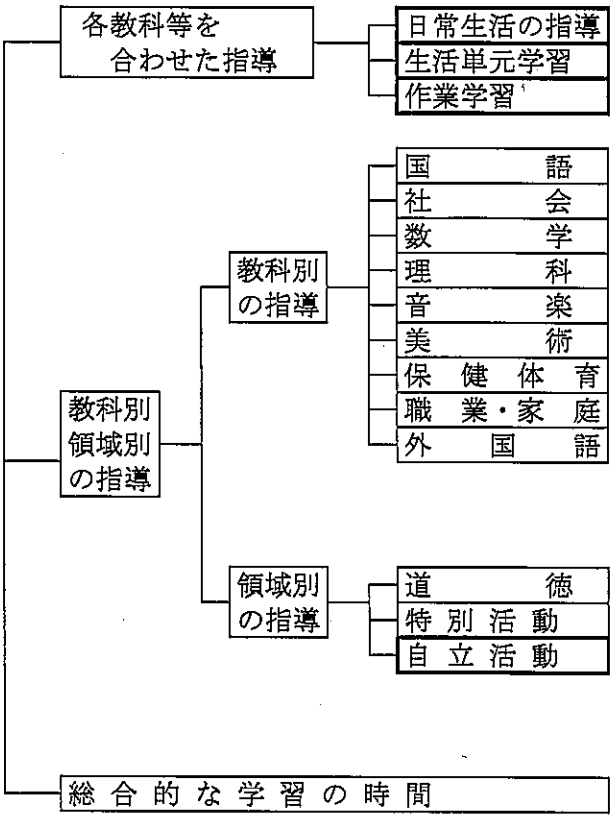
知的障害を除く特別支援学級（自閉・情緒、肢体不自由、言語、病弱、視覚、聴覚障害学級）の教育課程

区　分		1　～　3　年
各教科	必修教科	国　語
		社　会
		数　学
		理　科
		音　楽
		美　術
		保健体育
		技術・家庭
		外国語
道　徳		道　徳
特別活動		特別活動
自立活動		自立活動
総合的な学習の時間		総合的な学習の時間

知的障害特別支援学校中学部の教育課程を参考とした
中学校特別支援学級の教育課程

形態的運用

区分		1～3年
各教科	必修教科	国語
		社会
		数学
		理科
		音楽
		美術
		保健体育
		職業・家庭
		外国語
道徳		道徳
特別活動		特別活動
自立活動		自立活動
総合的な学習の時間		総合的な学習の時間



【小学校の週日課表（時間割）】
授業時数の１単位時間は、４５分とする。

例１：比較的に課題の少ない児童が在籍する学級

下の表は、児童一人分である。複数の児童が在籍する学級では、児童分の数の表を組み合わせ、通常学級のような一つの時間割を作成する。

	月	火	水	木	金
1	きらきらタイム	体（協）	きらきらタイム	きらきらタイム	きらきらタイム
2	国語	のびのびタイム	国語	国語	国語
3	算数	音（協）	算数	算数	算数
4	生活（単元）	国語	学活	道徳	音楽
5	国語	生活（単元）	体（協）	図工	体（協）
6			生活（単元）	図工	生活（単元）

協力学級で（音２、体３、）
支援学級で（国６、算４、図２、音１、道徳１，
自立５、生単４、）

※のびのび・きらきらタイム：自立活動
＊小学校学習指導要領に準じ各学年の標準時数を目安に時間割を編成する。
＊協力学級での交流及び共同学習は、当該児童のニーズに応じて組み込む。
＊支援学級の学級経営を中心に考えて時間割を編成する。交流教科を中心に時間割編成を行うと、支援学級の学級経営目標の達成が難しくなる。
＊児童用の時間割表上の「自立活動」の表記は、児童に分かりやすく親しみのあるものにするが、週案へは「自立活動」と明記する。
※「遊びの指導」「日常生活の指導」の内容については教育活動全般を通して、適時指導する。

※通常学級での家庭科の調理実習、社会科の見学学習など、単元に応じて共同学習ができる場合は、弾力的に時間割を編成する。見学学習の場合は、特に支援学級が通常学年（学級）と合同で学習をする

などの試みも大切である。
※課題の多い児童が在籍する場合でも、教育的ニーズも考慮しながら全体としては課題の少ない児童に時間割を合わせて編成した方が、学級経営がしやすく、児童全員の個々の発達や学習の保障が可能となる。

例２：排泄や衣服の着脱、歩行、人とのコミュニケーションなどに課題が多い児童が在籍する学級

きらきらタイム：「日常生活の指導」「自立活動」の内容とし、週案へ明記する。

	月	火	水	木	金
1	きらきらタイム	きらきらタイム	きらきらタイム	きらきらタイム	きらきらタイム
2	体(協)	のびのびタイム	生活(単元)	のびのびタイム	音楽
3	学活	体(協)	生活(単元)	国語	道徳
4	国語	国語	国語	体(協)	国語
5	算数	算数	音楽	算数	算数
6		生活(単元)	のびのびタイム	生活(単元)	

協力学級で（体３）
支援学級で（国５、算４、音楽２、道徳１、学活１、日生５、自立３、生単４）

＊小学校学習指導要領に準じ各学年の標準時数を目安に時間割を作成する。
＊学校生活が児童にとって分かりやすいものとなるよう時間割はできるだけ、毎日決まった時間に決まったことができるよう帯時間にする。
＊学校行事に関わること（「運動会」「学芸会」の練習等は適時に時間割に組んで、「自立活動（人間関係の形成、コミュニケーション）」「生活単元学習」の時数としてもよい。
＊対象児童が課題の多い児童であることから、交流及び共同学習は対象の児童の障害の状態、教育的ニーズを十分把握して行う。具体的には、授業の一部交流や給食等から始め、児童の様子や交流学級の状況も踏まえ進めて行く事が重要である。

【中学校】
１単位時間は５０分とする。

例１：比較的に課題が少ない生徒が在籍する学級

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	国語	国語	国語
2	数学	英語	数学	数学	数学
3	美術	社会	生活単	自立	作業
4		道徳	元学習	理科	学習
5	保体	数学	保体	音楽	保体
6	総合		総合	学活	

＊１～２時限目に国語、数学、英語を設け、基礎的な学力の定着を図る.
＊国語、数学、英語、生単、作業、道徳は特別支援学級で学習を行い他は交流学級の授業へ参加する。
※自立活動は、「健康の保持」「心理的な安定」「環境の把握」「人間関係の形成」「コミュニケーション」の５項目を取り上げ、ニーズに応じて学習内容を創意工夫する。

例２：排泄や衣服の着脱、歩行、人とのコミュニケーションなどに課題が多い生徒が在籍する学級

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	国語	国語	国語	国語	国語
3	美術	自立活動			数学
4					数学
5	保体	作業	保体	音楽	作業
6	総合		総合	学活	

＊１時限目に日常生活の指導の時間を設け、自立活動を学習の中心に置き、できるだけ毎日同じような日課で見通しをもって活動できるようにしている。
＊自立活動の時間を週２時間設け障害の実態に応じた特別の指導を行う。
＊交流学習は、生徒の興味・関心及び実態に合わせて行う。
＊異学年の生徒の集団あることに注意する。

（４）　特別支援学級における教科書の取り扱い

学校教育法第３４条の規定により、小学校、中学校において文部科学大臣の検定を経た教科書又は文部科学省著作教科書を使用しなければならないが、小・中学校の特別支援学級においては、学校教育法附則第９条及び学校教育法施行規則第１３９条の規定に基づき、児童生徒の実態にあった教科書を採択し、使用することができる。

上記「児童の実態にあった」とは、当該児童生徒が知的障害或いは自閉症等の障害があり、「その障害特性にあった」という意味が含まれている。従って、例えば、知的障害のある児童生徒に下学年の検定済み教科書を安易に使用してはならない。検定済教科書の使用が可能な児童生徒は、知的に遅れのない児童生徒のうち、検定済教科書が児童生徒の教育的ニーズに合ったものである場合のみである。知的障害のある児童生徒や自閉症の児童生徒に対して行われる教育が、彼らの特性にあった内容と方法で行われることにより、最終の目標である自立を保障するものとなる。

２　特別支援学級における交流及び共同学習

特別支援学級と通常学級の交流は、特別支援学級の児童生徒にとっては、人間関係を広げ、社会性を豊かにするよい機会となる。また、通常の学級の児童生徒にとっては、障害のある児童生徒に対する理解を深め、望ましい人間関係を身につけることに役立つ。

しかしながら、特別支援学級の児童生徒に対する障害の実態に即応した対応を怠り、性急かつ無造作な交流を実施すれば、交流の趣旨とは逆の結果がもたらされることもあるので、緻密な計画の下に、個々の児童生徒に対する個別的な配慮が十分なされた条件下で交流を実施する必要がある。例えば、特別支援学級の児童生徒が、通常の学級の授業に参加することを多くすると、特別支援学級では、常に何名かの児童生徒が欠けるという状態になり、特別支援学級における主体的な学習指導が成り立たなくなる。通常の学級との交流を積極的に実施することは、特別支援学級の児童生徒を通常の学級の授業にできるだけ多く参加させるということを意味してはいない。

交流及び共同学習の実施に際しては、特別支援学級と通常の学級のそれぞれの教育課程を尊重し、それぞれの教育課程を一層充実補完するための指導内容として交流及び共同学習を位置付けておくことが大切である。交流を行う以上は、特別支援学級、通常学級の双方に在籍する児童生徒相互に有益である内容を計画・実施することが必要である。

また、近年在籍数が１～２名という小集団の特別支援学級もあるが、近隣の特別支援学級や特別支援学校と交流及び共同学習や合同行事等を行い、効果的な学習を進めている事例もある。集団の保障という視点に立つと、多様な交流及び共同学習の形態もあわせて工夫することも大切である。

〈交流及び共同学習の実際〉

＊学校、学年や交流学級の行事に通常の学年・学級の一人として参加する。
＊特定の教科（音楽、図工、体育等）を交流学級で共に学習する。
＊興味や関心の持てる特定の単元を選んで学習する。

〈交流及び共同学習を進める上での留意点〉

＊交流及び共同学習を進めるにあたっては、具体的には、交流学級の学習内容を定め把握し、特別支援学級在籍児童生徒に合わせた課題（学習内容）を提示できるように交流学級と丁寧に調整する。
＊特別支援学級の教育課程をまず第一に尊重する。例えば交流を優先するあまり特別支援学級で展開している生活単元学習の授業（他校支援学級との交流学習や支援学級独自の校外学習など）を抜けるか或いは参加しない、などというようなことがないように配慮する。
＊交流学級との適宜情報交換を行い、一人一人に合った交流の内容や方法、支援体制について評価し改善し、実践するといったＰＤＣＡのサイクルを大切にする。
＊交流及び共同学習の内容・時間・回数などは流動的なものと解釈し、交流を進める。

3　特別支援学級における評価

（1）教育評価

個別の指導計画に従って、教育実践を行うことで児童生徒がどう成長していくのかを確かめ、作成した指導計画が有効かどうか検討していくことが教育評価である。

教育評価を行うためには、指導計画を作成する段階から、児童生徒の実態をよく把握し、障害の特性や発達段階、当該児童生徒の興味関心及び教育的ニーズに応じた課題を設定し、評価の視点を明確にしておく必要がある。

特別支援教育における評価は、あらかじめ到達度を決めて、減点法で行う評価方法は好ましくない。課題を達成できた点や身に付いている点に注目し、肯定していく加点法での評価を心がける必要がある。何ができて何ができていないのかを把握し、できていることをさらに伸ばしていくような教育評価観が必要である。

また、その発達がスモールステップであることから、「できた」ということ以前の「できそう」ということも評価の対象とし、細かく客観的にその発達を見届けていく必要がある。

（2）指導要録

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、指導及び外部に対する証明等に役立たせる原簿としての性格を持つものである。様式は各学校の設置者が定めるが、記入上の注意等は設置者から各学校に指示されるものである。

特別支援学級の場合、児童生徒の実態に基づき編成している各学級の教育課程に応じて、通常の学級と同じ様式あるいは一部変更した様式を使用したり、特別支援学校の様式を参考にして使用する。

〈特別支援学級の指導要録の取り扱い〉

小学校、中学校の設置者である市町村教育委員会において、特別支援学級用の指導要録の様式を定めている場合は、これに沿って記載し、特別な定めがない場合は、通常の学級と同様の様式を使用して記載する。

学籍に関する記録の学級の欄については、その在籍する特別支援学級の学級名を記載し、学級担任者氏名欄については、特別支援学級担任名を記載し押印する。通常の学級と特別支援学級間の移動があった場合は、引き続き同じ用紙を使用して記載する。

また、指導の記録に関しては、各教科等の評定が難しい場合等は適宜文章表記などの工夫をして記載する。卒業後の保存は、通常の学級と一緒につづり、保存することが望ましいが、学校によっては、特別支援学級用のつづりを作成し保存している場合もある。

なお、特別支援学校の教育課程を参考とした場合の様式例については、県教育委員会が作成した「指導要録の様式・解説」（平成２３年度）に示しているので、必要に応じて市町村教育委員会で様式を定めるときの参考とすること。

※卒業台帳への記名は協力学級へ記入している学校が多い状況で有る。

（3）通知表

通知表は、各学校が学期ごとや年度末に児童生徒の学習をとおしての成長と学校生活の状況を保護者や本人に連絡する文書である。通知表は各学校において作成されるものであるが、特別支援学級の場合、各学級の教育課程に基づいて学級独自の様式を定め、個々の児童生徒に応じた内容で作成することが望ましい。

通知表の形式は、指導のねらいや内容が示されていれば、◎○△式でも記述式でもよいが、受け取った保護者や児童生徒が、障害の状態を改善・克服し、前向きに努力しようという意欲がわくような内容であることや具体性に富み、家庭における指導に活用できる記述であることが望ましい。

また、小学校の場合は保護者に向けて、中学校では生徒自身が理解できる文章でといった配慮など、児童生徒の実態に応じた適切な記述方法が必要である。

具体的な様式として、個別の指導計画に評価の欄を挿入し、通知票として使用することで、個別の指導計画が有効に活用されることにつながる。

4　通級指導教室の教育課程

（1）通級による指導を受ける児童生徒の教育課程

通級による指導を受ける児童生徒に対しては、小学校や中学校の教育課程の定めにかかわらず、文

部大臣が別に定めるところにより、特別の教育課程によることができる。（学校教育法施行規則第１４０条）また、通級による指導を受ける児童生徒が通う通級指導教室が自分の学校にないため、通級指導教室が設置されている別の学校に通って指導（他校通級）を受ける場合、当該児童生徒が在籍する学校の校長は、他の学校で受けた授業を自分の学校で受けた特別の教育課程による授業と見なすことができる。（学校教育法施行規則１４１条）

（２）教育課程の編成の基本的な考え方

〈特別の教育課程の編成〉

特別の教育課程の編成にあたっては、児童生徒の障害に応じた特別の指導を、小中学校の教育課程の一部に替えたり、場合によっては加えたりすることができる。しかしながら、通級による指導の時間をすべて加えるようなことがあると、小・中学校の標準時数から考えて、児童生徒の負担加重にならないように配慮が必要である。

〈個別の指導内容〉

障害に応じた特別の指導は、障害の状態の改善又は克服を目的とする指導とすることとされている。

これは、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の制定並びに高等学校、盲学校、聾学校、養護学校及び中等教育学校の教育課程の基準の改定について（通知）」（平成１１年３月２９日付け文初高第４５７号）において「小学校、中学校等の通級による指導における教育課程については、新しい小学部、中学部学習指導要領を参考として実施すること」とされていることから、「自立活動」を指している。

また、特に必要があるときには、障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導も認められている。ただし、この場合の各教科は、例えば、言語障害に伴う国語の読みの指導を補うというように、障害の特性に関連した教科の指導内容を補充するということに留意する必要がある。

なお、通級による指導の一般的な指導内容の例は２２ページの表に示すとおりである。

〈通級による指導の授業時数〉

「障害の状態の改善又は克服を目的とする指導」とする自立活動と障害に応じた各教科の補充指導を合わせて、合計週当たり８単位時間以内まで指導することができる。

なお、通学時間や保護者相談にかかる時間を通級による指導の時間に含めることができないことに留意する必要がある。

※ＬＤ、ＡＤＨＤの児童生徒には、合計月１単位時間のみの指導も可能となる。

〈他校通級による指導〉

他校において通級による指導を受ける場合には、当該児童生徒が在籍する小学校又は中学校の校長は、当該特別の指導を行う学校の校長と十分協議の上、教育課程を編成する必要がある。

〈巡回による指導〉

家庭の事情によりやむを得ず付き添いできない場合には、当該児童生徒が在籍する小学校又は中学校の校長は、通級指導教室がある学校の校長と話し合いの後、当該市町村委員会に対して、通級指導教室担当の巡回指導を要請し、当該児童生徒が在籍する学校において特別な指導を受けることができるようにする。

（３）通級指導における留意点

小学校及び中学校学習指導要領の総則の解説の中では、「対象となる児童生徒に対する通常の学級における指導と通級による指導とが共に効果的に行われるためには、それぞれの担当教員同士が児童生徒の様子や変化について定期的に情報交換を行うなどして連携に努め、指導の充実を図ることが重要である。」と示されている。

実際の指導に当たっては、職員間や保護者との連携を十分に深め指導に当たることが大切であり、以下のことに留意しながら連携を深めていく必要がある。

①　連携の目的

・担任及び通級担当が児童生徒の障害の状態を正確に理解する。

・担任が通級指導教室の指導内容を知る。
・通級指導教室における指導の効果を通常の学級の指導に般化させる。

② 連携の内容
・両者による個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成
・定期及び不定期による話し合い（評価→指導計画の修正）

③ 配慮事項
・職務上知り得た情報は守秘義務があることに留意する
・学期末などには、定期的に保護者との話し合いの場を設け、十分な理解を得るよう努力する。

④ 学校職員への理解、啓発の在り方
・学期始めあるいは学期末に校内委員会全体会を設け、全体的な共通理解の場とする。

（4）通級による指導(指導要録等) の取り扱い

通級による指導を受けている児童生徒については、成長の状況を総合的にとらえるため、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、通級による指導を受ける学校名、通級による指導の週当たりの授業時数、指導期間、指導の内容や様子等を記入する。

なお、指導要録の記入については、在籍している通常の学級の担任教員が、通級による指導を担当する教員が作成する指導の記録に基づいて記入を行い、他の学校において通級による指導を受けている場合には、当該学校から通知された指導の記録に基づき記入すること。

（5）自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

（6）自立活動の内容

・ 健康の保持

1　健康の保持 （1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること。 （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。 （4）健康状態の維持・改善に関すること

「1　健康の保持」では、生命を維持し、日常生活を行うために必要な身体の健康状態の維持・改善を図る観点から内容を示している。

「（1）の生活リズムや生活習慣の形成に関すること。」は、体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身につけること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ることを意味している。

「（2）病気の状態の理解と生活管理に関すること。」は、自分の病気の状態を理解し、その改善を図り病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにすることを意味している。

「（3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。」は、病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりできるようにすることを意味している。

「（4）健康状態の維持・改善に関すること。」は、障害があることにより、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすることを意味している。

・　心理的な安定

2　心理的な安定 （1）情緒の安定に関すること。 （2）状況の理解と変化への対応に関すること。 （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

「2　心理的な安定」では、自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲の向上を図る観点から内容を示している。
「（1）情緒の安定に関すること。」は、情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすることを意味している。
「（2）状況の理解と変化への対応に関すること。」は、場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身につけることを意味している。
「（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。」は、自分の障害の状態を理解したり、受容したりして、積極的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲の向上を図ることを意味している。

・　人間関係の形成

3　人間関係の形成 （1）他者とのかかわりの基礎に関すること。 （2）他者の意図や感情の理解に関すること。 （3）自己の理解と行動の調整に関すること。 （4）集団への参加の基礎に関すること。

「3　人間関係の形成」では、自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容を示している。
「（1）他者とのかかわりの基礎に関すること。」は、人に対する基本的な信頼感を持ち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすることを意味している。
「（2）他者の意図や感情の理解に関すること。」は、他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにすることを意味している。
「（3）自己の理解と行動の調整に関すること。」は、自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることを意味している。
「（4）集団への参加の基礎に関すること。」は、集団の雰囲気に合わせたり、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようになることを意味している。

・　環境の把握

4　環境の把握 （1）保有する感覚の活用に関すること （2）感覚や認知の特性への対応に関すること。 （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

「4　環境の把握」では、感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点から内容を

示している。
「(1) 保有する感覚の活用に関すること」は、保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるようにすることを意味している。
「(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。」は、障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に適切に対応できるようにすることを意味している。
「(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。」は、保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう各種機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行が的確にできるようにしたりすることを意味している。
「(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。」は、いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすることを意味している。
「(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。」は、ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できることを意味している。

・ 身体の動き

5 身体の動き (1) 姿勢の運動・動作の基本的技能に関すること。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 (3) 日常生活に必要な基本的動作に関すること。 (4) 身体の移動能力に関すること。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

「5 身体の動き」では、日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点から内容を示している。
「(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。」は、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、間接の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関することを意味している。
「(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。」は、姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにすることを意味している。
「(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。」は、食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び書字、描画等の学習のための動作などの基本動作を身につけることができるようにすることを意味している。
「(4) 身体の移動能力に関すること。」は、自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図ることを意味している。
「(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。」は、作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めることを意味している。

・ コミュニケーション

6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2) 言語の受容と表出に関すること。 (3) 言語の形成と活用に関すること。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

「6 コミュニケーション」では、場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点から内容を示している。

「（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。」は、幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることを意味している。
「（2）言語の受容と表出に関すること。」は、話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすることを意味している。
「（3）言語の形成と活用に関すること。」は、コミュニケーションを通して、物事や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすることを意味している。
「（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。」は、話し言葉や各種の文字・記号、機種等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、コミュニケーションが円滑にできるようにすることを意味している。
「（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること。」は、場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにすることを意味している。コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係が重要である。

（7）自立活動の具体的指導内容例

通級指導対象の児童生徒は知的に障害がなく通常学級に在籍しており、通級指導教室における指導は学習上又は生活上の困難（自立目標）を克服し、態度及び習慣を身に付けさせるものであり、教科学習は通常学級で行うことが大前提である。従って、通級による指導における「教科の補充指導」は、自立活動を根底とする指導と考え、児童生徒の障害の特性、発達、ニーズ、興味関心に沿うものでなければならない。

障害	自立活動の内容	教科の補充指導の内容
言語障害	【2　心理的な安定】 ・自己肯定感を高める ・話すことの意欲を高める 【3　人間関係の形成】 ・他者と積極的に関わる態度を育てる ・自己を理解し行動を調整する ・集団に積極的に参加する基礎を養う 【4　環境の把握】 ・正しい音の認知や模倣 ・構音器官の運動の整理 ・呼気、舌、口形の訓練 ・音づくり、音の弁別 【5　身体の動き】 ・感覚統合訓練 【6　コミュニケーション】 ・体験の言語化を促す生活文の指導 ・斉読法などによる話し言葉の流ちょう	○国語 ・よく口を動かして音読する。 ・正確な口形に基ずき正確な発音で音読する。 ・作文指導を通して、何気ない日常の会話に注目する。 ・作文指導を通して、家族や友人などの存在に気づく。（「ぼくの家族」「ぼくの友達」など） ・作文指導を通して、困ったことや考えていることなどを素直に表現できるようにする。 ○音楽 ・当該児童生徒の興味関心やニーズに応じた教材を選択し、正確な発音で歌うことができるようにする。 ○社会 ・新聞を活用して社会の動きに興味や関心を持たせ、幅広い知識をもたせる。
難聴	【2　心理的な安定】 ・他者と積極的に関わる態度を育てる ・自己を理解し行動を調整する ・集団に積極的に参加する基礎を養う 【3　人間関係の形成】 ・他者と積極的に関わる態度を育てる ・自己を理解し行動を調整する ・集団に積極的に参加する基礎を養う 【4　環境の把握】 ・聴く態度の育成、聞き取りの練習、音声の聴取及び	○国語 ・語句の意味・用法を児童生徒の学び方の特性や興味関心に配慮して、的確に理解させ、定着させる ・文章の音読に関し、自分から進んで意欲的に読めるように教材を工夫する。 ・作文指導を通して、家族や友人などの存在に気づく。（「ぼくの家族」「ぼくの友達」など） ・作文指導を通して、困ったことや考え

	弁別の指導 ・補聴器を適切に装用する指導 ・日常の話し言葉の指導 【5　身体の動き】 ・感覚統合訓練 【6　コミュニケーション】 ・語彙の拡充のための指導 ・言語概念の形成を図る指導 ・日記等の書き言葉の指導等 ・発音の改善指導 ・口話法 ・手話、指文字 ・コミュニケーション機器の活用 （パソコン、FAX、携帯電話等）	ていることなどを素直に表現できるようにする。 ○算数（数学） ・文章題について、絵や具体物を活用するなどの 工夫を行い、場面や立式の理解を図る。 ○社会 ・新聞を活用して社会の動きに興味や関心を持たせ、幅広い知識をもたせる。 ○音楽 ・歌唱、楽器の演奏に関して、補聴器を活用しながら、より適切に行うことができるようにする。
情緒障害 「不登校・場面緘黙」	【2　心理的な安定】 ・個別に安心安全な場を保障することで、心理的な安定を図る。 ・自己の再発見を促すために、興味関心のあることを学習の中心に据える。 ・生活態度や学習態度の改善を図る目的で、学習規律の徹底や規則正しい家庭生活への支援を行う。 ・担当教師は、受容的態度で接し、学校の中で一番安心できる人と場所の提供につとめる。 【3　人間関係の形成】 ・通級開始時は、担当教師と当該児童生徒の関係性を構築することを目的とし一対一の指導とする。 ・2名から3名の児童生徒を同時間に設定し、少人数でやりとりすることにより、人間関係の形成を図る。 【5　身体の動き】 ・感覚統合訓練を行う。ビジュアルトレーニングなどを用いる。 【6　コミュニケーション】 ・エンカウンターなどを用い、コミュニケーションなどを学習する。	該当児童生徒の興味関心に合わせた学習内容と方法で指導する。 ○国語 ・当該児童生徒が好きな図書を使って音読や視写をさせたり、挿絵の模写をさせたりする。 ○家庭 ・調理や裁縫などの実習をさせる（その際、一人でできるように環境を整える）。 ○図工 ・マンガを描く、工作をするなど（道具等は教師が準備する）。 ※自己肯定感が高まるように、「できる」学習に終始する。もちろん、苦手な学習課題も、当該児童生徒が学習したくなるような状況の設定をすることが大切である。
高機能自閉症・アスペルガー障害	【健康の保持に関する内容】 ・特定の食べ物や衣服にこだわりを示す場合、困難の要因を明らかにし、無理のない程度の課題から取り組む。 【2　心理的な安定】 ・予告なしの訓練や急な予定の変更に混乱し不安になる場合、予想される事態や状況を予告することが必要である。 ・聴覚過敏の特性がある場合が多いので、静かな場を保障する。担当教師は、常に穏やかな態度で接し、声を荒げるようなことがないようにする。 ・視覚過敏の特性の児童生徒がいることから、通級指導教室は、シンプルに構造化されたものとする。 ・担当教師は、受容的態度で接し、学校の中で一番安心できる人と場所の提供につとめる。 【3　人間関係の形成】 ・通級開始時は、担当教師と当該児童生徒の関係性を構築することを目的とし一対一の指導とする。 ・自閉症者がもつファンタジーの世界を児童生徒と共有	○国語 ・好きな教材を選ばせ、自閉症の学びの特性を理解した効果的な指導を行う。 ○算数（数学） ・特に、図形の単元に特性を発揮すると考えられるので、本人が満足し自信を持って算数（数学）の学習ができるように指導方法を工夫する。 ○図工（美術） 描画が得意な子については、作品が仕上がるまで根気よく励まし、できあがった作品はクラスや職員室に展示するなどして、周囲の理解を得る。 ○社会 パソコンや DVD 等を活用し、専門性の高い学習を保障する。 ※自己肯定感が高まるように、「できる」

	するように努める。 ・２名から３名の児童生徒を同時間に設定し、少人数でやりとりすることにより、人間関係の形成を図る。 【５　身体の動き】 ・手足の協調や微細な運動が困難な場合、意図的に身体を動かし段階的に指導する。 ・こだわりがあり他者の意図の理解が困難な場合、当該児童生徒が興味を持って行えるように感覚統合訓練やビジュアルトレーニングなどを行う。 【６　コミュニケーション】 ・彼ら独特の言い回しやものの考え方などを理解し、それらを基盤にコミュニケーションの質と量を広げるようにする。	学習に終始する。もちろん、苦手な学習課題も、当該児童生徒が学習したくなるような状況の設定をすることが大切である。
L D	【２　心理的な安定】 ・学習（練習）の成果が得られず自信を失い情緒が不安定な場合は、本人の得意なことを生かして課題をやり遂げ自信を持たせる。 ・自己の再発見を促すために、興味関心のあることを学習の中心に据える。 ・生活態度や学習態度の改善を図る目的で、学習規律の徹底や規則正しい家庭生活への支援を行う。 ・担当教師は、受容的態度で接し、学校の中で一番安心できる人と場所の提供につとめる。 【３　人間関係の形成】 ・通級開始時は、担当教師と当該児童生徒の関係性を構築することを目的とし一対一の指導とする。 ・２名から３名の児童生徒を同時間に設定し、少人数でやりとりすることのより、人間関係の形成を図る。 【４　環境の把握】 ・特定の音韻の聞き取りや位置関係の認知が困難な場合は、一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫して指導する。 ・左右の概念の理解等の困難な場合は体験的な活動と一緒の言葉と関連付け、概念の形成を図る。 【５　身体の動き】 ・感覚統合訓練を行う。ビジュアルトレーニングなどを用いる。 【６　コミュニケーション】 ・文字や文章を読んで理解することに困難な場合は、聞いて理解する力を伸ばすことを中心に据え、その成果が見え本人が自信を持った時点で、苦手な部分の克服の提案をする。	○国語 ・文字や文章を読んで理解することに困難な児童の場合は、教師が読んで聞かせることで、心理的な不安を取り除く。 ・漢字の構成について、部首やつくりなどのカードを用い、ゲーム感覚で楽しみながら学習できるようにする。 ○算数（数学） ・計算機・かけ算九九表などの活用を取り入れ、苦手な計算よりも、数学的な考え方などに重心を置いた指導を行い、補助的手段の活用を自ら見つけ出せるようにする。 ・図形などの見分けが困難な場合には、色分けをするなどして、視覚的に見分け易いような教具の工夫をする。 ※自己肯定感が高まるように、「できる」学習に終始する。もちろん、苦手な学習課題も、当該児童生徒が学習したくなるような状況の設定をすることが大切である。
A D H D	【１　健康の保持】 ・気が散り行動に時間がかかり、整理整頓が身についていない場合がある。具体的指導としては、日課に即した生活で指導し、家庭等との密接な連携を行う。 【２　心理的な安定】 ・注意されたとき、反発して興奮を静められなくなる場合、落ち着ける場所への移動や深呼吸する方法など、自分に合った気持ちの静め方を自分自身で見つけられるように支援する。 ・失敗経験等で自信をなくし情緒が不安定な場合は、自分の良さに気付かせて自信が持てる活動を促す。 【３　人間関係の形成】	・本人の集中時間を考慮に入れ、４５分（５０分）の中に、何度か休み時間を入れたり、他の課題に移ったりするなどして、「集中できない」のではなく、時間を自分の特性に合わせて、うまく使えなかったことに気付かせる。 ○国語 ・漢字カード、言葉カードなど、デジタル教材などをフルに活用し、興味関心を高め、学習ができる「自分」を実感させ

	・状況にそぐわない行動で友達に受け入れられない場合、２，３人のグループ学習の中で、行動する前に周囲の状況を観察し、状況の理解を指導する。 ・自己に肯定的な感情をもてず自暴自棄になる場合、支援者は受容的態度に徹し、本人が好んで活動できる学習内容を取り入れ、成就感を味わえるように設定する。 ・説明を聞き漏らし、ルールを理解せず守ることができない場合、２，３人のグループでゲームをすることを通して、楽しむためにはルールが必要であることを実感させる。 【４　環境の把握】 ・認知面で、得意不得意を持っている場合、得意な分野を取り立てて指導し、不得意な部分は本人が自ら改善する意欲を見せたときに指導していく。 【５　身体の動き】 ・感覚統合訓練を行う。ビジュアルトレーニングなどを用いる。 ・座位や立位の姿勢が大きく崩れ、活動が継続できない場合は、姿勢を整えやすいように椅子や机などの環境を整え、うまくできたらすかさず褒めるようにする。 ・一連の作業において集中が続かない場合は、１０分～１５分程度の間隔で休み時間を設け、気分転換を図りながら、作業が円滑に行えるような態度を育てる。 【６　コミュニケーション】 ・言葉が乱暴な場合は、支援者が乱暴な言葉に反応しないように場の設定を工夫する。乱暴な言葉の中にわずかに普通の言葉を使えたときは、すかさず褒めて、周囲に受け入れられる言葉であることを知らせる。	る。 ○算数（数学） ・目先の変わったデジタル教材や教具を使って楽しく学習できるようにする。少しでも苦手意識があるものは避け、本人が一人でできるような課題から取り組ませ、ステップアップは本人の意思で決めるようにする。 ○社会 ・デジタル教材や新聞などをフルに活用し、社会の出来事に関心を持たせる。 ・市町村名、都道府県名など、これからの学習に大いに役立つ課題を中心に教え、自己肯定感を高める。 ○体育 ・本人が喜んで活動するような感覚統合訓練を取り入れ、いつでもすぐにできるようにさせる。

Ⅵ　学級経営について

１　基本的な考え方

学級は子どもたちにとって、学校における学習と生活の基盤となる場である。そこでの経験が一人一人の子どもの成長にさまざまな影響を与えている。学級経営に当たっては、子どもたちが毎日喜んで登校できるよう様々な配慮を行うことが大切である。特に、特別支援教育の対象となる子どもへ支援を行う場合、その子への支援の成否だけでなく、他の子どもたちの学習環境の保障にも関わってくる。１年間の見通しを持って学級をどのように経営するかは、学級担任に課せられたもっとも大きな課題である。

（１）学級経営とは

学級経営とは、学校経営の基本方針のもと、学級の教育目標の実現を目指して行われる教育活動の計画、実施、評価の過程や教育的諸条件の整備など学級担任がその効果的な運営と展開を図ることである。

（２）学級経営のねらい

① 学校教育目標の実現を目指し、担当する学級において育くもうとする児童生徒像を明確にし、学級指導目標及び学級指導目標実現のための具体的方策を立案する。

② 学級指導目標の実現を目指し、学校の各種教育計画に従って、学級指導計画，更に担当教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動自立活動の指導計画を立案する。

③ 児童生徒の心身の特徴について、各種表簿、観察、関係者の話等を通じて把握し、望ましい人間関係の中で、児童生徒の健全育成や学校生活の充実が図られるように心がける。

④ 児童生徒一人一人の学力の特徴や傾向，得意教科や不得意教科、つまずきなどの実態を十分に把握し、適切な指導に努める。

⑤ 教室の物的環境の整備と管理に努め、児童生徒が毎日の生活や学習活動をよりよい環境の中で行えるよう常に心がける。

⑥学級を経営する上での事務的な作業を行う。具体的には，学習評価，諸表簿作成などの事務処理を行う。
⑦　学級経営に関する保護者の理解を促すために，学級だよりの発行や懇談会，家庭訪問などを通じて，連携を深める。
⑧　特別支援教育の実践にあたっては校内の支援体制を整えておくことが大切であり、そのためには、校内委員会で、学校全体としての協力体制を確認し、具体的に体制づくりを行い共通理解を図る。
⑨　特別支援教育を意識した学級経営と言っても、授業の開始、終了時刻をきちんと守り、計画通りに授業を進める等、基盤となる部分は同じである。支援の必要な子にとって快適な学習環境は、他の子にとっても望ましい環境となる。

このように，学級経営とは，学習指導及び生活指導を総合し，学級内の人間関係の発展を促したり，学級の物的環境の管理及び整備を行ったりするなどの教育活動のことである。学級担任は，このような仕事を通して児意生徒の指導に当たる。

（3）学級経営の内容領域

①　学級経営の計画
　学級の教育目標の設定、学級経営計画の立案、学級組織の編成、学級経営の評価と改善
②　学習指導
　教科学習の効果的な運営、道徳・特別活動・総合的な学習の時間の効果的な運営
③　生徒指導
　児童生徒理解、生徒指導、教育相談、学級の雰囲気と人間関係、学級集団づくり
④　教室環境
　教室環境の整備、教室外の学習環境の設定
⑤　家庭との連携
　保護者、ＰＴＡ、地域との連携、保護者会、家庭訪問
⑥　学級事務
　諸表簿の記入と管理、備品の管理

（4）学級経営の進め方

子どもを１年間でどのように育てていくかという総合的な見通しを持った計画を立てて進める。とりわけ、目標や計画を立て（Ｐ）→実施し（Ｄ）→評価し（Ｃ）→改善・見通し（Ａ）を行うマネジメントサイクルを基本とした経営を行うことが大切である。

①　学級目標の設定

学級目標は、学校の教育目標をもとに個々の児童生徒の発達段階を踏まえ、学級の実態を考慮するとともに保護者の願い等を聞き入れて設定する。

②　学級経営案の作成

学級を経営していくことは、児童生徒の活動すべてにかかわることであるが、その基本方針としての学級経営案を作成するところから学級経営が始まる。

学級経営案は、担任が担当する学級の経営方針を明示したものである。一度作成したら変更なしではなく、児童生徒の状況に合わせた弾力的な経営案であることも必要である。
また、日常の経営実践を振り返り評価することにより、学級の足跡が刻まれる。

③　学級組織づくり

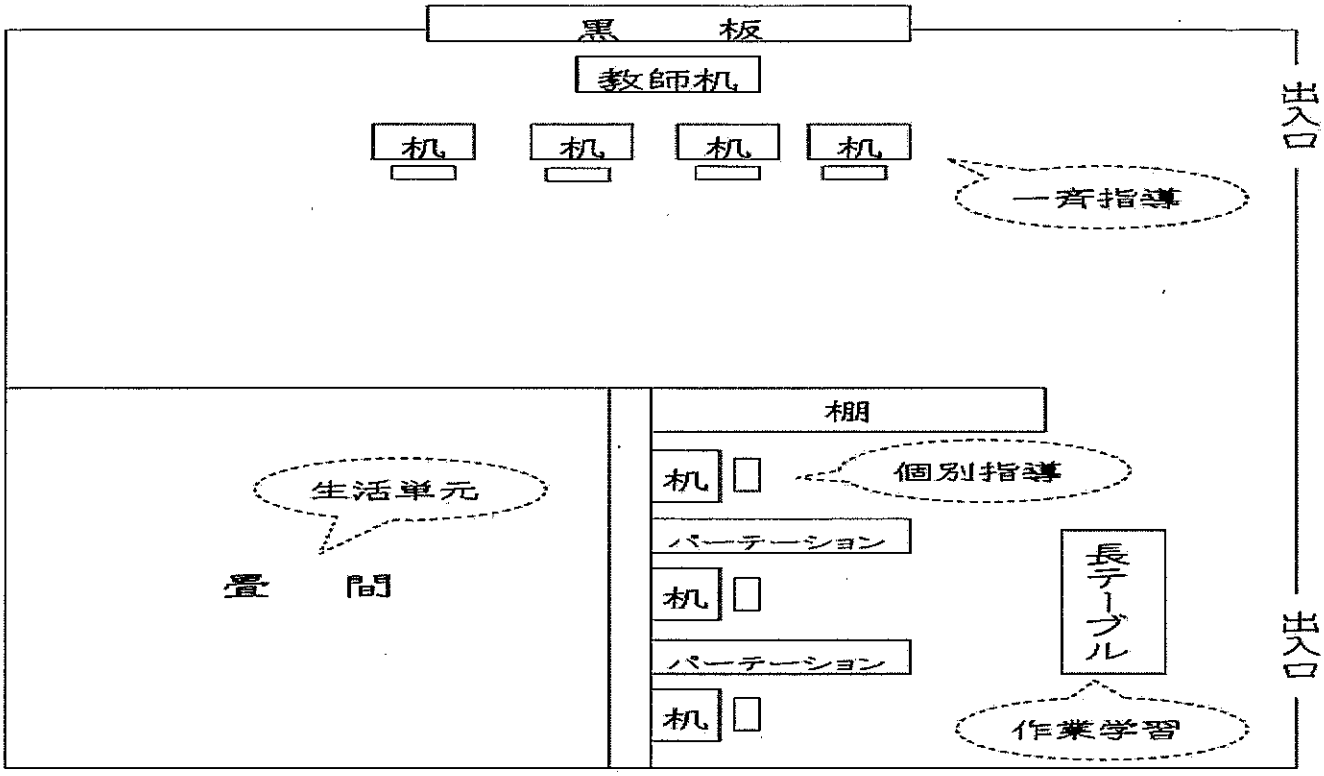
学級が集団として動くためには、学級を組織することから始まる。組織とは、集団内における役割分担であり、学級は組織活動によって生き生きとしてくる。毎日の生活を維持する上での仕事や集団の生活向上のための活動などを明確にしていくことが大切である。学級の組織を編成する際には、児童生徒相互の人間関係や要望など、教育的配慮も必要である。

・係活動	：学級を効率よくするための活動（黒板消し、配布係、健康観察、日直）
・班活動	：特別な行事のための活動（学習グループ、生活グループ）
・当番活動	：学級を運営するための活動（そうじ当番、給食当番）

④　教室環境の構造化

教室は、児童生徒にとって学校生活での基本となる場所である。児童生徒がさまざまな活動を楽しく自主的に取り組めるよう教室の構造化が必要である。「構造化」とは、児童生徒が学習活動や日常生活に見通しを持ち、心理的に安定した状況の中で、自ら主体的に学習活動に取り組むことや、学校生

活を送るための方法・手段である。
教師も、児童生徒にとって大切な環境の一つである。例えば、体育や作業の前は軽装になるとか、調理実習の前はエプロンを身に着けるなど、教師自らが見本を示すことも大切である。
（例）



⑤　学級経営の評価
学級経営の評価は、学級経営上の問題点を発見するとともに、改善の手立てを工夫し、よりよい実践への指導に生かし、「個別の指導計画」に反映させていく。

○いつ＜評価時期＞
評価者や評価対象に応じて適切な時期を計画的に設定する。（活動終了後、月末、学期末）
○だれが＜評価者＞
担任、他の教師、児童生徒、保護者など学級経営にかかわりの深い評価者を選び、評価に客観性や信頼性を持たせる。
○なにを＜評価対象＞
学級経営で行われる教育活動全般が対象となる。経営サイクルと一体となる。
○どのような方法＜評価方法＞
活動場面や状況に応じて、協議やアンケートなど、様々な方法が考えられる。その際、評価の回数や評価項目の数に配慮する。

（5）学級事務の内容
学級事務は、年度当初や年度末に特に多くなるが、正確かつ迅速に処理することが要求される。学級担任の事務の主たるものは次の通りである。

①　年度当初の事務内容
在籍児童生徒の確認、家庭環境調査と資料の収集、個人調査票の資料の収集
指導要録の作成整備、指導要録抄本の確認、出席簿の作成、健康診断票の整備
時間割の作成と確認、教科書・副読本の確認、教室環境整備（座席、靴箱、ロッカー、採光）
交流及び共同学習に関する計画・確認、個別の教育支援計画、個別の指導計画の引継・作成
②　定期的に行うもの
出席簿の整理統計、家庭訪問の計画実施、成績表・通知表の作成、施設設備の安全点検

個別の教育支援計画、個別の指導計画の見直し、学級だより発刊

③ 随時行うもの
健康診断事後処理、転出入等の手続き、備品管理、会計事務

④ 年度末に行うもの
指導要録の整理、成績一覧表、関連資料の整理、諸公簿の整理、進路指導事務
備品整理、諸会計の報告、次年度への引継事項の確認
個別の教育支援計画、個別の指導計画の引継（小学校から中学校へ、中学校から高等学校へ）

学級事務の年間の流れ一覧表

月	主な学校行事	学級事務内容	その他の行事・研修
4月	入学式・始業式 保健諸検査 歯科検査・内科検査	年度当初の事務内容 在籍児童生徒数の確認、家庭環境調査と資料の収集 個人調査票の資料の収集、指導要録抄本の確認 指導要録の作成整備、出席簿の作成 健康診断票、歯科検査票の整備、時間割の作成確認	・諸研究会 ・校内就学指導
5月	日曜授業参観・面談 家庭訪問 春の遠足	教科書・副読本の確認、 教室環境整備（座席、靴箱、ロッカー、採光） 個別の教育支援計画、指導計画の確認整理	
6月	平和学習 職場体験	定期的に行う 出席簿の整理統計、家庭訪問、面談の計画実施 成績表・通知票の準備作成、施設整備の安全点検 個別の教育支援計画、指導計画の見直し 学級だより発刊	・地区中体連総体 ・教育課程研究会 ・幼稚園児言語検査 ・県中体連総体 ・市町村就学指導開始
7月	宿泊学習、個人面談 校内陸上、終業式		
8月			
9月	始業式 避難訓練	随時行うもの 健康診断事後処理 転出入等の手続き 備品管理 会計事務	・地区陸上大会
１０月	運動会、童話大会 意見発表会 職場体験		・県陸上大会
１１月	文化祭、修学旅行 社会見学	定期的に行う 出席簿の整理統計、家庭訪問、面談の計画実施 成績表・通知票の準備作成、施設整備の安全点検 個別の教育支援計画、指導計画の見直し	・各地区教育課程研究発表会 ・志願前進路相談
１２月	進路相談 終業式		・高等特別支援学校入試手続き
1月	始業式、学芸会	年度末の行う 指導要録の整理、成績一覧表、諸公簿の整理 進路指導事務、通知票の準備作成、備品整備 諸会計の報告、次年度への引き継ぎ事項の確認整理 個別の教育支援計画、指導計画の整備・引き継ぎ	・高等特別支援学校選抜者学力検査 ・高等特別支援学校合格発表 ・県立学校入試願書受付
2月	入学説明会		
3月	卒業式、修了式		・県立高校学力検査 ・県立高校合格発表 ・県立高校２次募集願書受付

特別支援学級経営案（参考例）

特別支援学級（知的障害特別支援学級、自閉・情緒特別支援学級）における経営方針

1　特別支援学級設置の目的及び教育目標

日本国憲法では、「すべての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、等しく教育を受ける権利を有する」（第２６条）とあり、教育基本法４条には、「国及び地方公共団体は障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない」（第４条の２）とある。これを基底に、本校では様々な原因により、心身の障害のある児童に対し、よりよい環境を整え、特別な配慮のもとに適切な教育を行い、その能力を最大限に伸ばし、本校の学校教育目標の達成をめざす。

2　学級設置及び運営上の方針

（1）校務分掌組織の中に特別支援教育の位置づけを明確にするとともに、通常学級担任との交流協力関係を密にする。

（2）通常学級、特別支援学級児童相互の関係性を形成するため、相互の効果的な交流を推進する。

（3）在籍児童個々の理解に努め、それぞれの発達の程度や教育的ニーズに応じた教育が効果的に行えるように努める。

（4）一人一人の児童の教育支援計画（個別の指導計画も含む）の確立、それを基底とした教育内容や指導方法の工夫、改善、充実に努める。

（5）学級経営の充実を図り、児童一人一人がのびのびと活動し、意欲と活気に満ちた学級作りに努める。

（6）保護者及び地域の人々や教育関係機関等との連携を図りながら、家庭・地域・教育関係機関及び児童施設等において、児童の発達に応じた適切で一貫した教育的対応が図れるように努める。

3　学級設置及び教育課程

心身に障害のある児童は、その障害に伴う教育的ニーズに応えていくための教育を行わなければならない。そこで、学校教育においては、その児童一人一人の能力を最大限に発揮させるための特別な教育計画が必要であり、綿密に準備されなければならない。

本校では、知的発達に遅れのある児童を対象とする知的障害特別支援学級（○○クラス）と、自閉症、高機能自閉症、情緒障害児を対象とする自閉・情緒障害特別支援学級（○○クラス）が設置されている。

これら、特別支援学級においては、特に必要がある場合には、特別の教育課程を編成することができる。その場合、特別支援学校の学習指導要領を参考として個々の児童のニーズに合わせた教育課程を編成することができる。

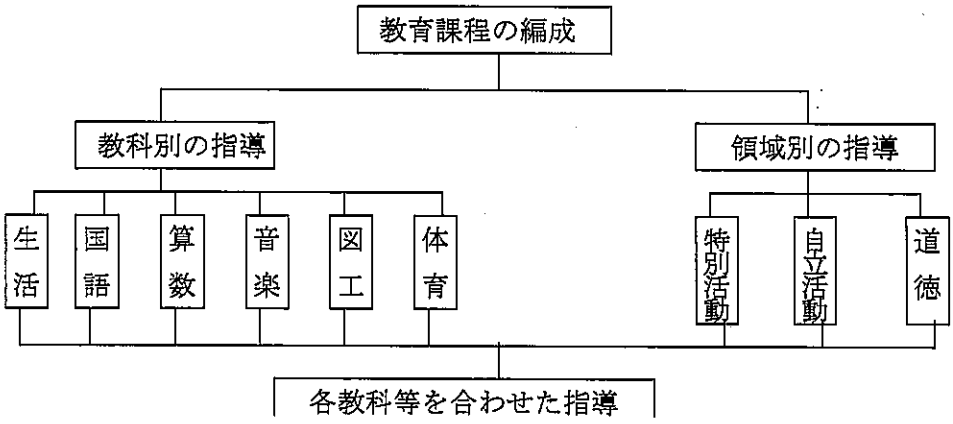
4　教育課程

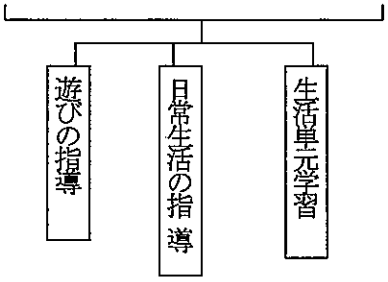
（1）教育課程編成の方針

①小学校学習指導要領及び特別支援学校小学部学習指導要領をもとに、教科別領域別の指導の他に、各教科等を合わせた指導を取り入れ、調和のとれた人間の育成を目指し、児童の障害特性や発達段階、地域や学校の実態を十分に考慮して教育課程を編成する。

②障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、心身の調和的発達の基盤を培う「自立活動」の指導を重視する。

（2）教育課程の構造図





※教科別の指導では、厳しい場合、個々の児童のニーズに応じて各教科等を合わせた指導（遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習）の中で合科的に編成し指導を行うことができる

（3） 指導形態・学習指導は、児童の発達段階及び学習の内容に応じて、個別指導、グループ指導、一斉指導を行う。必要に応じて、○○クラスと○○クラスが合同で行う。
（4）使用教科書検定教科書、文部科学省選定一般図書、「ゆっくり学ぶこのための国語・算数」その他

平成○○年度特別支援学級入級児童名簿一覧

平成○○年４月１日現在

（知的障害学級）

学年	児　童　名	学　級　名	児　童　の　実　態
２年	○○　○○	支援学級在籍 知的障害	【主訴】衝動性 【学習面】学習に向かう態度にむらがある。気に入った課題であれば集中して活動することができる。 【生活面】他学年とのトラブルが多い。些細なことですぐけんかになる。
４年	○○　○○	支援学級在籍 知的障害	【主訴】知的障害・構音障害 【学習面】ひらがなの五十音はほとんど読める。本時にあった学習があれば４５分間集中して活動することができる。 【生活面】排泄は自立しつつある。構音障害があるため発音が不明瞭で、相手に伝わらないことがあるが、何度も言い直し根気よく伝えようとする。
５年	○○　○○	支援学級在籍 知的障害	【主訴】知的障害 【学習面】意欲的に学習することができる。 【生活面】おおらかで、明るい。当番活動などまじめに活動する。
６年	○○　○○	支援学級在籍 知的障害	【主訴 】学習の遅れ。 【学習面】知的障害児のための教育課程を組み、本児童に合わせた学習を行うことで、学習に対し積極的になってきた。 【生活面】吃音がある。自分の思いを上手く伝えられない。

（情緒障害学級）

学年	児　童　名	学　級　名	児　童　の　実　態
２年	○○　○○	支援学級在籍 自閉・情緒障害	【主訴】 学習の遅れ。落ち着かない。ルールを守って遊べない。 【学習面】 数概念、基本的な文の理解が不十分である。 【生活面】 衝動性があり、着席行動が難しい。
５年	○○　○○	支援学級在籍	【主訴】同じ年頃の子よりも、教師や年下の子と関わることを好む。 【学習面】知的障害の子どものための教育課程を実施し、集中

		自閉・情緒障害	して学習している。 【生活面】自分の考えを言うことがなかなかできず、黙ってみんなに合わせることが多い。
6年	○○　○○	支援学級在籍 自閉・情緒障害	【主訴】音に対して過敏性があり、大勢の中で長時間過ごすことが苦手である。 【学習面】当該学年の学習内容を履修することができるが、自閉症児の特性をよく理解した指導でなければ伝わらない部分がある。 【生活面】活動に対する意欲にムラがある。

協力学級との確認事項

1　交流の方法

（1）給食・清掃は支援学級で行う。（７日～）

（2）教科の交流は、児童一人一人のニーズに応じて決めていく。教科によっては、単元毎の交流を進めていく。

2　個別の交流計画一覧表

	学年	性別	名　前	交　流　内　容
	1年	男		入学式参加。１１日以降は支援学級。学校行事の交流。
	2年	男		７日は協力学級。８日以降は音・体・学の交流。
	3年	男		７日は協力学級。８日以降はプール・学の交流。
	3年	女		７・８日は協力学級。１１日以降は音・体の交流。
	4年	男		７日は協力学級。８日以降は音・体・学の交流
	5年	男		７日は協力学級。８日以降は音・体・英・学の交流。
	5年	女		７・８日は協力学級。１１日以降は理・社・音・体・英・クラブ・学の交流。
	6年	男		７日は協力学級。　８日以降は音・体・英・学の交流。
	6年	男		７・８日は協力学級。１１日以降は理・社・音・体・英・クラブ・総合の交流。

3　協力学級担任にお願いしたいこと

①家庭訪問（支援学級の担任と一緒に）

②開級式への出席

③週案のコピー

④交流教科の評価と所見

＊よい子のあゆみへの記入は支援学級担任が行う。

⑤学年便り・学級だより・遠足のしおり等の配布物は支援学級担任の机へ

4　その他

①図書館便り等、児童全体に向けての文章の配布は支援学級で行う。

②教材費、バス代などは支援学級で注文・徴収します。

＊支援学級在籍の子は通常（協力・交流）学級の出席簿に入れなくてよい。

5　交流教育計画

（1）　交流教育の意義

①特別支援学級の児童

生活経験を広め、豊かで優れた学習刺激の中で、能力を育む機会となる。

②通常学級の児童にとっては

特別支援学級の児童とともに活動することを通して、障害のある児童に対する理解を深めたり，思いやりの気持ちや自らの生き方を考えたりするなど、豊かな心を育てるきっかけとなる。

③指導に当たる教師にとっては、
一人一人の児童に応じた教育のあり方とその大切さを知る機会となる。また、担任間で協力し合って指導に当たることにより指導の効果が現れる。

（2） 方　針
①交流学級の担任や児童との相互の好ましい人間関係を育てる機会とする。
②障害の状態や発達段階に応じて、通常学級の児童とともに学習させ、生活経験や対人関係の拡大を図る。

（3） 交流の場
①交流の場として、次にあげられる物が考えられるが、児童一人一人の能力に応じて交流学習の場を広げ、児童が無理なく参加できるよう、配慮する。
②学校行事：始業式、入学式、終業式、終了式、遠足、運動会、学芸会、社会見学、修学旅行、宿泊学習、卒業式、
③特別活動：クラブ、委員会、児童会、朝会など
④教科：国語・算数（高機能自閉症児）、ほとんどの教科を支援学級で行う（知的障害及び自閉症）
⑤その他：休み時間、お招き会などを活かした交流。

（4）他校との交流学習
①○○市○○学校校区小中特別支援学級担任連絡会を行い、○校での合同学習に取り組む。
②近隣市町村小中学校特別支援学級との合同学習に取り組む。

知的障害特別支援学級経営案（参考例）

担任氏名（○○　○○）

1　知的障害特別支援学級の教育目標
児童の障害の程度及び発達にそった指導内容、方法を工夫し、日常生活に必要な基礎的・基本的な内容の指導に努めるとともに、集団の一員として望ましい態度の育成及び体力の向上に努める。

2　学級目標
◎協力する子　◎かしこい子　◎たくましい子　◎やさしい子

3　指導の重点および経営方針
① 身辺処理の能力や社会性を育てる
・自分のことはできるだけ自分でするように声かけをしながら、特に難しいところは邪魔にならないように手伝う。
・健康増進や情緒の安定を図り、集団参加への態度や社会性の発達を促すための学習活動を行う。また、その活動のための環境作りに努める。
② 学ぶ意欲を育てる
・日常生活に必要な話し言葉や書き言葉の獲得と数量概念の発達を促す。
・与えられた課題に取り組み、最後までやり遂げる態度を育てる。
・自然や社会に対する認識や豊かな情操を育むよう配慮する。
③ 生活に根ざした具体的な経験や実際的な活動を重視した教育課程の編成を工夫する。
・個々の能力に応じた教材教具の活用により、基礎学力の定着に努める。
・自立に必要な教育内容を編成して、生活科、総合的な学習の時間、自立活動を通して、知識、技能、態度を養成しながら、協調性や忍耐力の育成に努める。
・対人関係の形成が図れるよう、指導内容や方法を具体化していく。
・社会性や望ましい対人関係を育む上で、子どもの特性を生かせる内容において交流教育を実施する。
④個別の指導計画に基づき、日々の実践の中で、子どもの特性を生かせる内容において交流教育を実施する。
⑤担任と家庭との連携を密にし、学校と家庭との指導の一貫性を図るようにする。

自閉・情緒特別支援学級経営案（参考例１）

担任氏名（○○　○○）

1　教育目標

一人一人の特性に応じて、適切な指導を行い、障害の克服及び改善と健やかな身体が保たれるよう配慮し、学校生活や日常生活に適応する能力を育てることを目標とする。

2　学級目標

◎協力する子　◎かしこい子　◎たくましい子　◎ やさしい子

3　指導の重点及び経営方針

①児童の情緒の安定を最優先し、学級が安心できる場所となるよう人的・環境的な配慮に努める。
②支援学級担任や支援学級児童同士の関係性の深まりをめざす。
③生活を豊かにするために、興味関心が広がるようサポートする。
④生活経験の幅を広げ、状況に応じて落ち着いて行動できるようにする。
⑤生活に根ざした具体的な経験や実際的な活動を重視した教育課程の編成を工夫する。
・時間割をモジュールで設定し、日々の生活に見通しを持つことができるようにする。
・社会性や対人関係性を育む上で、子どもの特性を生かせる内容において交流教育を実施する。
・教科・領域等の学習においても、児童の自主性を育てることを最大のめあてとし、そのことを中心に内容や方法を決定していく。
⑥個別の指導計画に基づき、日々の実践の中で随時評価し見直しを図っていく。
・実態把握のために、心理検査、行動観察、父母からの聞き取り（乳幼児期）を行い、支援に活用できるようにする。
⑦保護者との連携を密にし、支援の内容や方法が学校と家庭で統一されるように努める。
⑧ 関係諸機関との連携を図る。

特別支援学級（自閉・情緒）学級経営案（参考例２）

担任氏名：○○　○○

1　学校の教育目標

○　大志を抱き、勤勉で自主的に学習する生徒（大志）
○　豊かな人間性をもち、ふるさとを愛する生徒（豊かな心）
○　心身ともに健康で、忍耐力のある生徒（健康）

2　本年度の重点目標

(1)　学習意欲の向上により、確かな学力の定着と伸長を図る。
(2)　全学年を通してキャリア教育の視点に立った進路指導を充実させる。
(3)　確固たる規範意識と自己指導力を育成すると共に、心に響き、心を耕す道徳教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。
(4)　生徒の自主活動を活性化させる。
(5)　保護者・地域との連携を強化する。

3　学年教育目標

（1）正しい学習規律を身につけ、進んで学習する生徒
（2）思いやりや感謝の心を持って行動できる生徒
（3）自分の体調管理に責任を持ち、根気よく目標を達成する生徒

4　学級目標

○一生懸命勉強する生徒
○思いやりのある心優しい生徒
○忍耐強く働く生徒

5　学級の実態

○　生徒数・・・男子（　○　）名、女子（　○　）名、　合計（　○　）名

	よ　い　点	今後改善したい点
学習面	・授業の準備が自分でできる。 ・与えられた課題はきちんとできる。 ・よく本を読む。	・集中して、根気強く学習する。 ・自分の気持ちを言葉で表現する。 ・家庭学習を欠かさず行う。 ・指示を聞く。
生活面	・明るく元気である。 ・毎日、朝の清掃活動を行う。（早登校） ・級友と仲良くできる。	・丁寧な言葉づかいをする。 ・すすんであいさつをする。 ・身なりを整える。

6　学級経営方針

（1）全職員の共通理解のもと、特別支援学級の生徒の指導にあたる。
（2）協力学級や地区特別支援学級との交流を持ち、集団に適応する力をつける。
（3）学級通信や連絡帳を通して、生徒の様子を保護者に知らせる。
（4）毎朝の清掃活動を継続して行い、忍耐力をつける。
（5）生活単元学習や体験学習を通して、自立活動ができるようにする。

通級指導教室経営案（参考例１）

担任氏名（OO　OO）

平成５年に通級指導教室が特別支援教育の場として新しく制度化された教育の形態である。通常学級に在籍している児童・生徒が決められた時間、曜日に定期的に通級指導教室における指導・支援（学習指導要領では「自立活動 」及び場合によっては「教科の補充 」もある）を受けることにより，通常の学級における学習や生活・行動面での適応力の向上を目指していくものである。
※ 「自立活動」については，（別紙参照Ｐ１９～）

1　多様化する入級児童・生徒の広がり

平成１８年度の学校教育法施行規則の一部改正により，「言語障害者，情緒障害者（自閉症．選択性かん黙等），弱視者．難聴者，その他心身に障害がある者で，特別の教育課程による教育を行うことが適当な者」に加え「ＬＤ・ＡＤＨＤ」 が新たに通級指導の対象となった。また，通級指導の週あたりの時間が最大は週 8 時間までであるが，月１回程度の通級も認められるようになった。

これらの法律の改正や，特別支援教育の考え方の浸透によって個別的な支援を受ける事への抵抗感が減ってきた等の影響から，通常の学級の児童・生徒で通級指導教室を利用する者の数は増加している。

2　入級から退級までの手順

（1）入級の基準

文部科学省からの通知（平成１７年１１７８号）の中の留意事項として，「校内委員会（特別支援委員会）において，その必要性を検討すること」と明記されている。また，通級に指導の対象とするか否かの判断に当たっては、「医学的な診断の有無のみにとらわれることの無いよう留意し，総合的な見地から判断すること」と記されている。

このことにより，自閉症、ＬＤ、ＡＤＨＤの診断がなされていない児童・生徒についても，これらの障害の特徴に類似する特徴が家庭や学校における日常生活において見られる場合には，通級指導の必要性も検討するようになった。

（2）入級相談の流れ

ア）特別支援委員会
イ）保護者との面談（担任，コーディネーター）
ウ）実態把握（保護者からの情報，関係機関からの情報，スクールカウンセラーの所見、学習・行動・生活の様子、知能検査の実施、学習のチェックリスト等）
エ）保護者、在籍校の校長及び担任、通級指導教室設置校校長及び通級担任は、通級の目的・時期・評価方法等について，インフオームドコンセントを行う。

オ）入級

（3）退級について

退級についても，保護者，在籍校校長及び担任、通級指導教室設置校校長及び通級担任の三者が話し合い、一定の成果を得ることができたことがある場合に退級とする。この場合、入級の際に、どの程度改善されたり、どのような力が向上したりした場合に退級とするかということも話し合い、その評価の指標を明確にしておく必要がある。

（4）「校内通級」「他校通級」

○○小学校の児童は「校内通級」となり，通級する児童は，同一校内の２つの場所で学習する。「他校通級」は，児童の在籍校に通級指導教室が設置されていない場合に行われる。通級する児童は、２つの学校で学習する。

諸事情により他校から通ってくることができない児童のニーズに応えるため，通級担任がその児童の学校へ出向いて授業を行う場合もある。（各市町村教育委員会との確認が必要である。）

3　通級指導教室での指導について

【対　象】通常学級に在籍し．知的発達に遅れがない児童で，行動や学習面で困難さを抱えている児童。

【指導形態】個別または小集団での指導

【指導時間】月１回～週８回まで児童の状態によって異なる。
在籍学級では、国語の時間としてカウントするのが妥当であるが、授業の進路上、書写や道徳の時間をカウントする場合もあり，特に決まっていない。

【指導期間】個々の児童によって異なる。入級及び退級については，当該市町村の教育委員会にその都度報告する。

【指導内容】児童の実態により「自立活動」の指導内容に基づいて指導を行う。また，必要に応じて教科の補充指導も行う。

4　通級指導にあたってのきまり

【保護者の付き添いについて】（他校通級の場合は、往復時間も含む）
通級における指導では、通級児童の安全面および指導の効果等の理由により保護者の付き添いをお願いする。

【出席簿の取り扱いについて】
通級に伴う時間の在籍校での出席簿の取り扱いは、教育委員会の了解の下に欠時ではなく，出席となる。（他校通級の場合は，往復時間も含む ）

Ⅶ　授業の工夫・改善について

教師の最も重要な資質・能力に「授業力」があり、授業力こそが教師の専門性の土台となる。授業力を高めるには、授業研究による指導内容・方法等の工夫・改善を繰り返し、その成果を蓄積していくことが大切である。

1　学習指導案の意義

○学習指導案の作成と活用によって

・教師の資質、能力が向上する。
・計画的な指導、支援を行うことで、着実な児童生徒の成長が期待できる。
・指導案に基づく評価により、指導内容・方法の改善を効率的に行うことができる。
・教師間で授業について語り合う場を確保することで、教師相互の資質、能力の向上とともに、多面的な指導ができる。
・支援等についての評価、改善ができる。

一人一人の児童生徒への指導・支援の明確化、保護者や地域住民等の学校関係者への説明 児童生徒への指導・支援の引継ぎと全校的な対応、教師組織の問題解決力の向上

2　学習指導案の作成と活用による授業改善

学習指導案は「個別の指導計画」をもとに作成する。

（1）実態把握

・個別の教育支援計画及び個別の指導計画、諸心理検査

・児童生徒の発達のバランス、優れている部分、つまずいている部分

・将来的にめざす姿（児童生徒、保護者、教師のねがい）

・児童生徒の興味関心

（2）目標設定

・具体的な目標　　・系統的な（次につながる）目標

・評価可能な目標

（3）指導内容・方法の検討

P Plan 計画

・児童生徒の実態に応じた内容・方法・児童生徒の生活に根ざした内容

・他の領域・教科と関連付けた内容

・スモールステップ化した内容と方法・適正な教具と活用

・指導形態（一斉指導と個別指導の組み合わせ、ＴＴ等の方法）

・実態に応じた働きかけ方（支援）と学習環境の整理

D Do 実践

C Check 評価

【児童生徒に対する評価観点】

「関心・意欲・態度」「知識・理解」「技能・表現」

「思考・判断」等

【教員（指導者側）に対する評価視点】

①　単元構成について

・単元目標と本時の目標のつながり・目標の妥当性と具体性

・単元内の本時の位置づけ

②　指導内容について

・指導内容の妥当性や分量

③　指導の進め方について

・効果的な導入（学習の動機付け）　・指示や発問の工夫

・テンポ良く、めりはりのある授業の展開　・教材、教具や機器等の効果的な活用

・具体的で多様な一人一人の児童生徒への配慮　・個人と集団の活動の工夫

・児童生徒の言動を意味付け、価値付ける評価の工夫

A Action 改善

＜期待できる改善の効果＞

・指導案作成の力量の向上

・児童生徒の新たな実態の発見

・教材への理解の深まり

・実態に応じた指導力の向上

・教師間の連携、共通理解の促進

・他の授業への一般化

3　学習指導案の例

特別支援教育の学習指導案には、一人ひとりの児童生徒の実態に即した、個々の目標、活動及び教師の支援等を明記することが大切である。

○○○○○ 学習指導案

・立案者が分かるようにする。
・一人ひとりの児童生徒に応じた指導・支援を行う際、複数の指導者がいる場合には、どの指導者がどの児童生徒を指導・支援するかを記号（Ｔ１、Ｔ２）で示す。

日時　○年○月○日　○校時
対象　○○○○学級
指導者　○○○○　（Ｔ１）
　　○○○○　（Ｔ２）

1　単元（題材）名

・活動がイメージしやすい表現を工夫する（ひと目で何をするのかが分かるように記述する）。
（例）・ジャングルを探検しよう（サーキット運動）　・○○さんを発表会に招待しよう（手紙）
・玉とり遊び（数の概念）　・あてっこしよう（形の弁別）

2　単元（題材）の目標

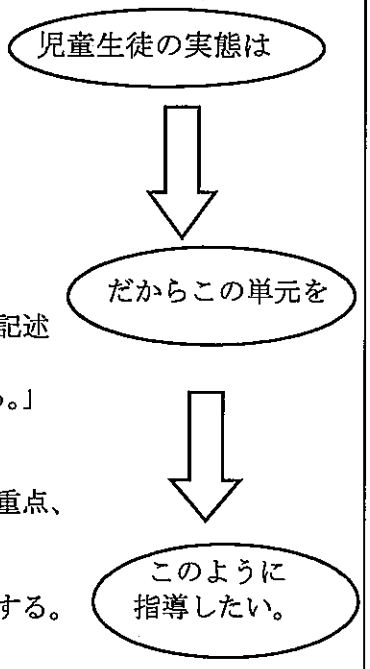
・単元の中心となる活動を通して、何をめざすのか、児童生徒につけたい力を具体的、簡潔に表現する。
・「…（中心となる学習活動）をとおして、…（学習内容・方法の獲得）をすることができる。」等の表現で記述するよう心がける。
（例）・興味・関心を高め、意欲・態度を育てる視点
「発表会の準備をとおして、みんなで協力し、一つのことに取り組もうとする態度を育てる。」
「ボウリング遊びをとおして、ピンを数え、得点を加えるなどの数量的な活動に関心をもつ。」
・経験させ、慣れ親しませる視点
「カレンダー作りをとおして、配色やレイアウト等の多様な表現の方法を経験する。」
「歓迎会に向けての調理活動をとおして、自分で考えた献立を作って食べる楽しさを味わう。」
・特定の学習内容・方法を獲得させる視点
「玉とり遊びをとおして、一対一対応で、多い少ないが分かり、比較することができる。」
「校外学習の思い出をまとめる活動をとおして、適切な助詞を用いて文をつくることができる。」

3　単元（題材）設定の理由

（1）児童生徒観
・単元に対する学級全体の認識や学習経験などを記述する。
・単元に対する興味・関心、これまでに学習してきた内容及び変容等

（2）教材（題材）観
・単元の意義（選定理由）や単元におけるねらいを明確にする。
・単元に対する考え方や単元で主に扱う教材の価値を述べる。
・教材を学習することにより期待される効果、指導仮説（教師の思い）を記述する。
「○○を学習することにより、××（期待する児童生徒の姿）になる。」

（3）指導観
○児童生徒観、教材観との関連から、有効な指導の在り方を考え‘指導の重点、指導上の留意点や工夫などを明確にする。
○単元全体の流れや特色ある活動、指導の重点を記述する。
○指導上の留意点や教師の対応の工夫、指導形態、学習環境について記述する。
※この部分は主に、教師に視点をあてた授業評価につながる。



4　単元（題材）計画
・総時数と単元における本時の位置づけを明記する。
・本時の授業と前後の授業との関連、本単元以降の学習とのつながりを意識して記述する。

〈単元計画例〉

次	時数	主眼及び学習活動	教師の手立て・教材教具
1	1	新聞の見出し、記事・写真を眺めて、新聞に親しもう。	自宅の新聞を利用する。
2	1	新聞にはどんなことが載っているか、確認しよう。	新聞の興味のある部分を利用。
3	1	新聞作りについての計画をたてよう。	役割分担、予定の確認をする。
4	1	エチケットについて学ぼう。	インターネットを利用する。
	1	自分の好きなものについて調べよう。	インターネットを利用する。
5	1	デジカメの取り入れ方	パソコン、デジカメを利用する。
	1	調べたことを記事にまとめよう。（本時 1/2）	パソコン、デジカメを利用する。
6	1	先生や友達にインタビューをし、記事にまとめよう。	人と話すマナーを確認する。
7	1	新聞を仕上げよう。	事前の記事や写真をレイアウト。
	1	新聞を仕上げよう。	５Ｗ１Ｈに気をつけて記事を書く。
8	1	仕上げた新聞を発表しよう。届けよう。	新聞の役割にも触れる。

5　本時の学習
（1）題材名
（2）本時の主眼及び個人目標
・「全体の目標」と「個人の目標」を記述する（現実的で具体的な表現を心がける）。
・上位の目標との関連を考えて記述する。

〈目標の例〉

児童生徒	本単元に関する児童生徒の実態	本時の目標	評　価
Ａさん			
Ｂさん			

（3）教室の構造図
・本時の学習活動に必要な教材・教具等を記述する。
・児童生徒や教師の位置、教材教具の位置、環境整備の工夫等がひと目で分かるようにする。

（4）本時の展開
・授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記述する（必要に応じて児童生徒で欄を分ける）
・学習課題・課題達成のための支援（教材・教具の利用、環境設定等）
・児童生徒の学習の様子（予想される児童生徒の活動）・評価の観点（課題達成の状況）等
・TT の場合は、各教師の役割や児童生徒へのかかわり方を記述する。
・支援の方法や教師の対応を具体的に記述する

〈本時の展開例〉
単元名「体験したことを伝え合おう」

	学習内容・活動	教師の支援・援助	教材・教具
導	1　はじめのあいさつ（級長） 2　学習のめあて、内容について 3　諸注意を聞く 4　ウォーミングアップ ①　口のストレッチ	**進行はＴ１** ○本時のめあてを提示し、学習内容を明確にする。 ○話す人、聞く人、質問する人のマナーを聞く。	・カード ・絵カード ・しつもんおたすけカード

入 7 分	あえいうえおあお・・・ ② 肩、首のストレッチ 校歌１，２番は歌う 校歌３，４番は肩たたき ③ ことばあそび	○「しつもん　おたすけカード」活用の仕方を確認する。 ○楽しい雰囲気でウォーミングアップができるようにする。 ○ことばのでてこない生徒には教える。**（Ｔ２，ヘルパー）**	・ｶｾｯﾄﾃﾞｯｷ ・絵カード
展 開 33 分	5　体験したことを伝え合おう ① 琉球漆器体験の発表 ３年生 ・発表を聞いての感想を述べあう。 ② 農業体験学習の発表 １年生 ・発表を聞いて、質問を受けて答える。 ③ 職場体験学習の発表 ２年生 ・発表を聞いて、質問を受けて答える。	○まとめた内容をわかりやすく、適切な方法で発表できるように援助する。 ○感じたことや考えたことを聞く人の心に訴えるような発表になるように援助する。 ○発表以外の生徒には、各学年の発表を集中して聞き、良かった点、工夫した点、改善すべき点などを、アドバイスできるように援助する。 ○質問や感想がでてこない場合は「おたすけカード」の活用を教える。 **（Ｔ２、ヘルパー）** ○相手の方を見て、聞いたり、話したりしているか、観察する。 **（Ｔ１、Ｔ２、ヘルパー）** ○努力を要する生徒へは「しつもんおたすけカード」を見ながら一緒に考える。**（Ｔ２、ヘルパー）**	＊パソコン操作は生徒、補助は**Ｔ２** ・パソコン ・マイク ・パソコン ・絵カード ・マイク ・絵カード ・マイク ・ビデオ ・作業所で作った商品
まとめ 10 分	6　ふりかえりシートの記入 7　感想を発表 8　講評を聞く（**Ｔ１、Ｔ２**） 9　おわりのあいさつ（副級長）	○発表を終えて、自分を振り返らせる。努力を要する生徒には、一緒に考えてあげる。**（Ｔ２、ヘルパー）** ○生徒１人１人の素直な気持ちが表現できるように援助する ○講評では、みんなが頑張ったことをほめてあげる。	・ふりかえりシート

（５）板書計画
・本時のめあてや板書事項を記述する。

（６）評価
・児童生徒の具体的な姿に基づく評価にする。
・教師自身の評価（発問は適切だったか、教材教具の提示は適切だったか、児童生徒の発言を受け止めていたか等具体的に書く。）

４　教材・教具の開発と活用

学習意欲を高め、効果的な授業を行う上で、教材・教具の活用は重要な役割をもっている。児童生徒の興味や実態を的確に把握した上で、その児童生徒にとって最も有効な教材・教具を選択したり、開発したりする必要がある。

○教材・教具の開発のポイント

◆児童生徒の興味・関心に基づき、学習意欲を高めるものか。
・学習者が使用して学習した結果を自分で確認できる教材か。
◆児童生徒の発達や障害の状態に応じたものか。
・どのような操作が可能か、どのような考え方をするかなど、細かな実態に基づいた教材か。
◆指導のねらいに沿っているか。
・理解していることやできることに基づいて立てられた目標の達成に必要な教材か。
・段階的に指導できるようステップを設けたり、ヒントを加えたりしている教材か。
◆操作が容易で、単純で具体的なものか。
◆繰り返し使い、利用度の高いものか。
◆安全性が高いものか。
◆保管・整理がしやすいものか。

教員は教材・教具の整備に努めるとともに、それぞれの教材・教具に親しむだけでなく、その改善や開発のために、絶えず研究することが必要である。
開発した教材・教具の使用目的や使用方法、所在場所等を記載したカードを作成したり，教材・教具の一覧を校内 LAN 上で閲覧できるようにしたりして、共有化を図ることがのぞましい。

5　ティーム・ティーチングについて

ティーム・ティーチングは、特別支援学級（知的、自閉・情緒、言語学級）が複数ある場合に有効である。
ティーム・ティーチングとは、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことである。ティームの教員一人一人の特性を最大限に生かした体制であり、単に同じ場所に複数の教員が配置されているということではない。それぞれの教員が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態である。
ティーム・ティーチングの効果は、教員間の関係性に大きくゆだねられている。授業においては、チーフとなる教員が授業をリードし、サブとなる教師がチーフの指導を補充するなどの役割を担うことが必要である。授業を行う前に、それぞれの教員が児童生徒にどのような働きかけをするのかなど、役割を分担し、お互いに確認しておく。

○ティーム・ティーチングの利点
・多くの視点から児童生徒の実態が把握できる。
・一人一人の教員の専門性や特性を生かし創造的な授業を実施できる。
・多様な学習グループが編成でき、一人一人の児童生徒の実態に応じた指導が可能となる。

Ⅷ　保護者との連携について

学級経営や学習活動を充実させるためには、保護者との連携が必要である。そのためには、定期的な面談で保護者と情報交換を行い、児童生徒のニーズや関連情報の把握をする必要がある。そこで得た情報や保護者の思いを、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」に反映させることが大切である。また、毎日の連絡帳（お便り）で児童生徒の良いところや課題などを取り上げ、保護者と共に考えていく体制作りも大切である。

1　保護者と教員の連携の場と方法

（1）　連絡帳
・毎日の学校の様子と家庭生活の様子を、お互いが連絡し合うことを目的とする。
・学校からは指導内容の概要、児童生徒の様子、健康面、連絡、依頼等を伝える。
・家庭からは、健康状態、下校後の様子、学習の準備、質問事項、諸連絡等を伝える。

（2）　学級通信
定期的に発行したり、状況に応じて発行する。行事予定や講演会等の情報、学習の様子を写真入りで載せたり、児童生徒作文を掲載したりする。また、保護者の声や担任の思いを載せる。児童生徒の様子は、向上した点やよい面を中心に伝える。

（3）　授業参観で
・年間にわたり、保護者が様々な授業を見ることができるよう、計画的に実施するように心がける。
・授業前に、ねらいや学習内容を知らせておくと、保護者が授業を見る視点にもなる。

（4）　学校行事・学年行事・学級行事で
親子活動を企画実施することで、学校では見られない児童生徒の姿を発見することがある。

（5）　学級懇談会・保護者会で
・担任から学級経営方針、諸行事の計画、日頃の学校生活の様子等を伝える。担任からの一方的な話にならないよう心がける。話し合う内容を事前に知らせ、意見をまとめておいてもらうとよい。
・児童生徒の普段の作品や教材等を教室に展示しておくことによって児童生徒の様子がよく伝わる。

（6）　家庭訪問で
・家庭での児童生徒の様子を見ながら、学校での指導や家庭での子育てについて保護者と話し合うことは、信頼関係を築く上で有効である。

（7）　勉強会で
・保護者が抱えている悩みや不安等を話し合ったり、子育ての手がかりを得て、互いに学び合い、励まし合ったりすることができる関係を築いていく。
・先輩の保護者の体験談を聞くことで、将来の見通しをもつ。

Ⅸ　自閉症・情緒学級教育課程　＜小学校参考例＞

自閉症・情緒障害学級
　自閉症・情緒障害学級は、自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもの、主として心理的な要因による選択制緘黙等があるもので、社会生活への適応が困難である児童を指導の対象とする。

1　自閉症・情緒障害学級教育方針

（1）　自閉症・情緒障害学級の教育目標
　一人ひとりの特性に応じて適切な指導を施し、情緒の安定と健やかな身体が保たれるよう配慮し、学校生活や日常生活に適応する能力を育てることを目標とする。

（2）　学級目標
　　◎元気な子
　　◎がんばる子
　　◎やりとりのできる子

（3）　指導の重点及び経営方針
①　児童の情緒の安定を最優先し、学級が安心できる場所となるよう人的・環境的な配慮に努める。
②　児童の発達段階に即したコミュニケーション手段を獲得させ、生活の場で生かすことができるようにする。
　・教師の話をきいたり、自分の気持ちを適切に表出したりする「やりとり」行動ができるようにする。
③　状況に応じた適応行動が出来るよう生活経験を豊かにする。
④　児童一人ひとりの教育的ニーズに応じて、きめ細やかな指導を充実させることにより、生活や学習上の困難の改善を図る。
⑤　生活に根ざした具体的な経験や実際的な活動を重視した教育課程の編成を工夫する。
　・時間割をモジュールで設定し、生活に見通しをもつことができるようにする。
　・社会性や望ましい対人関係を育む上で、子どもの特性を生かせる内容において交流教育を実施する。
　・教科・領域等の中で認知の学習、般化の学習を充実させていく。
⑥　個別の指導計画に基づき、日々の実践の中で随時評価し、見直しを図っていく。
　・児童の実態把握をするために、行動観察や諸検査などを活用するよう配慮する。

⑦　保護者との連携を密にし、家族の希望に添うよう児童の発達段階に沿った支援を行う。
・着替えや排泄などの身辺処理能力の向上等、発達段階に応じた生活に必要なスキルを学級における教育活動全般と関連づけながら指導していく。
⑧　特別支援学校、医療機関、小児発達センター等の相談・訓練機関等との連携を図る。

2　児童の実態

（1）学級の実態

①　在籍児と障害の実態

	2年	6年	計
男	1	1	2
計	1	1	2

②　障害の状態

学年	性別	障害の状態
○年	男	自閉症
○年	男	自閉症

（2）個別の教育支援計画

3　教育課程

（1）教育課程編成の方針

・特別支援学校小学部学習指導要領をもとに、教科別、領域別の指導の他に各教科等を合わせた指導を取り入れ、人間として調和のとれた育成をめざし、児童の障害特性や発達段階、地域や学校の実態を十分に考慮して教育課程を編成する。
・障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、心身の調和的発達の基盤を培う「自立活動の指導」を重視する。

（2）各教科・各領域の目標及び指導内容

①　各教科

【生活】

ア　目標

・日常生活の基本的な習慣を身につけ、集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに、自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。

イ　内容

・教師の援助を受けながら日常生活に必要な身辺処理をする。（２－１）
・教師の援助を受けながら健康で安全な生活をする。（２－２）
・教師や友だちと同じ場所で遊ぶ。（１－３）
・教師と一緒に身近な人に簡単なあいさつをする。（１－４）
・教師と一緒に集団活動に参加する。（１－５）
・教師の援助を受けながら簡単な手伝いや仕事をする。（２－６）
・教師と一緒に日常生活の簡単な決まりに従って行動する。（１－７）
・教師と一緒に日課に沿って行動する。（１－８）
・教師と一緒に簡単な買い物をする。（１－９）
・身近な自然の中で、教師と一緒に遊んだり、自然や生き物に関心や興味をもったりする。（１－１０）
・家族や家の近所などの様子に興味や関心をもつ。（１－１１）
・身近な公共施設や公共物などを教師と一緒に利用する。（１－１２）

【国語】

ア　目標

・日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる。

イ　内容

・教師や友だちの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる。（２－１）
・教師などの話しかけに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言語で表現する。（１－２）
・簡単な語句や短い文などを正しく読む。（３－３）

・教師と一緒に絵本などを楽しむ。（１－３）
・いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。（１－４）
・簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。（３－４）

【算数】
ア　目標
・具体的な操作などの活動を通して、数量や図形などに関する初歩的なことを理解し、それらを扱う能力と態度を育てる。
イ　内容
・具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。（１－１）
・初歩的な数の概念を理解し、簡単な計算をする。（３－１）
・身近にあるものの大小や多少などに関心を持つ（１－２）
・身近にあるものの形の違いに気付く。（１－３）
・時計や暦に関心を持つ（３－４）

【音楽】
ア　目標
・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心を持ち、その美しさや楽しさを味わうようにする。
イ　内容
・好きな音や音楽を聴いて楽しむ。（２－１）
・音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。（１－２）
・旋律楽器に親しみ、簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。（３－３）
・好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しく歌う。（２－４）

【図画工作】
ア　目標
・初歩的な造形活動によって、造形表現についての興味や関心をもち、表現の喜びを味わうようにする。
イ　内容
・かいたり、つくったり、飾ったりすることに関心をもつ。（１－１）
・土・木・紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。（１－２）
・粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。　（２－２）

【体育】
ア　目標
・適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
イ　内容
・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。（２－１）
・いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどを楽しく行う。（１－２）
・簡単な合図や指示に従って、楽しく運動する。（１－３）
※特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚園・小学部・中学校）の知的の各教科の目標や内容を引用しております

② 各領域
【道徳】
◎道徳の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校指導要領に準ずる他、次に示すところによるものとする。
・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る必要があること。
・各教科・領域との関連を密にしながら、経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導する必要があること。
・児童の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

ア　目標
・学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。
イ　内容
・気持ちの良いあいさつができる。
・チャイムに合わせて行動できる。
・靴、傘など自分の置く場所がわかり、人のものと区別ができる。
・自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかり行う。
・約束や決まりを守り、みんなが使う物を大切にする。
・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
・先生や友だちに親しみ、学級や学校の生活を楽しくする

【特別活動】
◎特別活動の目標、各活動、学校行事の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校指導要領に示すものに準ずる他、次に示すところによるものとする。
・学級活動においては、他学級と合併するなどして、少人数からくる種々の制約を解消し、活発な集団活動が行われるようにする。
・児童の経験を広めて積極的な態度を養い、社会や豊かな人間性を育むために集団活動を通して小学校の児童又は中学校の生徒などとの交流及び共同学習を行ったり、地域の人々などと活動を共にしたりする機会を積極的に設ける必要があること。その際、児童の障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、具体的に指導する必要があること。
・内容の指導に当たっては、知的障害の状態や経験に応じて、適切に指導の重点を定め、具体的に指導する必要があること。

ア　目標
・望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

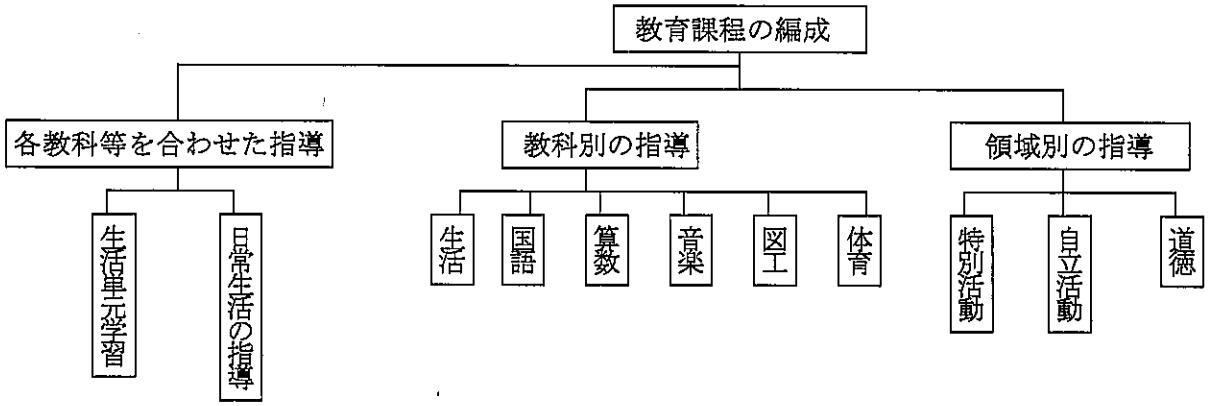
イ　内容
学級活動
・学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。
児童会活動
・異年齢集団による交流
・学校行事への協力
クラブ活動
・クラブを楽しむ活動
学校行事
・儀式的行事　・文化的行事　・健康安全・体育的行事
・遠足・集団宿泊的行事　・勤労生産・奉仕的行事

【自立活動】
ア　目標
・個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

イ　内容
・生活リズムを整え、健康で安全な生活をする。（１－１）
・学校生活に見通しを持ち、安定した気持ちで一日を過ごす。（２－１）
・場面や状況に応じた適切な行動をする。（２－２）
・身近な人の存在を意識し、人とやりとりして行動できること。（３－１）
・順番やルールなどを理解し、友だちと一緒に活動する。（３－４）
・手指機能及び注視能力、目と手の協応動作の向上を図る。（４－４）
・視覚的、聴覚的指示により、ものの形や色、性質、用途等について理解できる。（４－５）

・基本的な身体活動を通して筋力の向上を図る。（５－１）
・身体活動を伴った遊びを通して、自発的な行動意欲を高める。（５－４）
・自分の意志や要求を発語や簡単なサイン、身振りで伝える。（６－１）
・教師の話を聞いたり、自分の気持ちを適切に表出したりする「やりとり」ができる。（６－２）
・興味のある活動を通して、望ましい対人関係を養う。（６－５）

（３）教育課程の構造図



（４）使用教科書

・文部科学省選定一般図書を使用
「ゆっくり学ぶ子のためのこくご１」「ゆっくり学ぶ子のためのさんすう１」等

（５）本学級の教育課程における時間割

	月	火	水	木	金
１校時 モーニングタイム	・日常生活の指導 ・朝の会　（生活）　・自立活動				
２校時 チャレンジタイム	図工	体育 （たんぽぽ合同）	音楽	体育 （交流学習）	道徳 （たんぽぽ合同）
３校時 ハッスルタイム	・国語・算数・自立活動（個別の課題学習）				
４校時 読書タイム	・国語　・自立活動 （図書館利用）				
５校時 生き生きタイム	・生活　・生活単元学習　・自立活動				
６校時 ワクワクタイム		・生活 ・自立活動	・特別活動		

X　通知票　　（参考例ＮＯ１）

○○年度　△学期　よい子のあゆみ　　○○小学校　○組　　○○○○（△年）　（その１）

学習内容		（　△　）学期の児童の活動の様子	評価
行事		たくさんの人が集まる行事に参加するのは苦手だったが、様々な行事に参加できるようになってきた。学芸会は３年生の発表に参加し、初めて舞台に立つことができた。また、学年の校外学習にもすべて参加することができた。	○
国語	読む	読むことができる言葉が増えてきている。お気に入りの絵本を楽しそうに読んだり、『 かいけつゾロリ 』などの漢字の含まれる本にも興味を持っている。	○
	書く	音声付の「ひらがな練習ボード」を使って発音練習をしながら、ひらがなの書き取りを続けている。学校での学習や宿題でのワークシートで「手本を見ないで書くことができる言葉」が５０語程度に増えている。連絡ノートを書くために自発的に月～金までの漢字を覚えた。	○
	話す・聞く	自分の気持ちを言葉で伝える事が増えてきた。語彙もかなり増え、覚えた言葉を場面に合わせて使えることが多くなってきた。この一年で大きく成長した。	○
算数	数	数字ブロックやシールなどの具体物を使って１から４０までの数を並べることができた。はっきりとした発音で数を数えることもできるようになってきた。	○
	量・他	日にち、曜日の感覚が身に付き時間の感覚を獲得している。形や色に注目して具体物を分類することができるようになった。	○
生活単元学習（理科・社会科）		野菜の種まきから水遣り、雑草取り、収穫、調理といった一連の流れを体験することができた。週に一度は餌となる草を集めて、うさぎとのふれあい体験を行った。	○
図画工作		手先が器用で工作や描画を楽しみながら作品作りができた。今年度は○・○ 組合同で図工の学習を行い、小集団での学習を行うことができた。	○
音　楽		○年○組での音楽に参加したり、音楽室で様々な楽器に触れることができた。○曜日の○校時を楽しみにしている。	○
体　育		今年度はすすんで体育着に着替え、○年○組のほとんどの体育に参加することができた。自分からグループの活動に参加することもあり、大きな成長が見られた。○組との合同体育では広い体育館全体を使ってボール遊びや集団ゲームなどの学習を行うことができた。	◎
自立活動	衣服	衣服の着脱などの身辺自立は確立している。お気に入りの服へのこだわりはあるが、様々な服を着ることができるようになった。校外学習ではズボンで登校することができた。	○
	整頓	きちんと自分の持ち物を整理整頓することができる。ランドセルいっぱいに本やノートを入れているので、必要な物だけ持ち歩くことができるようになってほしい。	△
	身体機能	身長も伸び、体力も向上している。体の柔軟性もあり、バランス能力も高いので転んだ時にも大きな怪我をすることはなかった。	○
	健康・保持	大きく体調を崩すことが無く、元気に登校することができた。	○
	安全	廊下を走ることはあるが、高いところに登ったり道路に飛び出したりといった危険な行動が無くなり、安心し見守ることができた。	○
	きまり	これまでスケジュールの変更にパニックになることがあったが、変更しても活動を続けることができるようになってきた。	○
	コミュニケション	この一年で発音もはっきりしてきて自分の考えや気持ちを伝えることがよくあった。コミュニケーション能力がとても向上した。	○
交流・社会性		集団参加することができるようになってきた。学芸会では衣装に着替え、短時間ではあるが学年の演技に参加することができた。児童鑑賞の日には入場から退場までみんなと一緒に参加し、周りに合わせて手話歌やリコーダーができた。	○

（ △ 学期 ）　　（その２）

生活のようす よくできる◎・できる○・もうすこし△		
項目		○学期
基本的生活習慣	おはしやスプーンが上手に使える	◎
	好き嫌いをしないで給食をたべることができる	△
	食前、食後のあいさつができる	◎
	歯みがきができる	◎
	トイレの後に進んで手を洗うことができる	◎
	定時誘導に従ってトイレに行くことができる	△
	宿題を忘れずにやることができる	◎
	脱いだ衣服をきちんとたたむことができる	◎
	洋服やエプロンなどの着脱ができる	◎
	靴の左右をまちがえずにはくことができる	◎
	身の回りの整理整頓ができる（ロッカー・机の中）	◎
	よい姿勢で学習することができる	○
	自分の名前、担任の先生の名前が言える	◎
	集団に参加し、みんなと一緒に行動ができる	○
遊び	友達と関わって遊ぶことができる	○
	自分の好きな遊びを広げ、楽しむことができる	○
仕事	給食当番を進んで行うことができる	◎
	簡単なお使いができる	○
	清掃当番で、自分の分担をきれいに掃除できた	◎
きまり	チャイムとともに行動ができる	○
	教師の指示や決まりを守ることができる	○
	遊んだ後、きちんと片付けることができる	◎
ことば	オアシス言葉（おはようございす。ありがとうございます。失礼します。すみません）をつかうことができる	○

	（ △ ）学期
所見	体の成長とともに様々な面での成長が見られた一年でした。今まで苦手だった全体集会や体育にも○年○組の列に並び、参加することができました。そのことで同級生との関わりも増え、廊下で「○○さん、おはよう」と声をかけられることもありました。学習面では国語と算数を中心に課題に取り組んでいます。学習の流れも定着し、自分から進んでプリントを解いたり、教材を要求したりと積極的に学習しています。この一年の成長を考えると来年度の一年間はもっと大きな成長が期待できます。これからも様々なことに挑戦し、元気に楽しくがんばってほしいです。

（参考例ＮＯ２）

１年間の学習の記録
支援学級での学習

（その１）

教科	１　学　期	２　学　期	３　学　期
国語			
数学			
理・社			
作業			
自立活動			

協力学級（○組）での学習

教科	観　　点	１　学　期		２　学　期		３　学　期	
音楽	音楽への関心，意欲・態度						
	音楽的な感受や表現の工夫						
	表現の技能						
	鑑賞の能力						
美術	美術への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						
	創造的な技能						
	鑑賞の能力						
保健体育	運動や健康安全への関心・意欲・態度						
	運動や健庫安全についての思考．判断						
	運動の技能						
	運動や健康安全についての知識・理解						
技術家庭	生活や技術への関心・意欲・態度						
	生活を工夫し創造する能力						
	生活の技能						
	生活や技術についての知識・理解						

担任の所見（学校生活の様子）　　（その２）

教科	１　学　期	２　学　期	３　学　期
当番活動・表彰等の記録	・読書冊数　　冊（７／　締）	・読書冊数　　冊（１２／　締）	・読書冊数　　冊（３／　締）

学校の様子　（児童の活動の様子の写真を貼る）

「通知票」の活用について

１、「通知票」には、子どもの、その学期における学校生活、学習や身体等の状況の大要をしるしてあります。

２、「通知票」はその子の到達状況を表したものです。すすんで子どものよいところを見つけてください。

３、努力すべきところがあれば、今後の努力の仕方や方向性について子どもとじっくり話し合い、子どもの学習意欲が高まるように励ましてください。

（参考例ＮＯ３）
（その１）

学年	組	番	氏　　名

	本　人	○○学校平均	沖縄県平均	全国平均
身長（ｃｍ）				
体重（ｋｇ）				
座高（ｃｍ）				

学　期	授業日数	出　停 忌引き等	欠席日数 病　欠	事　故	遅　刻	欠　課	授業遅刻	備　考（欠席・早引き・遅刻・欠課等の理由）
1								
2								
3								
計								

活動状況・評価	学　期	1	2	3
	日直活動			
	係活動			
	給食活動			
	清掃活動			
	読書冊数			
	家庭学習冊数			

Ａ＝とてもよく活動している。
Ｂ＝時折活動している。
Ｃ＝あまり活動していない。

特別活動	学期	係	役　員	部　活　動
	1			
	2			
	3			

学校生活・学習の所見	1　学　期	2　学　期	3　学　期

総合的な学習の時間		
学　習　活　動	観　点	学　習　の　状　況
地域・職業について学ぶ	探求力 行動力 表現力	

（その２）

教科	評価の観点	観点評価	評定	題材	所見
国語	国語への関心・意欲・態度				
	話す・聞く能力				
	書く能力				
	読む能力				
	言語についての知識・理解・技能				
社会	社会的事象への関心・意欲，態度				
	社会的な思考・判断				
	資料活用の技能．表現				
	社会的事象についての知識・理解				
数学	数学への関心・意欲・態度				
	数学的な見方・考え方				
	数学的な表現・処理				
	数量・図形などについての知識・理解				
理科	自然現象への関心・意欲・態度				
	科学的な思考				
	観察・実験の技能，表現				
	自然現象についての知識・理解				
音楽	音楽への関心，意欲・態度				
	音楽的な感受や表現の工夫				
	表現の技能				
	鑑賞の能力				
美術	美術への関心・意欲・態度				
	発想や構想の能力				
	創造的な技能				
	鑑賞の能力				
保健体育	運動や健康安全への関心・意欲・態度				
	運動や健庫安全についての思考．判断				
	運動の技能				
	運動や健康安全についての知識・理解				
技術家庭	生活や技術への関心・意欲・態度				
	生活を工夫し創造する能力				
	生活の技能				
	生活や技術についての知識・理解				
英語	コミュニケションへの関心．意欲				
	表現の能力				
	理解の能力				
	言語や文化についての知識・理解				
作業学習					

教科に関する総合所見	

家庭から（要望があれば書いて下さい。）	

ＸＩ　各種制度・福祉サービス

本人や家族に対し、障害の状態に応じた福祉サービスや制度があります。手続きは保護者の申請によりますが、特別支援学級担任として、保護者に対して情報を提供していきましょう。
主なものを紹介しますが、詳細については関係機関に問い合わせを行うように説明をするとよいでしょう。

１　特別支援教育就学奨励費

特別支援学校や小学校・中学校の特別支援学級で学ぶ際に、保護者が負担する教育関係経費について、家庭の経済状況等に応じて、国及び地方公共団体が補助する仕組みです。

（１）受給対象者

特別支援教育就学奨励費を受給することができる者は、小学校・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者で、その世帯の収入額が一定額以下の方。

（２）対象とする経費・費目

①学校給食費　②通学に要する交通費　③新入学児童・生徒学用品費
④職場実習に要する交通費（中学校の教育課程）　⑤交流及び共同学習に要する交通費
⑥修学旅行費（１回に限る）　⑦校外活動等参加費（宿泊を伴わないものと伴うもに区別されている）
⑧学用品等購入（体育実技用具費、拡大教材費等）

※学校教育法施行規則第１４０条の規定により、障害に応じた特別の指導を受けている者については、その通学に係る特別に要する交通費のみを上記②の交通費として補助の対象とすることができる。

（３）対応機関

小学校・中学校の特別支援学級の児童生徒は、各市町村の教育委員会より支給され、各学校の事務担当者が窓口になります。

（４）申請に必要な書類等

①特別支援教育就学奨励費にかかる収入額・需要額調書　②住民票謄本
③所得金額等証明書また課税証明書　④その他必要と認める書類

２　療育手帳

知的障害児（者）に対して、一貫した指導・相談を行うとともに、各種の援助措置を受けやすくするために療育手帳を交付し、もって知的障害児（者）の福祉の増進に資することを目的とする。
（沖縄県療育手帳制度要綱・沖縄県療育手帳制度規程より）

（１）交付対象者

県内に住所又は居所を有する者で、児童相談所又は知的障害更生相談所において知的障害と判定された者に対して手帳を交付している。

（２）割引・減免について

ＪＲ、モノレール、バス、航空機、タクシー等の運賃の割引や税金や医療費の控除や減免等があります。

（３）対応機関

県福祉保健所（５カ所）、市福祉事務所、町村障害福祉担当課が対応いたします。

（４）申請に必要な書類等

①療育手帳交付申請書　②本人の写真　③印鑑等

３　身体障害者手帳

身体障害者が健常者と同等の生活を送るために最低限必要な援助を受けるための、いわば証明書にあたる。援助内容は補装具・義肢の交付などの有形のものから、ヘルパーサービスなど無形のものまで多岐にわたる。

（１）交付対象者

身体に障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、言語機能障害、病弱等１２種類の障害）のある人たちが対象です。

（２）割引・減免について

①ＪＲ、モノレール、バス、航空機、タクシー等の運賃の割引
②税金や医療費の控除や減免
③福祉機器（車椅子、義肢、装具、盲人安全杖）購入時の補助

（３）対応機関

県福祉保健所（５カ所）、市福祉事務所、町村障害福祉担当課が対応いたします。

（４）申請に必要な書類等

①身体障害者手帳交付申請書　②指定する医師の診断書と意見書　③本人の写真　④印鑑等

４　特別児童扶養手当

特別児童扶養手当とは、「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づき、２０歳未満の身体や精神に障害がある児童を養育する父母又は養育者に対して、児童の福祉の増進を図ることを目的として支給される手当です。(所得制限があります)

（１）受給対象者

２０歳未満で「特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令」に定める程度の障害の状態にある児童を養育する父母又は養育者に対し支給されます。

（２）手当の支払いについて

手当の支払いは支給額表の金額が、４月・８月・１１月の年３回で、通常４ヵ月分を受給者の指定した口座へ振り込まれます。

（３）対応機関

市町村障害福祉担当課、県福祉保健部青少年・児童家庭課母子福祉班が対応いたします。

（４）申請に必要な書類等

①認定請求書（指定様式）　②所得証明書　③戸籍謄本　④住民票（世帯全員）　⑤指定医師の診断書　⑥身体障害者手帳の提示　⑦その他必要書類等

参考資料

①年間単元計画例

②年間指導計画例

③学習記録カード例

④経過報告書例

XⅡ　年間指導単元計画一覧表：参考例　　〈小学校参考例〉

	4　月	5　月	6　月	7　月	9　月
遊びの指導	・くすぐりっこ ・手をつないで歩こう。 ・みんなで走ろう。 ・くるくるまわろう。 ・ころころ転がろう。 ・みんなでジャンプ	「遠足で遊ぼう」 ・ボール運び ・ボール投げ 「雨の日の遊び」 ・カタツムリを見つけよう。	「雨の日の遊び」 ・絵を描こう。 「夏の遊び」 ・蝉取りをしよう。 ・水遊びをしよう。	「夏の遊び」 ・蝉取りをしよう。 ・水遊びをしよう。（水鉄砲） ・バッタやカマキリを捕まえよう。	「遊具で遊ぼう」 ・遊具の名前を覚えよう。 ・遊具での遊び方のマナーを守ろう。
日常生活の指導	「教室の入り口で元気よく挨拶をしよう」 「おはようございます」 「いってきます」 「ただいま」 「さようなら」 「朝の会をしよう」 １みんなでダンス（体操） ２健康観察 ３自己紹介（6 月より日記の発表） ４先生のお話 「朝の会をしよう」	「挨拶をしよう」 ・元気な声で挨拶をしよう。 ・自分から進んで挨拶をしよう。 「掃除をしよう」 ・掃除の仕方を工夫しよう。 ・みんなで協力して掃除をしよう。 ・掃除がんばりシールをゲットしよう。	「歯磨きをしよう」 ・歯磨き歌に合わせて歯磨きをしよう。 ・歯磨き指導を受けて、自分の歯磨きの仕方を点検しよう。 ・歯磨きシールをゲットしよう。	「整理整頓をしよう」 ・机の中の整理整頓の点検しよう。 ・ロッカーの整理整頓の点検しよう。 ・教室の中の整理整頓の点検しよう。 ・点検シールをゲットしよう。	「朝の会をしよう」 １みんなでダンス（体操） ２健康観察 ３自己紹介（日記の発表） 質問タイムを設け、やりとりをしながら詳しい文が書けるようにする。 ４先生のお話
生活単元学習	☆「月予定を知ろう」 「きまりを守って歩こう」 ・廊下は右側を歩こう ・友達と手をつないで歩こう ・一人で真っ直ぐ歩こう ・並んで真っ直ぐ歩こう 「夏の野菜を育てよう」 ・農協で買い物をしよう。 ・苗を植えよう。 ・苗を育てよう。	「探検に出かけよう」 ・友達と手をつないで歩く（人と歩調を合わせる） ・デジタルカメラで発見した物を写そう。 ・どんな音が聞こえるかな、音探しをしよう。 ・どんな生き物がいるか探してみよう。	「宿泊学習をしよう」 ・めあてを知ろう。 ・日程や参加校の友達の名前を覚えよう。 ・荷物の整理整頓の練習をしよう。 ・宿泊学習で仲良くなった友達に手紙を出そう。 ・作文を書こう。	「収穫祭りをしよう」 ・野菜を収穫しよう。 ・収穫した野菜を調理しよう。 ・収穫した野菜をお世話になった方にプレゼントしよう。 「収穫しよう」	「夏休みの思い出を発表しよう」 ・夏休みの思い出を発表したり、友達に質問したりしよう。 「持ち物に記名しよう」 ・自分の持ち物に記名しよう。 「畑を耕そう」 ・草取りをする。 ・畑を耕す。
自立活動	「やりたいことを見つけよう」（心理、人間、環境） ・自分の好きな活動を発表する。 ・好きな活動の中から、学習として取り上げられるものを選ぶ。 ・上記で選んだ活動を「やりたいこと」として、45 分間活動する。（学習規律を守って活動する）	「やりたいことを協力してやろう」（心理、人間、環境、コミュニ） ・一人の「やりたいこと」をみんなで協力して活動する。	「正しいブラッシングできれいな歯に」（健康、心理、コミュニ） ・虫歯について知る。 ・自分の虫歯の状況を知る。 ・カラーテスターでブラッシングの状況を知る。 ・正しいブラッシングの仕方を練習する。 ・ブラッシングを毎日決まった時間に行う。	「ボール入れをしよう」（環境、人間、コミュ） ・バケツにボールを投げ入れる。 ・順番を話し合って決める。 ・順番を守って、バケツにボールを入れる。 ・距離や入れ方を考えてバケツにボールを入れる。	「やりたいことを集中してやろう」（心理、人間、環境、コミュニ） ・やりたいことを決めて発表しよう。 ・やりたいことをみんなで一つ決めよう。 ・やりたいことを協力してやろう。
国	こくご　入門編１　p1 ・背筋を伸ばして座る。 ・椅子に座って、先生に注目する。 ・床に座って、先生に注目する。 ・床に寝たままで、先生に注目する。	こくご入門編１ p4～5 「どれかな②」 ・一音一文字の言葉 「目」「歯」 ・「人の目」「金魚の目」「人の歯」「犬の歯」などの違いがわかる。 ・格助詞「の」の使い方	こくご入門編１ p12 ～ 13 「どれかな⑥」 ・二音二文字の言葉 ・事物と言葉を結びつけることができる。 ・「ペン」にはいろいろな種類があることが分かる。 ・学校周辺や自宅周辺の	こくご入門編１ p20 ～ 21「どれかな⑩」 ・いろいろな名称の物を知る。 ・「やさい」「のりもの」の概念について知る。 こくご入門編１ p22 ～ 23「どれかな⑪」	こくご入門編１ p28 「どれかな⑭」 ・形容詞（色の名前）を知る。 ・形容詞を使う ・既習の言葉に形容詞を付けて言う。 こくご入門編１ p29

語	・本、ノート、筆箱、など身近な文房具、耳、鼻などの身体の言葉を聞いて実物を指さすことができる。 ・p1 を見せながら、「車はどれですか？」「なぜ、二人は立っているのですか？」など質問する。 こくご入門編１ p2～3 「どれかな①」 ・本にある風景と似た場所に散歩に出かけよう。 ・手で触れ、鼻で嗅ぎ、目で見て観察しよう。 ※既習事項も丁寧に繰り返し学習させる。	が分かる。 こくご入門編１ p6～7 「どれかな③」 ・一音一文字の言葉 「火」「戸」 ・生活の中にある「火」を連想しいろいろな「火」があることがわかる。 ・「火」の危険性について具体的に知る。 ・「戸」について具体的に知る。 ・いろいろな「戸」があることを知る。 ※１週間に１単元とし、丁寧に指導する。 こくご入門編１ p8～9 「どれかな④」 こくご入門編１ p10～11 「どれかな⑤」	門に気付、「もん」と言う言葉と結びつけることができる。 こくご入門編１ p14～15 「どれかな⑦」 ・よく口を動かして、はっきり発音する。 ・「いぬ」「ねこ」の言葉と事物を結びつけることができる。 こくご入門編１ p16～17 「どれかな⑧」 ・関連した言葉「おっぱい」「つの」なども意識して使わせる。 こくご入門編１ p18～19 「どれかな⑨」 ・いろいろな「くつ」「かさ」についてわかる。	・家庭にある物の名称を知る。 ・絵を見ながら会話をする。 こくご入門編１ p24～25「どれかな⑫」 ・物の名称を知る。 ・動物の名称を知る。 ・会話の中で既習の言葉を使う。 こくご入門編１ p26～27「どれかな⑬」 ・物の名称を知る。 ・会話の中で既習の言葉を使う。 ・個々まで学習してきた 80 以上の名詞をしっかりと定着させる。	「こえをだして」 ・発声の練習をする。(約１ヶ月程毎日やる) こくご入門編１ p30～31 「どんなおと①」 ・いろいろな楽器を出し、音の違いに気付かせる。 ・生活の中にある物をたたいて音の違いに気付かせる。 ・全身で音を表現する こくご入門編１ p32～33 「どんなおと②」 ・楽器を使って音の違いを知る。 ・生活の中にある音を真似て言う。
算数	さんすう１　ｐ２～ 「おおきいなぁ！ちいさいね！」 ・大きい、小さいという広範囲の量を表す言葉を絵を見て質問に答えたり、考えたりする。 さんすう１　ｐ４～ 「ながいなぁ！みじかいね！」 ・長い、短いを絵をみたり体験を通して学習する。 さんすう１　ｐ６～ 「たかいなぁ、ひくいね」 ・高い、低いを絵を見たり体験を通して学習する。 さんすう１　ｐ８～ 「おもいよかるいかるい」 ・重い、軽いを絵を見たり体験を通して学習する。	さんすう１　ｐ１０～ 「はやいね、おそいよ」 ・速い、遅いを絵を見たり体験を通して学習する。 さんすう１　ｐ１２～ 「あつい！おおさむい！」 ・暑い、寒いを絵を見たり体験を通して学習する。 ・「あつい」には「暑い」の他に「厚い、熱い」など同音異義語を学習する。 さんすう１　ｐ１４～ 「ことばをゆたかに①」 ・「おおい⇔すくない」などの反対の意味のことばについて、まとめて学習する。 さんすう１　ｐ１６～ 「どっちがほしいかな」 ・絵を見て何をしているか考える。 ・物の大小を比べ、どちらがほしいかを考える。	さんすう１　ｐ１８～ 「どっちがのみたい？」 ・絵を見て何をしているか考える。 ・液量の大小を比べ、どちらがほしいかを考える。 さんすう１　ｐ２０～ 「うまくのせられるかな？」 ・絵を見て何をしているかを考える。 ・大きさの違う立方体をどうすれば上手く積み上げられるかを考える。 さんすう１　ｐ２２～ 「はこをかたづけてね」 ・絵を見て何をしているか考える。 ・大きさの違う箱を作る。 ・箱の大小を比べ、どの順序だと一つにまとまるか考える。	さんすう１　ｐ２４～ 「どっちがながい？」 ・絵を見て、いろいろな物の長さの違いを考える。 さんすう１　ｐ２６～ 「どっちがたかいかな」 ・絵を見て何があるかを考える。 ・２つを比べてどちらが高いかを考える。 さんすう１　ｐ２７～ 「どっちがひくいかな」 ・絵を見て何をしているか考える。 ・２つを比べて「○○は××より低い」という表現を学習する。	さんすう１　ｐ２８～ 「ごちゃごちゃしてたらわからない」「きちんとならぶとよくわかる」 ・絵を見て何をしているかを考える。 ・背の大きい、小さいは並んで比べることがわかる。 さんすう１　ｐ３０～ 「くらべるときは、はじをそろえて」 ・絵を見て何をしているかを考える。 ・長い、短いを比べるうえで「長く伸ばす」「はじをそろえる」ことが大切であることを理解する。 さんすう１　ｐ１４～ 「ことばをゆたかに②」 ・「くらべる」という概念を遊びや生活の中で身近に体験する。
音楽	「ちゅうりっぷ」 ・歌唱・楽器遊び 「こいのぼり」 ・歌唱・歌詞の意味	「てをたたきましょう」 ・歌唱・楽器遊び 「もりのくまさん」 ・身体表現・歌唱	「かえるのうた」 ・歌唱・輪唱 「かたつむり」 ・身体表現・歌唱	「キャンプだホイ」 ・身体表現・歌唱 「たんこうぶし」 ・盆踊りの体験発表 ・身体表現	「レッツゴーいいことあるさ」 ・鑑賞・リズム遊び ・身体表現
図画工作	「はるのはな」 ・春の色 ・ちぎってはって 「こいのぼり」 ・はさみとのり	「いろみずあそび」 ・水色づくり 「ははのひ」 ・お母さん 「おおきなえ」 ・水を使って	「きれいなもよう」 ・模様づくり・なぞる ・彩色 「ねんどあそび」 ・動物広場	「おもいでのえ」 ・お泊り会 ・下絵・はり絵	「すなあそび」 ・砂山 「うんどうかい」 ・線がき・色でかく ・鑑賞
	「きほんてきなうんどう」	「からだつくりうんどう」	「ボールあそび」	「みずあそび（２）」	「運動会の練習」

体育	・遊具で運動 ・並びっこ ・いろいろな動き	・体ほぐし 「走ったり、跳んだり」 ・短距離走・リレー ・いろいろな跳び方 「てつぼう」 ・いろいろな回り方	・ボールを使って ・円形ドッジボール 「みずあそび（1）」 ・みずかけ遊び ・水中での遊び	・バタ足 ・呼吸の仕方 ・自分の泳ぎ 「どれだけおよげるかな」 ・記録会	・並ぶ ・行進する。 ・演技をする。
道徳	「いい気持ちで生活しよう」 気持ちよく生活するために 「どうしよう」 正しいことを勇気を持って 「どの仕事も大切なんだ」 みんなのために自分ができること	「対馬丸の遭難」 生きていく力 「おばあちゃんはお医者さん」 人に対する尊敬、感謝の気持ち 「好きなこと嫌いなこと いろいろなことをおしゃべりしあおう」 自分のことを振り返って	「いじめなんてしたくない」 友達と助け合う。 「学校のためにできること」 僕らの学校 「三日目に捕まえた虫」 生き物を大切に 「お母さん、お手紙書きますよ」 母と子の絆	「自分の好きなところを見つけよう」 すてきな私 「夢に向かって」 めあてをたてて	「人に聞く前に」 人に聞く前にやれることがある。 「祝日って何？」 日本の良さを知ろう 「やくそく」 きまりを守って 「いきているしるし」 命の尊さ
特別活動	・目標やめあてを考える。 ・係を決めよう。 ・身体測定のマナー、身長と体重を覚えて知らせよう。	・春の遠足 ・内科検診のマナー	・内科検診のマナー ・廊下の歩き方	・1 学期のまとめをしよう。 ・夏休みの計画を立てよう。	・２学期のめあてを決めよう。 ・係を決めよう。

年間指導単元計画一覧表：参考例

〈小学校参考例〉

	１０　月	１１　月	１２　月	１　月	２　月	３　月
遊びの指導	「ハロウィーン」 ・お化けに変身しよう。 ・仮装して校内をまわろう。	「あきのあそびをしよう」 ・葉っぱを集めて遊ぼう。 ・木の実を集めて遊ぼう。	「冬の遊びをしよう」 ・凧を揚げよう。 ・北風に向かって風車を回そう。	「お正月の遊びをしよう」 ・コマ回しをしよう。 ・たこ揚げをしよう。 ・カルタ取りをしよう。	「冬の遊びをしよう」 ・北風に向かって走ろう。	「ひな祭り」 ・折り紙で雛飾りを作ろう。
日常生活指導	「朝のチャレンジタイム」 ・朝、自分で宣言した清掃活動を行う。	「トイレの使い方」 ・トイレの正しい使い方を書いて張り出そう。 ・トイレのスリッパ並べシールをゲットしよう。	「掃除名人になろう」 ・掃除したい場所を決めよう。 ・手順通りに掃除をしよう。 ・掃除コンテストをしよう。	「掃除名人になろう」 ・掃除したい場所を決めよう。 ・手順通りに掃除をしよう。 ・掃除コンテストをしよう。	「洗濯名人になろう」 ・洗いたいものを決めてお家から持って来よう。 ・洗って干そう ・取り込んで畳んで持ち帰ろう。	「洗濯名人になろう」 ・洗いたいものを決めてお家から持って来よう。 ・洗って干そう。 ・取り込んで畳んで持ち帰ろう。
生活単元学習	☆「月予定を知ろう」 「秋を見つけよう」 ・スーパーで秋を見つけよう。 ・公園で秋を見つけよう。 ・見つけたことをまとめて発表しよう。 ☆「朝の会」	「野菜を収穫しよう」 ・野菜を収穫しよう。 ・育てた野菜で調理実習をしよう。 ・育てた野菜をお世話になった方にプレゼントしよう。	「冬を見つけよう」 ・スーパーで冬を見つけよう。 ・校庭で冬を見つけよう。 ・ムーチーを作ろう（旧暦に合わせる）	「冬を見つけよう」 ・スーパーで冬を見つけよう。 ・校庭で冬を見つけよう。 ・ムーチーを作ろう（旧暦に合わせる）	「卒業式を成功させよう」 ・卒業式に飾る壁面作りについて話し合おう。 ・壁面作りをしよう	「1 年のまとめをしよう」 ・お別れ会をしよう。 ・１年のまとめをしよう。
自立活動	「集中してやろう」 ・使い方を守って教具で学習しよう。 ・決められた教具を順番を守って取り組もう。 ・教具を選んで学習	「集中してやろう」 ・使い方を守って教具で学習しよう。 ・決められた教具を順番を守って取り組もう。 ・教具を選ぼう。	「一人でホットケーキを作ってごちそうしよう」 ・最初から最後まで一人で調理しよう。 ・友達や先生をもてなそう。	「一人で作ってごちそうしよう」 ・メニューを決めよう。 ・最初から最後まで一人で調理しよう。 ・友達や先生をもて	「一人で作ってごちそうしよう」 ・メニューを決めよう。 ・最初から最後まで一人で調理しよう。 ・友達や先生をもて	「一品パーティー」 ・得意な料理を持ち寄る。 ・十八番芸を披露する。 ・みんなで会食をする。

	しよう。 正しいブラッシング			なそう。	なそう。	
国語	入門編 p34～35 「どんなこえ①」 ・鳴き声を模倣する「ねこはニャーニャー」など、助詞「は」を使う。 入門編 p36～37 「どんなこえ②」 ・助詞「は」を使って、鳴き声を説明する「雀はチュンチュンなく」など。 入門編 p38 「これなあに①」 ・きれいに発音する。 入門編 p39～40 「これなあに②」 ・同じ音を二回続けて言う言葉をきれいに発音する。	入門編 p41 「これなあに③」 ・既習の言葉をきれいに発音する。 入門編 p42 「これなあに④」 ・二音節を意識しながらきれいに発音する。 入門編 p43～71 ・いつでもどこででもきれいな発音で言う。 ・全部の言葉をきれいに発音する。	入門編 2　p1 「じをよもう」 ・挿絵を見ながら、これからの学習について話し合う。 入門編 p2～3 「どれとどれがおなじかな①」 ・同じ物が二つあることに気付く。 ・「これもりんご」の助詞「も」に気付く ・「おなじ」「ちがう」の意味を理解し使う。 入門編 p4～7 「どれとどれがおなじかな②」 ・同じ文字があることに気付く。	入門編 p8～9 「どれがちがうかな」 ・鏡文字との違いに気付く。 入門編 p10～p18 「どれかな①」(清音) ・物の名前の最初の文字がわかる。 ※繰り返し繰り返し覚えるまで読ませる。 入門編 p19～23 「どれかな②」濁音半濁音 ・物の名前の最初の文字が分かる。 ※繰り返し繰り返し何度も覚えるまで読ませる。	入門編 p24 「どれかな③」促音 ・促音の音に気付き、そうでない音との違いに気付く。 ・促音を読むことができる。 入門編 p25～28 「どれかな④」拗音 ・拗長音・拗促音 ・きれいな発音でそれぞれの音を発音する。 ・それぞれの音を見分けて読む。 入門編 p29 「じをかこう」 ・挿絵を見ながら字を書くことに対する期待感を持つ。	入門編 p30～35 「せんをなぞる」 ・正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方ができる。 ・丁寧にゆっくりと書く。 入門編 p36～39 「つくしとかく」 ・はみ出さないように丁寧に書く。 入門編 p40～44 「じをなぞる」 ・点線に沿って字を書く。 入門編 p45 「ひらがなをかきましょう」 ・挿絵を見ながら学習への期待感を抱かせる
算数	さんすう１　ｐ３４～ 「どれとどれがおなじかな①」 ・絵を見て、それぞれが何かを考える。 ・同じ仲間を選び、２ついっしょに押さえることができる。 さんすう１　ｐ３６～ 「どれとどれがおなじかな②」 ・絵を見て、それぞれが何かを考える。 ・形は違っても同じ仲間であることを理解する。 さんすう１　ｐ３８～ 「はめてみよう、ぴったりあったかな？」 ・教具を使って、同じ形のものを同じ向きに入れることを学習する。 さんすう１　ｐ４０～ 「めかくしあそびをしよう」 ・目隠しをして、触感でそれが何かを考えたり、大きさを比べたりする。	さんすう１　ｐ４２～ 「おなじなかまはどれかな」 ・１２の絵を「動物、野菜、乗り物」の３種類に分類することを学習する。 さんすう１　ｐ４４～ 「どれとどれがおなじ？」 ・厚紙でできた三角と四角の教具を使って、形の名前を覚える。 ・「三角は？」「四角は？」という問いに教具を取ったり、指さしで示したりする。 さんすう１　ｐ４６～ 「いろをぬりましょう」 ・円、三角、長方形の紙にそれぞれ「赤」「青」「黄色」の色をぬったものを見せて、色の名称を理解する。 ・「赤いまる」「青い三角」「黄色い長四角」と言える。	さんすう１　ｐ４７～ 「おなじかたちはどれかな」 ・同じ形に同じ色をぬることを理解する。 ・教科書を何枚もコピーしておき、「まる、三角、四角」ごとに色分けし、線からはみ出さないように塗ることを学習する。 さんすう１　ｐ４８～ 「なかまはどれかな」 ・絵を見て、１２種類のそれぞれが何かを考える。 ・教師の質問に対して「動物、乗り物、植物、くだもの」の同じ仲間の名称を言ったり、指さしで示したりする。 さんすう１　ｐ５０～ 「なかまのないものはどれかな①」 ・絵を見て、仲間のいないものを探す。 ・それぞれの問題でそれが仲間でない理由が言える。	さんすう１　ｐ５２～ 「なかまのないものはどれかな②」 ・絵や写真、実物を見てそれぞれの名前を言う。 ・自転車が仲間でない理由をみんなで考える。 さんすう１　ｐ５４～ 「どのくみあわせがいいかな」 ・左右の絵の関わりを話し合いながら、それぞれの組み合わせを見つける。 さんすう１　ｐ５６～ 「これだれの？」 ・絵を見ながらそれぞれが何をしている人かを考え、関わりのあるものを考える。 さんすう１　ｐ５８～ 「どこかへんだよ」 ・絵を見て、それぞれの面白さや変な点について話し合う。 ・物の用途や機能を話し合い、どこが変なのかを考える。	さんすう１　ｐ６０～ 「ことばをゆたかに③」 ・いろいろな遊びや生活の中から、異同弁別・分類などの思考力を身に付ける。 さんすう１　ｐ６２～ 「じゃんけんぽんあいこでしょ」「てをだしてつくってみよう」 ・「ぐぅ、ぱぁ、ちょき」がスムーズに出せるように練習する。 ・絵を見ながら「ぐぅは石」「ぱぁは紙」「ちょきははさみ」であることを理解し、じゃんけんを楽しむ さんすう１　ｐ６４～ 「どっちがかった？」 ・絵を見ながらどっちが勝ったか考える。 ・みんなでじゃんけんを楽しむ。 さんすう１　ｐ６６～ 「さいころじゃんけん」 ・絵を見てどんな遊びであるかを考える。 ・じゃんけんさいころを作って、みんな	さんすう１ｐ６８～ 「じゃんけんつみき」 ・絵を見てゲームのルールを理解する。 ・じゃんけんに負けたら、つみきを積むゲームを楽しむ。 さんすう１ｐ６９～ 「いすとりゲーム」 ・ルールを理解し、ゲームを楽しむ。 ・おもちゃの人形とイスで、一対一対応を学ぶ。 さんすう１ｐ７０～「わなげ」 ・ルールを理解する。 ・入った輪を黒板にはり、遊びながら一対一対応を学ぶ。 さんすう１ｐ７１～「たまいれ」 ・絵を見ながらルールを理解する。 ・入った玉を一対一対応で数える。 さんすう１ｐ７２～「カード合わせ」

					で楽しむ。	・教具の絵や図を見てルールを理解する。 ・ゲームを楽しむ。
音楽	「さんぽ」 ・身体表現 ・歌唱・楽器 「もみじ」 ・鑑賞・歌唱	「きらきらぼし」 ・歌唱・楽器遊び 「バスごっこ」 ・歌唱 ・身体表現	「あわてんぼうのサンタクロース」 ・歌唱・身体表現 ・打楽器練習	「なべなべそこぬけ」 ・歌唱・身体表現 「からだあそびうた」 ・歌唱 ・身体表現	「たきび」 ・歌唱・楽器遊び 「１年じゅうのうた」 ・歌唱 ・身体表現	「うれしいひなまつり」 ・歌唱・身体表現 「しきのうた」 ・鑑賞・歌唱
図工	「ともだちのかお」 ・顔の観察と下絵 ・色塗り 「やきもの」 ・陶板の作成	「じぶんのいえやのりもの」 ・材料集め下絵と彩色とダンボール切りはり付け	「すごろく」 ・原画作成 ・すごろくづくり 「クリスマスツリー」 ・材料の準備装飾	「ふゆやすみのおもいで」 ・下絵かき ・色彩と鑑賞	「おにのえ」 ・鬼の話・下絵彩色 「きとどうぶつ」 ・形きめ ・付けたり打ったり	「おくりもの」 ・贈り物の製作 ・ラッピング 「美術館の見学」 ・鑑賞
体育	「マラソン大会に出場しよう」 ・地域の体育的行事に参加しよう。 ・練習しよう。 ・全員完走しよう。	「ボールゲーム」 ・いろいろなボール遊び 「てつぼう（2）」 ・上がり技や回転技 ・発表会	「まねっこあぞび」 ・まねっこ遊び 「へいきんだい」 ・歩き方 ・いろいろな技	「ちからだめしのうんどう」 ・押しや引きの運動 「マットうんどう」 ・横転 ・前転	「なわとび」 ・長縄跳び ・短縄跳び 「とびばこ」 ・いろんな動き ・難しい技	「マットうんどう」 ・できる運動を丁寧にやろう。 ・挑戦する技を一つ決めて練習しよう。 ・発表しよう ・友達の演技を見よう。
道徳	「進んで手助けしよう」 目の不自由な人への思いやり 「空」 美しいもの気高いもの 「自分の名前」 名前の由来が分かり、父母の愛を知る。	「森の指揮者」 誤りを改める 「僕は決心した」 自分でやる大切さ 「いやな感じ」 友達との間の礼儀 「電池が切れるまで」 精一杯生きる。	「健太が忘れていたもの」 自分の町って 「そうそう、そこが同じ、そこが違う」 友達との違いを認めて助け合う。 「蒔かぬ種は生えぬ」 粘り強くやり遂げる。	「日本の学校、世界の学校」 日本と外国を比べて 「小さな靴下」 小さな親切 「地球に優しく暮らそう」 自分にできる地球に優しいこと	「自分の毛で巣作り」 母ウサギの子育て 「電話の向こうはどんな顔」 相手のことを考えた礼儀 「同じ歌をハミングしているのはだあれ？」 協力し合って仲間作り	「右、左、右」 規則を守って 「ご愁傷様」 人の死
学級活動	「風邪に負けない丈夫な体作り」 ・風邪について知ろう。 ・風邪退治体操	・避難訓練 （火災、地震） ・読書月間の取組	・２学期の反省 ・クリスマス会に向けて	・新年の抱負 ・２学期の目標やめあて ・校内持久走に向けて	・学習発表会 ・児童会役員選挙 ・学年末美化活動	・ひな祭り会 ・卒業を祝う会 ・進級、新学期に向けて

年間指導単元計画一覧表：参考例　　〈中学校参考例〉

	4　月	5　月	6　月	7　月	9　月
国語	・友達の名前 ・日記の書き方	・手紙を書こう 「はがきや手紙の書き方を知る。」	・漢字の成り立ち ・家族の紹介 ・宿泊学習の思い出	・暑中見舞いを書こ ・１学期の思い出 ・楽しい夏休み	・夏休みの思い出 ・物語を読もう。
数学	「時刻と時間（１）」 ・時刻の意味を知る。 ・時間を計算する。	「こづかい帳」 ・おつりのある買い物をする。 「量と測定」 ・ものさしと秤を使う。 ・長さや重さを比べる。	「表とグラフ」 ・表からグラフを作る「加法・減法，乗法・除法の計算」 ・加法、減法を筆算形式で行う。	「お金の種類」 ・お金の種類とそれぞれの等価関係を理解する。 ・買い物ごっこをする。	「物の長さ」 ・30cm ものさしで長さを測る。 「距離」 1OOm 5OOm 1000 m の長さを知る。
理科	「春の自然」 「植物のしくみ」 ・植物の名前を図鑑で調べ名札を付ける。 ・校内の花壇や木々を観察する。	「いろいろな生き物」 ・昆虫や水辺の生物を飼育する計画を立てる。 ・図鑑などを用いて身近な生物の名称や特徴を調べる。	「天気と温度」 ・毎日の気温や温度の変化と影響を調べる。	「自然環境とリサイクル」 ・廃棄物が自然に及ぼす影響について調べ環境保全の方法について話し合う。	「太陽と月，星」 ・大陽や月の動き方を調べる。 「光と色」 ・光の性質について調べる。
社会	「地域めぐり」 ・学区内を見学し自分たちの町の様子を知る。	「公共施設や交通機関の利用」 ・ガイドブック等を利用して、遠足や修学旅行の目的地や見学地について調べる。	「よりよい環境」 ・リサイクル問題やごみ処理の際の環境問題について調べる。	「地域のくらし」 ・地域にある施設や行事を調べる。	「災害と防災」 ・台風や地震、火災などの災害や防災について調べる。
音楽	「校歌」「春の歌」「花」 「春が来た」 ・伴奏に合わせて歌う。	「四季より『春』 「楽器を演奏しよう」 ・好きな場面感想を発表打楽器を演奏する。	「キャンプソング，集いの歌」「遠き山に日は落ちて」「夏の歌」「海」「夏の山」などを歌う。	「魔王」 ・登場人物を分担して、曲に合わせて歌う。	「歌を作ろう」 ・自分の作曲した歌を友達の前で発表する。
美術	「身近な風景」 ・（感じるままに）	「野菜，果物」 ・（形の発見）	「コースター」 ・（立体でとらえる）	「鑑賞と模写」 ・美術館めぐり	「友達をかく」 ・人間の姿 ・心の形
保健体育	「体つくり運動」 《保健》 「心身の発達」	「陸上競技」 《保健》 「不安，脳みの対処と心の健康」	「バスケットボール」 《保健》 「欲求やストレスへの対処と心の健康」	「水泳」 《保健》 「健康と環境」	「体育大会」 《保健》 「生活と環境」
技術家庭	「清潔な衣服」 「野菜の栽培」	「CD ラックの製作」	「朝食づくり」 「弁当づくり」	「野外炊事」 「私たちの家庭生活」	「コンピュータの操作１」 「衣服の手入れ」
外国語	「あいさつ」 ・英語であいさつする。 ・ABC ソングを歌う。	「身の回りの物」 ・教室の中の物の名前を英語で話す。 ・英語かるたで遊ぶ。	「今日は何曜日？」 ・一週間の曜日を覚える動作をしながら簡単な英文を覚える。	「家族の紹介」 ・写真で家族の紹介とアルファベットの練習をする。	「スポーツ」 ・スポーツの名前を知る 「Ｌｅｔ's play ～ 1 の会話を練習する。
道徳	「生活習慣」 「友達になろう」 「物を大切に」	「公共のルール・エチケット」「自分の仕事」 「家族愛」「命を守る」	「自然に親しむ」「時間・約束」「夢を実現するには」 「父母の苦労」	「大人になるには」 「小さな親切」	「災害や事故」 「敬老の日」
学級活動	「中学生になって」 「学級組織づくり（１）」 「学級目標」	「学級生活の見直し」 「手伝い」 「遠足・修学旅行の計画」	「交通安全」 「家族の仕事」 「進路相談」	「奉仕活動計画」 「夏休み」	「避難訓練」 「夏休みの反省」 「体育大会参加」
	「春だわくわく」	「そとにでかけよう」	「おくろう！けんこうで	「なつだ、げんきに」	「２がっきだ、がんばろ

生活単元学習	・新しい学級を知ろう。 ・歓迎会をしよう。 ・学校探検をしよう。 ・みんなで遊ぼう。	・うれしい春・母の日 ・野菜を作ろう。 ・町探検をしよう。	たのしいせいかつ」 ・じょうぶな体を作ろう。 ・雨の日のくらしを知ろう。 ・室内での遊びを知ろう。 ・家の人を招待して、お楽しみ会をしよう。	・水遊び ・お泊り会 ・夏休みのくらし	う！」 ・夏休みの思い出をまとめよう。 ・台風と地震に備えよう ・子供と親の集い体育祭を楽しもう。
作業学習	「製本」 （メモ用紙作り） 「紙すき」 （しおりづくり）	「製本」 （メモ用紙作り） 「紙すき」 （しおりづくり）	「紙すき」 （紙皿作り） 「紙工」 （アンゼルセン）	「紙すき」 （紙皿作り） 「紙工」 （アンゼルセン）	「園芸」 （サツマイモ栽培） 「園芸」 （肥料作り）

年間指導単元計画一覧表：参考例　　〈中学校参考例〉

	１０　月	１１　月	１２　月	１　月	２　月	３　月
国語	・電話のかけ方 ・新聞づくり	・劇を作ろう 「脚本を読んで演じたい劇について話し合う。」	・年賀状を出そう ・説明文 ・２学期の思い出	・書き初め 「一年間の抱負を毛筆で書く。」 ・かるた取り 「自分たちのかるたを作る。」	・ことわざ 「いろいろなことわざを調べる。」 ・文集を作ろう 「一年間の思い出を基に絵や写真を交えて文集を作成する。」	・贈る言葉 「お礼の気持ちを表す話し方を知る。」
数学	「重さ」 重さを比べる。 「図形」 長方形と正方形の違いを知る。 円の性質を調べる。	「買い物」 ・消費税や値引き額の計算をする。 「液体の量」 ・いろいろな液体の量を計り単位を覚える。	「カレンダー」 ・カレンダーの使い方が分かる。 ・カレンダーのしくみを知る。	「金銭処理」 ・貯金の申込み預け入れをする。 ・領収書の意味を知る。	「温度調べ」 ・熱い冷たいなどの温度の差を知る。 「小数と分数」 ・小数の意味や表し方を理解する。	「時刻と時間（２）」 ・生活行動を通して時間の経過が分かる。先月、今月　来月、去年、今年　来年を理解する。
理科	「水溶液調べ」 ・水に溶ける物溶けない物を実験する。	「秋の自然」秋の草木の様子を観察する。 「動くおもちやづくり」身近な材料で動くおもちやを作る。	「ヒトのからだ」 ・ヒトの体の各器官の名称や働きについて調べる。	「冬の天気」 ・毎日の天気や気温湿度を調べる。	「電気の利用」 ・電気の性質や電化製品を調べる。	「生命の誕生」 ・生命の誕生と雌雄の役割についてビデオ視聴や図鑑で知る。
社会	「いろいろな仕事」 ・身近な仕事について話し合う。	「私たちの国」 ・我が国の政治産業文化についていろいろな資料を基に調べる。	「世界の国々」 ・世界の国々の自然生活習慣について調べる。	「こよみ」 ・こよみのきまりや国民の祝日記念日の学習をする。	「今と昔」 ・昔の生活について現在との違いを話し合う。	「社会のきまり」 ・身の回りのきまりについて調べる。
音楽	「秋の歌」 ・もみじなどを歌 「動作を付けて歌おうドレミなどの歌」	「和楽器」 ・郷土の楽器に親しもう。（三線）	「スキー１「冬景色」「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」などを歌う。	「アイーダ」のビデオテープを見る「劇の音を創作しよう」各場面の擬音	「春を呼ぶ歌」「春が来た」「早春賦」などを歌う。	「卒業式の歌」 「校歌」心を込めて歌う。
美術	「木版画」 （版の楽しみ）	「粘土で作る」 （土と火の世界）	「自画像」 （画面の中の私）	「絵文字」 （心をつなぐデザイン）	「ジグソーパズル」 （手づくりの楽しみ）	「記念品づくり」 （残す思い出）
保健体	「器械運動」 《保健》 「傷害の防止」	「サッカー」 《保健》 「傷害の防止」	「縄跳び」 《保健》 「健康な生活と疾	「長距離走（陸上競技）」 《保健》	「武道」「ダンス」 《保健》 「健康な生活と疾	「卓球」 「バドミントン」

育			病の予防」	「健康な生活と疾病の予防」	病の予防」	《 保健 》 「健康な生活と疾病の予防」
技家	「家族への贈り物」	「延長コードの製作」	「清潔な住まい」 「くらしと買い物」	「日常食の調理」	「コンピュータの操作 Ⅱ 」	「家族のだんらん」
外国語	「何月何日？」 ・英語で月を覚える誕生日の言い方を覚える。	「国際交流」 ・外国の人々のくらしや国や町の名前を言う。	「クリスマスカード」 ・カードを作るクリスマスソングを覚え歌う。	「数えてみよう」 ・値段を聞く数の数え方を知る数の聞き方を知る。	「色・様子」 ・会話で色や様子を表現する。	「今，何時？」 時間の聞き方を知る。 時間の答え方を知る。
道徳	「選ばれた人，選ぶ人」「最後までやり抜く力」	「文化祭を通して」 「真の友情」	「社会参加」 「世界は一つ」	「言葉遣い」 「接客」 「節約」	「命の尊さ」 「学校の宝」	「美しい学校」 「先輩としての自覚」
学級活動	「職場体験」 「学級組織づくり（2）」 「学級目標の反省」	「文化祭の計画」 「友達づくり」	「余暇活動」 「2 学期の反省」	「新年の抱負」 「学級作品展」 「会計簿」	「学級文集」	「 卒業式に向けて」 「新学年の抱負」
生活単元学習	「たのしいあき」 ・買い物をしよう。 ・秋の遠足に行こう。 ・秋と遊ぼう。	「ともだちのわをひろげよう」 ・野菜を収穫しよう ・取れた野菜で調理実習 ・楽しい思い出を絵や文にする。	「ふゆのおもいで」 ・お正月を楽しく過ごそう。 ・クリスマス会をしよう。 ・餅つき会をしよう。	「寒さなんかにまけないぞ」 ・冬休みを思い出そう。 ・冬を楽しもう。 ・火事に気をつける。	「たのしもう！おわかれえんそくで」 ・お世話になった先生に感謝しよう。 ・お別れ遠足をしよう。	「もうすぐ進級」 ・卒業生を送る会と卒業式 ・お別れ会をしよう。 ・１年のまとめ
作業学習	「園芸」 （サツマイモ栽培） 「園芸」 （肥料作り）	「木工」 （花台づくり） 「木工」 （プランターカバーづくり）	「木工」 （花台づくり） 「木工」 （プランターカバーづくり）	「染色」 （絞り染め） 「縫製」 （パッチワーク）	「染色」 （絞り染め） 「縫製」 （パッチワーク）	「園芸」 （サツマイモ収穫）

XIII　年間指導計画（教科：国語参考例）　〈小学校参考例NO１〉

国語：使用図書　同成社「ゆっくり学ぶ子のための　こくご」シリーズより

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	こくご　入門編１　p1 こくご入門編１ p2～3 「どれかな①」	・背筋を伸ばして座る。 ・椅子に座って、先生に注目する。 ・床に座って、先生に注目する。 ・床に寝たままで、先生に注目する。 ・本にある風景と似た場所に散歩に出かけよう。	・p1 を見せながら、「車はどれですか？」「なぜ、二人は立っているのですか？」など質問する。 ・本、ノート、筆箱、など身近な文房具、耳、鼻などの身体の言葉を聞いて実物を指さすことができる。 ・手で触れ、鼻で嗅ぎ、目で見て観察しよう。 ※既習事項も丁寧に繰り返し学習させる。
5月	こくご入門編１ p4～5 「どれかな②」 こくご入門編１ p6～7 「どれかな③」 こくご入門編１ p8～9 「どれかな④」 こくご入門編１ p10～11 「どれかな⑤」	・一音一文字の言葉の意味を理解する。 ・格助詞「の」の使い方が分かる。	・「目」「歯」などの言葉の意味を理解させる。 ・「人の目」「金魚の目」「人の歯」「犬の歯」などの違いがわかる。 ・「火」「戸」などの言葉の意味を理解させる。 ・生活の中にある「火」を連想しいろいろな「火」があることがわかる。 ・「火」の危険性について具体的に知る。 ・「戸」について具体的に知る。 ・いろいろな「戸」があることを知る。 ※１週間に１単元とし、丁寧に指導する。
6月	こくご入門編１ p12～13 「どれかな⑥」 こくご入門編１ p14～15「どれかな⑦」 こくご入門編１ p16～17「どれかな⑧」 こくご入門編１ p18～19「どれかな⑨」	・二音二文字の言葉の意味を理解する。 ・よく口を動かして、はっきり発音する。	・事物と言葉を結びつけることができる。 ・「ペン」にはいろいろな種類があることが分かる。 ・学校周辺や自宅周辺の門に気付、「もん」と言う言葉と結びつけることができる。 ・「いぬ」「ねこ」の言葉と事物を結びつけることができる。 ・関連した言葉「おっぱい」「つの」なども意識して使わせる。 ・いろいろな「くつ」「かさ」についてわかる。
7月	こくご入門編１ p20～21「どれかな⑩」 こくご入門編１ p22～23「どれかな⑪」 こくご入門編１ p24～25「どれかな⑫」 こくご入門編１ p26～27「どれかな⑬」	・いろいろな名称の物を知る① ・いろいろな名称の物を知る② ・いろいろな名称の物を知る③ ・いろいろな名称の物を知る④ ・これまで学習してきた 80 以上の名詞をしっかりと定着させる。	・「やさい」「のりもの」の概念について知る。 ・家庭にある物の名称を知る。 ・絵を見ながら会話をする。 ・物の名称を知る。 ・動物の名称を知る。 ・会話の中で既習の言葉を使う。 ・物の名称を知る。 ・会話の中で既習の言葉を使う。
9月	こくご入門編１ p28 「どれかな⑭」 こくご入門編１ p29 「こえをだして」 こくご入門編１ p30～	・形容詞（色の名前）を知る。 ・形容詞（色の名前）を知る。 ・いろいろな楽器を出し、音の違いに	・形容詞を使う。 ・既習の言葉に形容詞を付けて言う。 ・発声の練習をする。（約１ヶ月程毎日やる） ・生活の中にある物をたたいて音の違いに気付かせる。

	31 「どんなおと①」 こくご入門編1 p32 ～ 33「どんなおと②」	気付かせる。 ・楽器を使って音の違いを知る。	・全身で音を表現する。 ・生活の中にある音を真似て言う。
10月	こくご入門編 p34 ～ 35 「どんなこえ①」 こくご入門編 p36 ～ 37 「どんなこえ②」 こくご入門編 p38 「これなあに①」 こくご入門編 p39 ～ 40 「これなあに②」	・助詞「は」を使う。 ・助詞「は」を使う。 ・鳴き声の模倣を上手になろう。 （発音を上手になろう。） ・鳴き声の模倣を上手になろう。 （発音を上手になろう。）	・鳴き声を模倣する・「ねこはニャーニャー」など。 ・鳴き声を説明する「雀はチュンチュンなく」など。 ・きれいに発音する。 ・同じ音を二回続けて言う言葉をきれいに発音する。
11月	こくご入門編 p41 「これなあに③」 こくご入門編 p42 「これなあに④」 こくご入門編 p43 ～ 71	・鳴き声の模倣を上手になろう。 （発音を上手になろう。） ・鳴き声の模倣を上手になろう。 （発音を上手になろう。）	・既習の言葉をきれいに発音する。 ・二音節を意識しながらきれいに発音する。 ・いつでもどこででもきれいな発音で言う。 ・全部の言葉をきれいに発音する。
12月	こくご入門編2 p1 「じをよもう」 こくご入門編 p2 ～ 3 「どれとどれがおなじかな①」 こくご入門編 p4 ～ 7 「どれとどれがおなじかな②」	・助詞「も」を理解し使う。 同じ物であることを理解させる。 ・助詞「も」を理解し使う。 同じ物であることを理解させる。 ・助詞「も」を理解し使う。 同じ物であることを理解させる。	・挿絵を見ながら、これからの学習について話し合う。 ・同じ物が二つあることに気付く。 ・「これもりんご」の助詞「も」に気付く。 ・「おなじ」「ちがう」の意味を理解し使う。 ・同じ文字があることに気付く。
1月	こくご 入門編 p8 ～ 9 「どれがちがうかな」 こくご入門編 p10 ～ p18 「どれかな①」（清音） こくご入門編 p19 ～ 23 「どれかな②」濁音・半濁音	・物の名前から清音、濁音、半濁音を理解させ読ませる。 ・物の名前から清音、濁音、半濁音を理解させ読ませる。 ・物の名前から清音、濁音、半濁音を理解させ読ませる。	・鏡文字との違いに気付く。 ・物の名前の最初の文字がわかる。 ※繰り返し繰り返し覚えるまで読ませる。 ・物の名前の最初の文字が分かる。 ※繰り返し繰り返し何度も覚えるまで読ませる。
2月	こくご 入門編 p24 「どれかな③」促音 こくご入門編 p25 ～ 28 「どれかな④」拗音・拗長音・拗促音	・促音、拗音、拗長音、拗促音の音を理解させ読ませる。 ・促音、拗音、拗長音、拗促音の音を理解させ読ませる。	・促音の音に気付き、そうでない音との違いに気付く。 ・促音を読むことができる。 ・きれいな発音でそれぞれの音を発音する。 ・それぞれの音を見分けて読む。

	こくご入門編 p29 「じをかこう」	・促音、拗音、拗長音、拗促音の音を理解させ読ませる。	・挿絵を見ながら字を書くことに対する期待感を持つ
3 月	こくご 入門編 p30 ～ 35 「せんをなぞる」 こくご入門編 p36 ～ 39 「つくしとかく」 こくご入門編 p40 ～ 44 「じをなぞる」 こくご入門編 p45 「ひらがなをかきましょう」	・正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方を理解させる。 ・もじを丁寧に書くことをこころがけさせる。	・丁寧にゆっくりと書く。 ・はみ出さないように丁寧に書く。 ・点線に沿って字を書く。 ・挿絵を見ながら学習への期待感を抱かせる。

年間指導計画（教科：国語参考例）　　〈小学校参考例ＮＯ２〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4 月	「みんなのなまえ」 1 自分の名前 2 友達の名前 「みのまわりのもの」 1 身の回りの物 2 欲しい物 「あいさつ（1）」 1 あいさつの言葉 2 伝言ゲーム	自分の名前に反応したり，自分の名前を書いたりする。 配達ごっこや郵便屋さんごっこなどをして友達の名前を覚える。 身の回りにある物の名前を覚える。 身の回りにある物から欲しい物やしたいことなどを相手に伝える。 よく使われるあいさつの言葉や動作を覚える。 いろいろなあいさつをする遊びで，実際にあいさつをする練習をする。	・歌やリズミカルな調子の「○○さん」「はい」のような言い方に慣れて返事をしたり，挙手をしたりする。 ・自分や友達の名前をなぞったり、書いたりする。 ・自分の顔や友達の顔の塗り絵に色を塗る。 ・友達や教師に名前や顔写真の付いたカードなどを配る。 ・身の回りにある物の名前を覚えたり，指示された物を探したりする。 ・何か欲しいとき，したいときに動作や簡単な単語で意思表示をする。 ・簡単なあいさつの言葉を言ったり，身体表現したりする。 ・どんな場面にどんなあいさつが必要か考えて言う。 ・紙に書かれたあいさつの単語や簡単な文を読んで友達に伝えるゲームをする。
5 月	「あいさつ（2）」 1 あいさつの種類 2 あいさつの練習 3 場面ごとのあいさつ 「おかあさんへのてがみ」 1 お母さんの仕事 2 感謝の言葉 3 感謝の手紙 「おこづかい」 1 伝言と報告 2 お使い	いろいろなあいさつ言葉を知る。 いろいろなあいさつの言葉を練習する。 いろいろな場面に応じてあいさつができるようにする。 お母さんの家での仕事を知り，自分たちがお世話になっていることに気付く。 どうしたら感謝の気持ちが伝わるか考える。 感謝の気持ちを表す手紙を書く。 伝言や報告の方法を知って，練習する。 実際にお使いをする。	・絵やビデオを見て，「おはようございます」「さようなら」などの簡単なあいさつの言葉を知る。こんにちは、こんばんは、しっれいしますなど。 ・絵やビデオを見て，時や場に応じたあいさつの仕方を考える。朝，昼，晩学校で，家で，道端で親戚の人，近所の人、目上の人，友達など。 ・お母さんにどんなことをしてもらっているか発表する。 ・感謝を表す言葉を考えて言う練習をする。 ・感謝の言葉をカセットテープに録音したり，ビデオテープに録画したりする。 ・感謝の気持ちを文章にし，カードに書く。 ・感謝の手紙を書く。 ・指示されたことを伝えられるようにする。 ・伝言の基本の形を知る。「○○が△△といいました」報告の基本の形を知る。「○○が△△をしました」「○○が□□で△△をしました」 ・職員室や保健室へお使いをする。
6	「いろいろなしるし」 1 校内にある標示や標識 2 校外にある標示や	校内、校外にあるいろいろな印や標示が分かる。	・校内の危険箇所を示す標識を探す。 立入禁止、危険、非常口など ・学校周辺にある標識，看板，立て札，掲示などの意味を言う。 通行止め、一旦停止、一方通行など

月	標識 「でんわごっこ」 1電話の使い方 2電話のやり取り 3簡単な取次ぎ伝言 4自宅の緊急連絡先の電話番号	 電話機の使い方やかけ方を知る。 教師や友達と電話のいろいろなやり取りをする。 電話でごっこ遊びをする中で用件を聞き取り伝言を伝える。 自宅の電話番号や緊急連絡先の電話番号がわかる。	・学校内外にある標識，看板，立て札，掲示，交通標識などをできるだけ正しく読み取る。 ・電話機の各部の名称や操作の手順を知る。 ・「もしもし ○.○ です。どなたですか」「もしもし ○ ○ さんですか」「いいえちがいます。わたしは ○ ○ です」などの簡単なやり取りを友達と練習する 。 ・教師と電話で簡単な話をして，簡単な用件を聞き取り自分でも分かるように話す。 ・それぞれの緊急連絡先の電話番号を言ったり，かけたりして，練習をする 。
7月	「えにっき」 1昨日の出来事 2絵をかく 3文を書 4絵日記のかき方 「おとまりかい 」 1めあてづくり 2日程表づくり 3お礼の手紙	昨日の出来事を思い出して話す。 昨日の出来事の一場面を絵にかく。 絵を見て，文を書く。 絵日記のかき方を知り，昨日の絵日記をかく。 お泊まり会でのめあてを考える。 決めためあてをサインペンで書く。 お泊まり会の日程を確認する。 活動内容を書き日程表を作る。 相手を決める。 下書きを書く。 清書をする。	・「昨日，何をしましたか」の質問に対して，絵カードを使って「○ ○ をしました」という文で答える。 ・昨日の出来事の一場面を絵にかく。 ・絵を見て，「～をした」「～をしました」などの簡単な文をカードで並べて作る。 ・絵日記のかき方を聞き，月日，曜日，天気を記入し、昨日の絵日記をかく。 ・お泊まり会のめあて（個人）を教師と一緒に考える。 ・めあてをサインペンで丁寧になぞり書きをする。 ・お泊まり会の日程の話を聞く。 ・日程表に書かれた活動内容をなぞり書きする。 ・なぞり書きが難しいときには，内容の書かれた絵カードや文字カードを並べさせる。 ・だれに書くかを決める。 ・教師と話しながら，書く内容を考える。 ・本文をなぞり書きする。 ・清書をし，間違いがないか読み返す。
9月	「なつやすみのおもいで」 1夏休みの思い出 2感想のまとめ 「もののなまえ（1）」 1身につけている物 2運動会や日常生活で使う物	夏休みの思い出について話したり、聞いたりする。 夏休み中の思い出について話し合い、印象に残ったことがらについて書く。 体の部位や身につけている物を言う。 運動会や日常生活で使う物を言う。 実物に合う絵カードを探したり絵カードに合う文字カードを探したりする。 身の回りにある物の名称の読み書きを練習する。	・夏休みの思い出を絵に書き、絵に書いた物の名前を言う。 ・絵を見ながら、友達の夏休みの思い出の話しを聞く。 ・夏休みの思い出の絵の中に出てきた物の名前を書く。 ・一番印象に残ったことを「だれが」「いつ」「どこで」「どうした」が分かるように書く。 ・体の各部位の絵カードや漢字カードを見て，その部位の名称を言う。（手，足，目，口，鼻，肩，ひざ，ひじ，首など） ・運動会や日常生活で使う物で，漢字で書ける物の名称を言う。（入場門，退場門，赤旗，白旗，帽子，組み立て体操，徒競走，学級対抗リレー，救護席，放送席体操服など）絵カードと漢字カードを結び付ける。 ・漢字で書く物の名称の読み書きを練習する。 ・漢字カードを見て，読む。漢字カードを見て，書く。 ・言葉を聞いて，漢字で書く。 ・正しい筆順で，丁寧に形の整った字を書かせる。
10月	「もののなまえ（2）」 1遠足の持ち物 2駅名 「おはなし」 1絵本 「ものがたり」 1物語の発表	遠足に持って行く持ち物を知る。 持ち物などの名前を書く。 バスや電車の駅の名前を知る。 駅名やバス停名を書いて覚える。 絵本の読み、その内容を知る。 今までに読んだことのある物語を発表する。	・遠足に持って行く荷物を考え，発表する。 ・荷物の名前を言い，片仮名の文字カードを見ながら丁寧に書く。 ・平仮名で書く荷物と片仮名で書く荷物を区別し，その名前を丁寧にノートに書く。 ・駅名カードを見ながら，その名前を言ったり，順番に駅名カードを並べたりする 。 ・写真と文字を合わせたカードを見ながら，駅名を平仮名や漢字で書く。 ・簡単な漢字や片仮名の混じった絵本を読んだり，その大まかなあらすじを発表したりする。

	2教師の範読 3物語の音読 4理解、感想	押し絵や文章を見ながら教師の範読を聞く。 言葉の意味を調べたり、漢字に読み仮名を付けたりしてから、丁寧に読む練習をする。 物語の内容を理解し、感想を書く。	・今までに見たり聞いたりしたことのある物語の題名とあらすじを発表する。 ・文章を目で追いながら静かに聞く。 ・語や文として読めるように繰り返し練習する。 ・全文を通して感じたことを発表したり，感想文に書いたりする。
11月	「ことばあそび」 1 読みの初めが同じ言葉 2 読みの初めが違う言葉 3名前かるた取り 「おはなし」 1教師の範読 2本選び 3本読み 4 感想と簡単な話づくり	「あ」の付く言葉を考えたり発表したりする。 動物や昆虫，花や野菜の名前などいろいろな名前を集める。 作った文字や絵カードを使ってかるた取りをする。 短い話を聞いて登場人物や場面などを知り，発表する。 自分で読みたい本を学級文庫や図書館で見付ける。 言葉や文を確かめながら句読点に気を付けて読む練習をする 。 読んだ後の感想を書いたり発表したりする。 登場人物や場面を考えて話を作る。	・「あ」の付く言葉を絵にかいたり，文字カードにしたりする。 ・名前を文字カードや絵カードにする。 ・友達の読む言葉を聞いて絵カードを取る。 ・声の大きさや速さに気を付けて文字カードを読む。 ・登場人物の名前やどんな話かを発表する。 ・挿し絵や登場人物を見ながら読みたい本を選ぶ。 ・意味の分からない言葉や読めない漢字を調べながら読む。 ・言葉や文のつながりに気を付けて，なめらかに読む。 ・感想文にまとめたり，あらすじを発表したりする。 ・「初め」・「中」・「終わり」の形を知り，場面や登場人物をつなげて話を作る。
12月	「はがきとてがみ」 1はがきと手紙の区別 2はがきや手紙の書き方 「ねんがじょう」 1年賀状の書き方 「しょうたいじょ」 1招待状の書き方	はがきと手紙の違いを知る。 本文の書き方を知り、練習する。 相手の住所や郵便番号を調べたり、書き方を練習したりする。 本文を書く練習をする。 干支の種類を知る。 自分の名前や相手の名前などを書く練習をする。 招待状の種類を知り、本文の書き方を覚える。 招待状を作成する。 招待状を仕上げる。	・はがきや手紙を書いたり、もらったりしたことを発表する。 ・友達や教師に「〇〇をください」「〇〇をしてください」などのような簡単な手紙を書く。 ・漢字混じりで相手の住所や名前、自分の名前や住所を書く。 ・「新年　明けまして　おめでとう」や「謹賀新年」など、いろいろな書き方で書く。 ・十二支が分かり、干支の名前を言ったり、平仮名で書いたりする。 ・漢字混じりで自分や相手の名前や住所を書く。 ・自分なりに招待状の文章を考え、下書きを書く。 ・教師と一緒に漢字混じりの文章に換え丁寧に書く練習をする。 ・挿絵を入れたり、文字の大きさを変えたりし、自分なりの招待状を作成する。 ・自分なりの招待状を作成する。
1月	「かきぞめ」 1学年と名前 2手本の字 3清書 「みんなアナウンサー」 1お知らせ 2先生のアナウンス 3 私たちもアナウンサー 4感想やまとめ	自分の名前と学年を書く練習をする。 子供の実態に応じて硬筆・毛筆を使い分ける。 教師の話をよく聞いて，手本の字を練習する。 手本を見て書き写したり，練習したことを思い出したりして書く。 知らせたいことを考えて書く。 教師のお知らせを聞いて，読み方や聞き方の練習をする。 アナウンサーになって原稿を読む。 アナウンサーになった体験を言葉や文にする。	・はね，止め，はらい，折れに気を付けて書く。墨を付けて書くことに慣れる。 ・字の大きさが同じになるように書く。 ・一字ずつ練習して字の大きさを覚える。 ・手本のへん，つくり，かまえなどの組み立てを見て書く。 ・だれに何を知らせたいのかが分かるように原稿を書く 。 ・簡単なメモを取りながら聞く。 ・要点は大きな声ではっきり読むように練習する。 ・聞く人の方を見て話せるように練習する。 ・友達のアナウンスを聞いて思ったことを文で書いたり自分の発表について反省したりする。

2月	「げきのはっぴょう」 1読み聞かせや読書 2話しのあらすじと脚本づくり 3配役の決定 4せりふの練習 5せりふの暗記 6動作を入れて練習 7みんなと練習 8劇の発表と鑑賞	読み聞かせを聞いたり、読書をしたりする。 場面ごとの絵を見ながらすじを考え脚本を作る。 登場人物を確認しながら、配役を決める。 せりふを何度も読んで練習する。 せりふの練習をして、暗記する。 せりふに合った動作を考えながら、練習する。 劇の流れを見ながら、みんなで練習する。 劇の発表をする。 鑑賞のときのマナーがわかる。	・絵本ややさしい読み物を楽しんで読む。 ・絵本ややさしい読み物に出てくる登場人物に興味をもって読む。 ・場面ごとの絵を見ながら，登場人物や言葉，あらすじについて話し合う。 ・配役について話し合って，自分のやりたい役を言う。 ・自分の配役を知って，せりふの練習をする。 ・適切な大きさの声でせりふを言う練習する。 ・せりふに合った動作を教師と一緒に考えながら練習する。 ・大きな動作をしながら劇の練習をする。 ・相手の動きを見ながらみんなと練習する。 ・大勢の人の前で，堂々と劇の発表をする。 ・鑑賞する劇の名前が言える。 ・鑑賞する劇の初めと終わりに拍手することができる。
3月	「1ねんかんのおもいで」 1，1年間の思い出 2，お礼の手紙 3，来年度の抱負 4，言葉の練習	1年の出来事を思い出す。 お世話になった人たちにお礼の手紙を書く。 来年度の目標をもつ。 1年間で学習した仮名や漢字の復習をする。	・楽しかったことや，頑張ったことを，学期ごと，月ごとに話す。 ・クラスのみんなの前で，一番印象に残っていることを発表する。 ・話したことをカードに短い文で書く。 ・6年生へのお礼の言葉を考える。 ・一人でお礼の手紙を用紙に書く。 ・「○年生になったら」という題で作文を書く。 ・基本の文型を基に書く。 ・誤字，脱字のないように，丁寧に文字を書く。 ・新年度への心構えを教師や友達に話したり，友達の話を聞いたりする。 ・簡単なペーパーテストをして，文字の読み書きがどれだけできるようになったかを確かめる。 ・できなかった片仮名や漢字をドリルなどで練習する。 ・漢字や熟語の他，様子を表す言葉や動きを表す言葉などについても復習する。

＜単元計画参考例：小学校＞

国語：使用図書　同成社「ゆっくり学ぶ子のための　こくご」シリーズｐ１～ｐ６

1、単元名　　「くちをよくうごかしてよもう」　①（清音）授業時数７時間
2、教材名　　「あり」
3、単元目標
　（1）絵を見て名称がわかる。（指さしができる。）
　（2）絵を見て物の名称のひらがなが読める。
　（3）ひらがなの五十音を覚えて、口をよく動かして単語を正しい発音で読むことができる。

4、指導計画

時	学　習　活　動	具　体　的　支　援
1	めあて 口をよく動かして、言うことができる。	・授業の始めに、必ず、「めあて」を板書して、みんなで読み合う。 ・拡大投影機や大型コピー機などをつかって、指さし物が教師のそれと一致していることを確かめる。 ・一人一人前にでてきて、教師の役をさせる。

	①口をよく動かして音読をする。 ②教科書で絵とひらがなを見て、「ありはどれかな？」の質問に指さしで答える。以下ｐ６まで行う。 ③絵を見て、口を動かして名称を言う。 以下ｐ６まで行う。	・教師が正しい口形を見せ、それを模倣させる。 ・飽きさせないように、順番に言わせたり、前に出てきて言わせたりする。 ・一人ひとり丁寧に指導する。
2	めあて くちを「よく」動かしていう（読む）ことができる。 ①口をよく動かして音読する。 ②「これは、なんですか。」の質問に答える。	・児童の発達の程度に合わせて、目標の文言を変えていく。 ・教師は「これは、何ですか。」の話形をｐ１からｐ６まで崩さずに言う。 ・答えるとき「これは〇〇です。」の話形で話させる。 ・教師が正しい口形を見せ、それを模倣させる。
3	めあて くちを「よく」動かしていう（読む）ことができる。 ①口をよく動かして音読する。 ②一語ずつカードを作り各自で指をおさえて何回も読む。 ③正しく発音して読む。 （ｐ６まで行う）	・絵と文字のカードを家庭に宿題として持ち帰らせ、何度も読んで練習する。
4	めあて 口を「よく」動かしていう（読む）ことができる。 ①口をよく動かして音読する。 ②教師が提示したカードを同じカードを各自のカードから探す。 （ｐ６まで行う）	・子ども達に自分のカードを机の上に並べさせる。 ・教師は、絵カード、文字カード、絵と文字のカードの３種類のカードを準備する。
5 ～ 6	めあて くちを「よく」動かしていう（読む）ことができる。 ①口をよく動かして音読する。 ②絵カードと文字カードを合わせる。 ③正しく発音する。	・教師は、絵カード、文字カード、絵と文字のカードの３種類のカードを準備する。
7	めあて くちを「よく」動かしていう（読む）ことができる。 ①口をよく動かして音読する。 ②単語のひらがなを読んで、五十音の中から文字を探す。	・ありの「あ」と「り」は赤、いぬの「い」「ぬ」は青などと五十音に色分けして塗る。 （Ｂ４の大きさで見開きにして見られるようにする。）

年間指導計画（教科：国語参考例）　　〈小学校参考例ＮＯ３〉
使用図書：文部科学省（こくご☆・☆☆・☆☆☆）教科書解説

観点の内容	単元名	学習内容
１段階－（１）聞く ○教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 １段階－（２）話す ○教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。 １段階－（３）読む ○ 教師と一緒に絵本などを楽しむ。	○まほうのはこ	・教師の言葉に、振り向いたり耳を傾けたりする。 ・簡単な指示を聞いて、物をよく見るなどする。 ・話しかけに応答して話し手を見たり、音声を模倣したり、返事をしたり簡単な言葉で表現したりする。 ・身近な事物などへ興味や関心を広げる。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○おーい	・教師の言葉に、振り向いたり耳を傾けたりする。 ・簡単な指示を聞いて、物をよく見るなどする。 ・話し掛けに応答して、話し手を見たり、音声を模倣したり、返事をしたり、簡単な言葉で表現したりする。 ・身近な事物などへ興味や関心を広げる。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○え（はる） （なつ） （あき） （ふゆ）	・美しい絵を見ながら、自分の気特ちを表情や身振り、簡単な言葉で表現する。 ・美しい絵を見て楽しむ。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○くまさん くまさん	・わらべ歌に興味をもち単純な言葉の繰り返しを楽しむ。 ・絵を見ながら動作を模倣したり、声に出したりする。 ・絵の内容に興味をもって見る
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○ひでちゃんの いちにち	・家庭生活の中での言葉かけに応じて、耳を傾けたり、よく見ようとしたりする。 ・絵を見て動作を模倣しようとしたり、声に出したりする。 ・身近な家庭生活の場面の絵を楽しみながら見る。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○ほっとけーき	・教師の言葉に、振り向いたり、耳を傾けたりする。 ・簡単な指示を聞いて、物をよく見るなどする。 ・絵本などに知っているものが出てくると、指差したり声に出したりする。 ・簡単な筋のある本を見たり、読んでもらったりすることを楽しむ。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○あなたは だあれ	・身近な事物の登場する絵に興味をもち、耳を傾けたり、よく見ようとしたりする。 ・絵本などに知っているものが出てぐると、指差したり、声に出したりする。 ・簡単な筋のある本を見たり、読んでもらったりすることを楽しむ。
１段階－（１）聞く １段階－（２）話す １段階－（３）読む	○まこちゃんの がっこう	・教師の言葉に、振り向いたり、耳を傾けたりする。 ・簡単な指示を聞いて、物をよく見るなどする。 ・絵本などに知っているものが出てくると、指差したり声に出したりする。 ・簡単な筋のある本を見たり、読んでもらったりすることを楽しむ。
１段階－（３）読む	○おなじ	・物の形や色の違いを見分ける。

１段階－（４）書く ○いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	○せんひき あそび	・書くことへの興味や関心をもつ。 ・いろいろな線を書くことを楽しむ ・筆記用具を正しく持ち、正しい姿勢で書こうとする。
２段階－（１）聞く ○教師や友達などの話し言葉に慣れる。 ２段階－（２）話す ○見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。 ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す	がっこう	・絵本、紙芝居、劇、ビデオ、テレビ、映画などを見たり聞いたり、自分の言葉で話したりする。 ・教師などの簡単な指示や説明を聞いて、できるだけそのとおり行動する。 ・要望などを言葉で訴える。 ・自分の経験したことや見聞きしたことを教師等に簡単な言葉で話す。 ・幼児語を使わないで話す。 ・身近な人に自分から「はい」という返事や「おはよう」「さようなら」などのあいさつをする。
２段階－（１）聞く ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（１）聞く（２）話す ２段階－（３）読む ○文字などに関心をもち、読もうとする。	○いえ	・教師等から簡単な指示を聞いてできるだけそのとおり行動する。 ・要望なとを言葉で訴える。 ・自分が経験したことや見聞きしたことを簡単な言葉で話す。 ・簡単な伝言をする。 ・幼児語を使わないで話す。 ・返事やあいさつをする。 ・買い物や電話での対応の言葉に慣れる。 ・身近な生活の中でしばしば目に触れる標識、看板、広告などについて関心をもち、読もうとする。
２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（１）聞く（２）話す ２段階－（２）話す	○げき あそび	・友達と一緒に簡単なせりふのある劇をする。 ・幼児語を使わないで話す。 ・簡単な童話、放送、録音などを聞いたりしてその内容を楽しむ。 ・劇の筋をおって簡単な動作や言葉で表現する。
２段階－（１）聞く（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（２）話す ２段階－（３）読む	○えばなし	・絵本や簡単な紙芝居やビデオなどを見たり開いたりしてその内容を楽しむ。 ・自分の経験したことや見聞きしたことを教師等に簡単な言葉で話す。 ・絵の主題や流れなどについて相手に分かるように話す。 ・幼児語を使わないで話す。 ・会話の中のやさしい文字を教師と一緒に読んで楽しむ。
２段階－（２）話す ２段階－（３）読む	○なまえ	・自分の名前の文字が分かる。 ・自分や友達の名前や文字に関心をもち、言ったり読んだりする。
２段階－（４）書く ○文字を書くことに興味をもつ。	○かいてみよう	・点線の上をなぞって書く。 ・簡単な図形をまねて書く。 ・書くことへの興味、関心をもつ。
２段階－（４）書く ２段階－（４）書く ２段階－（４）書く	○ひらがな （一） （二） （三）	・文字を書くことに興味をもつ。 ・平仮名の簡単な語句をなぞったり、書き写したりする。 ・鉛筆などを正しく持ち、正しい姿勢で書く。
２段階－（４）書く	○なまえ	・自分の名前を平仮名で書く。 ・友達の名前にも関心をもつ。
３段階－（１）聞く ○身近な人の話を聞いて、内容の	○かんげいかい	・教師や友達の話を聞いて、内容が分かる。

あらましが分かる。 ３段階－（２）話す ○見聞きしたことなどのあらましを教師や友達と話す。 ３段階－（３）読む ○簡単な語句や短い文などを正しく読む。		・あいさつや簡単な自己紹介、短い話をする。 ・話の要点、話し方、発音、話す速さ、大きいさ等に気を付けて話す。
３段階－（１）聞く ３段階－（２）話す ３段階－（３）読む	○たのしかったえんそく	・教師や友達と一緒に、楽しんでビデオの視聴をする。 ・楽しかったことや簡単な感想を、要点をつかんで話す。 ・分からないことがあったら尋ねたり、簡単な指示に答えたりする。
３段階－（１）聞く（２）話す ３段階－（１）聞く（２）話す ３段階－（２）話す	○でんわ	・簡単な用件を電話で聞いたり話したりする。 ・相手の話を注意して聞き、簡単な取り次ぎや伝言をする。 ・相手に伝わりやすいように話し、 必要なときは丁寧な言葉で話す。
３段階－（１）聞く（３）読む ３段階－（１）聞く（２）話す ３段階－（２）話す	○かいもの	・簡単な指示を聞き取って伝言したり、メモを見て、そのとおりに行動したりする。 ・日常のあいさつや買い物の簡単な受け答えをする。 ・相手に伝わりやすいように話したり、聞き返したりして買い物をする。
３段階－（３）読む ３段階－（３）読む	○ひらがなをよもう	・長音、拗音、拗長音、促音などを含む身近な言葉に慣れる。 ・長音、拗音、拗長音、捉音などを含む身近な語句の書き表し方が分かる。
３段階－（３）読む ３段階－（３）読む	○かたかなをよもう	・似ている文字に留意して、片仮名の言葉を正しく読む。 ・濁音、半濁音、長音、拗音の表記の仕方が分かる。
３段階－（３）読む ３段階－（３）読む	○のりもの	・平仮名や簡単な漢字が含まれた文を読む。 ・簡単な説明文を読んで、それぞれの乗り物について、おおまかな内容が分かる。
３段階－（４）書く ○簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。	○ひらがなをかこう	・平仮名を書くことへの関心をもち、簡単な言葉を平仮名で書く。 ・濁音、半濁音、長音、促音、拗音、拗長音等の表記に慣れ、正しく書く。
３段階－（４）書く ３段階－（４）書く	○かたかなをかこう	・片仮名を書くことへの関心をもち、簡単な言葉を片仮名で書く。 ・濁音、半濁音、長音、促音、拗音、拗長音等の表記に慣れ、正しく書く。
３段階－（４）書く ３段階－（４）書く	○ぶんをかこう	・文を書くことへの興味や関心をもち、身近な経験や出来事について、簡単な文を書く。 ・主語と述語の関係や助詞の使用に気を付けて、文を正しく書く。
３段階－（４）書く ３段階－（３）読む（４）書く	○かんじでかこう	・自分の名前を漢字で書く。 ・漢字に関心をもち、簡単な漢字の読み書きに慣れる。
３段階－（４）書く ３段階－（４）書く ３段階－（３）読む（４）書く	○えにっきをかこう	・絵日記に関心をもち、身近な出来事や経験を、簡単な絵日記として書く。 ・平仮名や片仮名、簡単な漢字の含まれた文を書く。 ・周囲の様子、動作、行動や気持ちなどを表す文を読んだり、書いたりすることに慣れる。

年間指導計画（教科：算数参考例）　　〈小学校参考例ＮＯ１〉
算数：使用図書　同成社「ゆっくり学ぶ子のための　さんすう」シリーズ

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	さんすう１　ｐ２～「おおきいなぁ！ちいさいね！」 さんすう１　ｐ４～「ながいなぁ！みじかいね！」 さんすう１　ｐ６～「たかいなぁ、ひくいね」 さんすう１　ｐ８～「おもいよかるいかるい」	「大きさを比べる」 ・大きい、小さい、長い、短い、高い、低い、重い、軽いなど数量を表す言葉を理解する。	・大きい、小さいという広範囲の量を表す言葉を絵を見て質問に答えたり、考えたりする。 ・長い、短いを絵をみたり体験を通して学習する。 ・高い、低いを絵を見たり体験を通して学習する。 ・重い、軽いを絵を見たり体験を通して学習する。
5月	さんすう１　ｐ１０～「はやいね、おそいよ」 さんすう１　ｐ１２～「あつい！おおさむい！」 さんすう１　ｐ１４～「ことばをゆたかに①」 さんすう１　ｐ１６～「どっちがほしいかな」	「意味を理解する」 ・言葉を正しく理解し、考えて使い分けることができるようにする。	・速い、遅いを絵を見たり体験を通して学習する。 ・暑い、寒いを絵を見たり体験を通して学習する。 ・「あつい」には「暑い」の他に「厚い、熱い」など同音異義語を学習する。 ・「おおい⇔すくない」などの反対の意味のことばについて、まとめて学習する。 ・絵を見て何をしているか考える。 ・物の大小を比べ、どちらがほしいかを考える。
6月	さんすう１　ｐ１８～「どっちがのみたい？」 さんすう１　ｐ２０～「うまくのせられるかな？」 さんすう１　ｐ２２～「はこをかたづけてね」	「大きさを比べて」表現する。	・絵を見て何をしているか考える。 ・液量の大小を比べ、どちらがほしいかを考える。 ・絵を見て何をしているかを考える。 ・大きさの違う立方体をどうすれば上手く積み上げられるかを考える。 ・絵を見て何をしているか考える。 ・大きさの違う箱を作る。 ・箱の大小を比べ、どの順序だと一つにまとまるか考える。
7月	さんすう１　ｐ２４～「どっちがながい？」 さんすう１　ｐ２６～「どっちがたかいかな」 さんすう１　ｐ２７～「どっちがひくいかな」	「２つを比べて」表現する。	・絵を見て、いろいろな物の長さの違いを考える。 ・絵を見て何があるかを考える。 ・２つを比べてどちらが高いかを考える。 ・絵を見て何をしているか考える。 ・２つを比べて「○○は××より低い」という表現を学習する。
9	さんすう１　ｐ２８～「ごちゃごちゃしてたらわからない」「きちんとならぶとよくわか	「並べて」「そろえて」比べることを理解しよう。	・絵を見て何をしているかを考える。 ・背の大きい、小さいは並んで比べることがわかる。

月	る」 さんすう１　ｐ３０～「くらべるときは、はじをそろえて」 さんすう１　ｐ１４～「ことばをゆたかに②」		・絵を見て何をしているかを考える。 ・長い、短いを比べるうえで「長く伸ばす」「はじをそろえる」ことが大切であることを理解する。 ・「くらべる」という概念を遊びや生活の中で身近に体験する。
10 月	さんすう１　ｐ３４～「どれとどれがおなじかな①」 さんすう１　ｐ３６～「どれとどれがおなじかな②」 さんすう１　ｐ３８～「はめてみよう、ぴったりあったかな？」 さんすう１　ｐ４０～「めかくしあそびをしよう」	「なかまを集める、分ける」ことができるようにする。	・絵を見て、それぞれが何かを考える。 ・同じ仲間を選び、２ついっしょに押さえることができる。 ・絵を見て、それぞれが何かを考える。 ・形は違っても同じ仲間であることを理解する。 ・教具を使って、同じ形のものを同じ向きに入れることを学習する ・目隠しをして、触感でそれが何かを考えたり、大きさを比べたりする。
11 月	さんすう１　ｐ４２～「おなじなかまはどれかな」 さんすう１　ｐ４４～「どれとどれがおなじ？」 さんすう１　ｐ４６～「いろをぬりましょう」	「なかまを集める、分ける」ことができるようにする。	・１２の絵を「動物、野菜、乗り物」の３種類に分類することを学習する。 ・厚紙でできた三角と四角の教具を使って、形の名前を覚える ・「三角は？」「四角は？」という問いに教具を取ったり、指さしで示したりする。 ・円、三角、長方形の紙にそれぞれ「赤」「青」「黄色」の色をぬったものを見せて、色の名称を理解する。 ・「赤いまる」「青い三角」「黄色い長四角」と言える。
12 月	さんすう１　ｐ４７～「おなじかたちはどれかな」 さんすう１　ｐ４８～「なかまはどれかな」 さんすう１　ｐ５０～「なかまのないものはどれかな①」	「なかまを集める、分ける」ことができるようにする。	・同じ形に同じ色をぬることを理解する。 ・教科書を何枚もコピーしておき、「まる、三角、四角」ごとに色分けし、線からはみ出さないように塗ることを学習する。 ・絵を見て、１２種類のそれぞれが何かを考える。 ・教師の質問に対して「動物、乗り物、植物、くだもの」の同じ仲間の名称を言ったり、指さしで示したりする。 ・絵を見て、仲間のいないものを探す。 ・それぞれの問題でそれが仲間でない理由が言える。
1 月	さんすう１　ｐ５２～「なかまのないものはどれかな②」 さんすう１　ｐ５４～「どのくみあわせがいいかな」	「組み合わせ」を見つけ説明することができるようにする。	・絵や写真、実物を見てそれぞれの名前を言う。 ・自転車が仲間でない理由をみんなで考える。 ・左右の絵の関わりを話し合いながら、それぞれの組み合わせを見つける。

	さんすう１　ｐ５６～ 「これだれの？」 さんすう１　ｐ５８～ 「どこかへんだよ」		・絵を見ながらそれぞれが何をしている人かを考え、関わりのあるものを考える。 ・絵を見て、それぞれの面白さや変な点について話し合う。 ・物の用途や機能を話し合い、どこが変なのかを考える。
2月	さんすう１　ｐ６０～ 「ことばをゆたかに③」 さんすう１　ｐ６２～ 「じゃんけんぽんあいこでしょ」「てをだしてつくってみよう」 さんすう１　ｐ６４～ 「どっちがかった？」 さんすう１　ｐ６６～ 「さいころじゃんけん」	「異同弁別・分類」を身につける。	・いろいろな遊びや生活の中から、異同弁別・分類などの思考力を身に付ける。 ・「ぐぅ、ぱぁ、ちょき」がスムーズに出せるように練習する。 ・絵を見ながら「ぐぅは石」「ぱぁは紙」「ちょきははさみ」であることを理解し、じゃんけんを楽しむ。 ・絵を見ながらどっちが勝ったか考える。 ・みんなでじゃんけんを楽しむ。 ・絵を見てどんな遊びであるかを考える。 ・じゃんけんさいころを作って、みんなで楽しむ。
3月	さんすう１ｐ６８～ 「じゃんけんつみき」 さんすう１ｐ６９～ 「いすとりゲーム」 さんすう１ｐ７０～ 「わなげ」 さんすう１ｐ７１～ 「たまいれ」 さんすう１ｐ７２～ 「カード合わせ」	「ルールを理解」し、ゲームを楽しむ。	・絵を見てゲームのルールを理解する。 ・じゃんけんに負けたら、つみきを積むゲームを楽しむ。 ・ルールを理解し、ゲームを楽しむ。 ・おもちゃの人形とイスで、一対一対応を学ぶ。 ・ルールを理解する。 ・入った輪を黒板にはり、遊びながら一対一対応を学ぶ。 ・絵を見ながらルールを理解する。 ・入った玉を一対一対応で数える。 ・教具の絵や図を見てルールを理解する。 ・ゲームを楽しむ。

年間指導計画（教科：算数参考例）　　〈小学校参考例ＮＯ２〉

月	単　元　名	単　元　目　標	学　習　内　容
4月	「かんげい会をしよう」 １５までの数 ２関連の深い一対の物や絵カードの組み合わせ 「なかまあつめ」 １仲間集め ２仲間分け ３比べっこ	５までの数を数えたり、指示された数の物を集めたりする。 関連の深い一対の物を組み合わせたり、絵カードを組み合わせたりする。 「おなじ」「ちがう」の言葉の意味が分かるようにする。 ３までの数で「おなじ」が分かるようにする。 「おなじ」「ちがう」の言葉の意味が分かるようにする。 「おおきい」「ちいさい」の言葉の意味が分かるようにする。 「ながい」「みじかい」の言葉の意味が分かるようにする。	・歓迎会に必要な物の数を考えたり，集めたりする。 ・友達や教師に一対一の対応で，歓迎会に必要な物を配る。 ・コップとストロー，皿とカップを組み合わせて配る。 ・皿にケーキの模型などを配る。 ・身の回りにある物で同じ物同士を集める。 ・１、２の数で同じ数を絵カードや数図カードの中から選ぶ。 ・２種類の物の中から違う物を取り出したり，３種類の物の中から違う物を取り出したりする。 ・身の回りの物を見たり触れたりして，大きい，小さいを体感する。 ・身の回りの物を見たり触れたりして，長い，短いを体感する。 ・運動場に長い線を引いたり，砂場で大きい山を作ったり深い穴を掘ったりして長さや大きさを体感する。

		実際にいろいろな大きさの物を比較してみる。	
5月	「かずのおけいこ」 1 数詞と数物 2 大きさ比べ 「あわせていくつ」 1 集合数物の集まりや数 2 数の系列 3 数の合成・分解 「ボウリングゲーム」 1 やり方 2 倒れた数と残った数 3 合わせた数 4 ゲーム	物の集まりと対応した数詞が分かる。 数の大小比較をする。 物の集まりや数詞と対応して数量が分かる。 数系列を理解する 。 数の合成・分解ができる。 ボウリングゲームのやり方やルールを知る。 倒れたピンの数や残ったピンの数を数える。 倒れたピンの数を合わせる。 順番を守って，楽しくゲームをする。	・２０までの数唱をする遊びや体育などでの掛け声を掛ける練習をする。 ・３までの物の数を数詞を付けて数える。 ・身の回りの整然と並んでいる物を数詞を付けて数える。 ・具体物や半具体物を使って， 100 までの数の大小比較をする。 ・1000 までの数の大きさを比べる。 ・具体物を使い，合わせて 3～5 にする練習をする。 ・２枚の数図カードや数字カードの合わせた数を数字で表したり， ・数図カードや数字カードを使って，合わせて１０以下の数にしたりする練習をする。 ・百の位，千の位を知り，十進法の仕組みを知る。 ・はじめの数も増加した数も一緒に最初から数えたり，はじめの数に数え足ししたりする。 ・得点の数え方を知る。 ・ピンの数や並べ方，投げる位置や回数などを知る。 ・１回投げてピンが何本倒れたか，何本残っているか数える。 ・２回投げて，倒れたピンの本数を数える。 ・得点が正しく計算されているか点検する。 ・ピンが倒れた数を合わせて得点を出す。 ・ピンを並べる係や得点係など，係を分担して協力してゲームができるようにする 。
6月	「じこくとじかん」 1 時刻 2 時間 「にっかひょうとこよみ」 1 日課表や時間割 2 こよみ 「いろいろなかたちといろ」 1 形づくり 2 かく 3 切って、色塗り 4 仲間分け	時刻の意味を大まかにとらえる。 時間の意味を大まかにとらえる。 日課表を見て学校の一日や時間割りが分かる。 カレンダーなどを見て、いろいろ調べる。 いろいろな物を使って三角形、四角形などの形づくりをする。 三角形、四角形を作ったりかいたりする。 かいた三角形や四角形などを切って色を塗る。 切った図形を使って、色で分けたりする。 切った形を組み合わせていろいろな形を作る。	・時計の針を見て，何時，何時半，何時何分などが分かる。 ・午前，午後の範囲と正午の使い方が分かる。 ・生活の中で，時計や暦を利用し，簡単な時間や日数の計算をする。 ・月行事予定表や時間割を一人で見て，明日の時間割や予定が分かり，連絡帳などに書く。 ・昨日，今日，明日の意味が分かる。今日の日付や １週間の曜日が分かる。 ・今週，来週や今月，来月の意味を知る。 ・日付のついたち，ふつか，みっかなどの読み方が分かる。 ・色板や色棒でいろいろな形づくりをする。 ・丸，三角，四角の形を分類し，名称を言う。 ・正方形，長方形，正三角形，直角三角形などの特徴が分かり，かいたり作ったりする。 ・紙を折ったり，切ったりして，円，三角形，四角形の形を作る。 ・自分でかいた図形を切り取り，好きな色で丁寧に塗る。 ・図形の色や形を増やして，仲間分けする。 ・切った図形を組み合わせて車など，いろいろな物を作る。
7月	「ジュースやさん」 1 水の量を比べる 2 基準量で比べる 3 かさの単位を知る 4 ジュース屋さん 「かぞえてみよう（1）」	容器に入った水の量を目で比べ，それが正しいかどうか調べる方法を考える。 容器に入った水の量を基準になる物を使って比べる。 ℓやdℓ を知る。 ジュース屋さんごつこをする。 10，20 又は 30 までの数を数える。 具体物を数えたりまとめて数えた	・容器の中の水の量の比べ方を考える。 ・基準量（コップ）に分けて比べる。 ・容積の単位（ℓやdℓ ）を知る。 ・色水を作り，10 dℓ ずてコップに入れて売る。 ・３０までの数を正確に数える。 ・５ずつまとめて ５，１０ 、１５，２０ と数える。

	1 数を数える 2 大きさ比べ 3 何番目	りする。 数と数字カードを対応させる。 10 ～ 30 までの数を逆唱する。 数字を書く。 数の大きさを比べる 。 大きさ比べのゲームをする。 順番を考える。	・数え棒を使って，１０をひとかたまりとし，［１０といくつ」といった操作をする。 ・３０までの数を逆唱する。 ・３０までの数字を書く。 ・３０までの数の数字カードを見て大小を考える。 ・２枚の数字カード（ ３０まで）を友達と出し合い，大きい方のカードが勝っゲームをする。 ・前（後），上（下）から何番目を知る。
9 月	「くらべよう（2)」 1 長さ比べ 2 重さ比べ 3 広さ比べ 4 太さ比べ 5 厚さ比べ 6 比べましょう	物の長さを比べる。 物の重さを比べる。 物の広さを比べる。 物の太さを比べる。 物の厚さを比べる。 物の長さ、重さ、広さ、太さ、厚さなどを比べ、結果を発表する。	・鉛筆 3 本，クレヨン 3 本，リボン 3本，テープ 3本を片方の端をそろえて，長短を比較する。 ・「一番長い（短い)」「 2番目に長い（短い)」「Ａより長い（短い）のはＢ」のような言い方を覚える。 ・発泡スチロールと木のように，見かけの大きさとに重さが異なる物の三つの重さを，手で持って比較する。 ・「一番重い（軽い)」「Ａより重い（軽い）のはＢ」のような言い方を覚える。 ・机やテーブルなどの広さを紙に写して，広さを比較する。 ・「広い」「狭い」という言葉を覚える。 ・机やテーブルなどの広さを紙に写して，広さを比較する。 ・「広い」「狭い」という言葉を覚える。 ・三つの物の太さを比較した後，大きさの異なる輪を三つの物に通して，比較した結果を確認する。「一番太い（細い)」「Ａより太い（細い）のは Ｂ」のような言い方を覚える。 ・三つの物の厚さを，同じ高さの平面に置いて比較する。 ・「一番厚い（薄い)」「Ａより厚い（薄い）のは Ｂ」のような言い方を覚える。 ・重い（軽い）順に並べたり，太い（細い）順に並べたりして，三つの物を比較し，順番に並べる。 ・二つの物の重さを，秤を用いて比較する。 ・秤の針の位置に印を付けて比較する。
10 月	「たしざん（1)」 1 たし算 「かいもの」 1 買い物練習 2 買い物	「ぜんぶで」「あわせて」などの意味を知り、計算練習をする。 増加の意味を知りそれを意識しながら計算練習をする。 お金の種類を覚え。 値札を読む練習をする。 品物を選びお金を支払う練習をする。 等価関係を知る。 自動販売機の使い方を知り、実際に使う練習をする。 お菓子を買いにいく。	・具体物や半具体物を使い１位数＋１位数で和が１０以下の計算をする。 ・１位数＋１位数で繰り上がりのある計算をする。 ・２位数＋１位数で繰り上がりのある計算をする。 ・お金の種類と名前を覚え指示された硬貨を選ぶ。 ・５００円までの値札を読みそのとおりにお金を出す。 ・自分の好きな品物を選んで、１００円単位の値札を見て、そのお金を支払う練習をする。 ・ジュースの自動販売機にもいろいろな種類のジュースがあることが分かり、その買い方が分かる。 ・自分の好きなお菓子を選び、レジで代金を支払う。
11 月	「かぞえてみよう（2)」 1 ２０より大きな数 「ひきざん（1)」	２０から５０までの数を具体物や数字を使って数える。 「へった」「のこりは」の言葉の意	・「２０から」順に数字カードを見て、２１、２２、２３と３０まで数える。 ・３０のおはじきや数え棒などを１０ずつ三つに分ける。 ・２０から３０までの数の表し方を書いて覚える。 ・数えたおはじきの数を書いて数字カードを作る。

	1 ひき算 2 計算練習 ① 3 計算練習 ② 「いろいろな かたち」 1 四角形づくり 2 仲間分け	味を知る。 もとの数より小さくなることを知り，答えを見直す。 ひき算に慣れ，自分で計算できるように練習する。 三角形をつなげて四角形を作り，つながりのある形であることを知る。 大きさや形で分けて，いろいろな四角形があることに気付く。	・もとの数，取り去る数，残りの数を意識して具体物を使って体験的に操作する。 ・具体物を使い，１位数－１位数（繰り下がりなし）の計算の仕方を覚える。 ・式の書き方を覚え，１位数－１位数（繰り下がりなし）の計算をする。 ・いろいろな問題を解いて計算に慣れ，自信を付ける。 ・かいてある点を結んでできた三角形を切り取り，四角形になるように考えて並べてはる。 ・平行の意味を知り，一組の四角形と二組の四角形に分ける。
12 月	「あわせてみよう」 1 合わせるといくつ 2 いくつに分けられる 「かけざん」 1 数え方 2 具体物の配分 3 九九 「わなげゲーム」 1 ゲーム	１０の数であわせる練習をする。 具体物や半具体物を使いながら、１０までの数字を分ける練習をする。 まとめて数える方法を知り練習する。 分配する仕方をする。 九九の練習をする。 ゲームの結果をまとめる。 表の作り方を知る。 表やグラフから順位やその変化など特徴をつかむ。	・具体物や半具体物を使って、５までの数で合わせるといくつになるか考える。 ・具体物や半具体物を使って、５は１といくつに分けられるか、２といくつに分けられるかなどを考える。 ・立式して、答をかく練習をする。 ・具体物を５ずつまとめて数える練習をする。 ・具体物を５ずつ分配する練習をする。 ・具体物を１０ずつ分配する練習をする。 ・２の段のかけ算をする。 ・輪投げゲームの結果を輪の入った数を記入して表にする。 ・輪をいれるのが難しいものほど点数を上げるなど条件付けてゲームをし、１回ごとの点数を、絵グラフや棒グラフにする。 ・表やグラフを見て、入った輪の総数や総得点を調べたり大小比較したりする。
1 月	「おかねの けいさん」 1 お金の種類と名前 2 乗り物と切符 「とけい」 1 時計と時間 2 生活カレンダー	お金の種類を知り名前を覚える。 等価関係を知り，お金の出し方を練習する。 行き先を決めて，切符を買う練習をする。 券売機を使って切符を買うことに慣れる。 時間や時刻に関係のある言葉を知り，時計に興味をもつ。 一日の生活を振り返り，時間で動いていることを知る。	・お金の種類と名前を覚えて，指示された硬貨を選び出す。 ・5 円、10 円、50 円、100 円、500 円までの等価関係を練習する。 ・行き先を決め，料金を確かめて，切符代を出す練習をする。 ・お金を入れてから，行き先のボタンを押すことを練習する。 ・おつりがないようにお金を出したり，おつりがあるように出したりして買い方を練習する。 ・○ 時間 ○ 分－ ○ 時間 ○ 分，○ 時間 ○ 分＋ ○ 時間 ○ 分などの計算をする。60 進法，12 進法などの意味が分かる。 ・生活カレンダーをかき，食事や勉強の時間，在校時間などを，計算して求めることができる。
2 月	「わけてみよう」 1 いろいろな数の合成と分解 2 分ける	いろいろな数を合わせたり、分けたりする。 二つずつに分けることの意味を知る。 三つずつ分けることの意味を知る。 いくつかに分けることの意味を知る。	・４ は １（２，３）といくつに分けられるか考える。 ・5は １（２，3，４）といくつに分けられるか考える。 ・１０までの数を合わせたり分けたりする。 ・１０までの数を２ずつに分ける練習をする。 ・１０までの数を３ずつに分ける練習をする。 ・１０～２０ までの数を，同じ数ずつに分ける練習をする。

	「カレンダーをつくろう」 1　曜日と日付 2　1ヶ月カレンダーづくり 3　四季や年中行事 4　1年カレンダーづくり	曜日と日付があることを知る。 1ヶ月のカレンダーを作る。 1年に四季やいろいろな行事があることを知る。 1年カレンダーを作る。	・曜日の名称や順序を覚えて正しく言う。 ・曜日，日付をカレンダーに記入する。 ・自分の誕生日や友達の誕生日をカレンダーに記入する。 ・四季の名称を知る。自分で1年間のカレンダーを作る。
3月	「たしざん（2）」 1たし算の意味 2たし算の仕方 3文章題 「ひきざん（2）」 1ひき算の意味 2ひき算の仕方 3文章題	どんな場合にたし算を使ったらよいか考える。 式の書き方を知って、計算練習する。 文章を読んで問題を解く。 どんな場合にひき算を使うか理解する。 式の書き方を知って、計算練習する。 文章を読んで問題を解く。	・2位数＋1位数（繰り上がりなし）の計算をする。 ・10のかたまりがいくつ，端数がいくつを考えてから二つの数を合わせる。 ・2位数＋1位数（繰り上がりあり）の計算をする。 ・2位数＋2位数（繰り上がりあり）の計算をする。 ・筆算の仕方を覚え，計算練習をする。 ・ドリルやプリントで繰り返し練習する。 ・なかなか定着しない児童が多いと思われるので，場合によっては，繰り上がりのないたし算に戻って，繰り返し練習をさせる。 ・問題文を自分で読み，数量関係を図にかくなどして問題を解く。 ・具体物をタイルやおはじきに置き換えて考える。1位数－1位数の計算練習を数式でする。 ・2位数－1位数（繰り下がりなし）のひき算を数式で計算練習をする。 ・2位数－2位数（繰り下がりなし）のひき算を数式で計算練習をする。 ・問題文を自分で読み，半具体物を使ったり，絵や図をかいたりして，数量関係を考える。 ・立式して，問題を解く。

＜学習指導参考例：小学校＞
　算数：使用図書　同成社「ゆっくり学ぶ子のための　さんすう2」シリーズｐ4～ｐ6

教材名
　『ゆっくり学ぶこのための　さんすう2』江口季好・村上直樹編

題材名
　「どっちがおおい？」ｐ4～5　　1／3時間目

ねらい
　前時の「1対1対応」の学習で学んだことを活用しながら、「人と物」、「物と物」を対応させ、そのどちらが「同じ」「多い」「少ない」を判断する学習である。
　本時の学習でも実物や人形、絵カードといった具体物を使って体験的に学習させたい。

指導内容	学習活動と留意点
1、本時のめあてを知る。	「どっちがおおい？」を比べる学習をすることを伝える。
2、学習課題を確認する。	教科書の挿絵「女の子とランドセル」を拡大コピーしたものを切り分けて、女の子5人、ランドセル5個の絵カードを黒板に提示する。 その他の絵カード準備し、順次提示する。

	【発問】「女の子」と「ランドセル」どっちが多い？ ※①～④までを一度に提示するのではなく、一つずつ児童の理解度を確認しながら提示する。
3、１対１対応で比べる 4、身の回りのものを比べる	女の子とランドセル、男の子と帽子、エンピツとキャップ、コップとお皿を絵カード、をマッチングさせる。その際、「○○と○○は同じ」「○○が多い」「○○が少ない」という言葉で言えるように指導する。 ※「どっちが多い？」という質問の意味が理解できない児童には「この男の子たちは、みんな帽子がかぶれるかな？」というように具体的に問いかけ、1対1対応させるようにしたい。 教室内にある物を使って一対一対応で比べ「どちらが多いか」を比べる活動を通して、学習したことを日常生活につなげる。 【例】 机と椅子、歯ブラシとコップ、教科書とノートなど
5、まとめ	使用した絵カードを用いて本時の学習を振り返る。1対1対応で比べることで「同じ」「多い」「少ない」がわかることを確認する。

年間指導計画（教科：算数参考例）　　〈小学校参考例ＮＯ３〉
使用図書：文部科学省（さんすう☆・☆☆・☆☆☆）教科書解説

観点	題材	指導内容
「数量の基礎」 「量と測定」		1－（1） 具体物の有無が分かる。 1－（2）身近にあるものの数量に関心をもつ。 1－（3）身近にあるものの形の違いに気付く。 「数量の基礎」・「量と測定」・「図計」
	○とうこう 「靴入れ」 「連絡帳」 「朝の会」	1－（3）・自分のマークを区別する。 1－（1）・関連の深い一対のものを組み合わせる。 1－（3）・自分や友達のマークを区別する。 1－（1）・身近にある物や人の名前を聞いて指さしたりするなど特定の物に着目する。
	○あそびどうぐのせいり 「遊び道具の整理」	1－（1）・関連の深い物を組み合わせたり共通の特徴を見つけて分類したり、整理する。
	○きゅうしょく 「配膳」その１ 「配膳」その２ 「配膳」その３ 「配膳」その４ 「給食の後片付け」	1－（1）・「ナプキンをだしましょう」と言われてナプキンを出す。 1－（1）・盆や皿を一人にひとつずつ配る。 1－（1）・「牛乳ありますか」と言われて、配膳されたものの中からそのものを取る。 1－（1）・「パン」「おかず」「牛乳」などの名を聞いて、そのものを指す。 1－（1）・給食後、盆の上の食器などを、皿は皿フォークはフォークなどのように、同じものを分けて片づける。
	○すなあそび 「宝探し」 「砂の山」	1－（1）・目の前で隠れた物を探し出す。 1－（2）・砂場でいろいろな大きさの山を作る。

「図計」	「砂運び」	1－（2）・バケツに砂を入れて運ぶ。
	○みずあそび 「川遊び」 「プール」 「魚すくい」	 1－(1)・橋の下に入って見えなくなった船を下流で期待して待つ。 1－（2）・大小のプールに水を入れる。水を大きさの違う容器へ移し替える。 1－（1）・プールの中にいる魚をすくい、同じ色のかごに入れる。
	○ボールあそび 「ボールころがし」その1 「ボールころがし」その2 「的あて」	 1－（1）・ボールをついたり、ボールをころがして遊ぶ。 1－（1）・ボールをこらがして、見えなくなったボールを探す。 1－（1）・的あてで、倒れた的を印のところに立てる。
	○つみきあそび 「積み木並べ」 「トンネル」	 1－（2）・積み木を並べたり、積んだりして遊ぶ。 1－（3）・大型積み木で橋やトンネルを作る。
	○ねんどあそび 「粘土の山」 「型押し」・「型抜き」 「だんご作り」	 1－（2）・粘土でいろいろな大きさのかたまりを作る。 1－（3）・粘土で型押し遊びや、型抜き遊びをする。 1－（3）・粘土をまるめたり、伸ばしたりして、いろいろな形を作る。
	○かたおしあそび 「足あと」 「型押し遊び」	 1－（3）・足で型押し遊びをする。 ・手で型押し遊びをする。
	○えあわせ 「絵合わせ」 「絵合わせ遊び」	 1－（1）・身近にある果物などのカードで絵合わせをする。 1－（1）・身近にある花や乗り物などの裏返された絵カードで絵合わせをする。
	○えカードあわせ 「自動車」 「友だち」	 1－（1）・分割した自動車の絵を組み合わせる。 1－（1）・分割した人体の絵を組み合わせる。
	○かたはめ 「円・三角形」 「チューリップ」 「魚」	 1－（3）・丸や三角形の型はめをする。 1－（3）・型はめで、二つの花の中から一個を選んではめ込む。 ・分割した魚の型はめをする。
	○かいものごっこ 「買い物」その1 「買い物」その2	 1－（3）・空き箱を持って買い物に行き、空き箱と同じ物を選ぶ。 1－（1）・買い物に絵カードを持って行き、絵カードと照らし合わせて品物を選ぶ。
「数の計算」		2－（1）・身近にある具体ぶつを数える。 2－（2）・身近にあるものの長さやかさなどを比較する。 2－（3）・基本的な図形や簡単な図表に関心をもつ。 2－（4）・一日の時の移り変わりに気付く。 「数の計算」「量と測定」「図形・数量関係」「実務」
	○ともだち	2－（1） ・形、色、大きさなどの学習が楽しくできるように導入やまとめとして使う。
	○なかまあつめ 「なかまあつめ」 （1）～（5）	2－（1） ・三角と四角（2種類）の積み木を形によって分ける。 ・赤いチューリップと黄色のチューリップを色によって分ける。 ・大きいウサギと小さいウサギを、大きさによって分ける。 ・クレヨンはクレヨン箱に、はさみははさみの箱へ片付ける。 ・道を走る乗り物（バス、自動車）と、空を飛ぶ乗り物（飛行機、ヘリコプター、）に分ける。 ・色、形、大きさの違う靴が散らかっている。対になる靴を揃える。
	○くみあわせ	2－（1）

「数の計算」	「くみあわせ」 （1）～（4）	・密接に関係する物ごとに、ペアでまとめる。 ・５匹のリスとコップ、リスとりんごを１対１対応で確認する。 ・リスと三輪車を対応させ、過不足を知る。 ・リスとぶらんこの数が「おなじ」であることの概念を知る。
	○１０までのかず 「１０までのかず」 （1）～（4） 「０のりかい」 「れんしゅう」 「みえないものをかぞえる」 「うごきをかぞえる」	２－（1） ・サルや風船に１対１対応でおはじきを置いていき、数唱から、数える学習への導入を図る。 ・１～３の数を唱え、数える。４～５の数を唱え、数える。 ・一つも「ない」を０で表す。６～１０の数を唱え、数える。 ・１～５の数を唱え、数える。６～１０の数を唱え、数える。 ・太鼓の音、ぶらんこでこいだ数など見えないものや残らないものを数える。
	○カードづくり 「カードづくり」 （1）～（5）	２－（1） ・１～５までの数字カードを作る。 ・６～１０までの数字カードを作る。 ・具体物を数えて、数字カードを選んだり書いたりする。 ・数字カードを読んで、相当するおはじきを並べる。
	○かずくらべ 「かずくらべ」 （1）～（3）	２－（1） ・１～３の数を具体物で比べ、数の大小が分かる。 ・１～５の数を具体物で比べ、数の大小が分かる。 ・２枚の数字カードを出し、大小が分かる。 ・１～１０の数を積み木で重ねて、数の大小を具体物を通して理解する。 ・２枚の数字カードを出し、大小が分かる。
	○あわせましょう 「あわせましょう」 （1）～（2）	２－（1） ・３までの数を具体物から積み木へ置き換えながら、合わせていくつかを数える。 ・５までの数を合わせていくつか数える。
	○わけましょう 「わけましょう」 （1）～（2）	２－（1） ・３の数を分解し、２と１（１と２）に分けられることを知る。 ・５までの数を分けると、「いくつといくつ」に分けられるかを知る。
「量と測定」	○サーカス ①～⑤	２－（2） ・「量と測定」「図形、数量関係」などそれぞれの領域の区切りごとに設け、導入やまとめを図る。
	○おおきい、ちいさい	２－（2） ・先生と子ども、靴の大きさ、大玉とサッカーボールとカラーボールで大きさ比べをする。 ・大玉とカラーボールで大きさ比べをする。 ・大玉とサッカーボールとカラーボールで大きさ比べをする。 ・同じ大きさのパン二つで大きさ比べをする。 ・一個のパンとそれを半分にしたパンで大きさ比べをする。
	○おおい、すくない	２－（2） ・給食のおかずで「多い方は（少ない方は）どれですか」と言われて選ぶ。 ・給食の数で「二人の量が同じ」であることが分かる。 ・瓶の牛乳で「多い方（少ない方）どれですか」と言われて選ぶ。 ・牛乳瓶で「一番多い、一番少ない、二番に多いのはどれか」が分かる。
「図形・数量	○かたはめ	２－（3） ・円、三角、四角の型はめをする。 ・平面に描かれた四角、三角、円の図に四角、三角、円の形態板で型はめをする。
	○いろいろなかたち	２－（3） ・身近にある時計、皿、ボール、お盆から円を取り出す。 ・大きさや色が異なっても、四角が分かる。

関係」		・身近にある黒板、机、サイコロ、クレヨンの箱、ノートから四角を取り出す。 ・大きさが異なっても三角が分かる。 ・身近にあるおにぎり、サンドイッチ、トライアングル、標識から三角を取り出す。 ・ばらばらに置かれた身近にある円い物と四角の物で、円と四角の仲間集めをする。 ・ばらばらに置かれた身近にある四角の物と三角の物とで四角と三角の仲間集めをする。 ・ばらばらに置かれた円、三角、四角に色板で、円、三角、四角の仲間集めをする。
「実務」	○あさ、ひる、よる	2－（4） ・ベッドから起き出したり、学校に行くのは、朝であることが分かる。 ・学校で学習している時や、給食の準備をするのは、昼であることが分かる。 ・辺りが暗くなったり、ベッドに入る時は、夜であることが分かる。
	○かいもの	2－（4） ・自動販売機で１２０円を入れると清涼飲料水が買えることが分かる。 ・１００円を使って、買い物をする。 ・５０円、１００円、２００円で買える物が分かる。
「数の計算」		3－（1）・初歩的な数の概念を理解し、簡単な計算をする。 3－（2）・身近にあるものの重さや広さなどが分かり、比較する 3－（3）・基本的な図形が分かり、その図形を描いたり、簡単な図表を作ったりする。 3－（4）時計や暦に関心をもつ 「数の計算」「量と測定」「図形・数量関係」「実務」
	○１０からのかず ○どちらが　おおいでしょう ○なんこ　はいったでしょう ○あわせてなんびき ○２とびで　かぞえましょう	3－（1） ・１～５０までぐらいの数で具体物と数詞を１対１対応する。 ・５０までぐらいの数の大小比較をする。 ・１０までの数の合成・分解をする。 ・１０までの数の合成・分解を理解して計算を行う。 ・２ずつ、５ずつ、１０ずつまとめて数える。
「量と測定」	○ながさをくらべましょう ○たかさ、ふとさくらべ ○あつい、ふかい ○とおい、ひろい ○おもさをくらべましょう	3－（2） ・媒介物を用いて比較する。任意の単位を用いて比較する。 ・高い低いが分かる。太い細いが分かる。 ・厚い、薄いが分かる。深い浅いが分かる。 ・遠い近いが分かる。広い狭いが分かる。 ・重い軽いが分かる。
	○１日のせいかつ ○ながいはり、みじかいはり ○なんじですか ○ごぜん、ごご ○カレンダー	3－（4） ・１日の生活の中で時計の必要性が分かる。 ・時計の仕組みが分かる。 ・○時の読み取りができる。数字の時刻と時計を一致できる。 ・午前と午後が分かる。 ・カレンダーの仕組みが分かり生活の中で使う。
関数・数量関係	○いろいろなかたち ○しかく、さんかく ○みぎとひだり ○ひょうをつくりましょう ○グラフをつくる	3－（3） ・いろいろな形を区別する。 ・正方形、長方形、三角形が分かる。 ・自分の右と左を区別する。 ・ボーリング遊びの得点を簡単な記号で記録し、得点表で比較する。 ・天候の結果をグラフにまとめる。

年間指導計画（教科：音楽参考例）　　〈小学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	「ちゅうりっぷ」1 歌唱 2 楽器遊び	ゆったりとした雰囲気で歌う。 楽器に触れる。	・曲に合わせてゆったりとした雰囲気を感じて歌う。 ・好きな楽器で音を出したり，簡単なリズム打ちをしたりする。
	「こいのぼり」 1 歌唱 2 歌詞の意味	身体表現をしながら歌う。 歌詞の内容を意識する。	・歌詞を見ながら伴奏に合わせて一人で歌う。 ・全体の曲の雰囲気や歌詞を意識して歌う。
5月	「てをたたきましょう」 1 歌唱 2 楽器遊び	身体表現をしながら歌う。 楽器を打ったり鳴らしたりしながら歌う。	・曲想にふさわしい自由な身体表現をする。 ・手拍子，足踏み，笑う，泣くの歌詞の部分を，打楽器で打ったり，鳴らしたりする。
	「もりのくまさん」 1 身体表現 2 歌唱	音楽に合わせて歩く。 曲に合わせて楽しく歌う。	・手や打楽器をたたきながら，元気よく歩く。 ・歌詞を見ながら，元気よく歌う。 ・自分のパートを覚え，振りも付けて歌わせる。
6月	「かえるのうた」 1 歌唱 2 輪唱	曲に合わせて身体表現したり歌を歌ったりする。 教師や友達と輪唱を楽しむ。	・歌に合った身体表現をしながら，歌う。 ・はっきりした発音で，音程もできるだけ整え，正しく歌う。
	「かたつむり」 1 身体表現 2 歌唱	かたつむりのまねをしながら楽しく歌う。 歌詞を覚えて，丁寧に歌う。	・友達や教師と組んで，一緒に歌い，輪唱に慣れる。 ・かたつむりのまねをしながら，歌詞を正確に覚えて歌う。 ・歌詞を見ながら，伴奏に合わせて歌う。
7月	「キャンプだホイ」 1 身体表現 2 歌唱	音楽に合わせて歩く。 楽しく歌う。	・教師や友達の動きをまねしながら，曲に合わせて踊る。 ・海や山の様子を想像しながら歌う。
	「たんこうぶし」 1 盆踊りの体験発表 2 身体表現	楽しく歌う。 音楽に合わせて踊る。	・写真を見たり音楽を聞いたりして，盆踊りを思い起こす。 ・友達の動きをまねしながら踊る。 ・踊りや太鼓の練習に，地域の方の協力を得る。
9月	「レッッゴーいいことあるさ」 1 鑑賞 2 リズム遊び 3 身体表現	曲を聴いて，運動会を楽しみにする。 曲に合わせてリズム打ちをする。 リズムにのって楽しく踊る。	・楽器の音色に関心をもって聴き，曲のイメージを自分なりの言葉で言う。 ・曲に合わせて，簡単な手拍子を打つ。 ・曲のリズムにのって楽しく踊る。
10月	「さんぽ」 1 身体表現 2 歌唱 3 楽器	音楽に合わせて歩く。 曲に合わせて楽しく歌う。 曲に合わせて楽器を鳴らす。	・知っている歌詞を口ずさみながら自由に歩く。 ・歌詞を見ながら，伴奏に合わせて一人で歌う。 ・タンバリンやトライアングルで，簡単な拍子打ちをする。
	「もみじ」 1 鑑賞 2 歌唱	背景を思い浮かべながら曲を聴く。 正確に歌詞を覚え正しい発音で歌う。	・CD やオルガン伴奏を静かに聴き，歌詞を覚える。 ・ゆっくりした伴奏に合わせて，歌集を見ながら大きな口を開けて歌う。

11 月	「きらきらぼし」 1 歌唱 2 楽器遊び 「バスごっこ」 1 歌唱 2 身体表現	曲に合わせて楽しく歌う。 曲に合わせて楽器を鳴らす。 乗り物に乗っている気分を出して楽しく歌う。 運転手やお客になって歌詞に合った動きを楽しむ。	・曲に合わせて，速さに気を付けて歌う。 ・いろいろな打楽器で，曲に合わせてリズム打ちをする。 ・体を動かしながら歌詞を覚えて歌う。 ・歌詞に合った動きを工夫し，リズミカルに楽しく歌う。 ・切符やハンドル，バスの模型などを作らせる工夫をする。

年間指導計画（教科：図画工作参考例）　　〈小学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4 月	「はるのはな」 1 春の色 2 ちぎってはって 「こいのぼり」 1 はさみとのり	春の自然の様子を色で表現する。 紙を丸めたり，切ったり折ったり，はったりして花や葉，木などを表現する。 紙を切ったり，のりを使ってはったりする。	・「春」「花」などの言葉からイメージされる色で春の野山の様子をかき，自由に春を表現する。 ・花や葉の形をかき，切り抜いたり，紙を折ったりして花や葉を台紙にはる。 ・うろこの形や目の形などを切り抜いて，こいの胴体にはり付ける。
5 月	「いろみずあそび」 1 色水づくり 「ははのひ 」 1 お母さん 「おおきなえ」 1 水を使って	草花で色水を作って，絵をかいたり布を染めたりする。 身近な材料を使って作品を作る。 水で運動場に大きな絵をかく。	・ビニール袋の角を一カ所切って，色水だけ容器に移す。 ・色水を使って絵をかく。 ・布を絞って，模様を作る。 ・お母さんの写真を見て，目，鼻，口などの特徴をつかむ。 ・絵の具を使ってお母さんが働いている姿をかく。 ・題材や構図を考えて，大きな絵をかく。 （くじら、ぞう、大仏など）
6 月	「きれいなもよう」 1 模様づくり 2 なぞる 3 彩色 「ねんどあそび」 1 粘土遊び 2 動物広場	身の回りの物を工夫して使い，模様をかく。 模様をなぞる。 いろいろな模様に色を塗る。 たたく，もむ，伸ばすなどをして遊ぶ。 広場に置きたい動物を作る。	・缶のふたや箱など身近な物を使ってきれいな模様を作る。 ・油性のペンで形をなぞる。 ・色の組み合わせを工夫して，水彩絵の具で色を塗る。 ・粘土をたたいて同じ厚さにして，平たく伸ばす。 ・好きな動物を作る。 ・みんなの作品を集めて動物広場を作る。
7 月	「おもいでのえ」 1 お泊まり会 2 下絵 3 はり絵	楽しかったことを思い出し，かく場面を決める。 みんなで協力して下絵をかく。 色紙や包装紙などをちぎって下絵にはる。	・お泊まり会で楽しかったことを思い出す。 ・お泊まり会での楽しかったことの中で，絵にかく場面を決める。 ・表現したい物の色を考えて，それに合った色紙や包装紙を選んで，ちぎってはる。
9	「すなあそび」 1 砂山	砂場で，山，川，池などを作って遊ぶ。	・砂山を作ったり，穴を掘ったりして遊ぶ。 ・水を流して，川や池を作って遊ぶ。 ・おわんや箱などを使い，砂でいろいろな物を作る。

月	「うんどうかい」 1 線がき 2 色でかく 3 鑑賞	運動会のどの場面をかくか話し合い，構図を決める。 構図に従ってかいた人物を配置したり，背景をかいたりする。 絵を見ながら，運動会の思い出を話し合う。	・運動会で演技をしている友達や見ている人などを線がきし，水彩絵の具で塗る。 ・かいた人物を切り抜き，相談しながら全紙にはる。 ・絵を見ながら，運動会でしたことを話す。
10 月	「ともだちのかお」 1 顔の観察 2 顔の下絵 3 色塗り 「やきもの」 1 陶板の作製 2 模様付け	じっくり時間をかけて観察する。 特徴をつかみ下絵をかく。 丁寧に色を塗る。 土粘土を練り，皿状の板を作る。 土粘土を使い，模様を付ける。	・友達の顔を見て，目，鼻，口，まゆ毛などの位置や大きさを確かめる。顔の輪郭を線がきする。 ・自分で顔の部分の配置や大きさに注意しながら下絵を完成する。 ・水彩絵の具で新しい色を作ったり，しわなどの細かい部分を着色したりする。 ・土粘土を練り，直径 ２５ｃｍの皿状の板を作る。 ・ひも状に伸ばした物を使って，簡単な人の顔の模様を付ける。 ・自分で考えた絵を，粘土を使って完成する。
11 月	「じぶんのいえやのりもの」 1 材料集め 2 下絵と彩色 3 ダンボール切りとはり付け	できるだけたくさんのダンボールを集める。 下絵を画用紙にかき，彩色する。 下絵を見てダンボールを切ったりはったりする。	・ダンボールがありそうな場所を予想し，発表する。 ・作りたい物を大きくかく。 ・配色に気を付けて下絵をかく。 ・線に合わせて切ったり，ガムテープではったりする。 ・下絵を意識しながらダンボールを加工する。

年間指導計画（教科：体育参考例）　　〈小学校参考例〉

月	単　元　名	単　元　目　標	学　習　内　容
4 月	「きほんてきなうんどう」 1遊具運動 2並びっこ 3いろいろな動き	遊びの中で体を動かす経験をする。 友達や自分の位置を意識したり、相手を意識したりする。 基本的な動きを経験する。	・順番やきまりを守って安全に遊具で遊ぶ。 ・合図で友達と一緒に決まった場所に集まる。 ・音楽のリズムに合わせて、走ったり跳んだりする。 ・ギャロップ、スキップなどをする。
5 月	「からだつくりうんど」 1体ほぐし 「はしったり、とんだり」 1短距離走、リレー 2いろいろな跳び方 「てつぼう」 1鉄棒遊び 2いろいろな回り方	体をほぐす簡単な体操をする。 全力で走ったり、ペアで走ったり、リレーをしたりする。 跳び方をいろいろ工夫する。 鉄棒に慣れる。 いろいろな技を知る。	・上体そらし、前後屈、側屈回旋、捻転をする。 ・３０～５０ｍを全力で走った、ジグザグ・Ｓ字などのコースに沿って走ったりする。 ・５０ｍを全力で走ったりハードル走やリレーをしたりする。 ・立ち幅跳び、回転跳び、垂直跳びなどをする。 ・低鉄棒で跳び上がったり跳び下がったりする。 ・低鉄棒で足抜き回りや前回り下りをする。
6	「ボールあそび」 1ボールを使って 2円形ドッジボール	ボールで遊ぶ。 楽しくゲームをする。	・ボールをついたり、けったりして遊ぶ。 ・相手に向かってボールを投げたり、けったりする。 ・ボールをよけたり、相手をねらってボールをころがしたりする。 ・ルールが分かり、楽しくゲームする。

月	「みずあそび」 1水かけ遊び 2水中での遊び	水に慣れる。 水中での体の動かし方をつかむ。	・ホースで水かけ遊びをする。 ・プールの中で水かけ遊びをする。 ・水中歩きや水中おんぶや水中走などをする。 ・にらめっこや水中じゃんけんをする。 ・跳び上がりや鬼ごっこやワニ歩きなどをする。
7 月	「みずあそび」 1バタ足 2呼吸の仕方 3自分の泳ぎ 「どれだけおよげるかな」 1記録会	バタ足で泳ぐ。 呼吸の仕方を練習する。 得意な泳ぎで練習する。 どれだけ泳げるようになったか記録を取る。	・教師の補助を受けながらバタ足をする。 ・ビート板を使ってバタ足をする。 ・水の中に顔を入れ、鼻と口から息を出す。 ・ビート板を使い、呼吸の練習をしながら、バタ足で泳ぐ。 ・クロールが腕の動かし方を練習して、クロールで泳ぐ。 ・け伸びでどれだけ進むか記録を取る。 ・クロールでれだけ泳げるか記録を取る。
9 月	「うんどうかい」 1集団行動 2演技練習	集合、整列、行進の練習をする。 全校体操、各種競争遊戯種目、徒競走の練習をする。	・合図で集合する。 ・集合の位置に移動し、前にならって整列する。 ・手を振って、1列に並んで歩く。 ・曲やみんなの歩調に合わせて歩く。 ・模範演技をまねして体操する。 ・リレーでバトンパスをする。 ・全力で短い距離を走る。
10 月	「マットうんどう（1）」 1転がり遊び 2種目練習 「ゲーム」 1鬼ごっこ	マットの上でいろいろな転がり方をする。 正しい手のつき方を覚えて、種目練習をする。 ルールを理解してゲームをする。	・いろいろな方向へ自由に転がる。 ・指示した方向へ転がる。 ・横転、前転、後転など各種の転がる動きをする。 ・連続前転や連続後転、開脚後転などいろいろな技を組み合わせて運動する。 ・鬼につかまらないように自由に逃げる。 ・一人鬼や二人鬼で鬼ごっこをする。
11 月	「ボールゲーム」 1いろいろなボール遊び 「てつぼう（2）」 1上がり技や回転技 2発表会	簡単なルールを作って遊ぶ。 鉄棒で上がり技や回転技を練習する。 練習の成果を発表する。	・自分に合ったボールを転がしたり、取ったり、けったりして遊ぶ。 ・ルールに沿ってゲームをする。 ・低鉄棒に上がったり下りたりする。 ・低鉄棒で逆上がりなどを練習する。 ・高鉄棒で前回りなどを練習する。 ・できる技を楽しむ。 ・できる技をつなげて連続して行う。

年間指導計画（教科：道徳参考例）　　〈小学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4 月	「あたらしいなかま」 1新しい仲間 2みんなの物	新しい友達を覚える。 自分の物とみんなの物を区別したり、物を大切に扱ったりする。	・友達の名前を覚える。 ・友達の名前や顔をかく。 ・友達と一緒にゲームをする。 ・自分の物に書かれている名前を見る。 ・いろいろな物を大切に扱うことを知る。 ・みんなの物を使うときの決まりを考える。

5 月	「せいけつ」 １体の洗い方 「なかよし」 １遊ぶときのきまり	手や足の洗い方を練習する。 決まりの大切さに気付く。	・体で不潔になりやすいところを知り、手、足、顔を正しく洗う。 ・不潔にすると病気になりやすいことを知る。 ・楽しく遊ぶためのきまりを考える。 ・順番を守ることの大切さに気付く。
6 月	「しつないあそび」 １室内の遊び 「じぶんのこと」 １身の回りのこと	室内の遊びを知る 自分の身の回りのことを進んで行う。	・室内遊びをたくさん知り危険なことにも気付く。 ・危険だからしてはいけない遊びを考える。 ・自分で机やロッカーなどの中を整頓をする。 ・みんなのために進んで清掃道具、図書などの整理整頓をする。
7 月	「あついあつい」 １夏のくらし 「あぶない」 １危険な遊び	夏の特徴を知り過ごし方を考える。 危険な場所や遊びを知り、安全な遊びを考える。	・暑いときの食べ物や服装を言う。 ・汗の始末や衣服を調節をすることが大切なことを知る。 ・暑さに負けない体と心を作るために大切なことを発表する。 ・危険な遊びと安全な遊びの絵カードを区別する。 ・安全な遊びをするための場所と方法を考える。 ・危険な遊びをしないようにポスターを作る。
9 月	「２がっきのめあて」 １反省とめあて ２運動会	夏休みの生活を反省し、２学期のめあてを決める。 練習のめあてを決める。	・夏休みの反省を基に、自分が頑張ることを決めめあてを書いて掲示する。 ・昨年のビデオを見て、頑張ったこを発表し、今年のめあてを決める。 ・自分の出る種目と練習のめあてを発表する。
10 月	「のりもののなか」 １乗り物のマナー 「おてつだい」 １お手伝いの種類	乗り物のマナーを理解する。 お手伝いの大切さを意識する。	・乗り物に乗った経験を発表する。 （バス、電車、タクシー、飛行機など） ・乗り物のマナーを考え発表し、大切なマナーを知る。 ・乗り物の中でしてはいけないことをまとめ、標語やポスターにする。 ・友達や教師の話を聞き、いろいろなお手伝いがあることを知り、他にできるお手伝いはないか考える。 ・お手伝いをしたときの気持ちを考えて、これから取り組みたいお手伝いを発表する。
11 月	「あとかたづけ」 １使った物の片付け 「はやねはやおき」 １時間を守る	最後まできちんと片付ける。 時間を意識して行動することができる。	・元あった場所にきちんと返す。 ・使った物をそろえて返す。 ・数を確かめて整頓する。 ・寝る時間や起きる時間を知る。 ・早寝早起きのよいところに気付く。 ・めあてを決めて、早寝早起きをする。

年間指導計画（教科：国語参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	友達の名前	自己紹介をする。 クイズ形式で楽しく授業を進める。 自己紹介カードを作成する。	・名前、住所、電話番号、生年月日、年齢などを言う。 ・ペアーになり、紹介し合う。 ・「だれのことか」を当てるゲームをする。 ・家族、趣味、特技、好きな食べ物などのことも含めて自己紹介カードを書く。
	日記を書こう	５Ｗ１Ｈ（いつ、どこで、だれと、何を、どうした）という内容で日記に書く。	・日記の書き方を学び、毎日の日記がスムーズに書けるようにする。
5月	手紙を書こう	はがきや手紙の書き方を知る。 父の日、母の日に合わせて完成させる。	・伝えたいことをはっきりと書く。 ・お父さん、お母さんのことを説明する。 ・お父さん、お母さんへメッセージを書いたり、メッセージテープを録音したりする。 ・郵便番号や宛名、住所などを書く練習をする。
6月	漢字の成り立ち	象形文字、部首に着目して、漢字の成り立ちを調べる。	・手、口、目、耳、川、山、日、月、牛、魚、上、下、中、田などの漢字を調べる。 ・国語辞典や漢和辞典の引き方の練習をする。 ・書き順に気を付けて書く。 ・読み方を覚える。 ・身近な公共施設に表示されている文字を集める。 ・道路標識や記号、店の看板などに書かれている漢字を探す。
	家族の紹介	自分の家族を友達に紹介する。	・家族の中でだれがどの仕事をしているか考える。 ・みんなにわかるように工夫して紹介する。 ・自分の両親の職業を説明する。 ・父、母、祖母、祖父、兄、姉、弟、妹などについて話す。
	宿泊学習会の思い出	宿泊学習会を振り返って作文を書く。	・楽しかった思い出を作文に書く。
7月	暑中見舞いを書こう	暑中見舞いの意味を知る。	・宛名と自分の住所、氏名、郵便番号の書き方を知る。 ・暑中見舞いのあいさつ文を書いて覚える。 ・友達や教師に暑中見舞いを書く。 ・字の太さや誤字、脱字に気をつける。 ・パソコンを使って住所録を作る。
	１学期の思い出	１学期を振り返って作文を書く。	・楽しかった思い出を作文にする。
	楽しい夏休み	夏休みを有意義に過ごすための計画を立てる。	・夏休みから連想することをグループで話し合う。 ・地域の行事や活動について調べる。 ・夏休みにしたいことや努力したいことをまとめ、発表する。 ・外出時の留意点を話し合い、計画表に目標や日課表を書く。
9月	夏休みの思い出	夏休みを振り返って作文を書く。	・作文の書き方の決まりを知る。 （ますのあけ方、句読点や「」など原稿用紙の使い方について知る。） ・家族旅行などの写真を見せ合い、発表する。 ・楽しかった思い出を作文に書く。
	物語を読もう	民話や童話に関心をもつ	・ビデオや紙芝居を見る。 ・あらすじを聞いて、その主人公を当てる。 ・教師が物語りを読むのを聞く。 ・物語を聞いた感想を発表する。 ・自分の読みたい本を図書室で借りる。
	電話のかけ方	電話のかけ方を知る。	・基本的な受け答えの練習をする。

10 月	新聞づくり	いつ、だれが、どこで、何をしたという内容で新聞記事を作る。	・相手の名前や用件を聞いてメモする。 ・言いたいこを短くまとめて、はっきりと話す練習をする。 ・実際に家に電話をかける。 ・新聞などを参考にしながら新聞紙面の構成を考える。 ・グループで分担して、取材したり、原稿を書いたりして紙面を作る。 ・完成した新聞を掲示する。 ・新聞を読むことに慣れる。
11 月	劇を作ろう	脚本を読んで、演じたい劇について話し合う。	・図書室で劇物語を見つけ出す。 ・いろいろな登場人物に分かれて、台本を読む。 ・役割分担を決めて、せりふの練習をする。 ・動きをつけながら劇の練習をする。 ・大勢の友達の前で劇を発表する。
12 月	年賀状を出そう 説明文 ２学期の思い出	いろいろな年賀のあいさつ言葉を知る。 お菓子の作り方の説明文を読む。 ２学期を振り返って作文を書く。	・だれに年賀状を出すか決める。 ・干支の絵をかいたり、新年のあいさつを書いたりする。 ・宛名書きの練習をし、年賀状を書く。 ・郵便番号、誤字、脱字などを調べる。 ・十二支を覚える。 ・作り方の順序や注意することなどを読み取る。 ・材料とその量や必要な器具などを用意する。 ・説明文に従って、実習をする。 ・実習をした感想や説明文に付け足して書きたいことを考える。 ・薬、器具の説明書などを読む練習をする。 ・楽しかった思い出を作文に書く。
1 月	書き始め かるた取り	一年間の抱負を毛筆 筆の運び方を知る。 自分たちのかるたを作る。 百人一首を読む。	・正しい姿勢や習字道具の使い方を知る。 ・自由に線を書く。 ・好きな言葉を筆で練習する。 ・形を整えて、まとまりよく書く。 ・大きな紙に自由に字を書く。 ・手や机を墨で汚さないようにする。 ・言葉に合った絵や頭文字を書く。 ・絵札を作る。 ・読み札の頭文字を絵札に書く。 ・文字をはっきりと丁寧に書いて、読み札を作る。 ・作ったかるたで遊ぶ。
2 月	ことわざ 文集を作ろう	いろいろなことわざを調べる。 ことわざの意味を知り覚える。 一年間の思い出を基に、絵や写真を交えて文集を作成する。	・知っていることわざを発表する。 ・ことわざの意味を話し合う。 ・ことわざの内容を覚え、ことわざを当てるゲームをする。 ・簡単な故事成語について調べたり、発表したりする。 ・一年間の各行事の思い出を発表する。 ・楽しかったこと、頑張ったこと、失敗したことなどを箇条書きにする。 ・お世話になった教師への言葉や自分の将来のことなどを選んで書く。 ・将来の夢や抱負、来年度への決意も書く。
3 月	贈る言葉	お礼の気持ちを表す話し方を知る。	・お世話になった教師、友達、家族の人などに向けてお礼の言葉やメッセージを書く。 ・メッセージカードに敬語を適切に用いて書く。 ・一年間の反省をする。

年間指導計画（教科：国語参考例）　　〈中学校参考例ＮＯ２〉

月	単元名	単元目標	学習内容	観点
4月	基礎問題	自分の力を知る。	・テスト問題に取り組む。	読む、話す 聞く、書く
5月	自己紹介 生活日誌	自己紹介をする。 身近な人の紹介をする。 生活日誌を書く。	・名前、学校名、学年、好きなことなど、自己紹介文を書く。 ・身近な人（家族等）の紹介文を書く。 ・皆の前で、発表する。・お友達の発表を聞く。 ・生活日誌の書き方を知る。	話す 聞く 書く 書く
6月	文の書き方 問答ゲーム	主語と述語の関係を知る。 点や音等の使い方を知る。 漢字と仮名の使い方を知る。 質問に答える。	・文中における主語と述語の関係に注意する。 ・句点、読点、長音、拗音、促音、発音、助詞の使い方を知る。 ・漢字や片仮名の使い方などに気付く。 ・だれが～、何を～、どうして～、という質問に答える。	書く 話す 聞く
7月	単文作り 説明文 報告	短い文を作る。 描写の基本を知る。 出来事の報告を知る。	・カードに書かれた言葉を使って、短い文を作り、発表する。 ・説明を読んで、質問に答える。 ・説明を聞いて、描写する。 ・例題の発表を聞く。 ・いつ、どこへ、だれと、なぜ、何のためにという発表の方法を知る。 ・報告文のプリント学習をし、発表する。	書く、読む 読む、話す 聞く、書く 聞く、書く 読む
9月	夏休みの思い出 読書	夏休みの報告をする。 好きな本を選んで読書する。	・報告で学習したことを思い出す。 ・発表の方法に従って、夏休みの出来事を報告する。 ・好きな本を選ぶ。 ・およその内容をつかみ、伝える。	聞く、話す 読む 読む 話す
10月	表示について 身近な書類	いろいろな表示を読み、意味が分かる。 いろいろな書類を知る。	・学校や町、公共施設等で目にする標識や案内板を読み、意味を知る。 （交通機関や乗り物の表示、安全や危険の指示を知らせる標識や案内板等） ・施設等のパンフレットや説明書等の存在を知る。 ・領収書や入場券等を知る。	読む
11月	旅先からのハガキ 電話の対応	親しい人へハガキを書く。 電話などの基本的な応答の仕方を知る。	・郵便番号の意味や住所、宛名の書き方を知る。 ・宿泊学習先（旅先）から出すハガキの書き方を知る。 ・電話の受け答えや、要件をメモする。	書く 話す
12月	年賀状 物語	親しい人へ年賀状を書く。 物語を聞いて、おおまかな流れが分かる。	・年賀状の意味を知る。 ・年賀状に相応した文や絵の書き方を知る。 ・クリスマスやお正月に関連した物語の読み聞かせをする。	書く 聞く
1月	言葉遊び	なぞなぞに取り組む。 ことわざを知る。 標語を知る。	・なぞなぞを出題したり、答える。 ・「急がば回れ」「ちりも積もれば山となる」等のことわざを知る。 ・「注意一秒けが一生」「マッチ一本火事のもと」等の標語を知る。	聞く 話す
2月	視点を変えて	視点を変えて考える。	・一人一人が自分だけの視点を持っていることを知る。 ・表情にあった言葉や考えを書く。	書く
3月	作文	一年間を振り返って作文を書く。 作文を発表する	・報告で学んだことを発展させて、思い出に残った出来事を書き、発表する。 ・皆の前で、発表する。	書く 読む 聞く

通年	書写	硬筆を学ぶ。 書道を学ぶ。	・鉛筆の持ち方、正しい姿勢等を知る。 ・筆の持ち方、正しい姿勢、筆の運び方等を知る。	書く 聞く

年間指導計画（教科：数学参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	時刻と時間（1）	時刻の意味を知る。 時間を計算する。	・学校生活の一日の内容を調べ、日課表を作る。 ・給食、清掃などの開始、終了時刻を言う。 ・デジタル時計やアナログ時計で時刻を読む。 ・一日の学校生活の日課表を活用する。 ・ストップウォッチなどを用いて時間の長さを体感する。 ・１分間、１０分間を体感する。 ・○時から○分後、○分前の時刻を言う。 ・６０進法について知り、簡単な時間の計算をする。
5月	こづかい帳 量と測定	おつりのある買い物をする。 こづかい帳の書き方を知る。 ものさしと秤を使う。 長さや重さを比べる。 cm,m,g,kg 単位を知る。	・手持ちのお金と買いたい品物の値段を比べる。 ・おつりの計算をする。 ・必要に応じて計算機を用いる。 ・買い物で何を買うか計画を立てさせる。 ・買う物の値段を合計する。 ・収入、支出、残高を含めたこづかい帳を作る。 ・100 cmものさしとひもで、２mのメジャーを作る。 ・秤でいろいろな物の重さを量り、「g」で書き表す。 ・自分や友達の身長、体重を測る、 ・自分と友達の身長、体重を比較する。
6月	表とグラフ 加法・減法、乗法除法の計算	表からグラフを作る。 表やグラフを読み取る。 加法・減法を筆算形式で行う。 買い物の代金を求める問題を通して、乗法の意味を知る。	・作業学習などで作った製品の個数を表にする。 ・製品の数を積み木等に置き換え、高さを比較する。 ・方眼紙を使って、表から棒グラフを作成する。 ・作った製品の個数を表やグラフで比較する。 ・だれが一番多いか、だれがだれより何個多いか発表する。 ・筆算で、２位数＋（－）２位数の計算練習をする。 ・２円のあめを２個又は３個買った場合、５円のあめを２個又は３個買った場合、代金はそれぞれいくらになるか。
7月	お金の種類	お金の種類(10,000 まで）とそれぞれの等価関係を理解する。 買い物ごっこをする。	・紙幣同士又は紙幣と貨幣の両替をする。 ・いろいろなお金を数えていくらか言う。 ・模擬貨幣や必要に応じて現金を用いる。 ・値段が記載された食品などの箱や袋を準備する。 ・いろいろな品物の値段表を読む。 ・品物の値段に合わせてお金を出す。
9月	物の長さ 単位mを知る。 距離 100m,500m,1000m の長さを知る。 単位ｋｍを知る。	３０cmものさしで長さを測る。	・身の回りの物の長さを測る。 ・30 ｃｍものさしで測り、その長さを「cm」で表す。 ・ものを 100cm ものさしで計る。 ・４月の身長と比べ、その差を cm で表す。 ・100cm を１ｍと表すことを知る。 ・100m を実際に歩き、何歩で歩けるか調べる。 ・500m なら何歩ぐらいか考える。 ・1000m なら何歩ぐらいかを考える。

			・1000m を１ｋｍ、500m を 0,5km と表すことを知る。
10 月	重さ 図形	重さを比べる。 長方形と正方形の違いを知る。 円の性質を調べる。	・上皿自動秤を使い、いろいろな物の重さを比べる。 ・重さの単位を表す記号「ｇ」を知り、秤で 100g の位置が分かるようにする。 ・粘土で 100g の重さが作れるようにする。 ・100g の重さが 10 で 1kg であることを知る。 ・体重計を使って、1kg 単位で読めるようにする。 ・方向が変わっても形は変わらないことに気付く。 ・いろいろな大きさの長方形と正方形の仲間分けをする。 ・正方形の紙を使って風車を作る。 ・「直角」の名称を覚え、正方形や長方形、直角三角形の図の直角に印を付ける。 ・「半径」や「直径」、「円周」などの名称を覚える。 ・空き缶などを使って、いろいろな大きさの円をかく。 ・コンパスの使い方を覚え、いろいろな大きさの円をかく。 ・日常生活用品の中から円形を探す。
11 月	買い物 液体の量	正確な買い物をする。 消費税や値引き額の計算をする。 いろいろな液体の量を計り、単位を覚える。	・代金をいろいろな金種で構成する練習をする。 ・買い方に応じて代金を計算（加法・乗法・減法）する。 ・ちらしから、いろいろな品物の値段を言う。 ・「半額」、「～割引き」等の意味と求め方の計算をする。 ・消費税の計算をする。 ・いろいろな液体の量を予測し、計る。 ・単位計量カップで何杯かを計る。 ・いろいろな容器の単位を読む。
12 月	カレンダー	カレンダーの使い方が分かる。 カレンダーの仕組みを知る。	・毎月の学校行事と１月から１２月までとを結びつける。 ・１週間の生活内容と日曜日から土曜日とを結びつける。 ・カレンダーの読み方と用途を知る。 ・それぞれの月の日数をしらべる。 ・カレンダーを作成し、「週」「曜日」の意味を知る。 ・○日は「～週間と○日」かを求める計算をする。
1 月	金銭処理	貯金の申込、預け入れをする。 領収書の意味を知る。	・子供銀行を開き、模擬体験する。 ・郵便貯金、銀行貯金の出し入れ。 ・預金の申込、預け入れができるようにする。 ・預金の払い戻しができるようにする。 ・郵便局や銀行等で実際に通帳を作る。 ・買い物をして領収書をもらう経験をする。 ・領収書を持ち寄り、日付や金額、受領店名などを確認する。 ・領収書の内容を読み、いろいろな形式の領収書を知る。
2 月	温度調べ 小数と分数	熱い、冷たいなどの温度の差を知る。 温度計、体温計を使う。 小数の意味や表し方を理解する。	・「冷たい、熱い」、「寒い、暖かい」などを温度の違いとして理解し、言い表すことができるようにする。 ・温度計を使い、温度が正しく計れるようにする。 ・各月の平均気温を言う。 ・体温計を使って、体温を計る。 ・体温を計り、グラフに記入する。 ・1.5 ℓのジュースや体重 52.3kg、サイズが 24.5cm のくつなど、小数で表される量を探す。 ・数直線上に指定された数量を書き込み、大小関係を調べる。

		分数の意味や表し方を理解する。	・小数の表し方、読み方を知る。 ・１／５は１を５等分した一つ分の大きさであることを知る。 ・同分母分数の大小を比較する。
３ 月	時刻と時間（２）	生活行動を通して、時間の経過が分かる。 先月・今月・来月、去年・今年を理解する。	・時刻の読み方を知り、時間の計算をする。 ・乗り物の時刻表を読む。 ・「先月・今月・来月」や「去年・今年・来年」などの流れや年号の使い方が分かるようにする。 ・生年月日を聞いて、年齢を計算する。 ・カレンダーの中に誕生日や行事の日を記入する。

年間指導計画（教科：数学参考例）　　〈中学校参考例ＮＯ２〉

月	単元名	単元目標	学習内容	観点
4	基礎問題	自分の力を知る。	・テスト問題に取り組む。	
5 月 6 月	数の数え方 数の読み方 四則計算	数え方の工夫を知る。 正しく数える。 広い範囲の数を表す。 広い範囲の数を読む。 ２位数以下の加法をする。 ２位数以下の減法をする。 ２位数以下の乗法をする。 ２位数以下の除法をする。	・具体物を１０ずつまとめて、それらを１０個集め、その大きなまとまりを１００と把握する。 ・操作しやすい素材などを数えたり、1,000 まで数える。 ・３位数までの数の大小、順序及び０の意味の理解を深める。 ・筆算式で行う。数の「10 の補数（合成分解）」、「単位をそろえる（位取り）」。 ・「倍」を知る。２の段、５の段、３の段が分かる。 ・「等分除」、「包含除」について、２つや５つずつに分けることの意味を知る。	数と計算
7 月 9 月	長さ 重さ 温度 広さ 容積“かさ”	長さ（ｃｍ，ｍ）知る。 重さ（ｇ、ｋｇ）を知る。 温度（℃、○度○分）を知る。 広さ（広い、狭い）を知る。 容積（cc、ｍｌ、ｌ）を知る。	・３０ｃｍ、１ｍものさしを使って様々な物を測定したり、直線を引く。 ・身長計や巻き尺の活用。 ・100 ｃｍ＝１ｍを知る。 ・ｇ、ｋｇの用語に慣れる。 ・100 ｇ、１ｋｇ単位で計量したり、量感を養う。 ・1,000 ｇ＝１ｋｇを知る。 ・温度計や体温計の目盛りを見て測定ができ、熱い、寒い暑いなどを意識する。 ・体温計では、「○度○分」という読み方ができる。 ・黒板や画用紙のような平面的なものについての広がりを理解し、広い狭いが分かる。 ・バケツ３杯分の水と大さじ一杯分のしょうゆなど、任意の単位を用いて比較する。 ・基準容器（計量カップ）で正確に計量し、単位「リットル」を知る。 ・商品によって「cc」や「ｍｌ」の表記があることを知る。	量と測定
10 月 11 月	図形 円 位置関係 グラフ	正方形や長方形、三角形の違いに気づく。 円の性質を理解する。 位置関係（上下、前後、左右）が分かる。 図表の内容を理解し作成す	・定規を使って直線を引いたり、直角が分かる。 ・三角定規を使って直角になるものを探したりする。 ・正方形や長方形、三角形の違いについて理解する。 ・円の形をなぞるなど、具体的な活動で円の性質を知る。 ・靴箱や棚を使って、「上から○番目、左から○番目」が分かる。 ・学校生活の中で、様々なことをグラフ作成する。	図形・数量関係

		る。 （棒グラフ・折れ線グラフ等）	（読書量、ゲームの結果、気温の変化ｅｔｃ・・）	
12月	お金	金銭などの使い方になれる。（両替、買い物、各種カード利用）	・貨幣の種類が分かり、現金が正しく数えられる。 ・簡単な両替をする。 ・1,000 円単位の理解と、概算をする。（買い物学習への発展） ・キャッシュカードやマネーカードの利用。	実務
1月	時計・時刻	時計の仕組みを理解する。 正確な時刻の読み取りをする。	・長針、短針の動き方、その意味、文字盤について知る。 ・○時、○時半、○時少し前を知る。	
2月	単位 時間	単位関係を理解する。 時間の経過を知る。	・10 分単位、5 分単位、1 分単位を知る。 ・時間割り、日程表、時刻表等を知る。	
3月	暦 カレンダー	暦などの使い方が分かる。	・カレンダーの仕組みや使い方、年の流れ、年号を知る。 ・新年度のカレンダーを作成する。	

年間指導計画（教科：理科参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	春の自然 植物のしくみ	植物の名前を図鑑で調べ、名札を付ける。 校内の花壇や木々を観察する。	・植物を採集し、スケッチしたり押し花にしたりする。 ・花壇や植木鉢を整備し、種まきの準備をする。 ・ヘチマやひまわりの種をまき、世話や観察計画を立てる。
5月	いろいろな生き物	昆虫や水辺の生物を飼育する計画を立てる。 図鑑やビデオテープなど用いて、身近な生物の名称や特徴を調べる。	・昆虫や水辺の生物などを採集する。 ・採集した生物を飼育し、観察記録を付ける。 ・メダカ、ヘビ、ハチ、ザリガニ、チョウチョ、ミズスマシ、ゲンゴロウ、バッタ、クワガタ、カブトムシ、テントウムシ、トンボなどの生き物の特徴を調べる。
6月	天気と湿度	毎日の気温や湿度の変化とその影響を調べる。 カビの発生や夏を快適に過ごす工夫を知る。	・新聞から天気図を切り取り、天気図の記号を知る。 ・高気圧、低気圧の位置と天気の関係を調べる。 ・天気予報の語句や記号の意味を調べ、その違いを知る。（のち、一時、ときどき） ・校内でカビの発生しやすい場所を探す。 ・カビの色などを観察する。 ・天候とカビの関係についてまとめる。
7月	自然環境とリサイクル	廃棄物が自然に及ぼす影響について調べ、環境保全の方法について話し合う。	・新聞記事などを活用して環境について話し合う。 ・廃油や牛乳パック、ペットボトルの再利用について話し合う。 ・再利用（リサイクル）の方法を調べる。 ・廃品を集め、リサイクル製品を作る実験を行う。
9	太陽と月、星	太陽や月の動き方を調べる。	・太陽や月の動きについて知っていることを話す。 ・１日の太陽の様子を調べる。 ・天体模型で月の形と見える方位を調べ、発表する。

月	光と色	光の性質について調べる。 レンズの性質を調べる。	・星座早見盤で星座の形や方位について調べる。 ・光の屈折模型を使って話し合いをする。 ・鏡を使って、光の反射を調べる。 ・万華鏡を作る。 ・プリズムで虹を作る実験をする。 ・レンズを使って、物が大きく見えたり、光が集まる実験をする。
10月	水溶液調べ	水に溶ける物、溶けない物を実験する。	・温度により食塩の溶ける量に違いがあることを実験により確かめる。 ・水溶液には酸性、アルカリ性があることを知る。 （レモン、ジュース、酢）などや雨水、アンモニア水などで調べる。 ・食塩の結晶を作る実験をする。
11月	秋の自然 動くおもちゃづくり	秋の自然に触れながら、草木の様子を観察する。 身近な材料を使って動くおもちゃを作る。	・ドングリでこまを作って、木の葉を集めて絵を書く。 ・秋植えの種や球根を植える。 ・採集した落ち葉や木の実について、図鑑でその名称や特色を調べる。 ・同じ種類のもの同士を集めて、分類する。 ・やじろべいや起きあがりこぼしなどを作る。 ・紙飛行機やプロペラ、風車を作る。 ・ゴムやバネを使ったおもちゃを作る。 ・できたおもちゃで競技会をする。

年間指導計画（教科：社会参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	地域めぐり	学区内を見学し、自分たちの町の様子を知る。	・白地図に街の様子や土地利用を書き込む。 （自宅、公共施設、商店、畑、友達の家） ・目印になる建物や店を調べる。 ・家から学校までの地図を書き足し、学区図を作る。 ・危険な場所やあると便利な施設や建物、商店などについて考える。 ・自分たちの町の様子について、新しく知ったことや気が付いたことなどをレポートにまとめる。
5月	公共施設や交通機関の利用	ガイドブック等を利用して、遠足や修学旅行の目的地や見学地について調べる。	・目的地と自分たちの町の位置を地図で調べる。 ・目的地までの交通手段や経路を調べる。 ・地図に示してある方位、距離、高さなどの約束事を調べる。 ・自分で旅行したいところについて調べる。
6月	よりよい環境	リサイクル問題やごみ処理の際の環境問題について調べる。	・家庭で出るごみの行き方や道路の空き缶などごみの問題について話し合う。 ・家庭排水や河川の汚濁について調べる。 ・ごみの再利用やごみの分別についての体験と知識を広げる。 ・ごみ処理施設を見学する。 ・見学する視点や担当者への質問事項などを考える。 ・学習のまとめをし、ごみを出すときの心構えなどを発表する。 ・家庭でのごみの処理方法について、自分なりに気を付けていこうとすることをまとめる。

7月	地域のくらし	地域にある施設や行事を調べる。	・地域にある施設を見学し活用する。 （役所、消防署、警察署、病院、図書館、公民館、児童館、福祉施設など） ・地域社会に参加する方法や地域に役立つボランティア活動を考える。 ・夏休みにできそうなボランティア活動や地域行事への参加活動計画を立てる。 ・地域の施設や行事に参加した感想をまとめる。 ・自分たちの地域のくらしと他の地域のくらしを比較し、違いについて考える。
9月	災害と防災	台風や地震、火災などの災害や防災について調べる。	・避難訓練の時のことを思いだし、災害のことや防災の心構えについて話し合う。 ・災害の体験を地域のお年寄りに聞く。 ・地震や台風などの新聞記事や防災の資料などを集め、防災について調べる。 ・緊急避難のときに必要なものを調べる。 ・消防署を見学し、消防署の役割や日頃からの災害への備えについて話しを聞く。 ・防災について自分でもできることを考え、まとめをする。 ・最近起こった災害について調べ、支援方法を考えたり、激励の手紙を書いたりする。
10月	いろいろな仕事	身近な仕事について話し合う。	・父母の仕事や身近な人の仕事について調べ発表する。 ・将来なりたい職業や興味をもった仕事内容について資料を基に調べる。 ・将来なりたい職業や興味をもった仕事にはどんな技能や知識が必要でどんな苦労があるか調べる。 ・父母や先輩の職場、身近な工場などに出掛けて働く人々の姿や環境などを見学する。 ・見学や体験記録などをまとめる。
11月	私たちの国	我が国の政治、産業、文化についていろいろな資料を基に調べる。	・最近のニュースについて話し合う。 ・新聞記事の内容から興味のある部分を切り抜く。 （政治欄、社会欄、国外ニュース、天気予報、テレビ番組、社説など） ・新聞の分からない言葉を調べ、日本の政治や産業、文化などに興味をもつ。 ・インターネットを活用して調べる。 ・他の人の発表を聞いて、新しく知ったことや学んだことをまとめる。

年間指導計画（教科：音楽参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	歌声を作ろう ・校歌 ・春の歌 呼吸法	新しい仲間と歌う喜びをわかち合い、音楽学習への意欲、態度を育てる。 気持ちを落ち着かせ、リラックス法を身に付ける。	・歌詞の内容を理解しながら伸び伸びと歌う。 ・お互いの旋律を聴き合いながら歌う。 ・「花」「春が来た」「さくらさくら」を歌いながら覚えて行く。 ・腹式呼吸法、緊張をほぐすストレッチのやり方を覚える。
5月	四季より「春」	「春」全曲聴き、好きな場面、感想を発表する。	・「春」場面事に聴き、思い浮かぶことを発表する。 ・「春」を場面ごとに聴き、どのソネットにあてはまるかを当てる。 ・「春」を全曲聴き、感じたイメージを基に感想画をかく。

	楽器を演奏しよう	曲に合わせて手拍子や打楽器を演奏する。 アルトリコーダーの指使いを覚え、簡単な曲をひく。	・階名を聴いてキーボードの鍵盤を押す。 ・「ちょうちょ」「キラキラ星」などを階名、楽譜を見ながらキーボードで演奏する。
6月	キャンプソング、集いの歌 夏の歌	レクリエーションゲームの歌を踊りながら歌う。 輪唱や手遊びをしながら歌う。	・「遠き山に日は落ちて」「燃えろよ燃えろ」「今日の日はさようなら」を歌う。 ・一人一人呼び掛けながら歌の掛け合いをする。 ・「海」「夏の山」「夏の思い出」「かえるの歌」「茶つみ」「大きな栗の木のしたで」などを歌う。 ・グループやペアで楽しく歌う。
7月	魔王 手話ソング	「魔王」の登場人物を分担して、曲に合わせて歌う。 簡単な手話を使って歌を歌う。	・「魔王」を聴く。 ・「魔王」の詩を聴き物語のあらすじを知る。 ・感想を発表する。 ・「魔王」をフレーズごとに聴いて、登場人物を当てる。 ・「魔法の言葉」などの曲に合わせて、楽しく手話ソングをする。
9月	歌を作ろう	自分の作曲した曲を、友達の前で発表する。	・自分を紹介する歌詞を作る。 ・歌詞を基にメロディを考えて録音する。 ・作曲した作品をみんなで歌う。 ・身近な楽器で、簡単な伴奏を付けて歌う。
10月	合唱曲を練習しよう	合唱のもつ響きの美しさや感動を味合わせ、クラスの団結力や協力等を学ばせる。 演奏マナーや鑑賞マナーを守る。	・課題曲、自由曲の自分のパートを覚える。 ・伴奏に合わせて、歌詞をしっかり覚え歌う。 ・マナーを守って歌う。
11月	和楽器、郷土の楽器に親しもう（三線）	三線を通して郷土の音楽に興味関心を養わせると共に他の日本楽器について感心をもたせる。	・三線の基本的な名称とつくりを理解する。 ・音の出し方や構え方等の基本を学ぶ。 ・エエ四が読めるようにする。

年間指導計画（教科：美術参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	身近な風景 （感じるままに）	見たこと、感じたこと、考えたことなどを工夫して絵で表現する。	・書きたい物を決める。 （身近な物、普段使う物、木や建物、花壇） ・校舎内外でスケッチをする。 ・構図や空間の表現の仕方を工夫して下絵を書く。 ・筆のタッチをいかして、彩色をする。 ・色合いの違い、色の寒暖などの特徴をとらえて表現する。
	野菜、果物	野菜を切ったり、形を組み合わせ	・自然物や人工物を基にして構成する。

5月	（形の発見）	て、新しい形を見付け出す。	・野菜や果物などの特徴をとらえ、スケッチする。 ・野菜などの切断面や形の組み合わせを工夫して、下書きをする。 ・立体の構成やデザインの工夫をする。 ・絵の構成美を理解して、絵を構成する。 ・配色を考えて着彩する。 ・自分の作品を見て自己評価する。 ・技法（コラージュ、マーブリング、フロッタージュ、スパッタリング）
6月	コースター （立体でとらえる）	木の特徴を生かして立体物を作る。	・木のよさを味わい、制作手順を知る。 ・アイデェアスケッチをする。 ・電動糸のこぎりで切り、やすりをかける。 ・くぎや接着剤で組み立てる。 ・ワックスでみがく。 ・友達の作品のよさを見付ける。
7月	鑑賞と模写 （美術館めぐり）	地域の美術、工芸に触れる。	・作者の心情や表現方法に触れ、よさや美しさを味わう。（風景画、焼き物、デザイン、建造物、仏像） ・構図や表現方法などを理解する。 ・感想を簡単な文にまとめる。 ・気に入った作品を模写する。 ・機会があれば美術館に鑑賞に出かける。
9月	友達をかく （人間の姿）	人物を通して心や思いを表現する。	・友達の印象や表情の特徴をとらえて素描する。 ・たくさんの素描から下絵をかく。 ・全体と部分との関係でとらえる力を付ける。 ・材料の特性を生かしながら、表現力を付ける。 （線や面の表現、明暗の表現） ・作品の仕上げをする。 ・作品を鑑賞する。 ・人物画の鑑賞をする。
10月	木版画 （版の楽しみ）	いろいろな種類の版画があることを知り、自分に合った版を作る。	・人物画のスケッチをする。 ・画面の構成を考える。 ・彫刻刀の使い方に慣れ、版画を彫る。 ・工夫しながら彫る。 ・友達の作品を鑑賞し、それぞれのよさについて話し合う。 （紙版画、リノカット、単色木版画、　一版多色版画）
11月	粘土で作る （土と火の世界）	粘土で形を作る。	・野菜や果物をかたまりとして立体で表現する。 ・粘土でスケッチするように肉付けする。 ・かたまりとかたまりをドベでつなぐ。 ・全体のバランスを考えながら、丁寧に形を整える。 ・量感やつり合いに気を付けながら仕上げる。 ・できあがった作品を鑑賞し合う。 ・実際の土器や陶器の作品を鑑賞する。

年間指導計画（教科：体育参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	体力つくり運動 （保健） 心身の発達	集合、整列、開列、方向変換、行進などの集団行動をする。 二人組や三人組でいろいろな運動をする。 身体測定の結果などを参考に心身の発達について知る。	・並足、駆け足の曲に合わせて行進する。 ・簡単な準備運動、整理運動を身に付ける。 ・ラジオ体操や創作体操をする。 ・ストレッチ体操をする。 ・腹筋運動、背筋運動、腕立て伏せなど筋力を高める運動をする。 ・ボールや棒、旗などをの用具を使った運動をする。 ・中学生期の身体発育について話し合う。 ・体の発育と心の発達について考える。
5月	陸上競技 （保健） 不安、悩みの対処と心の健康	自己の目標を持って体力テストを行う。 心の発達及び不安、悩みへの対処の仕方を理解する。	・目標や練習方法を考えて、短距離走をする。 ・チームでリレーなどをする。 ・砲丸投げをする。 ・助走、踏切、着地の方法を理解し、走り幅跳びをする。 ・記録を測定し前回と比較し、具体的な目標を立て練習し記録会を行う。 ・心と体の関係について考える。 ・不安や悩みのいろいろな対処の方法を考え、自分に合った仕方を考える。 ・家族、友達、先生などとのかかわりや感情のコントロールの方法について話しあう。
6月	バスケットボール （保健） 欲求やストレスへの対処と心の健康	バスケットボールを理解しゲームを行う。 自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考えを理解し、自分なりの価値観を高める。	・パス、ドリブル、シュートの練習をする。 （チェストパス、バウンズパス、セットショット、ランニングシュートなど） ・オフェンス、ディフェンスの練習をする。 （ゾーンディフェンス、マンツーマンディフェンス） ・ゲームをする。 ・自己の課題やチームの目標を考えて練習に取り組む。 ・欲求やストレスへの対処などの方法を考える。 ・異性の尊重、性情報への対応など性に関する適切な態度や行動の選択について話し合う。
7月	水泳 （保健） 健康と環境	クロールや平泳ぎなどの基本技能を身に付け、長く泳ぐ力を高める。 身体の環境に対する適応能力・至適範囲にいて調べる。	・水慣れのためのゲームをする。 ・水中汽車、碁石拾い、水中じゃんけん。 ・面かぶりクロールや息継ぎをする。 ・クロールをする。 ・平泳ぎや背泳ぎをする。 ・個人メドレー、リレーをする。 ・自己の目標を立て互いに協力して練習する。 ・水泳の事故防止に関する心得を知る。 ・気温、湿度、明るさなどを調べる。 ・空気や飲料水の衛生的管理について知る。
9月	体育祭 （保健）	自分なりの課題をもって徒競走や集団演技などを行う。 生活に伴う廃棄物の衛生的管	・入場行進、準備体操、整理体操の練習をする。 ・徒競走、リレーなどの練習をする。 ・集団演技や競争競技の練習をする。 ・自分の役割や目標を確認し、練習に参加する。 ・自然環境の汚染に関する新聞記事を切り抜く。

	生活と環境	理にて調べる。	・公害と健康との関係について調べる。
10月	器械運動	自己の課題をもってマット運動、平均台運動、鉄棒運動、跳び箱運動を行う。	・マットで前転、後転、開脚前転などをする。 ・跳び箱で開脚跳び、かかえ込み跳びなどをする。 ・鉄棒で膝掛け上がり、後方支持回転、前方支持回転などをする。 ・連続技を考え発表する。 ・機械器具の安全を確かめて運動したり互いに協力して練習する。
	（保健） 傷害の防止	けがや傷害の防止について話し合う。	・保健室の利用状況を調べ、けがの原因を調べる。 ・自然災害や交通事故などによる傷害について調べる。

年間指導計画（教科：技・家参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	清潔な服装	衣服に関心をもち、日常着の着方、手入れの仕方を知る。	・衣服の働きを知る。 ・日常着の手入れの必要性を知る。 ・自分が身に付けた物の洗濯の仕方を知る。 ・手洗いの仕方を練習する。 ・洗濯機洗いの仕方、干し方を理解する。 ・アイロンの掛け方を練習する。 ・服のたたみ方，しまい方を練習する。 ・日常着の気持ちのよい着方を考える。
	野菜の栽培	自分で選んだ野菜の栽培を通して、栽培の基礎知識、方法を習得する。	・栽培した野菜を図書館で調べる。 ・土づくり、種まき、苗植えを行う。 ・水やり、施肥、除草などを行う。 ・栽培記録を付ける。 ・栽培に必要な条件を整理する。 （ジャガイモ、トマト、キュウリ、カボチャ）
5月	ＣＤラックの制作	工具や機械を用いてＣＤラックを製作する。	・木，アルミニウム，鉄，プラスチックなどの材料を比較し，木で製作する理由を考える。 ・工具や機械の安全な使い方を理解する。 ・けがきをする。 ・部品の加工をする。 ・組み立て、接合をする。 ・塗装、仕上げをする。
6月	朝食づくり	朝食づくりを通して、簡単な日常食の調理の仕方を習得する。	・朝食の献立を考える。 ・調理に必要な材料と分量を整理し，手順を考えて調理計画を立てる。
	弁当づくり	加工食品を用いた簡単な弁当の作り方を習得する。	・調理を通してフライパンの扱い方，調味の仕方，火力の調整の仕方について理解する。 ・楽しく会食をする。 ・食器などの洗い方片付け方を知る。 ・加工食品にはどんなものがあるかを調べる。 ・加工食品の表示にはどんな内容があるか，各自担当したものを調べ発表する。 ・加工食品を利用した弁当を作る。 ・材料を決める。買い物をする。 ・自分の弁当箱に作った弁当を盛り付ける。

7 月	野外炊事 私たちの家庭生活	キャンプに向けて野外炊事の模擬体験を行う。 家庭の働きと家族の役割を調べる。	・飯ごうでご飯を炊く。 ・カレーを作る。 ・自分たちで係を分担し協力し合う。 ・家の人にインタビューを行う。 ・調べたことを発表し，家族の役割について整理する。 ・家族の一員として協力できることは何か，家庭で話し合う。 ・家庭の仕事を任され，実践する活動を通して，協力し助け合うことや自分のできることを増やすことの大切さに気付く。
9 月	コンピュータの操作 I 衣服の手入れ	基本操作の体験を通して，コンピュータに親しむ。 日常着の適切な手入れと補修について理解する。	・コンピュータの起動と終了の仕方を知る。 ・フロッピーディスク及び ＣＤ－ ROM の扱い方を知る。 ・キーボードやマウスの操作に慣れる。 ・自分の服のボタンのほころびの点検を行う。 ・基礎縫いを練習する。 ・自分の服の補修を行う。
10 月	家族への贈り物	贈り物の製作を通してミシンの基本操作を習得する。	・本などを参考に家族への贈り物を考える。 ・ミシンの準備の仕方。 ・ミシンの直線縫いの仕方。 ・贈り物の製作をする。

年間指導計画（教科：外国語参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単　元　名	単　元　目　標	学　習　内　容
4 月	あいさつ	英語であいさっする。 アルファベット大文字の練習をする。 ABC ソングを歌う。	・自己紹介をする。 ・〔 My name is ～」〔 Nice meet you 」が言える。 ・A ～ G が書ける。 ・H ～ N が書ける。 ・0 ～ Z が書ける。 ・テープに合わせて歌う。
5 月	身の回りの物	教室の中の物の名前を英語で話す。 ABC ソングを歌って覚える。 英語かるたで遊ぶ。	・アルファベット大文字の練習をする。 ・Good morning ・自分の持ち物を英単語かるたにする。 ・絵と文字の両方のカードを作る。 ・英語かるたで遊ぶ。 （絵カードを２枚ずつ作って，トランプの「神経衰弱」のようにしてもよい。）
6 月	今日は何曜日？	一週間の曜日を覚える。 動作をしながら簡単な英文を覚える。	・〔 What day is today ？」〔It ' s Friday 」 ・〔Sunday , Monday , Tuesday 」などが言える。 ・Stand up / Sit down / Open / Close などが言える。 ・顔や体の名称を言いながら，各部位を触る。

			・Touch your nose / eye / mouth
7 月	家族の紹介	家族について発表し合う。 写真で家族を紹介する。 アルファベットの練習をする。	・father / mother / brother / sister groundfather / groundmother ・I am a student / This ismy ～ [My (SISter) is a (Student)」の構文で英文を作る。 ・単語のカードを作る。 ・カード取りゲームをする。
9 月	スポーツ	スポーツの名前を知る。 [Let`s play ～」の会話を練習する。 「私は～ができます」の表現を覚える。 スポーツの好き嫌いについてインタビューをする。	・soccer、tennis ・I like soccer ・I can play ? ・Do you like ～ ? Yes , I do / No , I don't ・カードを作ってゲームをする。
10 月	何月何日？	英語で月を覚える。 「今日は何月何日ですか」の会話を練習する。 誕生日の月と日の言い方を覚える。 友達と簡単な英会話をする。	・12 か月を覚える。 ・1 月 January ? 12 月 December ・What day of the month is today ? ・My birthday is ～ ・What day is your birthday ?
11 月	国際交流	外国の人々のくらしを知る。 国の名前，町の名前を言う。 自分の町の名前の言い方を知る。 アルファベットの復習をする。	・Canada / Japan / America / England / China ・Newyork / London ・主な建物施設が言える。 ・school / park / station ・Here is my ? ・教師の指示した文字を書く。 ・ビンゴなどのゲームをする。 ・文字カードで指示した単語を再生する。

年間指導計画（教科：道徳参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単　元　名	単　元　目　標	学　習　内　容
4 月	生活習慣 友達になろう 物を大切に	中学生としての自覚をもつ。 友達の作り方について方法を知る。 公共施設や自分の持ち物を大切にする気持ちをもつ。	・新入生の作文を読み，中学生になった気持ちや上級生になった気持ちを作文にまとめる。 ・ゲームを通して友達のことを理解する。 ・友達のことがどれだけ分かったか発表し合う。 （名前，誕生日，好きなもの，性格など） ・机や壁に傷や落書きがないか点検し，なぜ傷があるのか話し合う。 ・机や壁の傷や落書きを消す。

5月	公共のルール・エチケット	遠足などで交通機関を利用する際のマナーについて考える。	・お年寄りに席を譲ることや降車する人を優先すること，順序を守ること，車内は静かにすることなどに気付く。
	自分の仕事	係の仕事を通して，責任感をもつ。	・係活動の定着を見て，日ごろの活動の様子を自分たちで評価し合う。 ・自分たちの活動が役立っていることや多くの人に支えられていることを知る。
	家族愛	父母の行為を通して，家族愛に触れる。	・父母からの手紙やアルバムなどを見て，家族の愛情について考える。 ・父母へのお礼の返事を書く。
	命を守る	大病や事故の話を通して，命の尊さを感じる。	・警察の方の話を聞き，事故を起こさないためにどうすればいいかを考える。
6月	自然に親しむ	かけがえのない自然を大切にする気持ちをもつ。	・ビデオ視聴や近くの環境問題などを取り上げ，自然を守る方法を考える。 ・自然を守るためにできることを考える。
	時間・約束	時間や約束を守ることがみんなから信頼を受けることになることを知る。	・自分でできる規則正しい生活を考える。
	夢を実現するには	将来の夢を語り合い，実現するための努力を考える。	・将来なりたい職業を発表する。夢を実現するために努力した話を聞く。
	父母の苦労	父母の仕事を知ることで，自分への愛情と家族への責任の重さを知る。	・父母の仕事について話し合う。 ・父母が病気になったときどうなるかを考えて，その苦労や責任の重さを知る。
7月	大人になるには	自立することの意味を知る。	・自分でやれていないことを父母などに聞く。 ・父母から独立したとき，自分でやらなければならないことを調べる。
	小さな親切	他者に対して親切にする気持をもつ。	・親切をしたときの自分の気持ちを話し合いボランティア精神について考える。 ・自分たちでできるボランティア活動を考え，奉仕活動につなげる。
9月	災害や事故	災害についての心構えを話し合う。	・地震のニュースや記録など調べたことを基に災害や・避難訓練の心構えを話し合う。 ・日ごろからできる災害への備えについて考える。
	敬老の日	体験活動を通して，お年寄りを敬う気持ちをもつ。	・身近なお年寄りについて知っていることを話す。 ・触れ合った体験談からお年寄りが人生の先輩であることを知る。
10月	選ばれた人選ぶ人	選挙を通して，みんなから信頼される人が選ばれることを学ぶ。	・選挙制度を調べる。 （立候補制度，無記名制度，贈賄，収賄など） ・選挙がどんな厳しい制度で行うかを考える。
	最後までやり抜く力	職場体験への心構えをもち，責任をもって仕事をする。	・父親や社会人になった先輩の話から，仕事に対する責任感について考える。 ・仕事に対する決意を書き，職場への手紙を出す。
11月	文化祭を通して	郷土の文化に触れ，その大切さを知る。	・文化祭の体験を話し合い，地域の人との触れ合いを思い出す。 ・文化祭の体験を通して得たことを作文にする。
	真の友情	友達の長所を見付けることで，仲良くなれることを知る。	・授業や学校行事での通常の学級の友達との交流を振り返る。 ・通常の学級の友達と仲良くする方法を話し合う。

年間指導計画（教科：学活参考例）　　〈中学校参考例〉

月	単元名	単元目標	学習内容
4月	中学生になって 学級組織づくり（1） 学級目標	中学校の生活と小学校の生活との違いについて考える。 学級の級長や係活動，当番を決める。 学級の目標について話し合う。	・教科担任制，行事の違い，部活動など ・教科の教師の紹介をする。 ・教科の教師や先輩に質問をする。 ・保健，掲示，教科リーダー，日直，清掃，給食当番などの仕事内容を知る。 ・教科担任への連絡係（教科リーダー）の仕事内容を知る。 ・他学級の例などを紹介して，スローガンを決める。・学級目標やスローガンを書く。 ・学級掲示や集会での発表にするための工夫をする。
5月	学級生活の見直し 手伝い 遠足・修学旅行の計画	学級の活動がしっかりできているか振り返り，よりよい方法を考える。 家庭での手伝いの体験を話し合い，家庭での自分の役割について考える。 遠足や修学旅行の計画を立てる。	・給食の配膳や食事の作法を見直す。 ・実際に清掃を行い，清掃の仕方を見直す。 ・委員会や学級の係の仕事ができているか振り返る。 ・道徳「家族愛」と関連させて，自分が家族にできることを考える。 ・家族からの手紙など基にお手伝いの様子を自己評価する。 ・目的地や行程についてガイドブックなどで調べる。 ・交通機関の利用の仕方、行程などを話し合う。 ・班行動の予約や話し合ったきまりなどをまとめたしおりを作る。
6月	交通安全 家族の仕事 進路相談	交通ルールの確認 父母の仕事について知る。 将来の夢について考える。	・登下校の危険な体験について話し合う。 ・交通ルールについてまとめる。 ・調べたことを発表し、仕事の大変さを考える。 ・なりたい職業を本やビデオ、インターネットなどで調べる。 ・調べた内容を発表し、将来の夢を実現するための具体的な方法や目標を話し合う。 ・働きたい職場を調べ、見学や体験実習のお願い電話連絡や手紙を通して行う。
7月	奉仕活動計画 夏休み	みんなのため，社会のために役立つ奉仕活動について考える。 充実した夏休みにするために目標を立てる。	・どんな奉仕活動があるかを知る。 ・自分たちでできる奉仕活動を考える。 ・昨年の夏休みの生活を振り返る。 ・友達の話を評価し，夏休みにしかできない体験をしようという気持ちをもつ。 ・夏休みの目標と計画を立てる
9月	避難訓練 夏休みの反省 体育大会参加	地震や火災に対する備えについて考える。 夏休みに頑張ったことや楽しかった思い出を発表する。 体育大会に積極的に参加できるように意識を高める。	・道徳「災害や事故」と関連させて，避難訓練の大切さと日ごろからの防災の備えについて考える。 ・防災訓練の心構えについて話し合う。 ・反省用紙に自分なりの言葉で書く。 ・体育大会の参加種目や応援内容について決める。自分なりの目標を決める。
10月	職場体験	職場体験や職場見学の準備を行う。	・進路相談で依頼した職場に電話し，時間や場所，仕事の内容などを聞く。 ・校長教師に職場体験や見学のお願いをして，正式な依頼の手紙を書く。 ・学年により，「職場見学」「職場実習」「就職を前提とした体験実習」など変化を付ける。

	学級組織づくり（2） 学級目標の反省	学級組織を決める活動を通し，公正な選挙の仕方を知る。 学級の様子を振り返り，後期の学級の在り方を考える。	・学級役員選出を立候補制とし，立ち会い演説会など選挙活動を行う。 ・係活動などの抱負を発表する。 ・前期の学級目標やスローガンが達成されているか話し合う。 ・達成するために努力することを決める。
11 月	文化祭の計画 友達づくり	学級独自の催し物について考える。 通常の学級の友達を作ろうと努力する。	・昨年の文化祭の催しを振り返る。 ・今年の学級の催しについて考える。 ・学級の催し物の計画を立てる。 ・通常の学級の友達ともっと仲良くなるにはどうすればいいか話し合う。 ・通常の学級の生徒たちを呼んでお楽しみ会を開く計画を立てる

XIV　通級指導教室年間指導計画（発達障害通級指導教室：参考例）

月	児童の指導に関すること	研修・研究会
4 月	・通級児童の情報収集 ・アセスメント主訴の背景，指導内容・長期目標を明確にする。 （心理検査、行動観察、生育歴、健康状態） ・時間割作成 ・保護者向け教室内容お知らせ	
5 月	・教室経営案作成・学級開き・授業スタート ・指導例 アサーション・トレーニング ① 自己表現のタイプを学ぶ。指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・次年度就学指導に向けての取り組み	通級研
6 月	・通級児童の実態把握・自分を知り課題を認識させる ・指導目標の案作成・短期目標を指導内容に反映させる。 ・指導例 アサーション・トレーニング ① 自己表現のタイプを学ぶ。指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・２ヵ月の指導を総括する。	LD・ADHD 研究会
7 月	・困り感に対する具体的支援・保護者面談・指導計画、支援計画作成、諸検査 ・指導例 アサーション・トレーニング ① 自己表現のタイプを学ぶ。指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・１学期の指導内容まとめ学級との情報交換をし２学期の指導内容を検討する。 ・諸書類作成、整理	通級研
9 月	・運動会へ向けての個々の支援、運動会前の時間割作成をする。 ・２学期の短期目標を立てる。 ・指導例 アサーション・トレーニング ②指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・学級、家庭との連らくの方法を検討する。	LD・ADHD 研究会
10 月	・就学児健診での教育相談・困り感に対する具体的支援 ・指導例 アサーション・トレーニング ②指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り）	通級研

11 月	・困り感に対する具体的支援 ・指導例 アサーション・トレーニング ②指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り）	
12 月	・保護者面談指導計画・支援計画作成・家庭との連携をはかる。 ・２学期の指導の総括を学級担任と情報交換し、３学期の指導内容を検討する。 ・指導例 アサーション・トレーニング ②指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・次年度の就学指導判定についての説明	
1 月	・３学期の目標を決める ・困り感に対する具体的支援 ・指導例 アサーション・トレーニング ③指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り）	通級研
2 月	・入学説明会で教室紹介 ・保護者面談 ・指導例 アサーション・トレーニング ③指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り）	
3 月	・１年を振り返り、自分の成長を認める。　・指導計画、支援計画作成 ・指導例 アサーション・トレーニング ③指導要領（自立活動）の項目と関連させて指導する。ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）（対人関係作り）ライフスキルトレーニング（ＬＳＴ）（生活習慣作り） ・指導内容、学級や家庭との連携などで反省点や課題を明確にする。 ・次年度通級児童名簿等引継資料の作成	

通級指導教室年間指導計画（言語障害通級指導教室：参考例　ＮＯ１）

月	児童の指導に関すること	研修・研究会
4 月	・通級児童の確認と時間割作成（本人・保護者・担任） ・諸検査（通級児童の構音検査） ・在籍学級との連携（顔合わせ・学級訪問） ・開級式（保護者・本人・担任との顔合わせ） ・保護者の同意書及び申込書の書類準備及びまとめ ・通級児童連絡帳準備 ・諸教材準備	沖縄県難聴・言語障害教育研究会（沖難言研）総会
5 月	・教室経営案 ・１年生担任との連携（通級指導の必要がある児童について） （１年生全学級、一斉指導で発音練習 ） ・他校通級巡回開始 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム（口形づくりストレッチ、発音練習くちびるの周囲作り） 呼吸プログラム（舌のストレッチ、ボーロやウェハースを使った体操） ふくプログラム（ピンポン球ふき、ストローふき）	通級研 本校の校内研修（通級指導）
6 月	・授業参観保護者との面談 ・適正就学指導委員会提出資料の準備 ・体験学習の取り組み ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム　呼吸プログラム　ふくプログラム 日常会話への適応（ことばのキャッチボール、しりとり、音の正誤弁別）	沖難言宿泊研修会

7 月	・１学期指導経過報告書作成（児童保護者用、担任、管理者用） ・保護者面談 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、日常会話への適応 全身運動身体ほぐし（ことばのゲーム遊び、室内運動遊び、カルタ遊び） １学期通級指導終了児童賞状及び諸書類作成 ・幼稚園児構音検査（夏休み：８月）	全国難言大会（８月） 九州難言大会（８月）
9 月	・２学期の通級児童の時間割作成〔本人、保護者、担任） ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、日常会話への適応 全身運動身体ほぐし（ことばのゲーム遊び、室内運動遊び、カルタ遊び）・ ・次年度通級児童の諸検査 ・次年度通級申し込み新規児童諸検査結果まとめ及び就学指導委員会へ提出	沖難言夏期研修報告会
10 月	在籍学級の授業参観 次年度教室設置内訳書作成 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、日常会話への適応 全身運動身体ほぐし（ことばのゲーム遊び、室内運動遊び、カルタ遊び）	通級研
11 月	・就学時検診での教育相談 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム（口形づくりストレッチ、発音練習くちびるの周囲作り） 呼吸プログラム（舌のストレッチ、ボーロやウェハース使った体操） ふくプログラム（ピンポン球ふき、ストローふき） 全身運動身体ほぐし（ことばのゲーム遊び、室内運動遊び、カルタ遊び）	就学時健診
12 月	・親子体験学習・２学期指導経過報告書作成 ・２学期通級指導終了児童賞状及び諸書類作成 ・保護者面談 ・指導内容例 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、日常会話への適応	沖難言研発表会
1 月	・３学期の通級児童の時間割作成（本人、保護者、担任） ・保護者面談 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、日常会話への適応 全身運動身体ほぐし（ことばのゲーム遊び、室内運動遊び、カルタ遊び）	通級研
2 月	・「入学説明会」への参加 ・個別指導計画追記 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） 部位別プログラム、呼吸プログラム、ふくプログラム、 日常会話への適応、全身運動身体ほぐし	
3 月	・親子体験学習 ・指導内容例（構音指導、呼気訓練、舌・口形訓練、発音・発語指導、言語指導） ・本年度指導経過報告書作成 ・３学期通級指導終了児童賞状及び諸書類作成 ・次年度への引き継ぎ準備	沖難言全体会

通級指導教室年間指導計画（言語障害通級指導教室：参考例　ＮＯ２）

月	主な学校行事	構音指導・口腔機能指導、　言語感覚を磨く指導、 生活を豊かにする指導	行事その他の研修
４月	入学式 始業式 保健諸検査 歯科検査 内科検診	入級オリエンテーション・教室開き （子ども理解のための諸検査及び実態把握） 部位別プログラム　吹くプログラム　めあて作り	教室めぐり 沖縄県難聴言語障害研 時間割作成

5月	日曜授業参観 面談 家庭訪問 春の遠足	（制止課題） （運動課題） 口形づくり ストレッチ	風船ふくらまし ピンポン球ふき ろうそく消し 火移し ストローふき 水とばしなど	葉のゲーム遊び カルタ遊び 室内運道遊び	通級研 教室経営案作成 保護者面談
6月	平和学習	発音練習 唇の周囲筋作り			就学指導
7月	宿泊学習 終業式 個人面談	粗大運動 微細運動			幼稚園児言語検査 教育支援計画作成
9月	始業式	噛む・飲む・吸う 呼吸プログラム 舌のストレッチ せんべい・グミ・ウェハース等を使った体操など	日常会話 本の朗読 ことばのキャッチボール しりとり 早口ことば 音の正誤弁別 写聴 となえうた		個別の指導計画作成
10月	運動会 童話会 就学指導				教育課程研 ことばの検査
11月	修学旅行 社会見学				次年度入級者決定 県難言研究大会
12月	終業式				ふり分け
1月	始業式 学芸会				終了手続き
2月	入学説明会				指導経過報告
3月	卒業式 修了式	課題改善後・各自終了（委員会へ終了通知意見書提出）			
		各項目のめあてのふりかえり、学習全体のふりかえり			

通級指導教室個別の年間指導計画（言語障害通級指導教室参考例　NO１）

組　　氏名			指導時数　週　時間
障害	ことばの状態	めあて	指導内容
構音障害	ダ行音とラ行音の混同による発音の誤りが多い。	ダ行音，ラ行音の発音が正しくできるようにする。	・発声、発語器官の機能訓練、呼気訓練 ・ダ行音の発音，ラ行音の発音の改善 ・書きことばの誤りの改善

月	時数	基礎訓練（顎唇舌）	耳の訓練	〔ダ，ラ行音〕の構音
5月	5時間	顎，唇，舌の動き 呼気四態 母音の発声と口形	聞く態度のをつくる。 ［ダ］の聞き出し ［ダ］の語内位置弁別	［ダ］の単音を誘導 ［ダ］の単音を固定 ［ダ］を含む無査味韻を復唱で安定
6月	4時間	舌当て．舌打ち 破裂音につなげるための息使い	［ダ］の異同弁別 ［ダ］の正誤弁別 ［ダ］の比較・照合	［ダ］を含む単語を復用で安定 ［ダ］を含む単語．句．短文段階での安定 ［ダ］の会話での安定

7月	3時間	舌尖の機能を高める。 前舌の機能を高める。 中舌の機能を高める。	［デ］の聞き出し ［ダ］の比較・照合 ［デ］の語内位置・異同弁別	［デ］の単音の誘導と固定 ［ダ］の日常会話での安定 ［デ］を含む無意味韻・単語の安定
9月	4時間	奥舌，軟口蓋の動きの機能を高める。	［デ］の正誤弁別 ［ド］の誤内位置弁別 ［デ］の比較・照合	［デ］を含む句．短文段階での安定 ［ド］の単音を誘導 ［デ］の日常会話での安定
10月	4時間	舌の体操 ドとロ デとレ ダとラ	［ド］の異同弁別 ［ド］の正誤弁別 ［ラ］の聞き出し	［ド］を含む無意味韻．単語の復唱での安定 ［ド］を含む句・短文段階での安定 ［ラ］の単音を誘導
11月	4時間	舌先の動きの機能を高める。	［ラ］の誤内位置弁別 ［ラ］の比較・照合 ［ラ］の異同・正誤弁別	［ド］の日常会話 ［ラ］を含む無意味音節・単語の復唱での安定
12月	3時間	舌先の動きの機能を高める。	［レ，ロ］の聞き出し ［レ，ロ］の異同弁別 ［レ，ロ］の正誤弁別	［レ，ロ］を含む句．短文段階での安定
1月	3時間	舌先の動きの機能を高める。	［ダ，ラ］行音の carryover Ⅰ ・すべての ［ダ，ラ］行音を含む単語・短文の復唱や音読での安定	
2月	2時間	舌や唇の触覚感覚を鋭敏にする。 舌や唇の動きのチェック	・ロールプレイの会話の中で安定させる	
3月	3時間	舌や唇の触覚感覚を鋭敏にする。	・［ダ、ラ］行音の carryover Ⅱ ・自由会話の中での安定	

通級指導教室個別の年間指導計画（言語障害通級指導教室参考例　NO２）

年　　組　　氏名（　　）

指導開始月日	平成　　年　　月　　日	終了予定日	平成　　年　　月　　日
指導方針	・集団の中でみんなといっしよに学習できるようにする。 ・明瞭に発音できるよにする。	指導目標	・普通学級のなかで集団での学習に参加できるようにする。 ・ダ行音とラ行音の混同による発音の誤りを改善し、明瞭に発音できるようにする。

期	短期目標	指導内容
一学期	＊実態把握（ことば、学習のちから） ＊構音の基礎訓練（口唇、舌、呼気） ・口唇、顎、ほほの機能訓練 ・舌のうごきの機能訓練 ・呼気訓練 ＊ダ、デ、ド音の発音 ・無意味音での発音練習（２～４音節） ・ダ、デ、ド音の単語発音練習 ・ダ、デ、ド音を多く含む文章の読み ・教材文の読みにおけるダ、デ、ド音の安定 ・会話におけるダ、デ、ド音の発音の安定 ＊教材文の音読	・発語、発音器官の機能チェック ・口の開閉、引き、すぼめなどの基礎訓練 ・舌の平板化や舌先の動きの訓練 ・呼吸四態の訓練 ・母音の正しい口形で発声する。 ・舌の付け方無意味音でダ、デ、ド音を正しく発音する。 ・ダ、デ、ド音を語頭、語中、語尾で練習 ・ダ、デ、ドを多く含む文章の読みにおける発音の安定
二学期	＊構音の指導 ・ラ、レ、ロ音が正しく発音できるようにする。 ・ラ、レ、ロ音の舌の使い方 ・ラ、レ、ロ音の無意味音の発音 ・ラ、レ、ロ音の単語の発音 ・ラ、レ、ロ音を含む文の読みにおける発音 ＊教材文をすらすら読めるようにする。 ・ひらがな、カタカナ、漢字の読み ・正しい発音での音読	・正しい発音を身に付ける。 ・タ行音の指導のチェックをする。 ・ラ行音との舌の付け方違い ・ラ、レ、ロ音を無意味音で音を正しく発音する。 ・ラ、レ、ロ音を語頭、語中、語尾で練習 ・ラ、レ、ロを多く含む文章の読みにおける発音の安定 ・教材文の音読において、正しい発音が定着しているかをチェックする。
三学期	＊構音指導 ・会話における発音の安定 ・聞き分け、出し分け、書き分け ＊教材文をすらすら読めるようにする。 ＊はずかしがらずに話す。	・ダ行音とラ行音の混同による発音の誤りの改善指導 ・ダ、デ、ド音を正しく発音して話す。 ・ラ、レ、ロ音を正しく発音して話す。 ・ダとラ、デとレ、ドとロを正しく聞き分け、出し分け書き分けることができるようにする。（チェック） ・音読における発音の安定 ・正しい発音でみんなの前でもはずかしがらずに話すことができるようにする 。 （なかよし、ことばの教室の発表会ではずかしがらずに話す）

（通級指導教室連絡カード参考例　ＮＯ１）

平成　　年度　　通級指導教室　　連絡カード
月　　日　　曜日　　時間目
これまでの様子や所見など
前回は、心配や不安を感じてしまうような事柄に対して、ネガティブなとらえ方だけではなく、それ以外の様々なとらえ方ができることを確認していきました。練習として、「へんな夢を見た」ときに、ネガティブな「何か悪いことが起こりそうだ・・・・」というとらえ方以外に、「夢を見ただけ。 夢が本当になったことはないな・・・・」、「いつもより気をつけて行動するよう、前もって神様が教えてくれたかな・・・・」など、同じ事柄でも別の意味にとらえられることを二人で確認した後、 ○ ○ さんに他のケースについて考えてもらいました。「知っている人が誰もいないクラブの集まりに行くことになった」というケースでは、ネガティブな「ほったらかしにされて、誰も遊んでくれないだろう・・・」というとらえ方以外に、「新しい友だちができそうだなあ・・・・」「話しかけてくれるかな、きっといるだろう・・・」といった別のとらえ方を、助言を交えて見つけていくことができました。ストレスが感じられる事柄に対して思考を狭めるのではなく、柔軟な思考を身につけることをねらったものですが、次回も続けてみたいと思います。
今日の予定
1 ヒデオを見て，行動の仕方を確かめます。（その １０ ） 2 日記を書きます。（気持ちと考えをつかまえる日記その ３ ） 3 原因と結果について考えます。（⑦　⑧） 4 心配や不安についてたくさんの意味を見つけます。（その２ ） 5 問題をします。（常識？非常識？の⑦　⑧） 6 プレイルームで活動します。
今日の様子や通級指導教室からの連絡など

活動の内容やねらい等	記　　録
心配や不安を感じる事がらについてたくさんの意味を見つけることができる。	

次回の予定
次は、　　月　　日　　曜日　　時間目

	ご家庭	年　組	通級教室
	印	印	印

（通級指導教室連絡カード参考例　ＮＯ２）

平成　　年度　　通級指導教室　　連絡カード

（　　）月（　　）日（　　）曜日（　　）時間目

【　学期のめあて 】
・よく見たり聞いたりして適切に情報を得たり使ったりすることができる。
・適切なコミュニケーションスキルを身につけ、楽しく生活しようとする気持ちをもつことができる。

メニュー	ね　ら　い	反　応　と　支　援
１心タイム［トイレでのマナー」	○ 生活への見通し	○トイレで個室に入っている人に自分が待っていることを伝える場合には軽くノックすることで知らせることを確認した。（ドアをどんどん叩いて 「 早く 」 などと言わない）
２きいてかいて	○ 集中力持続	○ 数字一桁。聞き取りはスムーズ。聞き取る量を自分なりに調整して次回の取り組み量も決めることができた。
３みる遊び	○ 視点移動練習	○ 視点移動をスムーズにするためのトレーニング的課題に取り組んだ。眼だけで物事を見続けること経験を重ねる中でうまくいく感覚をつかみ、自ら適切に感覚を発揮できるようになることを期待しているところである。
４ プリント（弁別，注視・数のまとまり）	○ 数や形を正確に認職する自分なりの工夫を知る。	○１学期ほとんど書けなかった点結び作図が今回ほぼ同じ形に再現できた。定規の使い方を確認した。 ○「正しいのはどっち」プリントでは、５語文程度の短文をみて正しい表記に注目する課題に取り組んだ。「を・お」「しゃ、しゅ、しょ」などの文字と音を一致させる取り組みを継続していきたい。
５伝えるゲーム	○ 相手に分かるように伝えるエ夫を知る。	○「右、左 」「縦、横」などのキーワードを用いて「全体を教えて次に部分を伝える」ことを意識させた。
６ 宝さがし	○ 空間認知注視	○３個のブロックをプレイルームから探す課題。同系色の中にある

		ものはそばにあっても気付くことができないが視野を狭めることで見つける助けになる。
７ゲーム	○ SST	○トランプゲームで交代することや平等にカードを配ることなどにルールを守って取り組んだ。

〔担当者より〕
筆算ではできなかった問題でも何問か一緒に解いていくと一人でできるようになる、などのお家の方のお話をお聞きし、部分的に知識があるけれども頭の中にバラバラにある状態で意味あるものとしてつながっていない、または曖昧であることなど予想されました。知識の部分と部分がつながるには普段されている「繰り返すこと」「ポイントへの声かけ」 が大事だと思ったところでした。

次回、準備するものは（連絡フアイル，ふでばこ）です

次回の教室通級は（　　月（　　）日　〔　　〕曜日（　　）校時です

保護者から	学級担任から
印	印

（通級指導教室学習カード参考例　ＮＯ１）

通級指導教室（　組）学習記録カード

学校	年　組	名　前

月　　日　　曜日　　（　・　時間目）

今月の目標
虫の標本をつくろう

	学　習　内　容	学　習　の　様　子
1	小説の入力	今回は、まず３００文字小説をワードで入力しました。この小説は、短編小説です。新聞へ小学生からお年寄りまで幅広い世代が投稿した作品です。今回は、「ツルの恩返し」という作品でした。
2	三角紙の作り方	虫の標本づくりをしました。２０日にとったというチョウとトンボを教室に持ってきてくれました。そして、トンボは、まだ生きていたのでチョウを２頭、標本にしました。興味深そうに先生の手さきをよく見ていました。それから、自分も実際、シジミチョウを標本にしました。
3	まち針の差し方	
4	標本作り	真剣な顔で、作業していました。楽しくて興味深い活動ができたので

		はないかと思います。次回は、トンボの標本づくりを予定しています。また、チョウの羽の美しさに感動しました。
5		

○（　　）先生より

1 次は　月　日　曜日　・　時間目です。

2 持ってくるもの　学習記録フアイル国語の教科書

英語の教科書、筆記用具

学級担任の先生より	保護者の方より

（通級指導教室学習カード参考例　NO２）

通級指導教室（　組）学習記録カード

平成　年　月　日　曜日　校時	保護者印		担任印	

ことばの教室の先生から（学習内容や学習の様子）

① ことばあそび ② 発音の練習 ③ 教科書の音読 ④ プリント

はじめにクロスワードパズルをしました。なぞなぞのようにヒントを解いていくの

がおもしろかったようで、「もっとやりたい」といっていました。

発音の練習は、「せ」のあることば。「せすじをのばして、ただしいしせいで … 」など言いにくいことばを練習しました。

教科書は「マザーテレサ」の最初の場面を音読しました。

録音して聞かせると、うまく言うことのできていないところも自覚できたようです。

ことばをはっきり言えるように、また、がんばりましょう。

つぎの「通級指導教室」は　　月　　日（　）曜日　　校時です。

おうちの方から

担任の先生から

（通級指導教室指導経過報告書参考例　ＮＯ１）

平成〇〇年度　　〇〇小学校通級指導教室指導経過報告書

児童名		〇〇市立〇〇小学校〇年	担当者	

1　指導期間　　平成 〇〇 年 〇 月 〇 日（〇）～平成 〇 年 〇 月 〇 日（〇）

2　指導時数　　週 〇 ～ 〇 時間

3　指導の内容や経過の例

本児は、多くの困り感を持っていることから、〇 月より通級指導を開始した。〇 学期の目標は、「場の状況に気付くようにすること」と、「自分の気持ちを相手に伝えられるようにすること」とし、教科（国語・算数）の補充も行った。

学担の話によると、本児は学級で、何を聞かれでもほとんど答えられないとか、他と関わろうとしないということだった。そこで、会話の練習として、学校の休み時間や休日にどう過ごしているか等を、質問形式で答えさせた。話す口調はゆっくりであるが、尋ねられたことに対して、全て自分の言葉で話せるので、その度に褒めて、自信をつけさせるようにした。さらに、友達との関わり方のスキルを教えていった。そのうちに、本児は、学級でのグループの話し合いで発言したり、いろんな場面で他と関わろうとする姿が見られるようになってきたようである。

また、ある時、本児が自分の教室から手洗い場へ向かって勢いよく飛び出して行くのを、担当者がたまたま見かけた。誰かがその時に廊下を通っていたら、激しくぶつかるような状況だった。その頃、本校では交通事故が相次いで起こり、怪我をする子どもが出ていたところだった。そこで、その直後の通級指導では、道路でも建物の中でも、飛び出しをするのは危ないということを教えた。本児にこれまでどうだったか振り返らせると、思い当たることがあったようだった。この後、保護者もさっそく、飛び出しをしないよう十分話して聞かせたという。

家庭では、本児が帰宅後ぼうっとして、何をするにもなかなか動き出さないことが気になるということを母親から聞いた。何をすればよいかが分からない（見通しが持てない）から、そういう状況になると思われた。そこで、帰宅後の簡単なスケジュール表を作り、それを目立つ所に貼ることで、本児が見通しを持って行動できるようになるはずであると、保護者に協力を呼びかけた。保護者は、すぐにそれを実践したそうである。以来、帰宅後の過ごし方が良くなってきたという。

4　所見の例

本児が自尊感情を高め、困り感を少しずつ克服できるよう、今後も関係職員、保護者と共通理解を図りながら支援していきたい。

（通級指導教室指導経過報告書参考例　ＮＯ２）

平成○○年度　　○○○学校通級指導教室指導経過報告書

生　徒　名	学　　校　　名	担　当　者　名
	○○市立○○○学校○年	

1　指導期間　　平成○○年 ○ 月 ○ 日～平成 ○ 年○ 月 ○ 日

2　指導時数　　週○時間（毎週火曜日 １４：２０ ～ １６：００）

3　指導の内容や経過の例

○学期も、○ 学期同様、休まずに遅刻もせず教室に来てくれたので、よかったと思います、○○君は、ずいぶん、この教室に慣れてきました。にこにこすることも多くなりました。「トイレはどこですか」などの言葉も若干出るようになりました。

自立活動では、面接練習や色紙作り、文学作品の朗読、パソコン操作、将棋などを行いました。受検を控えていたので、面接練習は、ずいぶん時間をかけて行いました。姿勢、ドアの開け閉め、礼の仕方、座り方・立ち方など何回も練習させました。そして、○○への志望動機や卒業後の進路など、声がはっきり出るまで繰り返し練習させました。

また、パソコン操作は、パワーポイントで、上段に問題を打たせ、下段に答えを打たせるという方法で取り組ませました。 ローマ字入力が、とても早く正確になりました。色紙作成は、見事、○○合格を勝ち取ったので、記念に色紙を贈ろうという趣旨で行いました。昆虫が好きなので、「フアーブル昆虫記」の挿絵からミツバチの絵をコピーし、拡大して、模写させ、色紙にはらせました。そして、祝合格と書いて記念として贈りました。

教科の補充では、公民の学習をパワーポイントを使って行いました。デザインの選択の仕方、アニメーションの設定やイラストの入れ方もスムーズにできるようになり、手作り問題集ができました。とくに、政治・経済の分野の基礎などを学習しました。また、世界の国々や４７都道府県のパズルを数回行いました。そのことで、世界の国や都道府県の名前と位置をほぼ覚えました。

4　所見の例

常にまじめで、一生懸命な学習態度でした。面接練習で、声がしっかり出せるようになりました。

5　指導要録記載の例

＊　○○市立○○学校通級指導教室に週２時間、通級する。
（平成 ２２年 5月 １２ 日～平成 ２３ 年 ３ 月 ２ 日計 ３０ 時間）

＊　指導内容・結果については、指導経過報告をもとに、簡潔にまとめたものをご記入下さい.

参 考 資 料

①特別支援学校教育課程編成の考え方

②根拠となる関連法令

ＸＶ　知的障害の児童生徒を教育する場合（教育課程）

小・中特別支援学級（知的障害学級）特別支援学校（小学・中学・高等部）

教 育 課 程

指導内容

各教科　道　徳　特 別 活 動　自 立 活 動　総合的な学習の時間

指導形態

教科別の指導

小学部
○生活
○国語
○算数
○音楽
○図画工作
○体育
以上６教科

中学部
○国語○社会
○数学○理科
○音楽○美術
○保健体育
○職業・家庭
以上８教科に外国語科を加える事ができる

各教科等を合わせた指導
○日常生活の指導
○遊びの指導
○生活単元学習
○作業学習

領域別の指導
○道　徳
○特別活動
○自立活動

総合的な学習の時間
特別支援学校小学部で知的障害の児童を教育する場合は設けない

各教科等を合わせた指導
【例】生活単元学習「買い物に行こう」

{各教科}
国語：広告の文字
算数：金銭の計算

{道徳}
安全への配慮
店員への感謝の気持ち

指　導　内　容

{特別活動}
買い物時の役割分担
望ましい食習慣の形成

{自立活動}
店員の顔を見ての会話
店内で落ち着いた行動

XVI　知的障害の児童生徒を教育する場合の各教科について

1　教育課程の基準　（特別支援学校学習指導要領）

○　法律で定められている教育の目的や目標などを基盤とし、地域や学校及び児童生徒の実態等に即した教育目標を設定し、これらの規定を踏まえ、学校教育施行規則及び学習指導要領に各教科等の種類やそれぞれの目標、指導内容等について基準を示している。

2　特別支援学校の小学部・中学部・高等部の各教科
（小・中・高等学校学習指導要領より）

小学校の各教科
　国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭科及び体育（以上９教科）
中学校の各教科
　国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭科及び外国語（以上９教科）
高等学校の各教科
　普通教育に関する教科（１０教科）
　　国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報
　専門教育に関する教科（１３教科）
　　農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉、理数、体育、音楽、美術、英語

※　各教科の目標、各学年の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校及び中学校学習指導要領第２章に示すものに準ずるものとする。
　準ずるのみならず、児童生徒の障害の状態や特性を十分考慮しなければならない。

3　知的障害の児童生徒の小学部・中学部・高等部の各教科
（特別支援学校学習指導要領より）

（１）各教科について

小学部の各教科（６教科）
　生活、国語、算数、音楽、図画工作、体育
中学部の各教科（９教科）
　国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭・必要な場合（外国語）
高等部の各教科
　普通教育に関する教科（１１教科）
　　国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、外国語、情報
　専門教育に関する教科（５教科）
　　家政、農業、工業、流通・サービス、福祉

（２）生活について（特別支援学校学習指導要領解説総則編より）

生活の目標
①日常生活の基本的な習慣を身に付ける。
②集団生活への参加に必要な態度や技能を養う。
③自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深める。
④自立的な生活をするための基礎的能力と態度を養う。

（3）生活の内容構成の観点（特別支援学校学習指導要領解説総則編より）

①基本的生活習慣　②健康・安全　③遊び　④交際　⑤役割　⑥手伝い・仕事　⑦きまり
⑧日課・予定　⑨金銭　⑩自然　⑪社会の仕組み　⑫公共施設

（4）生活の具体的な内容（特別支援学校学習指導要領解説総則編より）

○食事　○用便　○寝起き　○清潔　○身の回りの整理　○身なり　○健康管理　○危険防止
○交通安全　○避難訓練　○いろいろな遊び　○遊具の後片付け　○自分自身と家族
○身近な人の交際　○手伝い　○整理整頓　○戸締まり　○掃除　○後片付け　○学校のきまり
○自分の物と他人の物の区別　○日常生活のきまり　○マナー　○日課・予定　○金銭の扱い
○買い物　○自動販売機等の利用　○自然との触れ合い　○動物の飼育・植物の栽培
○季節の変化と生活　○家族・親戚・近所の人　○いろいろな店　○社会の様子
○公共施設の利用　○公園や遊園地などの利用　○交通機関の利用

4　特別支援学校の小学部・中学部・高等部の道徳

（1）小学部・中学部の道徳について

道徳教育の目標・内容等は、小学校、中学校に準じます。ただし、特別支援学校学習指導要領に示されている、障害のある児童生徒に配慮した以下の３項目を踏まえて道徳教育の実践に努めることが必要です。

（2）小学部・中学部の道徳の目標（特別支援学校学習指導要領より）

○児童又は生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高めることにより、明るく生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る。
○各教科、領域、総合的な学習の時間との関連を密にしながら、経験の拡充を図ることによって、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳的判断力が身につくように指導する。
○内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れる工夫を行うこと。

（3）高等部の道徳について

高等学校の道徳については、学校の教育活動全体を通じて行われていますが、知的障害の生徒に対しては、領域として道徳が設けられています。
ただし、特別支援学校学習指導要領の総則には、他の障害種も含めて道徳教育の指導について以下のように示されており、このことを踏まえて道徳教育の指導に当たる必要があります。

（4）高等部の道徳の目標（特別支援学校学習指導要領より）

※知的障害の生徒を育成する場合
小学部及び中学部における目標及び内容を基盤とし、さらに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めることに努める。
○生徒、学校及び地域の実態を十分考慮し、中学部における道徳との関連を図り、計画的に指導がなされるように工夫する。
○一人一人の生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体

化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行う。
○学校の道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるようにする。
○保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図るように配慮する。

（5）道徳教育推進のポイント

○学校教育全体を通じて道徳教育の推進
○実生活とのかかわりを重視した指導
○思春期の特性を考慮した指導の推進（中学部・高等部）

5　特別支援学校の特別活動　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編）

特別活動は、望ましい集団活動を通して個性の伸長と豊かな人間関係の育成を目指すため、児童生徒の障害の状態や特性等を考慮し、活動の種類や時期、実施方法等を適切に定め、自分の役割を果たし、相互に協力して活動する過程で集団や社会の一員としての自覚を深め、意欲をもってその責任を果たすことができるように指導します。

学級（ホームルーム）活動、児童（生徒）会活動、学校行事（儀式的行事、学芸的行事健康安全・体育的行事、遠足（旅行）・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）の３つの内容と小学校ではクラブ活動があり、児童生徒の実態に応じて活動内容を具体化します。

なお、学級活動においては、適宜、他の学級と合同で実施するなど、少人数からくる種々の制約を解消し活発な集団活動が行われるようにする必要があります。

指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校学習指導要領第６章又は中学校学習指導要領第５章に示すものに準ずる。

6　特別支援学校の特別活動の独自の項目

（1）集団構成の配慮（特別支援学校学習指導要領より）

○学級活動においては、適宜他の学級や学年と合併するなどして、少人数からくる種々の制約を解消し、活発な集団活動が行われるようにする必要があります。
○集団活動を通して小学校の児童又は中学校の生徒などと交流及び共同学習を行ったり、地域の人々などと活動を共にしたりする機会を積極的に設ける必要があること。
○内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、具体的に指導する必要がある。

（2）交流及び共同学習（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

児童又は生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性をはぐくむために集団活動を通して小学校の児童又は中学校の生徒などと交流及び協同学習を計画的、組織的に行うとともに、地域の人々などと活動を共にしたりする機会を積極的に設ける必要があること。

その際、児童又は生徒の障害の状態や特性等を考慮して、活動の種類や時期、実施方法等適切に定めます。

（3）配慮事項

知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定めて、具体的に指導する必要があります。

7　特別支援学校の自立活動（領域）の目標と内容

（1）小学部・中学部自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

（2）幼稚部・小学部・中学部・高等部の内容

①健康の保持

＊生活リズムや生活習慣の形成に関すること
＊病気の状態の理解と生活管理に関すること
＊身体各部の状態の理解と養護に関すること
＊健康状態の維持・改善に関すること

②心理的な安定

＊情緒の安定に関すること。
＊状況の理解と変化への対応に関すること。
＊障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

③人間関係の形成

＊他者とのかかわりの基礎に関すること。
＊他者の意図や感情の理解に関すること。
＊自己の理解と行動の調整に関すること。
＊集団への参加の基礎に関すること。

④環境の把握

＊保有する感覚の活用に関すること。
＊感覚や認知の特性への対応に関すること。
＊感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
＊感覚を総合的に活用した範囲の状況の把握に関すること。
＊認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

⑤身体の動き

＊姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
＊姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。
＊日常生活に必要な基本動作に関すること。
＊身体の移動能力に関すること。
＊作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

⑥コミュニケーション

＊コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
＊言語の受容と表出に関すること。
＊言語の形成と活用に関すること。
＊コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
＊状況に応じたコミュニケーションに関すること。

（３）自立活動の内容の具体的な項目

①健康の保持の具体的な項目（例）

・衣類の着脱や身辺の処理の技術を取得
・生活リズムを整え、しっかりと食事が取れるようにする。
・常に自分の身体を清潔に保つための手段を身に付ける。
・ロッカーや机の整理整頓をする。
・忘れ物をしないようにする。
・毎日、定時に登校する。
・体調を管理し、次の活動にそなえる。
・ストレッチを行い体力をつける。
・楽しみながら体を動かし、体重を管理する
・ブラッシングをして口内衛生に気をつける。

②心理的な安定の具体的な項目（例）

・落ち着いて行動する。
・好きな活動に集中する時間を増やす。
・課題に対して落ち着いて取り組む。
・スケジュールカード等で、見通しをもてるようにする。
・課題のスケジュールが全部終わるまで、集中して取り組む。
・嫌いな場面で泣いたり、わがままを言ったりせずにその場を離れる。
・集団の活動に参加できるようになる。
・急な変更に対応できるようになる。
・かっとなったとき、感情を自分で抑えることができる。
・自分の意思に反することでも少し我慢して応じる態度を身につける。

③人間関係の形成の具体的な項目（例）

・相手の顔を見て会話をする。
・自信を持って大きな声ではっきりと話す。
・学級や合同学習でも、ルールや順番を守りながら友達と仲良く活動することを増やす。
・名前を呼ばれたら相手の顔を見る。
・友達の写真を見て名前を言う。
・学級やグループと一緒に活動ができるようにする。
・提示された２つの具体物の中から、好きな方を選んで手に取る。
・要求などを身振りや言葉で伝える。
・自分の意思や要求を相手に穏やかに伝える方法を身に付ける。
・間違いを注意されたときは落ち着いて改善することができる。

④環境の把握の具体的な項目（例）

・様々な感覚刺激を経験し、外界から刺激を受けることに慣れる。
・幾つかの素材の異なる物に触れ、触感覚の育成を図る。
・受け入れやすい刺激に対して、視線を向ける場面を増やす。
・スイッチ操作で因果関係等を学習する。
・１～５の数字のカードを並べることができる。
・１～１０までの数唱ができる。
・コインを貯金箱の穴の向きに合わせていれることができる。
・具体物と具体物のマッチングをする。
・身近な物の名前を聞いて、絵カードを取ることができる。
・自分の気持ちを素直に表現する.
・環境に関わらず、スムーズに行動する。
・水の感触に慣れる。
・運動・動作と音の関連に気づく。

⑤身体の動きの具体的な項目（例）

・足の可動域を広げる。
・教師や級友と体を動かすことを楽しむ。
・身体を支えたりバランスをとったりする力を養う。
・あぐら座位で背中を伸ばした姿勢をスムーズにとることができる。
・車椅子やウォーカー等を使用して体を動かすことに慣れる。

⑥コミュニケーションの具体的な項目（例）

・五十音を明瞭に発音できるようになる
・前後、左右からの音に対して探るように顔や身体を動かす。
・身近な人の声やいろいろな物の音を聞いて快、不快の表出を促す。
・教師や級友と体を動かすことを楽しむ。
・何かしてほしいときに自分から「やって」と言う。

・コインを指先でつまんで箱に入れる。
・スプーンですくう操作をする。
・ピンセットで小さい物をつまんで別の容器に入れる。
・グ、チョキ、パーをスムーズに出す。
・友達に遅れないペースで行動できる。
・枠の中に一定の大きさの文字を書き込む。

・自分の意思をノート等に書いて表す。
・自分のしてほしいことなどを身振りで伝えようとする。
・「食べたい」、「遊びたい」など要求をカードで示す。
・自分の気持ちを言葉で相手に伝える。
・便所に行くときや教室から出るときはどこに行くか伝える。
・分からないときや困ったときに質問をする。

8　特別支援学校の各教科等を合わせた指導の目標と内容
（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

特別支援学校において知的障害者である児童生徒を教育する場合に各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせて指導を行うことができるとされていることから「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」などとして実践されており、それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれています。

（1）日常生活の指導の概要　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。
日常生活の指導は、生活科の内容だけでなく、広範囲に、各教科等の内容が扱われる。それらは例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ことなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容です。

①日常生活の指導の留意点

・日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること。
・毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り扱うようにすること。
・できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。
・指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるよう計画されていること。

②日常生活の指導内容例

公共交通機関の利用、交通安全、靴の履き替え、雨具の活用・始末、あいさつ、排泄、着替え
カバンの片付け、持ち物の整理、カレンダー、天気、予定の確認、健康観察、係活動、歌
動植物の世話、手洗い、食器の運搬・配膳・片付け、食事（動作、作法、好き嫌い）、歯磨き
机・椅子の運搬、ほうきの扱い、雑巾がけ、今日の振り返り、日課の確認、整理整頓、戸締り

（２）遊びの指導の概要　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

遊びの指導では、遊びを学習活動の中心に捉えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間との関わりを捉し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。
遊びの指導では、生活科の内容をはじめ、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約が高い遊びまで連続的に設定される。
また、遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもあります。

①遊びの指導の留意点

・児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定する。
・教師と児童、児童同士のかかわりを促すことができるよう、場の設定教師の対応遊具等を工夫すること。
・身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにすること。
・遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に遊べる場や遊具を設定すること。
・自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりしていろいろな遊びが経験できるように配慮して、遊びの楽しさを味わえるようにしていくこと。

②遊びの指導内容例

ひとり遊び、２～３人遊び、集団遊び、おもちゃの電車などを手で走らせて遊ぶ、
砂いじりをして遊ぶ、おもちゃを並べて遊ぶ、ブランコ・すべり台など遊具で遊ぶ、
積み木でいろいろな物を作る、ボールを投げて遊ぶ、追いかけっこする、すもうをして遊ぶ、
消防車や救急車を想像して遊ぶ、電話ごっこで交互に会話ができる、買い物ごっこをする、
じゃんけんで勝ち負けがわかる、順番を守って遊ぶ、かくれんぼや鬼ごっこなどをして遊ぶ、
砂場で大勢で協力して一つの山を作る、みんなと一緒に遊具などの後始末をする

（３）生活単元学習の概要　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

生活単元学習は児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験すことによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである
生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。
生活単元学習の指導では、児童生徒の学習活動は、生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。
また、小学部において、児童の知的障害の状態等に応じて、遊びを取り入れた生活単元学習を展開している学校もある。
計画を立てる際には、一つの単位が２、３日で終わる場合や１学期間、時には１年間かけて指導を行う場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について十分検討する必要がある。

①生活単元学習の留意点

・単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたもの

であり、個人差の大きい集団にも適合するものである。
・単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
・単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
・単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
・単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要かつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
・単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されること。

②生活単元学習の指導内容例

新しい学級を知ろう、歓迎会をしよう、学校探検をしよう、母の日、町探検をしよう、
じょうぶな体を作ろう、室内での遊びを知ろう、水遊び、お泊まり会、夏休みのくらし、
夏休みの思い出をまとめよう、台風と地震に備えよう、運動会を楽しもう、買い物をしよう、
秋の遠足に行こう、楽しい思い出を絵や文にする、クリスマス会をしよう、
お正月を楽しく過ごそう、餅つき会をしよう、お世話になった先生に感謝しよう、
お別れ遠足をしよう、卒業生を送る会と卒業式、お別れ会をしよう、１年のまとめをしよう

生活単元学習の単元構想図（例１）

生活単元学習４月

「はるだ、わくわく！」

○新しい教師や学級の友達の名前などを覚え、楽しく活動に参加できるようにする。

○新しい学校、学級、教室や靴箱などの場所を覚える。

1　新しい学級を知ろう
　（1）新しい教室
　（2）係と当番
　（3）新しい教師と友達
2　歓迎会をしよう
　（1）歓迎会の準備
　（2）歓迎会
3　学校探検をしよう
　（1）教室めぐり
　（2）校内めぐり
　（3）学校探検ゲーム
4　みんなで遊ぼう
　（1）固定遊具遊び
　（2）校外学習

国　語

「みんなのなまえ」
- 自分の名前や友達や教師の名前を書いて覚えよう。

「みのまわりのもの」
- 身の回りの物や欲しい物の名前を書いて覚えよう。

「あいさつ」
- 簡単なあいさつの言葉や動作を覚えよう。

図画工作

「はるのはな」
- 春をイメージする色、教室掲示を作る。
- 色紙や色画用紙をちぎったり、切ったりして、歓迎会の飾りつけを作る。

「こいのぼり」
- はさみやのり、クレヨンを使って自分のこいのぼりを作ろう。

体　育

「きほんてきなうんどう」
- いろいろな遊具の名前を覚えて決まりを守って遊ぶ。
- 友達の位置を意識したり相手を意識して整列する。
- 遊具を使っていろいろな動きを覚える。

算　数

「かんげいかいをしよう」
- 歓迎会に必要な物や数を数えたり集めたりする。

「なかまあつめ」
- 仲間を集めたり分けたりして数を数える。

「くらべよう」
- 大小の比較、長短の比較、比べっこ

道　徳

「あたらしいなかま」
- 新しい友達の名前を覚え仲良くするにはどうしたらよいか考える
- 自分の物と友達の物を区別したり、大切に扱ったりすることを知る。
- 自分の物に名前を書く

生　活

衣服の着脱　簡単な役割
身だしなみ　トイレの使い方
保健室の使い方　自分の靴
右側通行　あいさつ
交通安全

音　楽

「ちゅうりっぷ」
- 歓迎会で簡単な楽器を演奏したり、歌ったりする。

「こいのぼり」
- みんなで合唱して歌詞の意味を理解する

生活単元学習の単元構想図（例２）

生活単元学習５月

「そとにでかけよう」

○春の自然に浸ったり．季節の行事を楽しんだりして季節感を味わう。

○学級園で花や野菜を作る計画を立て，その世話をする。

○学校の周囲を見学・観察し．自分たちの住む町の様子を知る。

1　うれしい春
　（1）学校の花壇の観察
　（2）学校の周りの自然観察
　（3）春の野山や公園
2　母の日
　（1）お母さんへの感謝
3　野菜を作ろう
　（1）野菜づくりの計画
　（2）学級園の整備
　（3）種まき・苗付け
4　町探検をしよう
　（1）調べる計画
　（2）町探検
　（3）発表とまとめ

国　語

「あいさつ（2）」
- あいさつの種類
- あいさつの練習
- 場面ごとのあいさつい
- ろいろな場面であいさつができる。

「おかあさんへのてがみ」
- お母さんの仕事
  お母さんの仕事を知り，自分たちがお世話になっていることに気付く。
- 感謝の言葉
  感謝の気持ちを表す方法を考える。
- 感謝の手紙
  自分なりの言葉で，感謝の気持ちを伝える。

「おつかい」
- 伝言と報告
- お使い

図画工作

「いろみずあそび ］
- 色水づくり
- 草花で色水を作って，絵をかいたり布を染めたりする。

「ははのひ」
- お母さん
- 身近な材料を使って，お母さんの顔を表現した作品を作る。

「おおきなえ」
- 水を使って

体　育

「からだつくりうんどう」
- 体ほぐし

「はしったり，とんだり」
- 短距離走、リレー
- いろいろな跳び方
- 友達と一緒に伸び伸びと体を動かし，校庭にある固定遊具などを利用して，いろいろな跳び方をして遊ぶ。

「てつぼう」
- 鉄棒遊び
- いろいろな回り方

算　数

「かずのおけいこ」
- 数詞と数
  身の回りの物を実際に数えて数詞を覚える。
- 大きさ比べ

「あわせていくつ」
- 集合数
- 数の系列
- 数の合成・分解

「ボウリングゲーム」
- やり方
- 倒れた数と残った数
- 合わせた数
- ゲーム

生　活

手洗いとうがい	自然
家族	野菜の栽培
手洗い	汗の始末
交通安全	公共施設

道　徳

「せいけつ」
- 体の洗い方
- 外出後、手や足の洗い方を練習する。

「なかよし」
- 遊ぶときのきまり
- 校外で，自然に触れながら伸び伸びと遊び、きまりの大切さに気付く。

音　楽

「てをたたきましょう」
- 歌唱　・楽器遊び

「もりのくまさん 」
- 身体表現　・歌唱

生活単元学習の単元構想図（例３）

生活単元学習６月

「おくろう！けんこうで、たのしいせいかつ」

○自分の体のことを知り、健康的な生活を送ろうとする態度を養う。

○雨具の扱い方や梅雨時の衛生について知り、生活の中に役立たせようとする

○室内で遊ぶときのきまりを知り、遊びに楽しく参加できる。

○家の人を招待して、お楽しみ会に楽しく参加できる。

1　じょうぶな体を作ろう
- 虫歯予防デーの話
- 歯みがき
- 体の名前
- けがと病気

2　雨の日のくらしを知ろう
- 「つゆ」
- 雨具の扱い方
- 梅雨時の衛生

3　室内での遊びを知ろう
- 室内での遊びときまり
- 動くおもちゃづくり

4　家の人を招待して、お楽しみ会をしよう。
- お楽しみ会の計画
- 家の人へのプレゼント
- 会場の準備
- お楽しみ会への参加
- お楽しみ会に参加して

国　語

「いろいろなしるし」
- 校内にある標示や標識
- 校外にある標示や標識

「でんわごっこ」
- 電話の使い方、かけ方
- 電話のやり取り
- 簡単な取次ぎと伝言
- 自宅や緊急連絡先の電話番号
- 天候の変化などにより急に連絡を取りたいとき、自宅の電話番号や緊急連絡先の電話番号が分かる。

図画工作

「きれいなもよう」
- 模様づくり
- なぞる
- 彩色
- 身の回りの物を工夫して使い，模様をかき，プレゼントを作る。

「ねんどあそび」
- 粘土遊び
- 動物広場

体　育

「ボールあそび」
- ボールを使って室内でのボール遊びを工夫する。
- 円形ドッジボール

「みずあそ」
- 水かけ遊び
- 水中での遊び

算　数

「じこくとじかん」
- 時刻
- 時間

午前、午後などの範囲と意味が分かり、簡単な時間や日数を計算する。

「にっかひようとこよみ」
- 日課表や時間割
- こよみ

「いろいろなかたちといろ」
- 形づくり
- かく、切って，色塗り
- 仲間分け

生　活

歯みがき　　けがの手当て
雨具の扱い方　本の扱い方
体を清潔にする方法
室内での安全な遊び方
雨の日の過ごし方
教室内の整理・整とん
あいさつ　　身近な礼儀

道　徳

「しつないあそび」
- 室内の遊び
- 梅雨どきの室内での過ごし方について考え，室内での遊びを工夫する。

「じぶんのこと」
- 身の回りのこと
- 放課後に，自分が使った物をきちんと片付けたり．教室内の机やいすを整とんしたりする。

音　楽

「かえるのうた」
- 歌唱　・輪唱

「かたつむり」
- 身体表現　・歌唱

生活単元学習の単元構想図（例４）

生活単元学習７月

「なつだ　げんきに」

○水を使った遊びを工夫して行い、夏の遊びを十分に楽しむ。

○地域の夏の行事を調べたり，夏休みのくらし方を考えたりして，夏休みへの心構えをもつ。

○学校外での集団行動を通して．身辺自立や基本的行動様式を身に付ける。

1　水遊び
（1）水運び
（2）シャボン玉飛ばし
（3）魚つり遊び
（4）水車遊び
2　お泊まり会
（1）お泊まり会についての話し合い
（2）レクリエーションの準備と練習
（3）カレーライスづくり
（4）お泊まり会の準備
（5）お泊まり会当日
3　夏休みのくらし
（1）学期の反省
（2）地域の夏休みの行事
（3）夏休みの計画表
（4）１学期の作品のまとめ

国　語

「えにっき」
・昨日の出来事
・絵をかく
・文を書く
・絵日記のかき方
発展学習として，夏休みの家庭での生活ぶりを，絵日記にかく。

「おとまりかい」
・めあてづくり
お泊まり会でのめあてを考え，ノートやしおりに書
・日程表づくり
お泊まり会の日程表を，共同作業で作る。
・お礼の手紙
お泊まり会で仲良くなった友達やお世話になった方々にお礼の手紙を書く。

図画工作

「おもいでのえ」
1 お泊まり会
お泊まり会で楽しかったことを思い出し，絵にかいたり，はり絵を作ったりする。
2 下絵
みんなで協力して，お泊まり会の下絵をかく。
・はり絵
包装紙や色紙を用いて，下絵に沿ってお泊まり会のはり絵をする。

体　育

「みずあそび」
・ばた足
楽しく遊びながら水に慣れ，ばた足をすることができる。
・呼吸の仕方
水に顔を着けて，呼吸の仕方を練習する。
・自分の泳ぎで
「どれだけおよげるかな」
・記録会

算　数

「ジュースやさん」
・水の量を比べる
・基準量で比べる
・かさの単位を知る
・ジュース屋さん

「かぞえてみよう（１）」1
・数を数える
・大きさ比べ
・何番目

生　活

水泳、　遊び、　汗の始末
宿泊のマナー　仕事
下着の取り替え　清掃
夏休みの渦ごし方　健康

道　徳

「あついあつい」
・夏のくらし
夏の特徴を知り，過ごし方について考える。

「あぶない」
・危険な遊び
危険な場所や遊びを知り，安全な遊びを考える。

音　楽

「キャンプだホイ」
・身体表現　・歌唱
「たんこうぶし」
・盆踊りの体験発表　・身体表現

生活単元学習の単元構想図（例５）

生活単元学習９月

「２がっきだがんばろう！」

○夏休みの生活を反省し、２学期の努力目標をもつことにより、活動に意欲的に取り組めるようにする。

○台風や地震災害の恐ろしさを知り、災害に対する備えや、災害に遭難したときに安全に対処することができるようにする。

○運動会に関する活動を通して、集団行動の仕方を知りみんなで協力して楽しく活動できるようにする

1　夏休みの思い出をまとめよう
　（1）夏休みの思い出
　（2）夏休み作品展の準備
　（3）２学期の行事、生活
2　台風と地震に備えよう
　（1）いろいろな災害
　（2）台風への備え
　（3）雷や地震
3　子供と親の集い運動会を楽しむ
　（1）運動会のお話し
　（2）自己紹介・あいさつの練習
　（3）集団行動の練習
　（4）出場種目の練習
　（5）応援の仕方
　（6）学級応援旗の作成
　（7）ゼッケンの製作
　（8）会場への行き方

国　語

「なつやすみのおもいで」

・夏休みの思い出を絵に書いて話したり、作文に書いたりする。
・友達の発表を見たり聞いたりして、感想を発表する。

「もののなまえ」

・身に付けている物や運動会や日常生活で使う物の名前を書いて覚える。

算　数

「くらべよう」

・長さ比べ、重さ比べ
・広さ比べ、厚さ比べ
・走る距離や応援旗の大きさなど、いろいろな物の長さ、広さ、重さなどを比較する。

音　楽

「レッツゴーいいことあるさ」

・鑑賞、リズム遊び
・身体表現
・運動会のダンス曲を楽しく演奏したり、踊ったりする。

図画工作

「うんどうかい」

・運動会で演技している友達や見ている人などを線がきする。
・かいた人物を切り抜いてはったり、クレヨンや色鉛筆で配色を考えて塗ったりする。
・絵を見ながら、運動会でしたことを話す。

体　育

「うんどうかい」

・通常の学級の友達と一緒に集合、整列、行進の練習をする。
・全体体操や各種競争遊技種目、徒競争などの練習をする。
・子供の実態に応じて、通常の学級の友達と合同で練習する。

道　徳

「２がっきのめあて」

・夏休みの生活を反省し、２学期のめあてを考える。
・運動会の意義や考え、自分なりの練習のめあてを一人ずつ決める。

生　活

用具のそろえ方　教室の美化
当番・係の確認　暴風雨警報
トイレの使い方　避難訓練
礼儀正しく　よい身なり
共同作業の仕方　忘れ物

生活単元学習の単元構想図（例６）

生活単元学習 10 月

「たのしいあき」

○草花・虫の観察や地域の様子を調べることなどを通して，秋の季節に気付く。

○遠足の計画や準備に参加し，クラスの友達や教師と楽しい思い出を作る。

○いろいろなお店があることを知り，実際にお店で品物を買うことができるようにする。

1　買い物をしよう
（1）お店の見学
（2）お店屋さんの決定
（3）お店屋さんの準備
（4）買い物ごっこ
（5）買い物

1　秋の遠足に行こう
（1）行き先の決定
（2）交通機関の利用
（3）遠足のしおりの作成
（4）遠足ごっこ
（5）おやつの買い物
（6）遠足行く（当日）まとめ（後日）

3　秋と遊ぼう
（1）樹木や草花や虫の観察
（2）拾った物を使って
（3）秋の野菜や果物

国　語

「もののなまえ（2）」
- 遠足の持ち物
- 遠足に持っていく持ち物を知り，その名前を書く。
- 駅名、バス停名
- バスや電車の駅名を知り．書く練習をする。

「おはなし」
- 絵本

「ものがたり」
- 物語の発表
- 教師の範読
- 物語の音読
- 理解・感想

図画工作

「ともだちのかお」
- 顔の観察
- 顔の下絵
- 色塗り

「やきもの」
- 陶板の作製
- 模様付け

体　育

「マットうんどう（1）」
- 転がり遊び
- 種目練習

「ゲーム」
- 鬼ごっこ
- 遠足の自由時間に楽しむゲームを決めて自分たちでルールを考え，楽しく遊ぶ。
- 運動場や体育館で，自分たちでルールを決めながら．一人鬼や二人鬼で遊ぶ。

算　数

「たしざん（1）」
- たし算
- 増加の意味を具体物の操作を通して覚える。

「かいもの」
- 買い物練習
- お金の種類を覚え．値札を読む練習をする。
- 買い物
- 近くのお店にお菓子を買いに行き，代金を支払う。

生　活

あいさつ　話し合い
清掃　よい身なり
交通安全　トイレの使い方
食事の作法　後片付け
図書館の利用

道　徳

「のりもののなか」
- 乗り物のマナー
- 遠足に行くときの乗り物のマナーを考えたり，発表したりする。また、それをポスターや標語にする。

「おてつだい」
- お手伝いの種類
- 家でできるお手伝いを考え，進んで行おうとする。

音　楽

「さんぽ」
・身体表現　・歌唱　・楽器

「もみじ」
・鑑賞　・歌唱

生活単元学習の単元構想図（例７）

生活単元学習 11 月

「ともだちのわをひろげよう」

○いも掘りや調理実習を通常の学級の友達と一緒に楽しむ。

○学区めぐりをすることで友達のことや家の場所を知る。

○多くの友達と触れ合えるように放課後や休日の過ごし方を考える。

1　野菜を収穫しよう
（1）いも掘り
（2）いも洗い
2　とれた野菜で調理実習をしよう
（1）大学いも作り
（2）会食
3　楽しい思い出を絵や文にする
（1）いも掘りの思い出
（2）お礼の手紙
4　友達の家を見付けよう
（1）自分の家探し
（2）友達の家探検

国　語

「ことばあそび」
・読みの初めが同じ言葉
・読みの初めが違う言葉
・名前かるた取り
・いろいろな野菜の名前を使ってかるたを作り，かるた取りをする。

「おはなし」
・教師の範読
・本選び
・本読み
・感想と簡単な話づくり

図画工作

「じぶんのいえやのりもの」
・材料集め
・どんな家や乗り物を作るか考える。
・下絵と彩色
・ダンボール切りとはり付け
・ダンボールを使って，自分の家や友達の家，バスなどを作る。

体　育

「ボールゲーム」
・いろいろなボール遊び

「てつぼう（２）」
・上がり技や回転技
・発表会

算　数

「かぞえてみよう（２）」
・２０より大きな数
「ひきざん (1)」
・ひき算
・計算練習 ①
・計算練習 ②
「いろいろなかたち」
・四角形づくり
・仲間分け
・学区内の建物や看板の写真の中から，三角形や四角形などのいろいろな形の建物や看板を見付け，仲間分けをする。

生　活

ペアやグループの確認
身だしなみ　手洗い
片付け　配膳の仕方
あいさつ　絵や図をかく
手紙の書き方　地図の見方
安全な歩き方

道　徳

「あとかたづけ」
・使った物の片付け
・いも掘りの道具や調理実習に使った物などをもとあった場所にきちんと返却する。
「はやねはやおき」
・時間を守る

音　楽

「きらきらほし」
・歌唱　・楽器遊び
「バスごっこ」
・歌唱　・身体表現

生活単元学習の単元構想図（例８）

生活単元学習 12 月

「ふゆのおもいで」

○クリスマス会や餅つき会などの計画や準備を通して，自ら活動する態度を身に付け．会を実施することでクラスの友達や教師と楽しい思い出を作る。

○お正月（冬休み）の過ごし方や年賀状の書き方などが分かる。

1 お正月（冬休み）を楽しく過ごす
(1) お正月（冬休み）の過ごし方
(2) お正月の遊び
(3) カレンダーづくり
(4) 年賀状づくり
2 クリスマス会をしよう
(1) クリスマス会の話し合い
(2) クリスマス会の準備
(3) クリスマス会
(4) まとめ
3 餅つき会をしよう
(1) 餅つき会の話
(2) 餅つき会の準備
(3) 餅つき会
(4) まとめ

国　語

「はがきとてがみ」
- はがきと手紙の区別
- はがきと手紙の使い分けを知る。
- はがきや手紙の書き方
- 相手の住所や郵便番号を調べたり、書き方を練習したりする。

「ねんがじょう」
- 年賀状の書き方
- 本文や名前などを書く練習をする。

「しょうたいじょう」
- 招待状の書き方
- クリスマス会や餅つき会に合わせて，自分で工夫した招待状を作成する。

図画工作

「すごろく」
- 原画作成
- すごろくづくり
- ルールを考えたり，絵をかいたりしてすごろくを作り．それで楽しむ。

「クリスマスツリー (1)」
- 材料の準備
- 飾り付け
- クリスマス会の雰囲気を高めツリーを完成する。

体　育

「まねっこあそび」
- まねっこ遊び
- 体育館やプレイルームで，音楽に合わせて，動作や表情をまねする遊びをする。

「へいきんだい」
- 歩き方
- いろいろな技

算　数

「あわせてみよう」
- 合わせるといくつ
- いくつに分けられる

「かけざん」
- 数え方
- 具体物の分配
- 九九

「わなげゲーム」
- ゲーム

生　活

ストーブのあたり方
あいさつ　　お金の使い方
仕事の分担　　火の起こし方
発表の仕方　　物のしまい方
食事の作法　　係の仕事

道　徳

「たのしいふゆやすみ」
- 休み中の生活
- 休み中の過ごし方を考える。

「おこづかい」
- 正しい使い方
- おこづかいの使い方を発表したり，まとめたりする。

音　楽

「あわてんぼうのサンタクロース」
- 歌唱　　・打楽器練習

「パンやさんにおかいもの」
- 歌唱　　・身体表現

生活単元学習の単元構想図（例９）

生活単元学習１月

「さむさなんかにまけないぞ」

○冬休みの生活を振り返り，３学期のめあてをもつ。
○寒さを楽しむ生活を身に付け，健康な体づくりに心掛ける。
○火災の恐ろしさに気付き，火の始末や扱い方を身に付ける。

1　冬休みを思い出そう
　(1) 冬休みの思い出
　(2) 3 学期の行事と頑張りカード

2　冬を楽しもう
　(1) 遊び道具を使った遊び
　(2) 体を動かす遊び

3　火事に気を付けよう
　(1) 火災の恐ろしさ
　(2) 避難訓練

国　語

「かきぞめ」
・学年と名前
・手本の字
・清書
・冬休みに家庭で練習した字を，丁寧に清書する。

「みんなアナウンサー」
・お知らせ
・話したいことを決めて，原稿を書く。
・先生のアナウンス
・私たちもアナウンサー
　楽しい思い出を分かりやすく工夫して人に話す。
・感想やまとめ

図画工作

「ふゆやすみのおもいで」
・楽しい思い出
・正月やクリスマスでの楽しかった思い出を思い出し，絵に表す。
・下絵がき
・彩色と鑑賞

「きのどうぶつ」
・形決め
・付けたり打ったり

体　育

「かけあし」
・持久走
・手を振ってできるだけ長く走る。
・校内持久走大会
・めあてを決めて，自分のペースで走る。

「ちからだめしのうんどう」
・押しや引きの運動
・安全に気を付けて，押しくらまんじゅうなどをする。

算　数

「おかねのけいさん」
・お金の種類と名前
・お年玉でもらったお金の種類を見付ける。
・乗り物と切符

「とけい」
・時計と時間
・生活カレンダー

生　活

持ち物の整とん
当番・係の活動
火の扱いや始末
かぜの予防　・言葉遣い
避難の仕方
自分でできる遊び

道　徳

「ストーブ」
・安全なあたり方
・点火と消火
・自分一人ではしていけないことを知り，安全に気を付けようとする。

「ともだち」
・友達見付け
・友達からの手紙

音　楽

「なべなべそこぬけ」
　・歌唱　　・身体表現
「からだあそびうた」
　・歌唱　　・身体表現

生活単元学習の単元構想図（例１０）

生活単元学習２月

「たのしもう！おでんやさんやおわかれえんそくで」

○「おでん屋やさん」や「お別れ遠足」に楽しく参加する。
○卒業や進級を意識して、共に祝う気持ちをもつ。
○１年間の自分の成長を喜ぶとともに，その成長にたくさんの人たちがかかわっていたことを知る。
○お世話になった人たちに感謝する気持らをもちお世話になった教師を感謝の会に招待する。

１お世話になった先生に感謝しよう
(1)「おでん屋さん」の計画立案
(2) 招待状づくり
(3)「おでん屋さん」の準備
(4) おでんづくり
(5) 招待会
(6) 招待会をして

２お別れ遠足をしよう
(1) 目的地の決定・準備
(2) お別れ遠足
(3) お別れ遠足の思い出

国　語

「げきのはっぴょう」

・読み聞かせや読書
・話のあらすじと脚本づくり
・配役の決定
・せりふの練習
・せりふの暗記
・動作を入れて練習
・みんなと練習
・劇の発表と鑑賞

図画工作

「おにのえ」

・鬼の話
・下絵
・彩色

体　育

「なわとび」
・長縄遊び
・運動場や体育館で、長縄を使い、いろいろな跳び方をして遊ぶ
・短縄遊び
・運動場や体育館で短縄を使い、いろいろな跳び方をして遊ぶ。

「とびばこ」
・いろいろな動き
・難しい技

算　数

「わけてみよう」
・いろいろな数の合成と分解
・おでんを使って，１０までの数を合わせたり分けたりする。
・分ける
・三っずつ分けることの意味を知る。

「カレンダーをつくろう」
・曜日と日付
・１ヵ月カレンダーづくり
・四季や年中行事
・１年カレンダーづくり

生　活

よい身なり　　歯みがき
かぜの予防　　お金の使い方
放課後の過ごし方　　清掃
あいさつ　　係分担
トイレの使い方　　交通安全
清潔な体

道　徳

「いきもの」
・身の回りや家で飼っている生き物

「かんしや」
・お父さん，お母さん
・お父さんやお母さんに対して感謝する気持ちをもつ。

音　楽

「たきび」
・歌唱　　・楽器遊び

「１ねんじゆうのうた」
・歌唱　　・歌詞づくり

生活単元学習の単元構想図（例１１）

生活単元学習３月

「もうすぐしんきゅう」

○卒業や進級を意識し、共に祝う気持ちをもつ。

○自分たちでお別れ会を計画し、運営する。

○１年間を振り返り、生活と学習のまとめをして次年度に向けての準備をする。

1　卒業生を送る会と卒業式
　（1）卒業生を送る会
　（2）卒業式
2　お別れ会をしよう
　（1）お別れ会の準備
　（2）出し物の練習
　（3）お別れ会
3　１年のまとめをしよう
　（1）１年間の思い出
　（2）思い出マップづくり
　（3）体の成長
　（4）できるようになったこと
　（5）作品集を作ろう
　（6）大掃除

国　語

「１年間のおもいで」

・１年間の出来事を写真やビデオを見ながら思い出し、楽しかったことや頑張ったことを発表したり、文に書いたりする。
・卒業生を送る会で、６年生にお礼の言葉を言う。
・お世話になった教師や通常の学級の友達にお礼の手紙を書く。
・来年度の目標をもち、発表したり、作文に書いたりする。
・言葉の練習を繰り返し行う。

算　数

「たしざん・ひきざん」

・たしざんの意味、仕方。
・たしざんの文章題。
・ひきざんの意味、仕方。
・ひきざんの文章題。
・自分の身長や体重が４月と比べて、どれくらい増えたか、ひきざんで確かめる。

音　楽

「うれしいひなまつり」

１身体表現、鑑賞、歌唱

・お別れ会の出し物を、歌詞を口ずさみながら、楽しく踊ることができる。
・１年間のいろいろな出来事を振り返りながら、思い出のナレーションを入れて、みんなで歌うことができる。

生　活

よい身なり　　礼儀
役割　　話すこと
体の成長　　整理・整とん

図画工作

「おくりもの」

・感謝の気持ちを込めて、６年生やお世話になった方々に、手作りの贈り物をする。
・手順表に従って贈り物を作る。
・気持ちを込めて贈り物をきれいにラッピングする。

「美術館のけんがく」

・鑑賞

体　育

「マットうんどう」

・わざの練習
・マットうんどうの発表会

道　徳

「学校をきれいに」

・１年間使った教室や学校の主な場所のごみを拾う。
・どうしたらごみを減らせるかについて考え、１年間の反省をする。

「１ねんのおわり」

・卒業する友達の名前を言ったり、思い出を話し合ったりする。
・卒業後の進路について話し合う。

（4）作業学習の概要

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な 事柄を総合的に学習するものであり、働く力や生活する力を高めることを意図するものである。
作業学習の指導は、単に職業・家庭科の内容だけではなく、各教科等の広範囲の内容が扱われる。
作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどほか、販売、清掃、接客なども含み多種多様である。

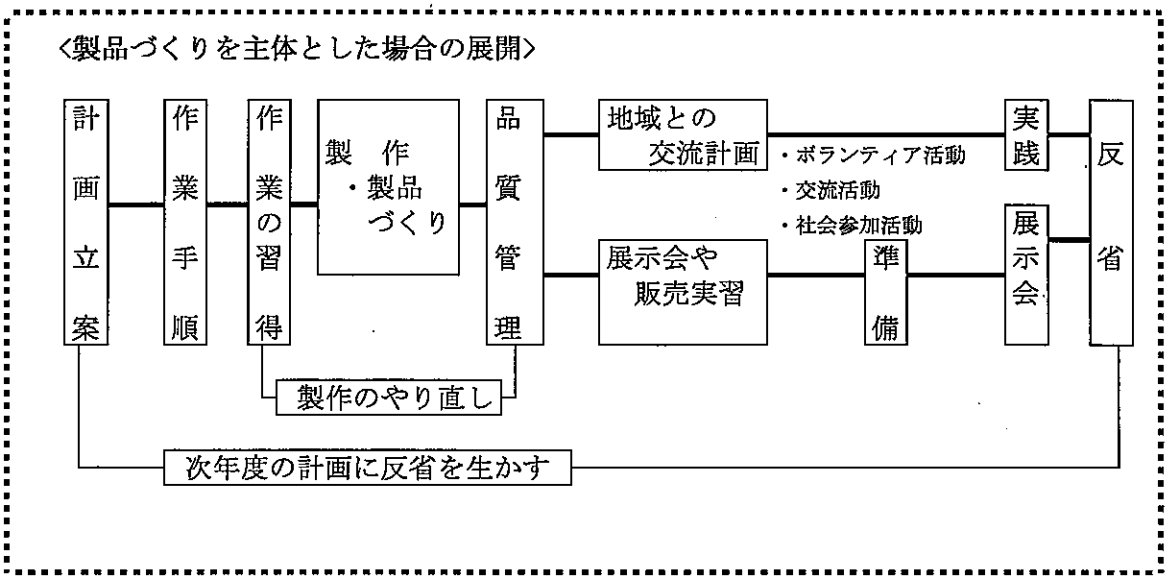
①作業学習の留意点

- 生徒にとって教育価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の成就感が味わえること。
- 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、永続性のある作業種を選定すること。
- 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。
- 中学部の職業・家庭科に示す「産業現場等における実習」（職場実習ともよばれている。）を他の教科等と合わせて実施する場合は、作業学習として位置づけられます。
  「産業現場等における実習」については、現実的な条件下で、生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活ないしは社会生活への適応性を養うことを意図して実施するとともに、各教科等の広範な内容が包含されていることに留意する必要があります。
  「産業現場等における実習」は、これまでも企業等の協力により実施され、大きな成果が見られるが、実施に当たっては、保護者、事業所及び公共職業安定所などの関係機関等との密接な連携を図り、綿密な計画を立てることが大切である。また、実習中の巡回指導についても適切に計画する必要があります。

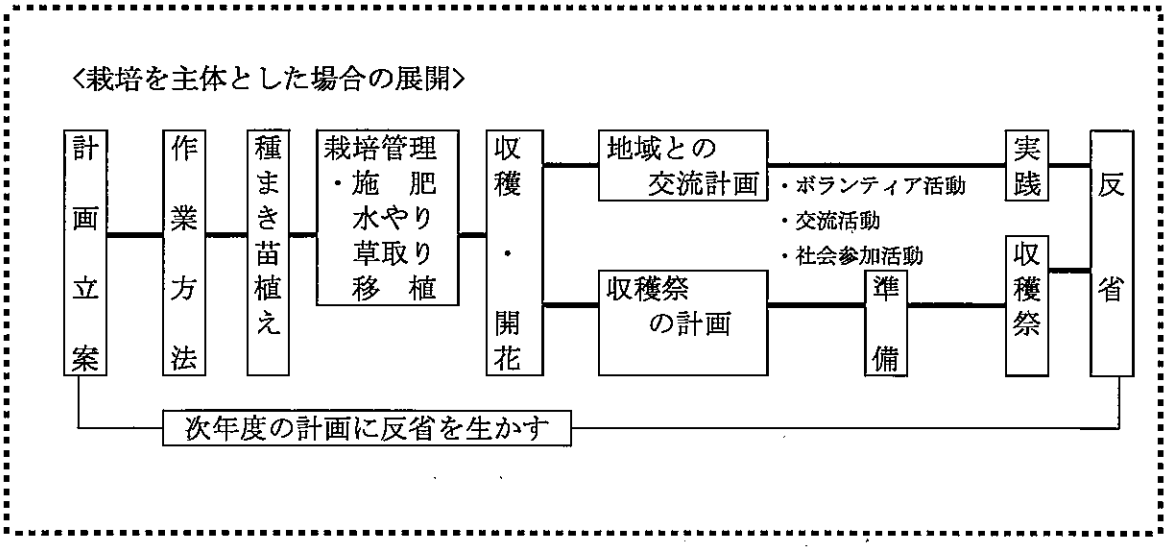
②作業学習の指導内容例

「紙すき」しおりづくり、紙皿づくり、「園芸」じゃがいも・さつまいも・野菜づくり。
堆肥づくり、「木工」花台づくり、プランターカバーづくり、本棚づくり、「印刷」名刺づくり
「製本」メモ用紙づくり、「紙工」封筒づくり、アンデルセン（コースター・壁掛け・パンかご）
「編み物」ＰＲバンドを利用したかごづくり、牛乳パックを利用したアクリルたわし,
「染色」絞り染め（クッション・コースター・ペーパーホルダ）「縫製」パッチワークその他
「窯業」、「調理」「クリーニング」等など多種多様の内容が上げられます。

作業学習の年間計画の立案及び展開例（例１）

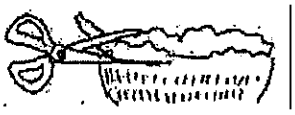


作業学習の年間計画の立案及び展開例（例２）



作業学習種目例

作業種目	紙すき（しおりづくり）事例１	作業種目	紙すき（紙皿づくり）事例２
作業のねらい	・紙すき作業への興味・関心と集中力・持続力を養う。 ・紙皿づくりの工程を理解し、紙を均等にすくこつを習得する。	作業のねらい	・紙すき作業への興味・関心と集中力・持続力を養う。 ・紙皿づくりの工程を理解し、紙を均等にすくこつを習得する。
材料・用具	牛乳パック、ミキサー、ボウル、金網枠、セルロイド版、アイロン、布、はかり	教材・教具	牛乳パック、ミキサー、ボウル、ざる、スポンジ、ラックニス、新聞紙、はかり

作業順序	作業内容	作業順序	作業内容
１牛乳パック切り。	・牛乳パックを水でよく洗う。 ・牛乳パックを分解し、４枚に切り取る。 ・１０枚を一束にして輪ゴムで止め段ボールに詰める。	１牛乳パックから紙パルプを作る。	・事例１の項目を参照。
		２紙パルプの量を計り、ミキサーにかける。	・２０ｇ単位でパルプをまとめる。 ・パルプをミキサーに入れ水を注ぎかくはんする。
２ビニールはがし。	・はがし忘れのないように模様のないほうに印をつける。 ・分解した牛乳パックをなべで煮る。 ・ラミネート加工されているビニールをはがす。	３ざるに紙パルプを流し込む。 ・パルプの厚さを均等にする。	・流しにざるを置き、ボウルに入ったパルプをざるにあける。
３パルプづくり。 ４紙すき	・細かくちぎる。（１５ｇずつ） ・水５００ ml と紙１５ｇをミキサーに入れてかくはんする。 ・のり１０ ml を加えてかき混ぜる。 ・パルプ液をすき枠に静かに流し込む。	４スポンジで軽く押さえ、水切りをする。 ５乾燥させる。	・紙パルプを大きな器にあけてざるで何度もすくい取る。 ・１～２週間程度、日向で十分乾燥させる。
５プレス	・すいた紙をセルロイド版にはさむ。 ・１０枚程度重ね圧力を加える。	６ざるから外し、縁を切りそろえる。 ・破ったり、穴をあけないようにざるから外す。	・丁寧にざるから外す。
６アイロンがけ	・布に挟みアイロンがけをする。 ・２０枚程度重ねプレスをかける。		・ざる目に沿って口をそろえる。 ・ラックスニスを塗り乾燥させる。
７印刷・模様付け。	・紙が乾いたら表面に印刷する。 ・裏面にマーブリングや絵、模様を印刷する。	・形を整える。 ７ラックニスを塗る。	
８切り取り、穴あけ、リボンがけ	・紙を縦長に３等分する。 ・右端にパンチで穴をあける。 ・リボンを通して縛る。 ・１０枚ごとに間紙を入れ、１００枚を束にする。	８販売実習をする。	・ステンシルなどで模様を付ける

作業学習種目例

作業種目	園芸（さつまいもの栽培）事例３	作業種目	園芸（肥料づくり）　事例４
作業のねらい	・水かけや草取りなど毎日の仕事を継続して行う態度を養う。 ・サツマイモの栽培方法や農具の扱い方を習得する。	作業のねらい	・肥料作りの作業工程を理解するとともに、持続力を高める。 ・手指の巧緻性を高めるとともに、計量や販売の学習をする。
材料・用具	さつまいもの苗、腐葉土、堆肥、肥料、鍬、鋤、スコップ、秤、袋	教材・教具	菜種油かすの粉、水、プラスチック桶、秤、ビニール袋、ざる

１土づくりをする。
・鍬、スコップ等で土を耕す。

２苗植えをする。
・５～６月までに苗の準備をする。
・苗植え後の潅水をする

３草取りをする。

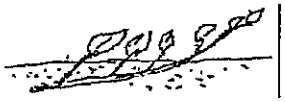
４追肥と土寄せをする。
・スコップや鍬でつるを傷を付けないように根元へ土を寄せる。

５収穫する。
・１０月～１１月上旬
・ミニスコップ等でいもを掘る。

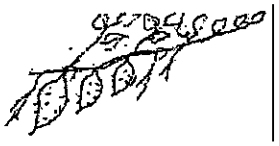
６袋に入れ販売実習をする。
・さつまいもの入った袋を計量する。
・およそ１ｋｇになるように袋詰めする。
・手紙などを入れ、リボンで袋の口を縛る。

・苗を植える２～３週間前に耕し畝を作る。
・株は３０ cm 間隔に水平に植え苗を同じ向きで植える。

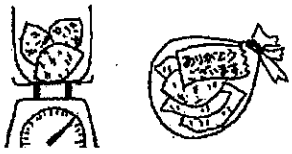
・茎は３節ぐらい土に埋める。



・土が乾燥していたら潅水する。
・８月頃に畝に肥料を施す。
・リン酸、カリウム成分の肥料



いもを傷つけないように注意して堀り起こす。
・収穫したサツマイモを１ kg ずつ袋に詰め、お礼の手紙などを添えて販売学習を行う。



１菜種油かすと水を桶に入れる。

２かき混ぜる。

３肥料を練る。
・均等に練る。
・練る回数を数えながら練る。

４肥料団子を作る。
・同じ大きさになるように団子を作る。
・団子を均等に並べる。

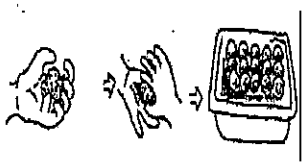
５天日に干す。

６計量する。
・袋詰めする。

７販売実習をする。

・水を計量カップで計る。
・かたまらないように混ぜる。
・体全体を使って力いっぱい練る。

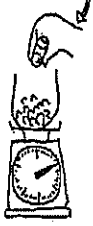
・手の中で２０回練り、２，５ cm くらいの大きさに丸める。
・できたら団子をざるに並べる。
・肥料団子は毎日天日に干す。



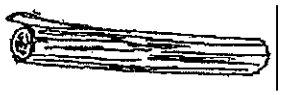
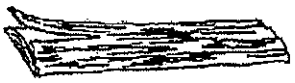
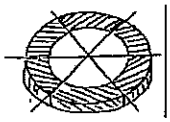
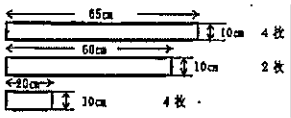
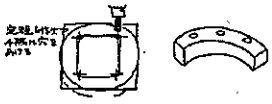
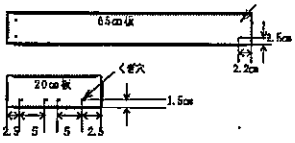
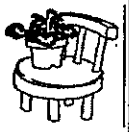
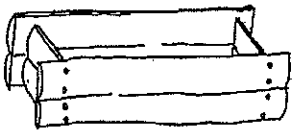
・乾燥するまで１ヶ月程度干す。

・袋に詰めて秤で１ kg ずつ計る。
・１ kg の目盛りの位置を確認しながら袋詰めする。

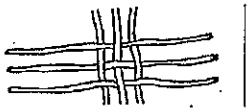
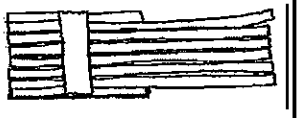
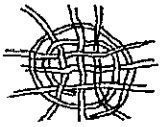
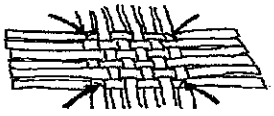
・商品の説明、お礼の手紙などを添付して販売の学習をする。
・学校の園芸作業に活用する。



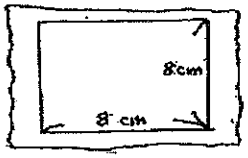
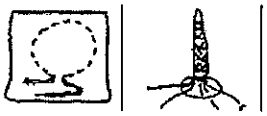
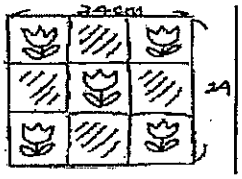
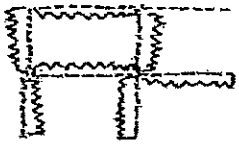
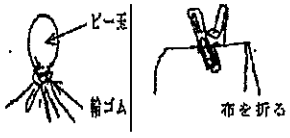
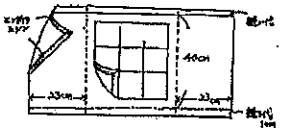
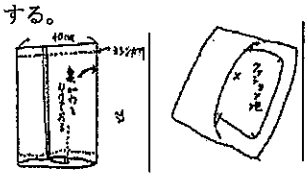
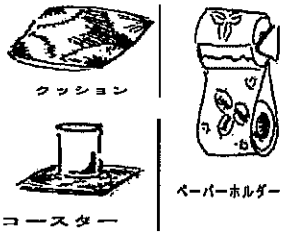
作業学習種目例

作業種目	木工（花台づくり）　事例５	作業種目	木工（プランターカバー）事例６
作業のねらい	・分業を通して協力して作業を進める態度を養う。 ・機械の安全な操作の仕方や木工具の扱いに慣れる。	作業のねらい	・分業により協力して作業を進める態度や責任を養う。 ・機械の安全な操作の仕方や木工具の扱いに慣れる。
材料・用具	間伐材の丸太、（１２ mm）のみ 木工接着剤、のこぎり、げんのう 電気ドリル、サンダー、ペーパー	教材・教具	製材の板切れ端、木工用接着材 くぎ、のこぎり、げんのう、きり 電気ドリル、サンダー、バーナー
１材料の皮をはぎ、磨く。 ・サンダーの使い方に慣れる。	・廃材の皮をはぐ。 ・サンダーでまんべんなく磨く  ・丸太を３ cm の厚さ２枚切る。 	１材料の皮をはぎ、磨きをかける。 ・皮をはぐ。 ・サンダーをかける。	・廃材の皮をはぎサンダーで磨く ・あらかじめ１０ cm 幅に切っておく。  ・むらなく研磨する。
２部品を作る。 ・厚さ３ cm の板を２枚作る。 ・板を６等分に切断する ・脚を７本作る。	・右下図のようにのこぎりで６等分し、のみで落として、斜線部を活用する。  ・直径１２ mm の木を１０ cm の長さに切る。	２部品を作る。 ・けがきをする。 ・のこぎりで切断する。	・下のサイズの板にのこぎりで切る。 
３接合する部分に穴をあける。 ・けがきをする。 ・電気ドリルで穴をあける。	・丸太に１２ mm、深さ１５ mm の穴をドリルであける。 	３くぎ穴をあける。 ・色鉛筆等で印を付ける。 ・きりで印を付ける。 ・電動ドリルで穴をあける。	・電動ドリル又はきりで穴をあける。 
４組立てる。 ・接合部分に接着剤を塗る。 ・接合部分を固定する。	・接着面に接着剤を付け、図のように組み立てる。 ・はみ出した接着剤は雑巾でふきとる。 ・ぐらつき、ﾊﾞﾗﾝｽをチェックする。  ・全体を丁寧に研磨する。	４組み立てる。 ・接合部に接着剤を付ける。 ・二人組でくぎを打つ。 ・固定する。	・接着面に接着剤を付け、くぎを打って組み立てる。 
５販売実習をする。 ・値札を付ける。 ・レジ係、接客係を決めて実習する。	・展示会などを開いて、販売の学習をする。 ・校内やいろいろな施設で活用	５仕上げをする。 ６製品を活用する。	・バーナーで表面を焦がす。 ・布で表面を磨く。 ・学校や地域の公共施設などにプランターカバーを設置する。

作業学習種目例

作業種目	紙工（アンデルセン）　事例７	作業種目	かご編みＰＰバンド利用・事例８
作業のねらい	・根気強く集中して作業に取り組む態度を養う。 ・紙丸め、塗装、編みこみなどで手指の巧緻性を養う。	作業のねらい	・一定時間集中して作業に取り組む態度を養う。 ・ＰＰバンドを利用したかご編みの技術を習得する。
材料・用具	広告紙、のり、アンデルセン液	教材・教具	ＰＰバンド、板、両面接着テープ、ガムテープ、はさみ、ホッチギス
１広告紙をかたく巻く。 ２約１ｍの長さにする。 ・両手でしっかり押さえて巻く。 ・均等な太さになるように巻く。	・紙を斜め端からかたく巻く。 ・紙を継ぎ足しながら１ｍの長さにする。 ・最後はのり付けする。 	１材料を集める。 ２ＰＰバンドの長さをそろえる。	・梱包用のＰＰバンドを集める。 ・４５cmにそろえて切る。 ・物差しで測って、長さをそろえる。
３紙の棒を並べてアンデルセン液を塗る。	・印刷を消すためにむらがないように丁寧に塗る。 ・底を図のように組み合わせて、１２本の支柱を作る。 ・支柱を編み込みながら、紙の棒をらせん状に巻き込んでいく 	３切ったＰＰバンドを板にはる。 ・長さをそろえて板にはる。	・図のようにＰＰバンドを６本そろえて並べ板にはり付ける。  ・ガムテープで板とＰＰバンドを固定する。 ・色の違うＰＰバンドを使って、編みこんでいく。
４巻いた紙を使ってかごを編む。 ・底を編む。 ・すき間ができないように編む。 ・継ぎ足した棒の先端は内側にする。	・支柱を編み込みながら紙の棒をらせん状に巻き込んでいく。  ・支柱の角度を一定にしながら編み上げていく。 ・立ち上がりを付けて上まで編む ・口の始末をする。	４ＰＰバンドを編み込み、かごの底を作る。 ・すき間がないように編みこむようにする。	・６本のＰＰバンドを編み込んだら図のようにホッチギスで固定する。  ・真ん中にあるＰＰバンドを編み上げ、かごを編み上げていく。 ・立ち上がったら、ホチギスで止め、４隅を立ち上げ同様に止める。５cmほどを残して全部編みこむ、編みあがったら、ホチギスを外す。
５仕上げをする。 ・形を整える。	 	５かごを編み仕上げる。	
６販売実習をする。	 ・展示会などや、販売の体験活動をする。 ・校内やいろいろな施設で活用	６口の部分を折り返して仕上げる。 ７販売実習をする。	・図のようにして、口の部分を折り返し、編み込みの中に入れはみ出した部分は切る。

作業学習種目例

作業種目	染色（絞り染め）　事例９	作業種目	縫製（パッチワーク）　事例１０
作業のねらい	・注意を集中し、一つ一つの作業を確実に行う。 ・手縫いや糸抜きなどの活動を通し、巧緻性を高める。	作業のねらい	・一つ一つの作業を集中して正確に行う態度を養う。 ・身近な布切れの再利用により手縫いやミシンの技術を高める。
材料・用具	白布、水溶液のチャコペンシル、縫い糸、染料、中性洗剤、容器	教材・教具	もめん地の切れ端各種、縫い針、ししゅう糸、縫い糸、クッション
１布を裁断する。	・目的の製品の大きさに布を裁断 	１もめん地の切れ端でパッチワークのピースを作る。 ・印を付ける。	・８×８ cm のピースを９枚作る ・縫い代は印を付ける。 
２印を付ける。	・図案をかいた型紙の上に布をのせチャコペンシルで印を付ける		
３縫い絞り。 ・根巻き絞り	・模様の部分を縫う。 根巻き絞り 	・縫い代に沿って布を切る。	・つなぎ合わせた２枚の縫い代は片側に倒す。
・巻き上げ絞り	巻き上げ絞り 	２ピースを９枚つなぎ合わせる。 （ナインパッチ） ・パッチをそろえてまち針を打つ。 ・ミシンで縫う。	 
	（縫うことが困難な場合） ビー玉や洗濯ばさみの利用 	３クッション地の中央に縫いつける。 ・寸法を採る。 ・印付けをする。	・クッション地を図のように三つにおるように寸法を採る。 
４染色する。	・布をみずでぬらす。 ・染め液に入れる。 ・むらがないように混ぜる。 ・中性洗剤で洗う。 ・日陰で乾燥させる。		
５糸を抜く。	・布を切らないように注意する。	４クッションの周囲をミシンで縫って形にする。	・中央を測り縫い付ける。 ・三つ折にして上下をミシンがけする。
６アイロンをかける。	・アイロンでしわを伸ばす。		
７製品に仕立てる。	・目的の製品に仕上げる。 	５中綿を入れて仕上げる。	・正方形の布を９枚つなぐ。 ・ポイントアップリケを付ける。 ・キルティング地を縫い付けてチキルトにする。
８販売実習をする。		６販売実習をする。	

9　特別支援学校の総合的な学習の時間

（1）　総合的な学習の時間のねらい　（小学校第５章、中学校第４章学習指導要領より）

総合的な学習の時間は、児童生徒の「生きる力」を育むため、横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習等、創意工夫を生かした教育活動を行うもので、ねらい①～③が示されています。

①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよい問題を解決する資質や能力を育てること。

②学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

③各教科、道徳、特別活動及び自立活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かして、それらが総合的に働くようにすること。

（2）　総合的な学習の時間の留意点　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

特別支援学校（知的障害の児童を教育する小学校を除く）においても、「総合的な学習の時間」は教育課程上必置とされています。しかし、特別支援教育において従来から知的障害の児童生徒への「各教科等を合わせた指導」の形態として「生活単元学習」や「作業学習」等があります。指導計画を立案し、実際の指導に当たる際には、両者の違いをおさえておくことが大切です。

（3）　「総合的な学習の時間」と「各教科等を合わせた指導」の比較

「総合的な学習の時間」	「生活単元学習」を例（各教科等合わせた指導）
（類似する部分） 教科や領域の枠組みを超える総合的な学習活動及び、児童生徒の興味・関心に基づく主体的な学習活動を通して、将来の社会に生きて働く基礎を培っていく。	
（ねらい・特徴） 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。	（ねらい・特徴） 生活上の課題処理や問題解決のための一連の活動を組織的に経験させることにより、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習させる指導の形態である。 生活上の課題を達成するための活動に取り組む過程で国語、算数等の各教科や自立活動等の各領域にかかる広い範囲で内容が扱われる。
教科等で学んだ知識や技能を総合的に働かせて課題に取り組み、学び方やものの考え方、問題解決に当たる態度の習得・育成を重視	必要な知識・技能の獲得、生活上の望ましい習慣や態度の形成とともに、領域や教科の内容の習得を重視
（学習活動例） ○「国際理解」「情報」「環境」「福祉・健康」等の、横断的・総合的な課題 ○児童生徒の興味・関心に基づく課題 ○地域や学校の特色に応じた課題 ○職業や自己の将来に関する課題	（単元例） ○季節や時期の行事を考えた単元 ○学校や地域の行事を中心にした単元 ○生活上の課題のよりよい解決をねらいとした単元 ○天災、事件、祝事等、タイムリーで興味と能力に合致し、教育価値や効果の高い事柄で構成した単元

（4）　「総合的な学習の時間」についての補足　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編より）

総合的な学習の時間については、特別支援学校においては、小学部３学年以上及び中学部において、また、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、中学部において、それぞれ適切な授業時数を定めることとされている。

知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校小学部については、全学年に総合的な教科である「生活科」が設定されていること、また、学校教育法施行規則第１３０条の第２項の規定に基づき、各教科等を合わせて指導が行われていることなどから、総合的な学習の時間と同様の趣旨の指導を行うことが可能であるため、これを設けないこととしている。

また、特別支援学校中学部については、中学校に準じて総合的な学習の時間を設け、生徒の障害の状態及び発達の段階や特性等を考慮して、適切に授業時数を定めている。

総合的な学習の時間の目標、各学校において定める目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取り扱いについては、かく特別支援学校を通じて、小学校又は中学校に準ずることとしています。

ここでいう「準ずる」とは、原則として同一ということを意味している。

しかしながら指導計画の作成と内容の取り扱いについては、小学校又は中学校の学習指導要領に準ずるのみならず、次のような特別支援学校独自の項目が二つ示されており、これらの事項に十分配慮する必要があります。

第一は、学習活動が効果的に行われるための配慮事項である。特別支援学校に在籍する児童生徒の障害の種類や程度、発達の段階や特性等は多様であることから、個々の児童生徒の実態に応じ、補助用具や補助的手段、コンピュータ等の情報機器を適切に活用するなど、学習活動が効果的に行われるよう配慮することが大切です。

第二は、体験活動に当たっての配慮事項である。体験活動としては、例えば、自然にかかる体験活動、ボランティア活動など社会とかかわる体験活動、ものづくりや生産、文化や芸術にかかわる体験活動、交流及び共同学習などが考えられるが、これらの体験活動を展開するに当たっては、児童生徒をはじめ教職員や外部の協力者などの安全確保、健康や衛生等の管理に十分配慮することが求められます。

XⅦ　特別支援教育の教育課程の弾力的運用の法的な根拠

１　小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室

特別支援学級は、学校教育法第８１条第２項の規定による障害のある児童を対象とする学級であるため、対象となる児童の障害の種類、程度等によっては、障害のない児童に対する教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合があるため、法的な根拠を下に弾力的運用を行う事ができます。

（１）根拠となる法

①学校教育法施行規則第１３８条（特別支援学級に係る教育課程の特例）

「小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合、第５０条第１項、第５１条及び第５２条の規定並びに第７２条から第７４条までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。」と規定しています。

②学校教育法施行規則第１３９条（特別支援学級の教科用図書）

「前条の規定により特別の教育課程による特別支援学級においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書を使用することが適当でない場合には、当該特別支援学級を置く学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができます。

③学校教育法施行規則第１４０条（障害に応じた特別の教育課程）・通級指導教室

「小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程において、次の各号のいずれかに該当する児童又は生徒（特別支援学級の児童及び生徒を除く）のうち当該障害に応じた特別の指導を行う必要があるものを教育する場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより第５０条第１項、第５１条及び第５２条の規定並びに第７２条から第７４条までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。」具体的には、言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者、その他の障害のある者で、この条の規定により特

別の教育課程による教育を行うことが適当なものと規定しています。

④学校教育法施行規則１４１条（他の学校への通級）
「前条の規定により特別の教育課程による場合においては、校長は、児童又は生徒が、当該小学校、中学校又は中等教育学校の設置者の定めるところにより他の小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において受けた授業を当該小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程において受けた当該特別の教育課程に係る授業とみなすことができます。

⑤平成５年文部省告示第７号
「通級による指導」の指導内容及び指導時間の標準についての告示

⑥平成１８年文部科学省告示５４号
「学校教育法施行規則の一部を改正する省令第２２号」
「学校教育法施行規則第７３条の２１第１項の規定による特別の教育課程について定める件の一部を改正する件」についての告示

⑦平成１９年文部科学省告示１４６号
「通級による指導を受ける児童生徒の教育課程上の取扱いについて」の告示
（通級による指導は、学校教育法施行規則第１４０条及び第１４１条に基づいて行われます）

参 考 資 料

①指導要録様式２

②設置に係る諸手続資料

特別支援学級用例

通級指導教室用例

③特別支援教育コーディネーター年間活動計画（例）

④事例様式関係

⑤諸検査・言語に関する用語解説

XⅧ　指導要録様式２

様式2（指導に関する記録）（特別支援学校知的障害旧様式２例）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科・特別活動・自立活動等の記録							
	学年＼教科等	1	2	3	4	5	6
教科別、領域別の指導	生活						
	国語						
	算数						
	音楽						
	図画工作						
	体育						
	特別活動						
	自立活動						
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導						
	遊びの指導						
	生活単元学習						

（特別支援学校知的障害旧様式２例）

児童氏名	

行動の記録				入学時の障害の状態
第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

総合所見及び指導上参考となる諸事項			
第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

出欠の記録

区分 学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

様式２（指導に関する記録）（特別支援学校視聴肢病障害旧様式２例）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科の学習の記録

Ⅰ 観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	観察・資料活用の技能						
	社会的事象についての知識・理解						
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
	数量や図形についての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
	自然事象についての知識・理解						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						
	音楽表現の技能						
	鑑賞の能力						
図画工作	造形への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						
	創造的な技能						
	鑑賞の能力						
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度						
	生活を創意工夫する能力						
	生活の技能						
	家庭生活についての知識・理解						
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度						
	運動や健康・安全についての思考・判断						
	運動の技能						
	健康・安全についての知識・理解						

Ⅱ 評定

学年＼教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育
3								
4								
5								
6								

外国語活動の記録

観点＼学年	5	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語への慣れ親しみ		
言語や分化に関する気付き		

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
3			
4			
5			
6			

特別活動の記録

内容＼学年	1	2	3	4	5	6
学級活動						
児童会活動						
クラブ活動						
学校行事						

行動の記録

項目＼学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣						
健康・体力の向上						
自主・自律						
責任感						
創意工夫						
思いやり・協力						
生命尊重・自然愛護						
勤労・奉仕						
公正・公平						
公共心・公徳心						

出欠の記録

区分＼学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

【特別支援学校視聴肢病障害の旧様式２例）

児童氏名	

自立活動の記録				入学時の障害の状態
第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

総合所見及び指導上参考となる諸事項			
第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

（注）「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄には，以下のような事項などを記録する。

①各教科や外国語活動，総合的な学習の時間に関する所見

②特別活動に関する事実及び所見

③行動に関する所見

④児童の特徴・特技，学校内外における奉仕活動，表彰を受けた行為や活動，知能，学力等について標準化された検査の結果など指導上参考となる諸事項

⑤児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

様式2（指導に関する記録）（特別支援学校知的障害旧様式２例）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

各教科・特別活動・自立活動等の記録				
教科等＼学年		1	2	3
教科別、領域別の指導	国語			
	社会			
	数学			
	理科			
	音楽			
	美術			
	保健体育			
	職業・家庭			
	その他			
	特別活動			
	自立活動			
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導			
	生活単元学習			
	作業学習			

（特別支援学校知的障害旧様式２例）

生徒氏名	

総合的な学習の時間の記録				入学時の障害の状態
学年	学習活動	観点	評価	
1				
2				
3				

行動の記録		
第１学年	第２学年	第３学年

総合所見及び指導上参考となる諸事項		
第１学年	第２学年	第３学年

出欠の記録

区分／学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						

様式２（指導に関する記録）　（特別支援学校視聴肢病障害の旧様式２例）

生徒氏名		学校名		区分＼学年	1	2	3
				学　級			
				整理番号			

各教科の学習の記録

必修教科

Ⅰ　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3
国語	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度			
	社会的な思考・判断・表現			
	資料活用の技能			
	社会的事象についての知識・理解			
数学	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解			
理科	自然事象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能			
	自然事象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
美術	美術への関心・意欲・態度			
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度			
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	運動や健康・安全についての知識・理解			
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度			
	生活を工夫し創造する能力			
	生活の技能			
	生活や技術についての知識・理解			
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力			
	外国語理解の能力			
	言語や文化についての知識・理解			

選択教科

Ⅰ　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3

Ⅱ　評定

学年＼教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語
1									
2									
3									

Ⅱ　評定

学年＼教科								

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点＼評価	
1			
2			
3			

（特別支援学校視聴肢病障害の旧様式２例）

生徒氏名	

特別活動の記録			
内容／学年	学級活動	生徒会活動	学校行事
1			
2			
3			

行動の記録											
項目／学年	基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公徳心	
1											
2											
3											

自立活動の記録			入学時の障害の状態
第１学年	第２学年	第３学年	

総合所見及び指導上参考となる諸事項		
第１学年	第２学年	第３学年

出欠の記録						
区分／学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						

様式2（指導に関する記録）（特別支援学校知的障害の新様式2例）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科・特別活動・自立活動の記録

学年＼教科等	1	2	3	4	5	6
生活						
国語						
算数						
音楽						
図画工作						
体育						
特別活動						
自立活動						

（特別支援学校知的障害の新様式2例）

児童氏名	

行動の記録				入学時の障害の状態
第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

総合所見及び指導上参考となる諸事項			
第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

出欠の記録

区分 / 学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

様式２　（指導に関する記録）（特別支援学校視聴肢病障害の新様式２例）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科の学習の記録

Ⅰ　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	観察・資料活用の技能						
	社会的事象についての知識・理解						
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
	数量や図形についての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
	自然事象についての知識・理解						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						
	音楽表現の技能						
	鑑賞の能力						
図画工作	造形への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						
	創造的な技能						
	鑑賞の能力						
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度						
	生活を創意工夫する能力						
	生活の技能						
	家庭生活についての知識・理解						
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度						
	運動や健康・安全についての思考・判断						
	運動の技能						
	健康・安全についての知識・理解						

Ⅱ　評定

学年＼教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育
3								
4								
5								
6								

外国語活動の記録

観点＼学年	5	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語への慣れ親しみ		
言語や文化に関する気付き		

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
3			
4			
5			
6			

特別活動の記録

内容	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
学級活動							
児童会活動							
クラブ活動							
学校行事							

（特別支援学校視聴肢病障害の新様式２例）

児童氏名

行動の記録

項目＼学年	1	2	3	4	5	6	項目＼学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣							思いやり・協力						
健康・体力の向上							生命尊重・自然愛護						
自主・自律							勤労・奉仕						
責任感							公正・公平						
創意工夫							公共心・公徳心						

自立活動の記録

第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

入学時の障害の状態

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

出欠の記録

区分＼学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

様式2（指導に関する記録）（特別支援学校知的障害の新様式2例）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

各教科・特別活動・自立活動の記録

学年＼教科等	1	2	3
国語			
社会			
数学			
理科			
音楽			
美術			
保健体育			
職業・家庭			
その他			
特別活動			
自立活動			

生徒氏名

(特別支援学校知的障害の新様式2例)

総合的な学習の時間の記録				入学時の障害の状態
学年	学習活動	観点	評価	
第1学年				
第2学年				
第3学年				

行動の記録	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録

区分 / 学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						

様式2 （指導に関する記録）（特別支援学校視聴肢病障害の新様式2例）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

各教科の学習の記録

Ⅰ 観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3
国語	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度			
	社会的な思考・判断・表現			
	資料活用の技能			
	社会的事象についての知識・理解			
数学	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解			
理科	自然事象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能			
	自然事象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
美術	美術への関心・意欲・態度			
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度			
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	運動や健康・安全についての知識・理解			
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度			
	生活を工夫し創造する能力			
	生活の技能			
	生活や技術についての知識・理解			
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力			
	外国語理解の能力			
	言語や文化についての知識・理解			

教科	観点＼学年	1	2	3

Ⅱ 評定

学年＼教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
1						
2						
3						

学年＼教科	保健体育	技術・家庭	外国語			
1						
2						
3						

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
1			
2			
3			

特別活動の記録

内容	観点＼学年	1	2	3
学級活動				
生徒会活動				
学校行事				

生徒氏名

(特別支援学校視聴肢病障害の新様式2例)

行動の記録							
項目＼学年	1	2	3	項目＼学年	1	2	3
基本的な生活習慣				思いやり・協力			
健康・体力の向上				生命尊重・自然愛護			
自主・自律				勤労・奉仕			
責任感				公正・公平			
創意工夫				公共心・公徳心			

自立活動の記録		入学時の障害の状態
第1学年		
第2学年		
第3学年		

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録						
区分＼学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						

小学校（様式２例）

様式２（指導に関する記録）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科の学習の記録

Ⅰ 観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	観察・資料活用の技能						
	社会的事象についての知識・理解						
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
	数量や図形についての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
	自然事象についての知識・理解						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						
	音楽表現の技能						
	鑑賞の能力						
図画工作	造形への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						
	創造的な技能						
	鑑賞の能力						
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度						
	生活を創意工夫する能力						
	生活の技能						
	家庭生活についての知識・理解						
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度						
	運動や健康・安全についての思考・判断						
	運動の技能						
	健康・安全についての知識・理解						

Ⅱ 評定

学年＼教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育
3								
4								
5								
6								

外国語活動の記録

観点＼学年	5	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語への慣れ親しみ		
言語や文化に関する気付き		

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
3			
4			
5			
6			

特別活動の記録

内容	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
学級活動							
児童会活動							
クラブ活動							
学校行事							

小学校（様式２例）

児童氏名

行動の記録													
項目＼学年	1	2	3	4	5	6	項目＼学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣							思いやり・協力						
健康・体力の向上							生命尊重・自然愛護						
自主・自律							勤労・奉仕						
責任感							公正・公平						
創意工夫							公共心・公徳心						

総合所見及び指導上参考となる諸事項			
第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

出欠の記録						
区分＼学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

中学校（様式２例）

様式２（指導に関する記録）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

各教科の学習の記録

Ⅰ 観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3
国語	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度			
	社会的な思考・判断・表現			
	資料活用の技能			
	社会的事象についての知識・理解			
数学	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解			
理科	自然事象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能			
	自然事象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
美術	美術への関心・意欲・態度			
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度			
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	運動や健康・安全についての知識・理解			
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度			
	生活を工夫し創造する能力			
	生活の技能			
	生活や技術についての知識・理解			
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力			
	外国語理解の能力			
	言語や文化についての知識・理解			

教科	観点＼学年	1	2	3

Ⅱ 評定

学年＼教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
1						
2						
3						

学年＼教科	保健体育	技術・家庭	外国語			
1						
2						
3						

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
1			
2			
3			

特別活動の記録

内容	観点＼学年	1	2	3
学級活動				
生徒会活動				
学校行事				

中学校（様式２例）

生徒氏名

行動の記録							
項目＼学年	1	2	3	項目＼学年	1	2	3
基本的な生活習慣				思いやり・協力			
健康・体力の向上				生命尊重・自然愛護			
自主・自律				勤労・奉仕			
責任感				公正・公平			
創意工夫				公共心・公徳心			

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録						
区分＼学年	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						

小学校（市町村作成特別支援学級様式２例）

様式２　（指導に関する記録）　【市町村作成特別支援学級例】

児童氏名	学校名	区分／学年	1	2	3	4	5	6
	○○市立○○小学校	学級						
	組	整理番号						

学習の記録						
	1	2	3	4	5	6
国語						
算数						
音楽						
図画工作						
体育						
生活単元学習						
自立活動						

小学校（市町村作成特別支援学級様式２例）

児童氏名	

	※　行　動　の　記　録（行動特徴・集団適応等）			入学前の保育歴
第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

	総合所見及び指導上参考となる諸事項		
第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

	出欠の記録					
	授業日数	出席停止、忌引等の日数	出席しなければならない日	欠席日数	出席日数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

XIX　設置に係る諸手続き関係資料（見本）

各学校で作成し市町村教育委員会へ提出

各学校別特支援学級入級該当者名簿

（○○○）教育委員会

（1枚中）

番号	学　校　名	学　年	児童・生徒氏名	種　別	備　　考
1	○○○学校	○	△△△　　△△△	知　的	新規
2	○○○学校	○	△△△　　△△△	知　的	継続

※　備考欄には新規・継続等の記入すること

各学校で作成し市町村教育委員会へ提出

平成○○年度特別支援学級設置一覧表

設置者名　○○　○○

障害種別	学校名	所在地	学級数	学年別入級者数				入級者の障害の状態	担任予定者	学級設置年度	備考
				1年	2年	3年	合計				
○○障害	○○○学校	○○市○○○－○－○番地	1	1	1	0	2	2名共軽度（E）の知的障害（ＩＱ50～55）	○○○○		

1、障害種別ごとに、小中学校の順で記入すること
2、学級設置年度は、「平成　○○」と表示すること。

各学校で作成し市町村教育委員会へ提出

教育課程実施方法の届出に伴う資料

平成〇〇年度特別支援学級担任者及び在籍児童（生徒）の状況

学校名　〇〇〇学校
校長名　〇〇〇〇　印

学級担任名	年齢	性別	所得免許状の種類	教職経験年数	特別支援学級担任経験年数	障害の種類
〇〇　〇〇	△	△	高二種（〇〇） 中一種（〇〇） 特二種	〇〇年	△△年	知的発達遅滞

児童（生徒）の障害の状況

番号	性別	学年	年齢	障害状況	所見	入級年月日
1	〇	3	14	E	軽度の障害で日常生活は自立しており、ある程度の生活能力はある。 学習面では、数学と国語を除いては、普通学級の生徒と同様の内容を学習している。 数学の修得がかなり苦手なようで、選択や総合の時間なども活用している。 対人的な関係づくりがすごく苦手である。	H〇〇年 4・1
2	△	2	13	E	軽度の障害で日常生活は自立しており、ある程度の生活能力はある。 学習面では全ての教科内容の理解度が低く、特別支援学級で弾力的に学習を指導した方が望ましい。 対人的な関係で同年齢の生徒との友達関係を作るのが少し苦手なようである。	H〇〇年 4・1
3	□	1	12	E	小学校からの新入生なので詳しい様子は、小学校からの資料提供及び情報交換の場で把握していきたいと考えております。	H〇〇年 4・1

平成○○年度特別支援学級教育課程実施方法

学　校　名　　○　○　○学　校
校　長　名　　○○　○○
担　任　名　　○○　○○

1、特別支援学級の種別及び在籍数
（1）種　別　　知的障害
（2）在籍者数　　３名

学級担任名	性別＼学年	1	2	3	4	5	6	計
○ ○ ○ ○	男	1	1	0				2
	女	0	0	1				1
	計	1	1	1				3

2、在籍者の障害の状態

学級担任名＼障害の状況	A	B	C	D	E	F	計
○　○　○　○	0	0	0	0	3	0	3

C・・・中度・重度（ＩＱで示すと、ほぼ２５～５０）
　　精神発達の遅滞が中度で他の障害をあわせ有するもの。
D・・・中度（ＩＱで示すと、ほぼ２５～５０）
　　精神発達の遅滞が中度とみられるもの。
E・・・軽度（ＩＱで示すと、ほぼ５０～７５）
　　精神発達に軽度の遅滞がみられる。

3、学校長の特別支援学級経営方針
（1）学級設置の目的
・心身共に健康な国民の育成を期すると共に、障害を持つ子供達が自分で考え、主体的に判断できる学習活動を重視し、心豊かな人間の育成を目的とする。

（2）学級設置の方針
・個々の生徒の能力を伸ばすため、指導計画の充実を図り、創意工夫を生かすと共に、一人一人の人間として社会にたくましく生きていくことができる教育を推進する。

（3）学級運営上の配慮
①新学期始めの通常学級との交流を強化し、人間関係の改善と集団への適応をはかる。
②家庭との連携を密にし、安全教育・保健衛生教育の強化につとめ、明朗な学級づくりにつとめる。

（4）施設設備についての方針
障害児教育に必要な教育の充実につとめ、学級の学習環境の整備充実を図り、経験学習の強化につとめる。

4、学級担任の指導方針

学級担任名	指　導　方　針
○ ○ ○ ○	・個々の生徒の特性を生かし、子供達が身辺の生活を確立処理し、進んで集団生活に参加していく態度を育てる。 ・協力学級との交流学習、市内の小中合同学習を積極的に推進し好ましい人間関係を育てる。 ・すべての学年行事・学校行事は協力学級と共に活動させ基本的な生活習慣の指導を徹底し、習慣化を図る。 ・校外学習や視聴覚機器等の活用により、学習への意欲、関心をもたせ、学習内容の定着につとめる。 ・将来の夢や職業に対する知識を深めると共に作業学習や体験学習を多く取り入れ働く喜びを味あわせる。 ・家庭との連携を密にし、喜んで学校生活がおくれるような雰囲気づくりに努める。

5、教育課程の概要

学級担任名	概　　要
○ ○ ○ ○	・公立○○学校に設置されている学級編成の一形態であるから、○○学校学習指導要領に基づいて編成すべきであるが、本学級は、知的障害特別支援学級であるので、○○学校の学習指導要領をそのままあてはめることは適当でなく、高い教育効果をあげることは期待できない。そこで生徒の実態に合わせ、小・中学校の指導要領と特別支援学校学習指導要領を参考にして編成する。 ・生徒の精神発達の遅滞の状況とその特性や、地域社会や学校の実態の状況を考慮して編成する。 ・使用教科書・・小中学校の検定教科書 文部科学省選定一般図書 学校教育法附則第９条の規定による教科用図書

6、授業時数　（教科担任との相談で時間数の微調整があります）

教科別			特別支援学級での指導時間					通常学級での指導時間	総合的な学習の時間	計
担任名	ｸﾞﾙｰﾌﾟ又個別	週	各教科等を合わせた指導の時数	教科別の指導時数	道徳の時数	特別活動時数	自立活動時数			
○○○○	グループ	週	２	１６	１	１	１	５	２	２８
		年	７０	５６０	３５	３５	３５	１７５	７０	９８０

※国５、数５、社１、理１、英１、体３、美1,5、音1,5、技家２、総合２
道１、学１、生活１、作業２

7、学級の週間日程・日課表（時間割は５種類のうちの１例）

	朝の会	一校時	二校時	休息	三校時	四校時	給食清掃休憩	五校時	六校時
		８：５５ ９：４５	９：５５ 10：４５		11：００ 11：５０	12：００ 12：５０	12：５０ 14：３０	14：３０ 15：２０	15：３０ 16：２０
月		道　徳	理　科		数　学	国　語		生　活	
火		国　語	数　学		美　術	美　術		総　作	総　作
水		音　楽	体　育		数　学	国　語		総　作	総　作
木		技・家	技・家		体　育	英　語		国　語	数　学
金		社　会	数　学		体　育	国　語		学　活	
土									
日									

※総・・総合学習　　作・・・作業学習

市町村教育委員会作成用
第１号様式（第15条関係）

文　書　番　号
平成　年　月　日

沖縄県教育委員会　殿

○○○教育委員会　印

平成　　年度特別支援学級設置について

このことについて、下記のとおり特別支援学級を設置したいので内訳書等添付のうえ協議いたします。

記

小学校		
新規	校	学級
継続	校	学級
中学校		
新規	校	学級
継続	校	学級
小・中 新規計	校	学級
小・中 継続計	校	学級
小・中 合　計	校	学級

市町村教育委員会作成用
内訳書（1）－1

平成○○年度特別支援学級設置一覧表（新規用）

設置者名

障害種別	学校名	所在地	学級数	学年別入級者数							入級者の障害の状態	担任予定者	学級設置年度	備考
				1	2	3	4	5	6	計				

記入上の注意
1）障害種別ごとに、小中学校の順に記入すること。
2）学級設置年度は、「平成○○」と表示すること。

市町村教育委員会作成用
内訳書（1）－2

平成○○年度特別支援学級設置一覧表（継続用）

設置者名

障害種別	学校名	所在地	学級数	学年別入級者数							入級者の障害の状態	担任予定者	学級設置年度	備考
				1	2	3	4	5	6	計				

記入上の注意
1）障害種別ごとに、小中学校の順に記入すること。
2）学級設置年度は、「平成○○」と表示すること。

市町村教育委員会作成用
内訳書（２）－１

平成○○年度特別支援学級設置数（新規用）

設置者名

校　　種	小　学　校		中　学　校		合　　計	
学校・学級数 / 種　別	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数
知　的　障　害						
肢 体 不 自 由						
病弱・身体虚弱						
弱　　視						
難　　聴						
自閉症・情緒障害						
言　語　障　害						
計						

※合計欄の学校及び学級数は内訳書（１）－１の学校及び学級数と一致すること。
※合計欄の学校及び学級数は、第１号様式の学校及び学級数と一致すること。

市町村教育委員会作成用
内訳書（２）－２

平成○○年度特別支援学級設置数（継続用）

設置者名

校　　種	小　学　校		中　学　校		合　　計	
学校・学級数 / 種　別	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数
知　的　障　害						
肢 体 不 自 由						
病弱・身体虚弱						
弱　　視						
難　　聴						
自閉症・情緒障害						
言　語　障　害						
計						

※合計欄の学校及び学級数は内訳書（１）－２の学校及び学級数と一致すること。
※合計欄の学校及び学級数は、第１号様式の学校及び学級数と一致すること。

市町村教育委員会作成
第２号様式（第15条関係）

各学校別特別支援学級入級該当者名簿（新規用）

（　　）教育委員会

（　／　　枚中）

番号	学　校　名	障害種別	学年	児童生徒氏名	備　考 継続または新規に丸をつける	
1					継続	新規
2					継続	新規
3					継続	新規
4					継続	新規
5					継続	新規
6					継続	新規
7					継続	新規
8					継続	新規
9					継続	新規
１０					継続	新規
１１					継続	新規
１２					継続	新規
１３					継続	新規
１４					継続	新規
１５					継続	新規
１６					継続	新規
１７					継続	新規
１８					継続	新規
１９					継続	新規
２０					継続	新規
２１					継続	新規
２２					継続	新規
２３					継続	新規
２４					継続	新規
２５					継続	新規

※本名簿にある児童生徒については、就学指導委員会審査結果報告書を添付すること。
※障害種別については、在籍予定である障害種を記入すること。

市町村教育委員会作成

第２号様式の２（第 15 条関係）

各学校別特別支援学級入級該当者名簿（継続用）

（　　）教育委員会

（　　／　　枚中）

番号	学　校　名	障害種別	学年	児童生徒氏名	備　　考
１					
２					
３					
４					
５					
６					
７					
８					
９					
１０					
１１					
１２					
１３					
１４					
１５					
１６					
１７					
１８					
１９					
２０					
２１					
２２					
２３					
２４					

※障害種別については、在籍予定である障害種を記入すること。

市町村教育委員会で作成

第２号様式添付資料

就学指導委員会審査結果報告書

入級予定学校名

児童生徒氏名

昭和・平成　　年　　月　　日生

状態・所見

判定結果

上記のとおり判定されました。

沖縄県教育委員会教育長　殿

平成　　年　　月　　日

教育委員会

教育長　　㊞

※　この様式は、就学指導委員会の結果を受けて教育委員会で作成すること。

※　本報告書は児童生徒の障害の状況等を踏まえ、状態・所見、判定結果を具体的に記入すること。

通級指導教室に係る諸手続き書類

通級の開始から終了の手続き（通級指導を受ける学校が他市町村の場合）

	保護者	在籍校	市町村 教育委員会	県教育 委員会	通級教室設置校	他市町村教育 委員会
＜様式１＞ 指導の申請		○ 校内就学委員会の資料添付	就学指導委員会			
＜様式２＞ 通級校の決定通知			○他市町村教委・県教委との協議			
＜様式３＞ 氏名通知			○			
＜様式４＞ 指導内容・時間の通知						
＜様式５＞ 指導内容・時間の通知			他市町村教委と協議		指導内容等は担当者作成	
＜様式６＞ 教育課程の通知		○			教育課程は担当者作成	
＜様式７＞ 指導実施の通知			○			
＜様式８＞ 教育課程の通知			○			
＜様式９＞ 終了の通知		○設置校校長の意見			添付資料は担当者作成	
＜様式１０＞			○			

通級指導教室に係る諸手続き書類

通級の開始から終了の手続き（通級指導を受ける学校が同一市町村の場合）

	保護者	在籍校	市町村教育委員会	県教育委員会	通級教室設置校
＜様式１＞ 指導の申請		○ 校内就学委員会の資料添付	就学指導委員会		
＜様式２＞ 通級校の決定通知			○県教委との協議		
＜様式３＞ 氏名通知			○	盲聾学校の場合	
＜様式４＞ 指導内容・時間の通知					○
＜様式５＞ 指導内容・時間の通知					
＜様式６＞ 教育課程の通知		○			教育課程は担当者作成
＜様式７＞ 指導実施の通知			○		
＜様式８＞ 教育課程の通知			○		
＜様式９＞ 終了の通知		○ 設置校校長の意見			添付資料は担当者作成
＜様式１０＞			○		

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式１）

第　　号
平　成　年　月　日

○○○教育委員会
教育長　　殿

○○○立○○小学校
校　長　　○○　○○

在籍児童生徒の通級による指導について

このことについて、下記の児童生徒は、通級による指導が必要と考えられますので、よろしくお取りはからい下さい。

記

1　児　童　名　　性別　　第　　学年

2　通級希望先　　○○立○○小学校通級指導教室

3　障害の状態

○校内就学指導委員会等の資料添付

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式２）

第　　号
平　成　年　月　日

○○○小学校
校　長　　殿

○○○教育委員会
教育長　○○　○○

通級指導校の決定について（通知）

このことについて、貴校から通知のあった児童生徒に係る通級による指導を下記のとおり実施いたします。

記

1　児童生徒名　　性別　　第　　学年

2　通級指導校　　○○立○○小学校通級指導教室

○校内就学指導委員会等の資料添付

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式３）

第　　号
平　成　年　月　日

沖縄県教育委員会教育長
市町村教育委員会教育長　殿
○○○立○○小学校校長

○○○教育委員会
教育長　○○　○○

通級による指導に係る児童生徒の氏名等について（通知）

このことについて、貴校から通知のあった児童生徒は通級による指導を必要としますので、よろしくお取りはからい下さい。

記

児童生徒名		性別	学年
児童生徒現住所	〒		
在学校名			
保護者名			
保護者現住所	〒　　TEL		

○欄が不足なときは、同様の欄を作成して使用して下さい。

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式４）

第　　号
平　成　年　月　日

○○○小学校
校　長　　殿

○　○　○小学校
通級指導校
校　長　○○　○○

通級による指導に係る指導内容及び指導時間について（通知）

貴校在学中の児童生徒の通級に係る指導内容及び指導時間は、下記のとおりです。

児童生徒名	性　別	学　年	自立活動の指導（　　時間）	補充指導（　　時間）

通級実施曜日				
指 導 時 間	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分

○指導時間は単位時間で記入して下さい。

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式５）

第　　号
平　成　年　月　日

○○○小学校
校　長　　殿

市町村教育委員会
教育長　○○　○○

通級による指導に係る指導内容及び指導時間について（通知）

貴校在学中の児童生徒の通級に係る指導内容及び指導時間は、下記のとおりです。

児童生徒名	性　別	学　年	自立活動の指導（　　時間）	補充指導（　　時間）

通級実施曜日				
指導時間	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分	時　分 ～　時　分

○指導時間は単位時間で記入して下さい。

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式６）－１

第　　号
平　成　年　月　日

○○○教育委員会
教育長　　殿

○○○立○○小学校
校　長　　○○　○○

通級による指導に係る特別の教育課程について（通知）

このことについて、当該児童生徒の特別の教育課程は下記のとおりです。

記

児童生徒氏名		性別	第　　学年
児童生徒現住所	〒　　ＴＥＬ		
在学校名		学級担任名	
保護者氏名		保護者現住所	
通級指導校名		通級担当教員名	
通級指導開始日			
通級指導の実施曜日及び時間			
障害の状態			

（様式６）－２

各教科等及び週当たりの授業時数															
各教科等	国語	社会	算数	理科	生活	総合的な学習	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	特別活動	外国語活動	通級による指導	合計
時数															

※補充指導を行うときは、対象となる教科欄に（補指）と書き、週当たりの授業時数を外数として（　　）書きで時数欄に記入すること。

自立活動に関する指導内容
補充指導の内容

（様式７）

第　　号
平　成　年　月　日

○○　○○　殿

○○○教育委員会
教育長　○○　○○

通級による指導の実施について（通知）

このことについて、下記のとおり実施しますのでお知らせいたします。

記

1　児童生徒名　　性別　　第　　学年

2　在学校名　　○○○○　立　　○○○○小学校

3　通級指導校　　○○○○　立　　○○○○小学校通級指導教室

4　通級による指導の実施曜日及び時間

曜　日	指　導　時　間

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式８）－１

第　　号
平　成　年　月　日

沖縄県教育委員会
教育長　　殿

○○○市町村教育委員会
教育長

通級による指導に係る特別の教育課程について（通知）

このことについて、当該児童生徒の特別の教育課程は下記のとおりです。

記

児童生徒氏名		性別	第　　学年
児童生徒現住所	〒　　ＴＥＬ		
在学校名		学級担任名	
保護者氏名		保護者現住所	
通級指導校名		通級担当教員名	
通級指導開始日			
通級指導の実施曜日及び時間			
障害の状態			

（様式８）－２

各教科等及び週当たりの授業時数															
各教科等	国語	社会	算数	理科	生活	総合的な学習	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	特別活動	外国語活動	通級による指導	合計
時数															

※補充指導を行うときは、対象となる教科欄に（補指）と書き、週当たりの授業時数を外数として（　　）書きで時数欄に記入すること。

自立活動に関する指導内容
補充指導の内容

通級指導教室に係る諸手続き書類

（様式９）

第　　号
平　成　年　月　日

○○市町村教育委員会
教育長　○○　○○　殿

○○○小学校
校　長　○○　○○

通級による指導の終了について（通知）

このことについて、下記児童の通級による指導を終了したいと考えますので、よろしくお取りはからい下さい。

記

1　児童生徒名　　性別　　第　　学年

2　在学校名　　○○○○　立　　○○○○小学校

3　通級指導校　　○○○○　立　　○○○○小学校通級指導教室

4　通級による指導の開始　　平成　　年　　月　　日

5　通級による指導の終了予定日　　平成　　年　　月　　日

○通級指導校の意見等の関係資料添付

通級指導教室に係る諸手続き書類（保護者より学校へ提出書類例）

平　成　年　月　日

○○○立○○○小学校
　校　長　○○　○○　殿

○○○小学校
　校　長　○○　○○

○○○教室通級申し込み書

本校の下記の児童は、貴校の○○○の教室で指導を受けたいので、保護者の同意書を添えて申し込みます。

記

児童名		生　年 月　日		学　年 組		担任名	
住　所	〒						
保護者		続　柄		ＴＥＬ（自宅）　　（職場）			
児童の実態		所　　見					
	行動						
	学力						
	ことば						
通級経路	自宅ならびに在籍校から、○○教室までの経路						

通級指導教室に係る諸手続き書類（保護者より学校へ提出書類例）

保護者の同意書

平　成　年　月　日

○○○立○○○小学校の通級指導教室においての指導を受けることを希望します。

通級指導教室への通級については、保護者が付き添います。

児　童　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生 年 月 日　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所　　属　○○　立　○○　小学校

年　　組

住　　所　〒＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号（自宅）＿＿＿＿＿＿＿＿

（他連絡先）＿＿＿＿＿＿＿＿

保 護 者 名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

ⅡX　特別支援教育コーディネーター年間活動計画（参考例）

○○○○学校

月	特別支援教育コーディネーターの活動内容
1	**校内委員会の開催** ・次年度に向けての実態把握（気になることは具体的に書いてもらう） ・新入生オリエンテーションの資料準備作成 **実態把握調査表の整理** □実態把握調査表　□支援レベルの資料　□新入生へのオリエンテーション資料
2	**学年会を要請** ・次年度に向けて支援体制を確認するために、支援会議にあげる生徒をしぼる。支援レベルの資料を活用。 ①授業だけで対応可能　② 学習支援　③ 個別支援 ④ 就学指導委員会にかけたほうが良い　⑤専門機関に相談が必要 ＊学年会で話し合った内容を整理し、校内委員会の資料とする ＊司会と記録を別にする **校内委員会の開催** ・学年会で上がった内容から、次年度の具体的な支援方法の検討、決定。支援方法に応じて、担当教師に振り分ける。 ＊必要があればヘルパーの要請 ＊ヘルパーの要請は各市町村の手続きに準ずる。 ・個別の指導計画、個別の教育支援計画の形式の検討。 **評価を依頼** ・個別の指導計画、個別の教育支援計画の評価を担任（教科担任）に依頼。 **引き継ぎ資料の作成（個別ファイル）～3月まで** ・依頼した評価を集約し、引き継ぎ資料を作成する。（ヘルパー要請の資料可） ・個別の指導計画、個別の教育支援計画の評価を担任（教科担任）に依頼。 **新入生オリエンテーションで中学校の特別支援教育を説明** □新入生へのオリエンテーション資料（保護者へ配布）　□個別ファイル
3	**小学校との情報交換会** ・特別支援が必要な生徒を把握しておく。必要に応じて保護者との相談会。 （項目：知能検査／学力検査／専門機関／特別支援／対人関係／不登校（教育相談）／生徒指導など） **校内委員会の開催** ・新１年生の実態把握。情報交換した内容の確認。次年度の支援体制を確認。 ・１年間の特別支援教育の取り組みの評価（事前に職員へのアンケート） **引き継ぎ資料の整理** ・特別支援にかかわる生徒の引き継ぎ資料を整理し、学年主任と確認する。 **高等学校への情報提供** □情報交換会での聞き取り資料　□特別支援教育の振り返りのアンケート □新入生の情報交換資料の作成　□引き継ぎ資料
4	**支援が必要な生徒の共通理解** ・４月最初の職員会議（校内研修）で、特別な支援が必要な生徒について共通理解、及び年間計画の確認をする。 **校内委員会の開催** ・本校の特別支援教育及び、校内支援体制について提案、検討、決定。

	□引き継ぎ資料（2，3月に作成した資料）
5	**校内委員会の開催** ・実態把握の方法、手順について提案、検討、決定。 ・継続の生徒の支援の確認。 ・ヘルパーや学習支援員等の配置や時間割等の連絡調整。　＊教頭・教務等と連携 ・個別の指導計画、個別の教育支援計画の形式や手順を確認。 **実態把握** ・気になる生徒の把握と観察をするため、第１回実態把握調査表を職員へ配布する。 ・学年会で気になる生徒の実態を集約してもらう。 ・実態把握調査票を回収し、整理する。校内委員会の資料とする。 **学年会の開催** ・気になる生徒の支援について話し合う。ケースに応じたメンバーで構成してよい。 □実態把握調査表（各学校の形式で）　□個別の指導計画、個別の教育支援計画 □学年会の資料
6	**校内委員会の開催** ・気になる生徒の経過観察 **校内就学指導委員会（5～7月）** ・就学指導委員会にあげる生徒の決定（定期テストの結果を確認しておく。気になる生徒の実態をもとに） **《就学指導の流れ》** ①全職員へ就学指導の内容について説明する。 ②学年会で就学指導にあげる生徒を集約してもらう。 ③「校内就学指導委員会」で、検討し決定する。 ④決定した生徒については担任へ連絡し、保護者との相談や書類の作成を依頼する。 コーディネーターは必要に応じてサポートする。 ⑤諸書類を整え、市町村就学指導委員会へ提出する。 **学年会の開催（必要に応じて）** ・気になる生徒の支援について話し合う。支援に関する情報収集と検討、決定。 □実態把握調査票をまとめたもの　□就学指導に関わる資料 □気になる生徒の様子確認のための用紙
7	**校内委員会の開催** ・気になる生徒の経過観察、必要に応じて保護者との相談会をもつ。 **個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成** ・担任へ個別の指導計画、個別の教育支援計画の書き方等を説明し作成を依頼する。 ＊コーディネーターは必要に応じてサポートする。 **校内研修の開催（7・8月）** ・発達障害の理解／気になる生徒の現状や支援方法について等。 ＊外部講師を招く場合には事前の連絡調整。 □個別の指導計画、個別の教育支援計画　□校内研修資料
8	**保護者との面談（必要に応じて）** ・申し出のあった保護者と教育相談　＊学年主任や担任と連携 **３学年との情報交換** ・中学校３年生を担当する職員へ、特別な支援が必要な生徒の進路先の情報提供。 **就学指導** ・就学指導の検査にかかわる連絡調整（時間の設定・検査場所の確保、担任、保護者と本人への連絡）

	□教育相談の資料　　□進路関係の情報資料
9	**校内委員会**（第２回実態把握調査） ・気になる生徒の様子の確認（夏休み明けの生徒の状況把握・実態把握）学年会等で確認してもらう。 ・就学指導や学年会にあがった新規の生徒の個別の支援について検討。 **ケース会議（必要に応じて）** ＊メンバーは必要に応じて構成する ・校長／教頭／担任／教科担任／スクールカウンセラー／養護教諭／特別支援教育コーディネーター／教育相談担当／保護者／部活動顧問／ヘルパー／学習ボランティア等 ・関係機関（児童福祉係・社会福祉係・児童相談所・民生委員・特別支援学校）／巡回アドバイザー　等 ＊通常の学級の生徒に対して、就学指導や発達障害について保護者への相談を進める際には、スクールカウンセラーの先生方につないでからのほうが良い場合もある。 □ケース会議の資料　　□気になる生徒の様子確認のための用紙
１０ ～ １２	**校内委員会** ・気になる生徒の様子の確認、支援の検討 ・中学校３年生で、特別な支援を必要とする生徒の進路の支援 **ケース会議（必要に応じて）** □ケース会議の資料　□気になる生徒の様子確認のための用紙

※校内委員会の開催は、各学校の実情に応じてきめる。

ⅡＸＩ　事例様式関係

（通級指導教室連絡カード参考様式例）

平成　　年度　　通級指導教室　　連絡カード			
月　　日　　曜日　　時間目			
これまでの様子や所見など			
今日の予定			
1 2 3 4 5			
今日の様子や通級指導教室からの連絡など			
活動の内容やねらい等	記　　録		
次回の予定			
次は、　　月　　日　　曜日　　時間目			
	ご家庭	年　　組	通級教室
	印	印	印

（通級指導教室連絡カード参考様式例）

平成　　年度　通級指導教室　連絡カード

（　　）月（　　）日（　　）曜日（　　）時間目

【　学期のめあて 】

メニュー	ね　ら　い	反　応　と　支　援

〔担当者より〕

次回、準備するものは（　　）です

次回の教室通級は（　　月（　　）日　〔　　〕曜日（　　）校時です

保履者から	学級担任から
印	印

（通級指導教室学習カード参考様式例）

通級指導教室（　組）学習記録カード

学校	年　組	名前

月　日　曜日　（　・　時間目）

今月の目標

	学習内容	学習の様子
1		
2		
3		
4		
5		

○（　　）先生より

1 次は　月　日　曜日　・　時間目です。

2 持ってくるもの　学習記録フアイル国語の教科書

学級担任の先生より	保護者の方より

（通級指導教室学習カード参考様式例）

通級指導教室（　　組）学習記録カード

平成　　年　　月　　日　曜日　　校時	保護者印		担任印	

ことばの教室の先生から（学習内容や学習の様子）

つぎの「通級指導教室」は　　月　　日（　）曜日　　校時です。

おうちの方から

担任の先生から

（通級指導教室指導経過報告書参考様式例）

平成〇〇年度　　〇〇小学校通級指導教室指導経過報告書

児童名		〇〇市立〇〇小学校〇年	担当者	

1　指導期間　　平成 〇〇 年 〇 月 〇 日（〇）～平成 〇 年 〇 月 〇 日（〇）

2　指導時数　　週 〇 ～ 〇 時間

3　指導の内容や経過の例

4　所　見の例

（通級指導教室指導経過報告書参考様式例）

平成○○年度　　○○○学校通級指導教室指導経過報告書

生　徒　名	学　　校　　名	担　当　者　名
	○○市立○○○学校○年	

1　指導期間　　平成○○年 ○ 月 ○ 日～平成 ○ 年○ 月 ○ 日

2　指導時数　　週○時間（毎週○曜日 ○○：○○ ～ ○○：○○）

3　指導の内容や経過

4　所　見

5　指導要録記載

個別の指導計画（参考例ＮＯ１）

○年○組　　名前：○○　○○担任：○○　○○記入者：○○　○○記入　年　月　日：平成　年　月　日

生活課題 本人 親・教師の願い ①～③は優先課題	□身の回りのこと □楽しむこと □手伝い・働くこと □健康・学習等	児童生徒の実態 要素 ◎：できること ○：芽生え	

		指導目標（優先する指導：☆①等で示す）	手立て（場、時、支援の方法、支援の程度）	評価
教科別の指導				
各教科等をあわせた指導				
領域別の指導				
総合的な学習の時間				

個別の指導計画（参考例ＮＯ２）

名前		学年・学級	年　　組
担任		作　成　日	平成　　年　　月　　日
支援の方針			
	○学期（○月～○月）		

観点		ね　ら　い （実態から：前回評価から）	具体的な対応（指導・学習形態） （方法・支援等）	評　　価 （◎○△・今後の課題等）
教科等				
行動				
生活				
対人関係				
家庭				
その他				

個別の指導計画（参考例ＮＯ３）

ふりがな		性　別	在籍学級	
氏　名			担任氏名	

本　人　・　保　護　者　の　願　い	
本人	
保護者	

名	実態と目標	支援のヒント／対応例	指　導　の　手　立　て　と　評　価

学　期　の　目　標

個別の指導計画（参考例ＮＯ４）

平成〇〇年度　個別の指導計画

第　　学年	名前

指導の目標・支援・評価

記入者：〇〇〇〇（平成〇年〇月〇日記入）

	今年度の目標（長期目標）	主な指導の場
認知面 言語面 学習面		
健康・運動面 生活・行動面 対人・情緒面		

		学期目標（短期目標）	具体的な手立て	評価・来学期の方向性
認知面 言語面 学習面	1学期			
	2学期			
	3学期			
健康・運動面 生活・行動面 対人・情緒面	1学期			
	2学期			
	3学期			

個別の指導計画（参考例ＮＯ５）

記載者：

ふりがな 名　　前		担　当　教　員	
		種　　別	
	平成　　年　　月　　日生	指導開始日	平成　　年　　月
・現状			
・支援の方針			
・長期目標			
時　　数	・個別　　：週　　時間		

時　期	短　期　目　標	指導内容、具体的な手立て	指　導　結　果
１学期			
２学期			
３学期			

個別の教育支援計画（参考例ＮＯ１）

（小学校）　　個別の教育支援計画　　（平成　　年　　月　　日　）作成

ふりがな 児 童 名		性　別 男・女	生年月日 年　　月　　日生
保護者氏名	印	連絡先 電話番号	
住　所			

家庭環境 家族構成 （　名）	氏　　名	続柄		（保護者・兄弟等との関わり等）

健康・障害 状　況	【健康状態】	診断名（障害名） 診断機関名［　　］
生育歴 ・ 健診歴	乳幼児健診（ことば・運動・情緒行動の発達） 妊娠期間： 出産期： 乳幼児期：	健 診 結 果 １歳半健診： ３歳児健診： 保 育 所：
就学時健診		

		諸検査歴（学力・知能・ＷＩＳＣ－Ⅲ・Ｓ－Ｍ検査等）	
		検　査　結　果	検 査 機 関
幼稚園			
１学年			
２学年		学力検査（国　　算　　） 知能検査（　　）	
３学年		学力検査（国　　算　　）	
４学年		学力検査（国　　算　　）	
５学年		学力検査（国　　算　　）	
６学年		学力検査（国　　算　　）	

個別の教育支援計画（参考例ＮＯ２）

（中学校）　　個別の教育支援計画　　（平成　　年　　月　　日　）作成

ふりがな 児 童 名		性　別 男・女	生年月日 年　　月　　日生
保護者氏名	印	連絡先 電話番号	
住　所			

家庭環境 家族構成 （　　名）	氏　　名	続柄		（保護者・兄弟等との関わり等）

健康・障害 状　況	【健康状態】	診断名（障害名） 診断機関名［　　］
生育歴 ・ 健診歴	乳幼児健診（ことば・運動・情緒行動の発達） 妊娠期間： 出産期： 乳幼児期：	健 診 結 果 １歳半健診： ３歳児健診： 保 育 所：
就学時健診		

		諸検査歴（学力・知能・ＷＩＳＣ－Ⅲ・Ｓ－Ｍ検査等）	
		検　査　結　果	検 査 機 関
１学年			
２学年			
３学年			

個別の教育支援計画（参考例ＮＯ３）

氏名（　　）　　保護者名（　　印）

保護者本人の思い・願い				
児童の様子	学習面	聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する	行動面	学習態度・注意集中・コミュニケーション
	運動面	（粗大運動・微細運動）	生活面	（身辺処理・時間や金銭感覚等）
	好き・得意なこと		情緒面　社会面	
	家庭で様子		余暇活動	

学校	支援の状況
幼稚園	
１学年	
２学年	
３学年	
４学年	
５学年	
６学年	

【家庭】

【本人】

・名　前

・生年月日

【地域資源】

【医療機関】　（年月）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

【福祉機関】　（年月）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

【その他】　（年月）
（教育委員会・教育センター）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

個別の教育支援計画（参考例ＮＯ４）

（平成　　年　　月　　日）作成

ふりがな 児童・生徒名		ふりがな 保護者名	印
学年・学級	担　任　名	学年・学級	担　任　名
１年　　組		４年　　組	
２年　　組		５年　　組	
３年　　組		６年　　組	

主　訴			
保護者本人の思い願い	【保護者】	【本人】	
担任の願い			
生徒の様子	学習面	聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する	行動面	注意集中・集団参加・対人関係等
	運動面	粗大運動・微細運動等	生活面	身辺処理・時間や金銭感覚等
	好き・得意		情緒面・社会性	
	家庭の様子		余暇活動	部活動・習い事・学童等

総合的な考察	支　援　の　方　針	評　価

支援	機関担当	目標・支援内容	評　価
		〔長期目標〕	
		〔支援内容〕	

個別の教育支援計画（参考例ＮＯ５）

記入年月日（平成　　年　　月　　日）
記入者氏名（　　）

ふりがな		性別	生　年　月　日	学　校　名
児童氏名		男・女	平成　　年　　月　　日	
保護者名	印	平成　　年　　月指導開始	週指導時数　　回（　時間）	

実態	行動人とのやりとり	
	特別な学習内容	
	その他	

〈成育歴等の特記事項〉	〈諸検査・診断等の結果〉
〈家庭環境〉	

〈保護者の願い〉
〈学級担任の願い〉

対人関係	
学習面	
行動面	
余暇活動	

本年度のまとめ	関係機関との連携	
	年間目標に対する評価	
	来年度への引継ぎ事項及び課題	

ⅡＸⅡ　特別支援教育等で使用される各種標準検査

検　査　名	適用範囲	特　　徴
田中ビネー知能検査	２歳　～　成人	各年齢毎に検査問題が構成されており、検査者と被検査者の一対一で検査が行われる。検査結果はすべて年齢基準と結びつけて評価され、精神年齢（ＭＡ）と知能指数（ＩＱ）が算出される。知能を個々の因子に分析せず、被検査者の知的な発達水準が包括的に把握できる。
ＷＩＳＣ－Ⅲ知能検査	５歳０月　～　１６歳１１月	検査者と被検査者の一対一で検査が行われる。一般知能を言語性ＩＱ、動作性ＩＱ、全検査ＩＱの３種類のＩＱと下位検査プロフィールにより測定する。知的発達の状態を評価点プロフィールで表示することで、「個人内差」という観点から分析的に診断し、ＬＤ（学習障害）児や知能の遅れのある子どもの指導に有効な資料を提供できる。言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度の４つの群指数により発達の特徴も把握できる。
グッドイナフ人物画知能検査	３歳０月　～　１０歳０月	人物画を描かせ、その絵により知能の発達度を測定する。聴覚・言語・情緒の障害児童の知的水準の測定ができ、慢性脳炎・脳微細損傷の児童の発見にも役立つ。言語反応を要求しないことから、表出言語を持たない児童の知的水準が把握できる。
Ｓ－Ｍ社会生活能力検査	幼児　～　中学生	子どもの日常生活場面での行動が検査の対象となり、保護者への質問によって検査できる。知的障害児の判断に不可欠な要素である、社会生活に関する能力を６領域に分け、領域別の社会生活年齢（ＳＡ）と社会生活指数（ＳＱ）に換算される。
ＩＴＰＡ言語学習能力診断検査	３歳０月　～　９歳１１月	検査者と被検査者の一対一で検査が行われる。情報を受け取り、解釈して、他の人に伝えるコミュニケーションの過程の中から１０の要素を選び、その機能を測定する。全体的な発達レベルを知ると同時に、「個人内差」も測定できる。発達的様相を多面的に捉え、ＬＤ（学習障害）児や言葉の発達に遅れがある子供の診断・治療教育に適している。
フロスティッグ視知覚発達検査	幼児　～　中学生	検査者と被検査者の一対一で検査が行われる。子供の視知覚上の異常点を発見し、適切な訓練を行う上での手がかりを得るための検査である。聴覚障害、脳性まひ、知的障害、情緒障害、ＬＤ（学習障害）などの子供に実施できる。１．視覚と運動の協応、２．図形と素地、３．形の恒常性、４．空間における位置、５．空間関係、の５つの視知覚技能を測定できる。

構音障害に関わる検査解説

用　　語	解　　説
構音検査（選別検査）（こうおんけんさ（せんべつけんさ））	構音障害が疑われる子どもを発見するために行われます。短時間に、構音障害の有無を検査します。よく使われている選別検査の中に「ことばのテストえほん」（新訂版言語障害児の選別検査日本文化科学社）があります。
構音検査(診断検査)（こうおんけんさ（しんだんけんさ))	診断検査は、構音の状態等を把握し、その状態を判断し、指導の方針を立てるためのものです。診断検査に一般的に、「構音の状態を把握する検査」、「聴覚的弁別力を把握する検査」、「発語器官の形態や機能を把握する検査」等で構成されます。
構音検査（単音節検査）（こうおんけんさ（たんおんせつけんさ））	単音節（五十音）を発語させることにより誤りの有無を把握します。発語の状態を、構音点（唇、舌、歯茎、口蓋などの音を作る位置)、構音様式（破裂、摩擦などの音の作り方）によって整理し、誤り方の特徴や傾向を把握します。
構音検査（単語構音検査）（こうおんけんさ（たんごこうおんけんさ））	単語を表す絵を提示し、その名称や動作などを呼称させます。特定の音の誤りは、その音が含まれる単語の中の位置（語頭、語中、語尾）によって異なる場合があるので、その音の単語の中の位置の違いを考慮した単語を用いて検査し、誤りの特徴や傾向を把握します。
発声・発語器官の形態や機能を把握する検査（はっせいはつごきかんのけいたいやきのうをはあくするけんさ)	構音の基盤となる発語器官（唇、舌、口蓋、咽頭等）の形態や動きを観察します。構音障害は、これらの発語器官の形態や動きの問題に起因することがあります。軟口蓋や咽頭壁の動きの観察は、鼻咽腔閉鎖機能（鼻腔と口腔への呼気の通路を操作し、口腔内に内圧を作る機能）が適切に働いているかどうかを知る手掛かりになります。
被刺激性検査（ひしげきせいけんさ)	誤って構音をしている音について、正しい音を聞かせた後に復唱させての構音の状況をみる検査です。聴覚的な刺激によって正しい構音が行われることを被刺激性があるといいます。被刺激性があることで、構音の改善の見通しや指導の方針を立てる目安になります。
構音の誤りの一貫性と浮動性（こうおんのあやまりのいっかんせいとふどうせい)	構音の状態が常に一貫して誤っている場合を構音の誤りに一貫性があるといいます。逆に、正しく構音できるときと誤るときがあることを構音の誤りに浮動性があるといいます。構音の改善の見通しや指導の方針を立てる目安になります。

ⅡXⅢ　言語障害の基礎用語の解説

用　　語	解　　説
構音障害 （こうおんしょうがい）	構音障害とは、話し言葉を使う中で「さかな」を「たかな」、「はなび」を「あなび」などと、一定の音を習慣的に誤って発音する状態をいいます。構音障害は、口唇、舌、歯等の構音器官の構造や機能に異常があって生じる器質的構音障害とこれらの器官に異常が認められない機能的構音障害があります。
機能的構音障害 （きのうてきこうおんしょうがい）	機能的構音障害は、構音の獲得の過程で、誤って学習された構音が固定化したものと考えられています。その他、幼児など構音の獲得過程にある場合には、誤った構音の状態を示すことがあり、機能的構音障害と判断できないこともあります。
器質的構音障害 （きしつてきこうおんしょうがい）	器質的構音障害を生じるものとして口蓋裂があります。口蓋裂は、口蓋に裂け目があるため呼気流が鼻に漏れ、共鳴異常（開鼻声）を起こしたり、また、発語時に必要な口腔の内圧が得られないために、構音を行う場所がずれ、誤った構音の状態が習慣化することがあります。こうした要因で生じる構音障害を器質的構音障害と呼んでいます。器質的構音障害には、このほか、軟口蓋の動きが不十分であることなどを要因とする鼻咽腔閉鎖機能不全症によるもの等があり、医療的な対応が必要となるので医療機関との連携が必要となります。
側音化構音 （そくおんかこうおん）	本来、呼気を口の正中から出して作られる音が、たとえば舌が盛り上がり、口蓋に接近することなどで、呼気が口の側方に流れ、歪んだ音として聴取される音が作られる。［イ列」音や［サ行」に多くみられます。
口蓋化構音 （こうがいかこうおん ）	本来、舌先と歯・歯茎部の間で作られる「サ行」（【ｓ】）や〔タ行〕（〔t〕）の音が、舌の中程と硬口蓋の間や奥舌と軟口蓋の間で音が作られることにより、歪み音として聴取される音をいいます。
声門破裂音 （せいもんはれつおん）	声門を閉鎖し、急激に閉鎖を解放する事によって作られる破裂音。日本語にはない音の作り方ですが、たとえば鼻咽腔閉鎖機能が不十分であるために、口腔内圧が保てず、その代わりに、音を作る位置が息の通り道の後方に移動することで生じる構音障害です。「パ行」［ｐ」)、「タ行」（〔ｔ〕)、「カ行」（〔ｋ〕）などの破裂音で生じ喉を詰めたような音として聴取されます。
鼻咽腔構音 （びいんくうこうおん）	本来であれば、呼気が口腔から出ることで作られる音が、舌が口蓋に接することで口腔を塞ぐために、呼気が鼻から出ることによって鼻咽腔（咽頭と鼻腔の間にある空洞）で作られる構音障害です。鼻にかかった音に聞こえますが、開鼻声とは異なり、鼻を塞ぐと音が出なくなります。「ウ列」の音に多くみられます。

言語障害の基礎用語の解説

用　　語	解　　説
口蓋裂 （こうがいれつ ）	胎生初期に口蓋部分の形成が何らかの理由で完了しなかったため、生下時に口蓋が完全に、あるいは部分的に形成されず割れている状態をいいます。胎生期の口蓋の発達の際に、融合不全を起こした状態です。呼気流の閉鎖が出来ず鼻腔に抜けるために、開鼻声となったり、呼気の閉鎖の位置が変わり構音障害となることがあります。
鼻咽腔閉鎖機能不全 （びいんくうへいさきのうふぜん）	軟口蓋が短い、あるいは、その動きが不十分であること、咽頭腔が深いなどの理由により、鼻咽腔閉鎖機能が不十分な状態になる場合があります。軟口蓋と咽頭の間で呼気流の閉鎖が出来ず開鼻声となったり、声門破裂音などの異常構音となることがあります。
口蓋 （こうがい）	口腔（口室）の天井にあたる部位で、上顎の歯茎から奥に広がっている。歯茎部から続く硬い部分を硬口蓋といい、更に口の奥に進むにしたがって柔らかい軟口蓋部分があり、その先端は口蓋垂（のどちんこ）となっています。
咽頭 （いんとう）	口の中をのぞくと上は鼻腔に、下は喉頭に続く呼気の流れを導く空洞があります。鼻腔と喉頭の中間にある気道の部位を咽頭といいます。上部を上咽頭、下部を下咽頭といい、口の奥をのぞくと見える部位を中咽頭といいます。鼻咽腔閉鎖機能は、軟口蓋の動きと中咽頭壁の盛り上がりによって実現します。
喉頭 （こうとう ）	気道は口唇から口腔、咽頭を経て、喉頭へ続きます。喉頭には、声門があり、声門を呼気が通過するときに作られる空気の振動が音となつて語音の基となる喉頭原音が作られます。喉頭原音は、口腔に導かれ、共鳴し母音の特徴を得たり、閉鎖や摩擦などによって子音の特徴が付加され、語音となります。
鼻咽腔 （びいんくう）	咽頭と鼻腔の間にある空洞をいいます。本来、この部位で音を作ることはありませんが、鼻咽腔構音は、この部位で音を作る誤った構音で、機能的構音障害の一つとして知られています。

言語障害の基礎用語の解説

用　　語	解　　説
音の置き換え（置換）〔おんのおきかえ（ちかん）〕	誤り方の特徴からみた構音障害の種類の一つです。「さかな」〔sakana〕を「たかな」〔takana〕と間違えるように、サ行の音（〔ｓ〕）とタ行の音（〔ｔ〕）に一貫して誤って発音するタイプです。
音の省略（おんのしようりゃく）	誤り方の特徴からみた構音障害の種類の一つです。「はなび」（〔hanabi〕）を（〔anabi〕）と発音するように〔h〕の音を省略するなど必要な音を省略して発音するタイプです。
音の歪み（おんのひずみ）	誤り方の特徴からみた構音障害の種類の一つです。ある音が不正確に発音される状態で、日本語にはない音として発音されます。口蓋化構音では、例えば、「タ」（〔ta〕）の音と「カ」（〔ka〕）の音の中間的な音として不正確に発音されることがありますが、歪みの音として聴取されます。
母　音（ぼいん）	母音は、声門（声帯）で作られた喉頭原音が口腔での共鳴を受けて音の特徴を付加された音です。口の形や舌の位置などによって共鳴腔（口腔）の形状や容積が変化し、母音の特徴が作られます。母音は、呼気の流れが閉鎖、狭めなどによって大きく妨げられることのない音として子音と区別されます。日本語では、「あ」「い」「う」「え」「お」があります。
子　音（しいん）	呼気が口唇や舌などによって閉鎖し破裂されたり、狭められて生成される音です。閉鎖し破裂されて作られる音には、〔p〕〔b〕〔t〕〔d〕〔k〕〔g〕などがあります。狭められて生成される音には、〔ｓ〕〔ʃ〕〔h〕〔Φ〕などがあります。その他、呼気が鼻に抜ける鼻音も子音です。
単　音（たんおん）	語音をその作り方を観点に整理するときに、その音の最小単位を「単音」といいます。母音の〔ａ〕〔ｉ〕〔ｕ〕〔ｅ〕〔０〕、子音の〔ｐ〕〔ｂ〕〔ｔ〕〔ｄ〕〔ｋ〕〔ｇ〕などは単音です。
音　節（おんせつ）	日本語の語音は、母音は単音で一つのまとまりをつくります。その他の音は、子音と母音の組合せとしてまとまりをつくります。このような音のまとまりを音節といいます。

言語障害の基礎用語の解説

用　　語	解　　説
構音点 （こうおんてん）	構音をするときに、呼気の通り道を狭めたり閉鎖などをして、音をつくる部位をいいます。構音点は、口唇、歯、歯茎、硬口蓋、軟口蓋、舌先、奥舌などで、その組合せによって閉鎖や狭めの位置を表します。例えば、舌先と歯（歯茎）部で作られる音には、［ｔ］や［ｓ］の音があります。
構音様式 （こうおんようしき）	構音するときの音のつくり方をいいます。呼気を閉鎖し破裂することによってつくる音（破裂音）、狭めにより、呼気を摩擦してつくる音（摩擦音）、始めに呼気を閉鎖・破裂し、続けて摩擦する音（破擦）などがあります。
国際音声字母 （こくさいおんせいじぼ） ＩＰＡ International phonetic alphabet	音声を表記するための国際的に決められた記号です。アルファベットの字形を基にしてつくられています。記号が国際音声字母であることを区別するために、［　］で括ることとなっています。
有声音 （ゆうせいおん）	声帯振動を伴う語音を有声音といいます。母音は全て声帯振動を伴います。子音には、声帯振動を伴う有声音と声帯振動を伴わない無声音があります。
無声音 （むせいおん）	声帯振動を伴わない語音をいいます。 子音の中で「パ行」（［ｐ］）、「タ行」（［ｔ］）、「カ行」（［ｋ］）は、無声音です。「バ行」（［ｂ］）、「ダ行」（［ｄ］）、「ガ行」（［ｇ］）などは、有声音です。

【参考文献】

・中学校学級経営辞典（小学館）
・学級経営の極意と裏ワザ（明治図書）
・小学校新学習指導要領の展開特別支援教育編（明治図書）
・中学校新学習指導要領の展開特別支援教育編（明治図書）
・特別支援学校新学習指導要領の展開（明治図書）
・特別支援学級・通級指導教室の魅力ある実践（教育出版）
・文部科学省こくご（☆・☆☆・☆☆☆）教科書解説（東京書籍）
・文部科学省さんす（☆・☆☆・☆☆☆）教科書解説（教育出版）
・「ゆっくり学ぶ子のための　こくご」（同成社）
・「ゆっくり学ぶ子のための　さんすう」（同成社）
・学校教育の手引き（北海道教育委員会）
・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（文部科学省）
・特別支援学校学習指導要領解説総則等編（文部科学省）
・特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（文部科学省）
・言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究（国立特別支援教育総合研究所）
・平成２３年度学校教育における指導の努力点（沖縄県教育委員会）
・特別支援学校新着任者用研修テキスト（山口県教育委員会）
・特別支援学級及び通級指導教室教育課程編成の手引き（長崎県教育委員会）
・特別支援学級新担任の手引き（秋田県総合教育センター）
・沖縄県教育関係職員必携

特別支援学級及び通級指導教室教育課程編成の手びき作成委員

○照屋　伸悟（豊見城市立豊見城小学校　教諭）　特別支援学級経験
○新垣　智子（南城市立知念中学校　教諭）　特別支援学級経験
○新垣　香代子（うるま市立あげな小学校　教頭）　通級指導教室経験
○松堂　弘政（県教育庁県立学校教育課　指導主事）

※編集協力者

視覚障害教育	新垣ゆかり	（県教育庁県立学校教育課	指導主事）
聴覚障害教育	稲田洋一	（　〃	指導主事）
知的障害教育	渡久地直哉	（　〃	指導主事）
肢体不自由教育	與儀達子	（　〃	指導主事）
病弱・虚弱教育	西永浩士	（　〃	指導主事）